



文部科学省

『多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン』採択事業
新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン

**新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン
(平成29年度～令和3年度)**

実績報告書

新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン 参画大学

九州大学・福岡大学・久留米大学・佐賀大学・長崎大学
熊本大学・大分大学・宮崎大学・鹿児島大学・琉球大学

新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン
(平成29年度～令和3年度)

実績報告書

目次

ご挨拶	2
新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン 全体の取組み	
事業の目的	3
達成目標	3
実施体制	4
事業実施スケジュール	9
新ニーズに対応するがん専門医療人養成インテンシブコース	10
これまでの主な取組み	10
総括	23
各大学における取組み	
九州大学	25
福岡大学	61
久留米大学	67
佐賀大学	71
長崎大学	79
熊本大学	87
大分大学	101
宮崎大学	121
鹿児島大学	127
琉球大学	135
巻末：参考データ	
「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」コース受入実績	142
「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」インテンシブコース受入実績	144
「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」がんに関する専門資格の取得者数	146

ご挨拶

平成29年度に5年間のプログラムとして開始した「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」は、九州内の10大学（九州大学、福岡大学、久留米大学、佐賀大学、長崎大学、熊本大学、大分大学、宮崎大学、鹿児島大学、琉球大学）が連携して、これまでの経験と実績を活かしながら、新たに、ゲノム医療、希少がん・小児がん、ライフステージに応じたがん対策に対応できる多職種の人材の育成を目指す取り組みです。日本のがん医療の適切な推進のために解決が求められるこれらの新ニーズは、九州においても大きな課題であり、本プランの成果をあげることによって九州のがん医療に貢献することを目指して参りました。

本プランでは各大学での大学院カリキュラムの教育に加え、これまでに全大学の履修生や教員が出席する九州がんプロ全体研修会の定期開催、韓国アサン医療センターをはじめとした海外医療機関への訪問研修、僻地・離島実習やeラーニング等を積極的に実施して参りました。さらに、令和元年度の間評価後からは、履修生による教育研究成果発表会の実施、インテンシブコースの設置、キャリアパス調査などの新たな事業も追加して実施いたしました。これらの事業は個々の大学が実施する大学院カリキュラムを超え、多種の専門分野・職種を横断してがん医療を学ぶ機会を提供できたものと考えます。この5年間の事業を総括することで、今後の各大学の教育、そして九州がんプロ養成プランとしての活動をさらにより良いものとするべく事業報告書を作成いたしましたのでご高覧いただければ幸いです。

この5年間には、全国がんプロ協議会をはじめ、関係の皆様にも多大なご指導ならびにご協力をいただきましたこと、この場をお借りして御礼を申し上げます。また、ともに本プランを推進して参りました各大学の関係の皆様にも感謝申し上げます。加えまして、今回の最終評価の実施に御協力いただきました外部評価委員の皆様にも心から感謝申し上げます。本事業は今年度が最終年度となりますが、これまでに築き上げてきた連携体制を活かし、今後も大学の枠を越えて積極的な活動を行っていければと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

令和4年3月



事業推進責任者 新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン 事業運営推進協議会 会長
九州大学大学院医学研究院長

北園孝成

新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン 全体の取組み

事業の目的

新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン（以下「九州がんプロ」という）では、次の課題を解決すべく、第1期・第2期がんプロ事業における経験と実績を活かしながら、ゲノム医療、小児・AYA世代・希少がん、ライフステージに応じたがん医療に対応できる人材を育成する。

課題

1. 九州全体の医療系大学においてこれまでがん医療全般の専門家養成が図られ、これらの人材ががんの臨床や研究の現場で活躍しつつある。一方で、小児がん及び希少がんは臨床経験を積む機会が乏しいため、九州においてはその診断・治療を高度に実施できる専門医療人材は圧倒的に不足している。
2. 小児、AYA（Adolescent and Young Adult）世代、そして高齢者など、ライフステージに応じたきめ細やかながん診療を行うには、それぞれの世代に対して異なる職種チームによる医療が必要である。これらのニーズに対応できる人材は不足しており、その養成が課題となっている。特に九州は全国における離島・僻地の49%を有しており、高齢化する離島・僻地住民へのがん対策が必要とされている。
3. ゲノム医療に関する研究成果が国内外で蓄積し、その実用化が加速している。しかしゲノム医療を適切に臨床応用できる人材、さらには自ら研究開発に貢献できる人材の養成は、九州のみならず我が国において喫緊の課題である。

達成目標

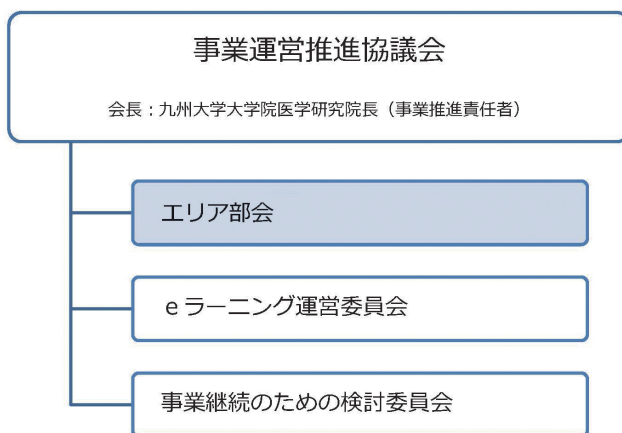
1. 九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。
2. ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。
3. ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。

実施体制

本拠点は、各大学にコーディネーター教員を置き、九州大学コーディネーターが幹事コーディネーターとなり統括する体制を取った。また、「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン 事業運営推進協議会」を設置し、各大学のコーディネーターが構成員となることで、事業運営の意思統一を行い、プログラムの円滑な運営を図った。また、参画大学を3つに分け、エリア拠点を中心として事業等の集約を行うことにより、本プランの連携を効率的かつ現実的なものとした。

推進協議会の下には「エリア部会」や「eラーニング運営委員会」を置き、各大学のがんプロコースの実務を担当する教員が構成員となって各大学の活動等を情報共有することにより、大学の枠を超えた幅広い取り組みを行った。加えて、令和元年度からは「事業継続のための検討委員会」を置き、事業終了後の活動の在り方について具体的な協議・検討を行った。

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」における実施体制について（実施体制図）



エリア	大学名
北部 エリア	九州大学（エリア拠点）
	久留米大学
	福岡大学
	大分大学
西部 エリア	佐賀大学
	長崎大学（エリア拠点）
	熊本大学
南部 エリア	宮崎大学
	鹿児島大学（エリア拠点）
	琉球大学

■で示した会議は、右表のとおり、各エリア単位にて実施。

新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン事業運営推進協議会 構成員一覧（令和4年2月1日現在）

大学名	氏名	所属	役職	備考
九州大学	北園 孝成	大学院医学研究院	研究院長	事業運営推進協議会 会長
	馬場 英司	大学院医学研究院 連携社会医学分野	教授	幹事コーディネーター（九州大学 コーディネーター）、北部エリア 部会長
福岡大学	高松 泰	医学部腫瘍・血液・感染症内 科学	教授	コーディネーター
久留米大学	赤木 由人	医学部外科学講座	教授	事業全体担当コーディネーター
	原 頼子	医学部看護学科	教授	看護系事業担当コーディネーター
佐賀大学	安藤 寿彦	医学域医療系 内科学講座	准教授	コーディネーター
長崎大学	芦澤 和人	・生命医科学域 ・大学院医歯薬学総合研究科 （臨床腫瘍学分野）	教授	コーディネーター、西部エリア部 会長
熊本大学	馬場 祥史	熊本大学病院 次世代外科治療開発学寄附講 座	特任准教授	コーディネーター
大分大学	杉尾 賢二	医学部 呼吸器・乳腺外科学講座	医学部長 教授	コーディネーター
宮崎大学	細川 歩	医学部附属病院 ・臨床腫瘍科 ・がんセンター	教授	コーディネーター
鹿児島大学	上野 真一	鹿児島大学病院 ・腫瘍センター	特例教授	コーディネーター、南部エリア部 会長
琉球大学	福島 卓也	医学部保健学科血液免疫検査 学分野	教授	コーディネーター
【オブザーバー】 産業医科大学	吉野 潔	医学部産科婦人科学 産業医科大学病院がんセンター	教授 センター長	

事業運営推進協議会 開催実績（令和4年2月1日現在）

平成29年度

回数	開催日	開催方法・会場	議題等
第1回	平成29年 12月4日（月）	九州大学医学部 百年講堂1階 中ホール3 （テレビ会議シ ステム併用）	議題 （1）実施体制について （2）達成目標、評価指標等の設定について （3）事業の実施計画について 報告 （1）九州がんプロホームページについて （2）eラーニングについて （3）各大学の活動計画等について

回数	開催日	開催方法・会場	議題等
第2回	平成30年 1月16日（火）	書面	議題 (1) 平成29年度内部評価・外部評価の実施について
第3回	平成30年 2月27日（火）	九州大学医学部 百年講堂1階 中ホール3 (テレビ会議システム併用)	議題 (1) 内部評価の結果および外部評価の実施について (2) 平成30年度予算案について (3) 平成30年度計画案について 報告 (1) 各大学の活動計画等について (2) eラーニングについて (3) 九州がんプロホームページ等について

平成30年度

回数	開催日	開催方法・会場	議題等
第1回	平成30年 4月24日（火）	九州大学医学部 百年講堂1階 中ホール2 (テレビ会議システム併用)	報告 (1) 平成29年度外部評価の結果について (2) 平成30年度事業について (3) 各大学の活動状況について (4) eラーニングについて (5) 九州がんプロホームページ等について
第2回	平成30年 10月29日（月）	書面	議題 (1) 平成30年度における学生アンケートの実施について 報告 (1) 九州がんプロホームページ「修了者の声」について
第3回	平成31年 1月7日（月）	書面	議題 (1) 平成30年度内部評価・外部評価の実施について
第4回	平成31年 2月20日（水）	九州大学医系管 理棟1階 会議室1 (テレビ会議システム併用)	議題 (1) 2019年度予算案について 報告 (1) 「がん薬物療法専門医」症例実績報告書作成支援に係る改善アンケートの集計結果について (2) 北部エリア市民公開講座「がん医療×アートな暮らし」の実施報告について (3) 平成30年度がんプロ学生アンケート集計結果について (4) eラーニングの進捗状況について
第5回	平成31年 3月1日（月）	書面	議題 (1) 平成30年度外部評価の実施について

令和元年度

回数	開催日	開催方法・会場	議題等
第1回	令和元年 5月14日（火）	テレビ会議システム	報告 (1) 平成30年度外部評価の結果について (2) 平成31年度（令和元年度）事業について (3) 各大学の活動予定等について その他 (1) 新規コース追加・既存コース変更における手続きの再確認について
第2回	令和元年 7月16日（火）	書面	議題 (1) インテンシブコースの新規設置に係る申請について
第3回	令和元年 11月21日（木）	テレビ会議システム	議題 (1) 令和2年度予算案の配分方法について (2) 産業医科大学のオブザーバー参加について (3) 令和元年度における学生アンケートの実施について 報告 (1) 3年目中間評価会の資料準備について (2) インテンシブコースの新設について その他 (1) 文部科学省の中間評価について
第4回	令和2年 2月7日（金）	書面	議題 (1) 令和元年度内部評価の結果について
第5回	令和2年 3月3日（火）	テレビ会議システム	議題 (1) 令和2年度予算案について 報告 (1) 事業継続のための検討委員会について (2) 中間評価結果及び改善計画書について
第6回	令和2年 3月24日（火）	書面	報告 (1) 九州がんプロホームページ「修了者の声」について (2) 令和元年度がんプロ学生アンケート集計結果について

令和2年度

回数	開催日	開催方法・会場	議題等
第1回	令和2年 5月29日（金）	書面	<p>議題</p> <p>(1) 「テレビ会議システム」の保守契約終了に伴う今後の対応について</p> <p>報告</p> <p>(1) 令和2年度事業について</p> <p>(2) 各大学の活動予定等について</p> <p>(3) 新ニーズに対応するがん専門医療人養成インテンシブコースについて</p>
第2回	令和2年 12月24日（木）	テレビ会議システム	<p>議題</p> <p>(1) 「テレビ会議システム」の保守契約終了に伴う今後の対応について</p> <p>(2) 令和2年度における学生アンケートの実施について</p> <p>(3) 令和2年度内部評価・外部評価の実施について</p> <p>報告</p> <p>(1) 履修生による「教育研究成果発表会」について</p> <p>(2) 全国がんプロ教育合同フォーラムについて</p>
第3回	令和3年 3月4日（木）	Web会議 (Zoomミーティング)	<p>議題</p> <p>(1) 令和3年度予算案について</p> <p>(2) 令和2年度外部評価の実施について</p> <p>報告</p> <p>(1) 九州がんプロホームページ「修了者の声」について</p> <p>(2) 令和2年度がんプロ学生アンケート集計結果について</p> <p>(3) 令和2年度がんプロ全体研修会について</p> <p>(4) 全国がんプロ教育合同フォーラムについて</p>

令和3年度

回数	開催日	開催方法・会場	議題等
第1回	令和3年 5月13日（木）	Web会議 (Zoomミーティング)	<p>報告</p> <p>(1) 令和2年度外部評価の結果について</p> <p>(2) 令和3年度予算について</p> <p>(3) 令和3年度事業について</p> <p>(4) 各大学の活動予定等について</p> <p>(5) 新ニーズに対応するがん専門医療人養成インテンシブコースについて</p>
第2回	令和3年 12月9日（木）	Web会議 (Zoomミーティング)	<p>議題</p> <p>(1) 令和3年度における学生アンケートの実施について</p> <p>(2) 令和3年度内部評価・外部評価の実施について</p> <p>(3) 後援名義使用について</p> <p>その他</p> <p>(1) 履修生による「教育研究成果発表会」について</p> <p>(2) 文部科学省による最終評価について</p>

事業実施スケジュール（平成29年度～令和3年度）

平成29年度

- 新しい教育コース（3大学院コース、3インテンシブコース）を開始
- 「eラーニング支援室」を設立
- 本プラン事務局、公式ホームページを開設・公開
- 「九州がんプロ全体研修会」を実施
- 「事業運営推進協議会」を開催（年3回開催）
- 国内外医療機関等調査
- プログラムの評価のための内部評価・外部評価の実施

平成30年度

- 新しい教育コース（21大学院コース、7インテンシブコース）を開始
- 海外医療機関との訪問研修実施
- 他拠点とのリトリート実施
- 男女共同参画に係る講演会を開催
- 事業の成果普及のための「市民公開講座」を開催
- 「九州がんプロ全体研修会」を実施
- 「事業運営推進協議会」を開催（年5回開催）
- プログラムの評価のための内部評価・外部評価の実施

令和元年度

- 履修生のキャリア形成支援を目的とした「先輩医療人による講演会」開催
- 「九州がんプロ全体研修会」を実施
- 「事業運営推進協議会」を開催（年5回開催）
- 「事業継続のための検討委員会」を設置。事業終了後の体制等を検討開始
- プログラムの評価のための内部評価・外部評価の実施（3年目評価会開催）

令和2年度

- 「新ニーズに対応するがん専門医療人養成インテンシブコース」を新設。
- 「九州がんプロ全体研修会」を実施
- 履修生による「教育研究成果発表会」開催
- 事業の成果普及のための「市民公開講座」を開催
- 「事業運営推進協議会」を開催（年3回開催）
- 「事業継続のための検討委員会」を開催
- プログラムの評価のための内部評価・外部評価の実施

令和3年度

- 「九州がんプロ全体研修会」を実施
- 履修生による「教育研究成果発表会」開催
- 事業の成果普及のための「市民公開講座」を開催
- 「事業運営推進協議会」を開催（年4回開催予定）
- 「事業継続のための検討委員会」を開催
- プログラムの評価のための内部評価・外部評価の実施（最終外部評価シンポジウム開催予定）

新ニーズに対応するがん専門医療人養成インテンシブコース

令和2年4月に、参画大学の大学院生、同大学附属病院および九州内関連病院の医師、看護師、薬剤師、臨床心理士、遺伝カウンセラーなど多職種の医療従事者を対象としたインテンシブコースを新設した。

がん医療に携わる多職種の医療従事者が、①ゲノム医療、②小児・AYA・希少がん、③ライフステージに応じたがん対策といった、新ニーズに求められているがん専門領域の知識を持つことを目的とする。大学院教育水準で作成されたeラーニング教育コンテンツを用いて学習することで、個々の専門領域に加えて、新たに求められる課題に広く配慮できる人材の養成を目指す。

本コース修了要件として、eラーニング必修科目1単位以上の習得、各大学が指定するがんプロ事業に係るシンポジウム・セミナー等への2回の参加またはレポート提出としている。令和2年度の開講より160名の受入があり、当初の目標を大きく上回る結果となった。ゲノム・小児・AYA・希少がんの情報に基づいた効果的な治療法の選択や、ライフステージに応じたがん医療を熟知し、倫理的・心理的諸問題に対応できる、地域のがん臨床診療拠点病院の中核となる人材の育成に期待できる。

年度	受入目標	受入実績
令和2年度	20	101
令和3年度	20	59

新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン
最新講義をeラーニングでいつでも、どこでも受講。登録は無料。
令和2年4月新設

九州がんプロ × eラーニング

がんゲノム医療
小児・AYA・希少がん
ライフステージに応じたがん医療

新ニーズに対応するがん専門医療人養成
インテンシブコース
既修者募集!

the NEXT STAGE がん専門医療人養成コース

これまでの主な取組み

九州がんプロ全体研修会

九州がんプロに所属する各大学のがんプロ履修生や教員が集い、症例検討や講演を通じて互いの教育、臨床、研究についての意見を交換することで、より良いがん医療の理解を深めることを目的として、各大学持ち回りで毎年開催した。

令和2年度以降は、新型コロナウイルス感染拡大を鑑みオンライン開催となったが、これまで以上に多くの方が参加できる機会となり、より視野の広いがん医療専門家の育成に貢献できた。開催終了後に実施したアンケートでは、毎回参加者の全員から次回も参加したいという高評価を得られた。

【参加者からのコメント】

- ・がん医療に関する様々なテーマについて、各大学の多職種の先生方からわかりやすく解説を聞ける良い機会であるとともに、他大学の先生方と直接意見交換を行うことも重要であると思う。
- ・ゲノム医療、僻地医療など普段自身では勉強から遠ざかっている分野の知識を得ることが出来た点、癌医療についても他癌種や放射線治療についての知識を整理することが出来た点など普段参加している学会や研究会では得られない経験が出来た。

開催年度	開催日	開催地	参加者数
平成29年度	平成30年3月10日(土)～3月11日(日)	福岡	28名(うち学生10名)
平成30年度	平成31年1月26日(土)～1月27日(日)	沖縄	25名(うち学生11名)
令和元年度	令和元年11月2日(土)～11月3日(日)	大分	34名(うち学生12名)
令和2年度	令和3年1月29日(金)	Web	69名(うち学生27名)
令和3年度	令和3年10月14日(木)	Web	66名(うち学生35名)

<これまでの発表内容>

【平成29年度】

No	演題・発表者
1	症例検討：「ライフステージに応じたがん医療「若年性乳がん」の一例」 発表者：茂地 智子(九州大学医学研究院 九州連携臨床腫瘍学講座 助教)
2	症例検討：「重症大動脈弁狭窄症を合併した慢性骨髄性白血病の一例」 発表者：鈴木 紳介(鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 臨床腫瘍学講座 特任講師)
3	講演：「[がん]と「遺伝」(1)」 発表者：山口 昌俊(宮崎大学医学部附属病院 遺伝カウンセリング部 部長)
4	講演：「[がん]と「遺伝」(2)」 発表者：安達 容枝(宮崎大学医学部附属病院 遺伝カウンセリング部 認定遺伝カウンセラー)

【平成30年度】

No	演題・発表者
1	症例検討：「ライフステージに応じたがん医療「マントル細胞リンパ腫」の一例」 発表者：玉城 啓太(琉球大学大学院医学研究科 内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座 医員)
2	症例検討：「ライフステージに応じたがん医療「多発肝腫瘍と横行結腸腫瘍」の一例」 発表者：本田 琢也(長崎大学病院 がん診療センター 助教)
3	講演：「ゲノム医療について」 発表者：前田 高宏(九州大学病院 遺伝子・細胞療法部 准教授)
4	講演：「アンコンシャス・バイアスへの気づきは成長の第一歩」 発表者：今村 美菜子(琉球大学大学院医学研究科 先進ゲノム検査医学講座 准教授)

【令和元年度】(九州大学・大分大学合同カンファレンスと合同で開催)

No	演題・発表者
1	症例検討：「関節リウマチ合併非小細胞肺癌にペムプロリズマブを投与した一例」 発表者：和田 亜由美(大分大学医学部附属病院 腫瘍内科 医員)
2	症例検討：「アポクリン線癌の一例」 発表者：今嶋 堯志(大分大学病院 血液・腫瘍・心血管内科 医員)
3	講演：「原発不明がん後ろ向き研究について」 発表者：西川 和男(大分大学病院 腫瘍内科 助教)
4	講演：「腫瘍領域の遺伝カウンセリングと遺伝医療」 発表者：鹿田 佐和子(九州大学病院 臨床遺伝医療部 認定遺伝カウンセラー)
5	講演：「地域医療と在宅医療」 発表者：田崎 裕太郎(長崎大学病院 放射線科 大学院生)

No	演題・発表者
6	講演：「がんプロを通して学んだ肺癌の基礎と臨床」 発表者：大田 恵一（九州大学大学院医学研究院 九州連携臨床腫瘍学講座 助教）
7	講演：「放射線治療のトリビア」 発表者：吉武 忠正（九州大学大学院医学研究院 九州連携臨床腫瘍学講座 講師）
8	講演：「消化器癌免疫療法の現況」 発表者：馬場 英司（九州大学大学院医学研究院 連携社会医学分野 教授）

【令和2年度】

No	演題・発表者
1	講演：「キャリアパス —がんプロ卒業生・肝臓内科医の視点から—」 発表者：佐々木 龍（長崎大学病院 消化器内科 助教）
2	講演：「Prediction of Tumor Growth Trajectories During Molecularly Targeted Therapy Based on Mathematical Models」 発表者：Truong Gia Huy（九州大学医学系学府保健学専攻 医用量子線科学分野 修士2年）
3	講演：「長崎の地域医療について」 発表者：武田 達哉（長崎大学病院 放射線科 医員）
4	講演：「がんゲノム医療の現況と問題点」 発表者：上野 真一（鹿児島大学大学院歯学総合研究科 臨床腫瘍学講座 教授）
5	症例検討：「性腺外原発胚細胞腫瘍の一例」 発表者：大田 恵一（九州大学大学院医学研究院 九州連携臨床腫瘍学講座 助教）

【令和3年度】

No	演題・発表者
1	講演：「キャリアパス —細胞検査士を目指す臨床検査技師の視点から—」 発表者：中島 海（九州大学大学院医学系学府保健学専攻 検査技術科学分野2年）
2	講演：「PD-1免疫チェックポイント阻害薬併用療法」 発表者：梅山 泰裕（長崎大学大学院 呼吸器内科学 臨床大学院生）
3	講演：「Fusobacterium nucleatum による NOD/NF-kB を介した食道扁平上皮癌親展機序の解明」 発表者：野元 大地（国立病院機構熊本医療センター 外科）
4	講演：「大分県における前立腺がん地域連携クリティカルパスの取り組み」 発表者：秦 聡孝（大分大学医学部腎泌尿器科外科学講座 准教授・診療科長）
5	症例検討：「脳転移を伴う非小細胞肺がんの一例」 発表者：大田 恵一（九州大学大学院医学研究院 九州連携臨床腫瘍学講座 助教）
6	講演：「ライフステージに応じた造血器腫瘍の治療」 発表者：高松 泰（福岡大学医学部 腫瘍・血液・感染症内科学 教授）



米国カリフォルニア大学サンディエゴ校、イルミナ本社訪問研修

本事業では、がん医療の領域における多様な新ニーズの一つとして、特にゲノム医療を推進するがん専門医療人の育成を目指しており、世界のゲノム医療を牽引する米国においてその最新情報を収集することを目的として、平成29年度に米国カリフォルニア大学サンディエゴ校、イルミナ本社訪問研修を実施した。

研修には4名のがんプロ教員、履修生がゲノム医療の基礎、臨床研究成果と企業の製品・サービスの開発の最先端について学ぶ機会を得ることができた。



韓国アサン医療センター・がんセンター訪問研修

韓国のがん医療を実地に見学し、日韓の実地臨床事情の差異および臨床研究の発展する素地と臨床研究を行うための体制について議論することを目的として、平成30年度に韓国アサン医療センター・がんセンター訪問研修を実施した。

研修にはがんプロ教員2名、履修生5名が参加し、がんゲノム医療の実施体制と成果に関して、アサン医療センター・がんセンターと本邦の状況の違いについて情報を交換し、有意義な議論を行うことができた。

さらに同センター内での研修だけでなく、ソウル市内、近郊の医療機関のがん専門医も交えた「Korea-Japan Joint Symposium」も開催し、がんの基礎・臨床研究に関する九州がんプロ側からの報告に対し、韓国側から質問が相次ぎ白熱した議論が行われた。

【参加した学生からのコメント】

- ・ゲノム医療は急ピッチで整備されている領域であり、実施体制について隣国の海外研修を通じて学ぶことができた。また、日本および韓国側の学術発表を通じて胃癌の最新の臨床試験を含めた臨床研究および胃癌の発癌メカニズムならびに免疫療法における基礎研究の知識を深めることができた。
- ・二国間で医療背景や地理的・社会的背景が異なる中で、ゲノム医療に関する相違点、共通点がより明確になり、今後我が国においても本格的にスタートするゲノム医療に携わるにあたり、今回の研修経験を生かしていきたいと思う。



韓国昌原慶尚大学校病院・普州慶尚大学校病院 訪問研修

韓国のがん医療を実地に見学し、日韓の実地臨床事情の差異および臨床研究の発展する素地と臨床研究を行うための体制について議論することを目的として、令和元年度に韓国昌原慶尚大学校病院・普州慶尚大学校病院訪問研修を実施した。

慶尚大学病院と九州大学病院は1992年に交流協定を締結し、毎年医療スタッフの相互交流を通じて研究・医療の協力及び学術交流を行っている。2004年には病院間の交流から大学間の交流に発展させ、大学全体の共同研究や研究者・学生の交流などが積極的に行われている。

研修にはがんプロ教員、看護師、放射線技師、薬剤師、医療事務職、学生など多職種の12名が参加し、韓国における医療の実施体制や設備などを視察し、現場の医師との意見交換を行った。

【参加した学生からのコメント】

- ・韓国の医療体制を学ぶとともに現場の医師と交流を深めることができた。この研修を通して、科学者であり医療者である医師は国境や社会情勢に左右されることなく常に患者の利益を考えながら相互に協力し高め合うことが重要であると再認識した。
- ・日韓医療機関の親睦を深めるとともに、隣国のがん医療の状況について知識をアップデートすることができたことは、がん診療に携わる物として貴重な経験であったと考える。



市民公開講座

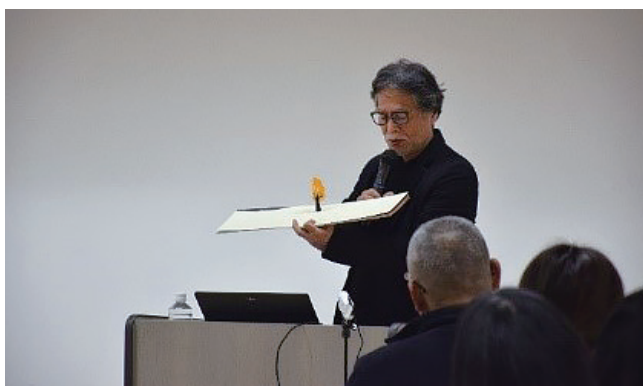
北部エリア（九州・福岡・久留米・大分大学）合同による市民公開講座を実施した。医療情報の提供に留まらず医療と他分野を融合させた内容としたことで、更に広い市民層へがん医療、がんプロについて発信することができた。

開催年度	開催日	開催地	参加者数
平成30年度	平成30年12月8日（土）	大分県立美術館	約100名
令和2年度	令和3年3月6日（土）	YouTube による Live 配信	約60名
令和3年度	令和4年2月19日（土）～2月27日（日）予定	YouTube 配信	未定

<これまでの発表内容>

年度	演題・発表者
平成30年度	講演1「がん免疫療法の最前線」 演者：馬場 英司（九州大学大学院医学研究院 連携社会医学分野 教授） 講演2「医療におけるアートとデザインについて」 演者：駒形 克己（造本作家・デザイナー）

年度	演題・発表者
令和2年度	講演1「がんを知り、がんと向き合いませんか？」 演者：高松 泰（福岡大学医学部 腫瘍・血液・感染症内科学講座 教授） 講演2「デザインに何ができるか？」 演者：平井 康之（九州大学大学院芸術工学研究院 デザインストラテジー部門 教授） 小林 さおり（株式会社すこやか倶楽部 ケアマネージャー）
令和3年度	講演1「肺がん治療の最新情報 ～肺がんのことをもっとよく知ろう～」 演者：杉尾 賢二（大分大学医学部 呼吸器・乳腺外科学講座 教授） 講演2「コロナ禍におけるがん看護」 演者：原 頼子（久留米大学医学部 看護学科 教授）



履修生による教育研究成果発表会

令和2年度より、九州がんプロに所属する各大学の多職種の学生や教員が集い、各大学の履修生1名ずつによる教育研究成果の発表を行い、他大学との情報共有を行うとともに、がん医療への理解を深めた。また、本プランの主旨に沿い、がん診療および研究の発展に寄与する優れた研究を発表した演者に、「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン研究奨励賞」を授与した。

【研究奨励賞受賞者からのコメント】

- ・大学院時代に基礎研究を学べたことは、臨床医に戻った今、改めて医師として貴重な経験だったと強く感じます。今後もこの経験を活かして、自分にできることをコツコツと積み重ねていこうと思います。（熊本大学・伊東山瑠美）
- ・基礎研究を通じ、がんの生物学や遺伝子に関して深く考える機会を得る事ができ、辛い時期もありましたが大学院での学びは貴重な財産となりました。（佐賀大学・原田陽平）

開催年度	開催日	開催方法	発表大学	参加者数
令和2年度	令和3年2月15日（月）	オンライン開催	7大学	90名（9大学）
令和3年度	令和3年12月13日（月）	会場とオンラインのハイブリッド開催	6大学	62名（10大学）

<これまでの発表内容>

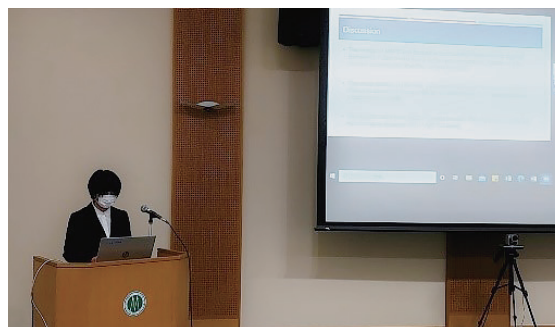
【令和2年度】

No	演題・発表者
1	演題：「概日時計機構を基盤とした新規抗炎症低分子化合物の探索」 発表者：鶴田 朗人（九州大学薬学研究院／がん専門薬剤師養成コース 平成30年度修了）

No	演題・発表者
2	演 題：「血清 HB-EGF 値と再発卵巣癌の転機に関する検討」 発表者：井槌 大介（福岡大学／ライフステージに応じたがん専門医療人育成コース3年）
3	演 題：「NF- κ B シグナルを介して腫瘍抗原認識能を向上する低分子化合物の作用機序解明とそれに基づく新規がん免疫治療戦略の開発」 発表者：道津 洋介（長崎大学／がんゲノム医療専門医師・歯科医師養成コース3年）
4	演 題：「代謝リモデリングを介した膀胱癌進展機構の解明」 発表者：伊東山 瑠美（済生会熊本病院 外科／研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース 令和元年度修了）
5	演 題：「乳腺センチネルリンパ節の血流支配様式について—浅肩甲下動脈形成機序との関連—」 発表者：安部 美幸（大分大学／ゲノム医療研究者養成コース4年）
6	演 題：「がん薬物療法を受ける患者の Quality of Life とレジリエンスに関する横断研究：生命予後別の比較」 発表者：新坂 ともみ（宮崎大学／がんと共に生きることを支えるがん看護専門看護師養成コース2年）
7	演 題：「がん患者の苦痛評価、心不全患者に対するアドバンス・ケア・プランニングの実践」 発表者：佐久間 博明（琉球大学病院 第三内科病棟／緩和ケアエキスパートナース養成コース 令和2年度修了）

【令和3年度】

No	演題・発表者
1	演 題：「定位放射線治療後の非小細胞肺癌における腫瘍細胞数時間変化予測モデルの開発」 発表者：江頭 舞（九州大学／先端医用量子線技術科学コース1年）
2	演 題：「初回手術で腫瘍残存が予測される子宮頸癌症例に対して術前化学療法を施行した臨床効果の比較」 発表者：石田 倅子（福岡大学／ライフステージに応じたがん専門医療人育成コース1年）
3	演 題：「がん遺伝子パネル検査で判明した <i>ERBB2</i> の VUS に対する WET と DRY の統合的機能解析」 発表者：原田 陽平（佐賀大学／統合的地域がん治療専門医育成コース4年）
4	演 題：「胃がんにおける <i>ERCC1</i> の主要なアイソフォームを検出する新たな抗 <i>ERCC1</i> モノクローナル抗体の作製」 発表者：大石 敬之（長崎大学／がん専門医師・歯科医師養成コース4年）
5	演 題：「胃癌における PD-L1 (Programmed death ligand-1) の spatial, temporal heterogeneity の解析」 発表者：山下 晃平 (MD Anderson Cancer Center GI Medical Oncology / 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース 令和元年度修了)
6	演 題：「癌腹膜播種に対する近赤外蛍光蛋白発現組換えレオウイルスを用いた新規診断・治療法の開発」 発表者：小川 雄大（大分大学／ゲノム医療研究者養成コース 4年）



九州大学・大分大学合同カンファレンス

本カンファレンスは、両大学の腫瘍内科学部門所属医師らの相互研鑽および人的交流を目的として毎年実施した。両大学所属医師および両大学出身医師らを中心に北部九州全域より多くの医師が出席し、症例検討および臨床研究発表等に対して活発な討議を行った。

開催年度	開催日	開催地	参加者数
平成29年度	平成30年3月3日（土）	大分	42名
平成30年度	平成31年2月2日（土）	大分	38名
令和元年度	令和元年11月2日（土）～11月3日（日）	大分	34名
令和2年度	令和2年12月8日（火）	Web	44名
令和3年度	令和3年12月9日（木）	Web	35名

※令和元年度は九州がんプロ全体研修会と合同で開催

<これまでの発表内容>

【平成29年度】

No	演題・発表者
1	症例検討：「Nivolumabによる治療経過中に発熱性好中球減少症を認めた肺腺癌の一例」 発表者：久松 靖史（大分県立病院）
2	症例検討：「治療方針に検討を要した若年進行脾彎曲部大腸癌、多発肝転移の一例」 発表者：山家 覚（JCHO 九州病院）
3	演題：「ゲノム医療アメリカ最前線」 発表者：花村 文康（九州大学 病態修復内科 大学院生）
4	演題：「原発不明癌 後ろ向き研究について」 発表者：西川 和男（大分大学）
5	演題：「WJOG8315G 高齢者切除不能・再発胃癌に対する S-1単剤療法と S-1/L-OHP 併用（SOX）療法のランダム化第Ⅱ相試験について」 発表者：牧山 明資（JCHO 九州病院）
6	講演：「臨床試験の統計のお作法～ ASCO2017プレナリーセッション演題で学ぶ」 発表者：吉村 健一（金沢大学付属病院）

【平成30年度】

No	演題・発表者
1	症例検討：「骨肉腫再発に対して化学療法が奏功し、完全切除に至った一例」 発表者：上野 翔平（九州大学病院）
2	症例検討：「オプジーボ投与中に肝機能障害をきたした一例」 発表者：稲墻 崇（大分大学病院）
3	演題：「Cardio-oncology ってなんだ？」 発表者：森山 祥平（九州大学）
4	演題：「原発不明癌 後ろ向き研究について」 発表者：西川 和男（大分大学）
5	演題：「米国での基礎研究留学を終えて」 発表者：磯部 大地（九州大学病院）

【令和2年度】

No	演題・発表者
1	症例検討：「食道原発悪性黒色腫に対して免疫チェックポイント阻害薬を使用した一例」 発表者：稲垣 崇（大分大学医学部 腫瘍・血液内科学講座）
2	症例検討：「進行胃癌と乳癌の重複癌を疑ったが、乳癌の胃転移であった一例」 発表者：土居 靖宗（九州大学病院 血液・腫瘍・心血管内科）
3	演題：「同種造血幹細胞移植後早期のがん治療関連心筋障害の予測因子と予後への影響」 発表者：森山 祥平（九州大学病院 血液・腫瘍・心血管内科）
4	演題：「OX40およびLAG3発現は進行胃癌に対する抗PD-1抗体療法の予後良好因子である」 発表者：大村 洋文（大分大学医学部）
5	演題：「腎癌に対するIpilimumab+Nivolumab 併用療法10例の効果・安全性の検討」 発表者：上原 康輝（九州医療センター 腫瘍内科）

【令和3年度】

No	演題・発表者
1	症例検討：「当科におけるアナモレリンの使用経験」 発表者：篠原 雄大（JCHO 九州病院）
2	症例検討：「CapeOX+ 抗PD-1抗体 /placebo 療法中に類洞閉塞症候群を発症した胃癌の一例」 発表者：小森 梓（大分大学医学部 腫瘍・血液内科学講座）
3	演題：「当科初回入院患者に対する高齢者総合機能評価（CGA7）についての探索的検討」 発表者：西川 和男（大分大学医学部 腫瘍・血液内科学講座）
4	演題：「当院における切除不能進行・再発胃癌におけるT-DXd（トラスツズマブデルクステカン）の使用成績および今後の研究展望」 発表者：花村 文康（九州がんセンター）

※令和元年度は九州がんプロ全体研修会にて記載。



学生へのアンケート実施

本プラン参加大学の全がんプロ学生を対象に、WEBでのアンケートを平成30年度から令和3年度まで毎年実施した。また、令和2年度からはインテンシブコース履修生に対してもアンケートを実施した。調査内容は、がんプロの講義・演習等を受けてがん医療への理解が深まったかを確認する項目、がんプロに参加してよかった点や改善して欲しい点を尋ねる項目等を設定した。

例年、がんプロの全体的な満足度についての項目は、回答者の77%から4（80～61点）もしくは5（100～81点）の高評価を得ている。調査結果は全大学にフィードバックし、回答結果をもとに講義・事業の改善を行うとともに、必要に応じて学生との面談等も行うことで、学生の意見を的確に把握した。また、集計結果は九州がんプロホームページで公開している。

拠点間リトリート

第3期がんプロにおいて種々の課題を拠点内のみならず拠点間で連携して対応するべく、他拠点との「拠点間リトリート」を実施した。

東北次世代がんプロ養成プランとの拠点間リトリートして、平成29年度、平成30年度に腫瘍内科医交流セミナーを実施した。九州大学からがんプロ教員と履修生が参加し、研究内容の発表、ディスカッションを行った。令和3年度には、合同オンコロジーセミナーを開催し、テレビ会議システムを用いたエキスパートパネルを実施した。九州内の連携拠点病院より12施設が参加し、プレ・エキスパートパネルの方法、症例集積状況など互いの拠点での実施状況について、意見交換を行った。

北信がんプロ拠点との拠点間リトリートとして、平成30年度、令和元年度に合同シンポジウムを開催し、当拠点からがんプロ教員と学生が金沢に赴き発表を行った。合同でシンポジウムを行うことで、互いの事業内容・状況を共有することができた。

日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医症例実績報告書の作成支援

日本臨床腫瘍学会「がん薬物療法専門医」取得に求められる研修要件は厳しく、中でも専門外のがん種における症例実績報告書の作成は負担となっている。

がん薬物療法専門医の増加はがんプロにおける重要な目的の一つとされており、九州全10大学より各領域の専門医を選出し、症例実績報告書の作成支援を毎年実施した。支援の対象は、九州がんプロ履修生およびその修了生で、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医に申請予定の者とした。

支援内容としては、申請者から送られてきた報告書を九州がんプロに参画する大学の医師に協力を依頼し、添削を実施した。これまで添削支援した症例は約200症例で、添削支援を実施した受験者全員が「がん薬物療法専門医資格」に合格した。

また、各種専門資格を持つ教員・医師を各大学より2名以上のアドバイザーを選出し、専門医資格取得に関する相談に随時対応しており、これまで15種の専門医資格に75名が合格している。

九州がんプロホームページについて

平成29年度に本プランのホームページを刷新し、各大学の事業案内や開催報告を積極的に発信するように努めた。5年間で約300回にわたって継続的に情報をアップデートすることで、広く社会に情報発信を行うことができた。また、新たに Facebook や Twitter といった SNS との連携も開始し、5年間で約500回の更新を行った。

平成30年度には九州がんプロホームページ上に「修了者の声」と題したコーナーを新設した。4年間にわたり、各大学のがんプロコース修了者（第2期含む）計73名の記事を新たに掲載し、在学生・市民に対して広くがんプロの情報発信を行った。

離島・僻地対策

長崎大学では、ライフステージに応じたがん診療の充実を図るため、大学院生に対して第2期がんプロで行ってきた離島・僻地実習や在宅医療実習を継続して行った。5年間で計26名の学生が参加し、在宅・地域医療を理解し、ライフステージに応じたがん対策を推進できる人材となるべく地域の実情を学んだ。

また、平成30年度には、緩和医療をより地域に普及させることを目的とし、長崎大学で新たに「在宅緩和医療に関する講演会」を開催した。

年度	派遣医療機関数	派遣学生数
平成29年度	5	6名
平成30年度	12	7名
令和元年度	11	5名
令和2年度	8	2名
令和3年度	11	6名

がんゲノム医療に関する講習会

エリア拠点（九州大学・長崎大学・鹿児島大学）が持ち回りで担当し、がんゲノム医療についての講習会を行った。平成30年度からは、「テレビ会議システム」を活用することで他大学も視聴できる体制を取り、多くのがんプロ教員・履修生等へ、がんゲノム医療について学ぶ機会を設けた。

がんゲノム医療をテーマとした長崎大学がんプロ記念講演会では、テレビ会議システムを用いて、他大学で同時聴講を行った。

開催年度	開催日	講習会名	開催地
平成29年度	平成30年2月5日（月）	長崎大学がんプロ記念講演会	長崎
平成30年度	平成30年7月2日（火）	がんゲノム講習会	鹿児島
平成30年度	平成31年2月5日（火）	長崎大学がんプロ記念講演会	長崎
令和元年度	令和元年6月11日（火）	がんゲノム講習会	福岡
令和元年度	令和元年9月26日（木）	がんゲノム講習会	福岡
令和元年度	令和元年10月25日（金）	長崎大学ゲノム医療推進会議キックオフ講演会	長崎
令和元年度	令和2年2月10日（月）	長崎大学がんプロ記念講演会	長崎
令和2年度	令和3年2月9日（火）	長崎大学がんプロ記念講演会	長崎
令和3年度	令和4年2月16日（水）	長崎大学がんプロ記念講演会	長崎



eラーニングにおける取り組み

平成19年度～23年度の九州がんプロフェッショナル養成プラン（第1期がんプロ）に引き続き、平成29年度に採択された本プランにおいても、eラーニングシステムの管理を支援する組織として「九州がんプロeラーニング支援室」を九州大学に設置し、新たな収録機器を購入し収録・編集がより効率よくできる環境を整備した。

eラーニングは、インターネット環境があれば学習者が場所や時間を選ばず自学学習できる大きなメリットがある。九州がんプロeラーニング支援室は、全国の履修生ができるだけ学習しやすい環境で履修ができるよう、関係各部署と連携しながら、eラーニング管理、大学間交流、セミナー、動画編集、著作権処理などさまざまな活動を行ってきた。

がんプロ履修生はeラーニングシステムを活用し、九州がんプロ内だけでなく他拠点の講義も視聴することで、がんゲノム医療をはじめとした最新情報を得ることができる。また、本システムを活用したインテンシブコースを令和2年4月に新設し、がん医療に携わる近隣の多職種の医療従事者を対象に、①ゲノム医療、②小児・AYA・希少がん、③ライフステージに応じたがん対策といった、新ニーズに求められているがん専門領域の知識や最新情報を提供している。

全国がんプロ e-learning クラウド教材視聴数（※令和4年1月14日現在）

	九州大学	福岡大学	久留米大学	大分大学	長崎大学	佐賀大学	熊本大学	鹿児島大学	宮崎大学	琉球大学	計
公開コンテンツ数	29	0	1	3	5	4	1	0	1	1	45
教材視聴数	748	0	26	94	122	97	30	0	21	23	1161

収録・公開した講義名等の一覧

固定科目	講義項目	講義名	担当大学	備考(更新)
ゲノム医療	ゲノム医の基礎とがんゲノム	ゲノム医学とがんゲノム	長崎大学	
	がんゲノム医療総論	がんゲノム医療総論	九州大学	1回
	がんゲノム医療総論ゲノム医療の実際：1体細胞変異がん(1)	散発性がんにおけるゲノム医療	九州大学	
	がんゲノム医療総論ゲノム医療の実際：3家族性腫瘍・遺伝性腫瘍(胚細胞変異がん)	遺伝性がんにおけるゲノム医療	九州大学	1回
	ゲノム医療と倫理・法律・社会的問題	遺伝カウンセリング	九州大学	
	ゲノム医療に必要な体制と人材	バイオインフォマティクス	九州大学	
	プラスα枠2	散発性がん(非遺伝性がん)におけるゲノム医療	九州大学	
小児・AYA・希少がん	小児・AYA世代の特徴	小児がん治療と長期フォローアップ	九州大学	
	小児・AYA世代のがん治療総論	小児がん	九州大学	
	小児・AYA世代腫瘍各論1(この時期特有の腫瘍)	骨軟部肉腫	九州大学	
	〃	がんに対する放射線治療・粒子線治療 ～その進歩と展望～	佐賀大学	
	〃	小児・AYA世代の白血病・リンパ腫治療と感染症管理	佐賀大学	

固定科目	講義項目	講義名	担当大学	備考(更新)
小児・AYA・ 希少がん	小児・AYA 世代腫瘍各論 1 (この時期特有の腫瘍)	小児・AYA 世代腫瘍各論 造血器腫瘍	宮崎大学	
	小児・AYA 世代腫瘍各論 2 (この時期に起きる成人腫瘍)	乳がん	九州大学	1 回
	〃	頭頸部癌	九州大学	
	希少がん (小児・AYA 世代以外)	直腸結腸・肛門がん	九州大学	1 回
	〃	中枢神経腫瘍 (脳腫瘍)	九州大学	
	〃	肺がん 内科	九州大学	1 回
	〃	GIST に対する集学的治療	熊本大学	
	〃	成人軟部腫瘍に対する標準治療 ／骨肉腫・Ewing 肉腫・横 紋筋肉腫に対する標準治療	大分大学	
	晩期合併症と長期フォローアップの 問題点 (1)	小児・AYA 世代がんのフォ ローアップと成人後の診療 における問題点	大分大学	
	〃	小児・AYA 世代がんのフォ ローアップと成人後の診療 における問題点	琉球大学	
	晩期合併症と長期フォローアップの 問題点 (2)	妊孕性温存療法の対象と妊孕 性温存療法 (小児がん：女性)	長崎大学	
	プラスα 枠 1	原発不明がん	九州大学	1 回
	プラスα 枠 2	内分泌がん	九州大学	
プラスα 枠 3	泌尿器がん	九州大学		
ライフステージ に応じたがん 医療	ライフステージに応じたがん予防医学	ライフステージに応じた癌 予防と栄養の役割	九州大学	
	ライフステージにおける壮年期がん 医療	ライフステージに応じた外 来化学療法の果たす役割	九州大学	1 回
	ライフステージにおける高齢者がん 医療—機能・合併症の特徴と評価	高齢者に対する薬物療法と 臨床試験	大分大学	
	ライフステージにおける高齢者がん 医療—治療の特徴	高齢者におけるがん治療	九州大学	1 回
	ライフステージに応じた包括的支援	がん患者の家族支援	久留米大学	
	ライフステージにおける終末期のがん 医療	がん緩和ケアとアドバンス・ ケア・プランニング	佐賀大学	
	社会とがん医療	エビデンスとナラティブに 基づいた医療の実践 — “最善” の方針決定をめ ぐって—	佐賀大学	
	ライフステージに応じたがん医療の 臨床試験	ライフステージに応じたがん 治療の臨床試験	九州大学	1 回
臨床腫瘍学概論	薬物療法の諸理論 1	腫瘍内科学概論	長崎大学	
	薬物療法の諸理論 2	薬物療法概論 1	長崎大学	

総括

新ニーズに対応する九州がんプロ養成プランは、九州内の10大学が参画する拠点として事業を実施した。これまで、参画する10大学は過去10年にわたり、九州全域におけるがんに関わる教育連携の基盤を築いてきた。本プランでは、これまでの経験と実績を活かしながら、新たに、ゲノム医療、希少がん・小児がん、ライフステージに応じたがん対策にも対応できる人材を育成すべく、様々な取り組みを行ってきた。

これまでがん医療全般の専門家養成が図られ、これらの人材ががんの臨床や研究の現場で活躍しつつある一方で、小児がん及び希少がんは臨床経験を積む機会が乏しいため、九州においてはその診断・治療を高度に実施できる専門医療人材は不足している。また、小児、AYA世代、そして高齢者などライフステージに応じたきめ細やかながん診療を行うには、それぞれの世代に対して異なる職種のチームによる連携医療が必要であり、これらのニーズに対応できる人材の養成が課題となっていた。特に九州は全国における離島・僻地の49%を有しており、高齢化する離島・僻地住民へのがん対策が必要とされている。本プランの5年間の事業は、これらの課題を解決すべく、それぞれの特色を持った10大学が連携して取り組んだものである。

大学院コースは約200名、インテンシブコースは約700名が履修し、九州の各大学において多数の専門医資格の取得者を生み出した。この教育成果は各大学のコース担当教員はもとより、地域の医療機関や他大学との共同の講義、実習、そしてeラーニングシステムの活用などによって支えられてきた。

本プランに所属する各大学の履修生や教員が集い、がん治療に関して会場参加型の専門的な研修を行うこと、九州がんプロ各施設間の情報交換を行うことを目的として、各大学持ち回りで「九州がんプロ全体研修会」を毎年開催した。また講義や講習会、実臨床のパネル検査結果の検索と解釈の実習、エキスパートパネル参加などを通じて、がん遺伝子パネル検査に基づくゲノム医療を適切に実施できるがんプロ履修生を育成している。これらを通じて、がんゲノム医療に関する多職種連携の仕組みが構築され、多くのがん専門医療人に対する効率的な教育効果が得られるとともに、実臨床の大きな助けとなっている。

小児・AYA世代のがん専門医療人材も、講義やセミナー、実習、多職種によるチーム医療の講習など、大学間の相互協力を基にしたプログラムを通じて新ニーズに対応する人材育成を進めた。

本プランの柱としてがんに特化した講座を設置している九州大学、長崎大学、鹿児島大学が中心となり、エリアごとに事業の集約を行い事業推進に貢献できたと考えられる。九州大学の講座は九州がんプロの活動のまとめ役を担い、長崎大学においては、僻地・離島を含む地域医療におけるがん診療能力を備えた医師・歯科医師を養成することを目的として「離島・僻地実習」を実施した。また、がんを含む在宅医療全般を幅広く経験し、在宅診療の流れを習得することを目的として、「在宅・地域医療実習」を実施した。そして、各大学のコーディネーター教員で構成される「事業運営推進協議会」を設置し、テレビ会議システムを活用して定期的に会議を行い、事業運営の意思統一、円滑な運営を実現した。

九州大学に設置している「eラーニング支援室」を中心として「全国eラーニングクラウド」へ提供する講義の収録・編集・公開を実施した。がんプロ履修生はeラーニングシステムを活用し、九州がんプロ内だけでなく他拠点の講義も視聴することで、がんゲノム医療をはじめとした最新情報を得ながら、がん専門医療人となるべく研鑽を積んだ。加えて令和2年度よりeラーニングクラウドを利用したインテンシブコースを開設し、多職種の医療従事者を対象にがんの新ニーズに求められる専門領域の知識や最新情報を提供する事で人材育成を行った。

令和2年度以降、新型コロナウイルス感染拡大の影響に伴い、対面での講義や演習、海外訪問研修など実施が困難な状況ではあったが、遠隔通信等も利用し広域にわたる大学連携を機能的に実現させ、新ニーズに対応した大学間連携、多職種連携体制の構築と情報発信を行った。全体を通して本事業の実施計画に記載していた事業や目標は達成することができ、九州内の多様な新ニーズに対応できるがん専門医療人の養成に寄与することができた。

令和3年度をもって本事業は終了となるが、現在教育課程の途中の履修生に対しては、各大学において継続して講義、実習を行い単位取得可能になるよう準備を行う。令和4年度以降の活動については、「事業継続のための検討委員会」において議論されたように、推進協議会の枠組みは維持し、オンラインシステムを利用した大学間の会議や合同研修、カンファレンスを継続する予定である。

九州大学

コーディネーター教員

大学院医学研究院 連携社会医学分野 教授 馬場 英司



各コースの内容

1. ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース

受入開始時期	平成30年4月	修業年限（期間）	4年
対象者	医学系学府医学専攻 大学院生		
養成すべき人材像	がんゲノム研究成果を理解した上で、これを基盤とした高度ながん医療の実施と研究開発を、多職種との協働で適切に推進できる医師、研究者および指導者を養成する。		
教育内容の特色等 （新規性・独創性等）	がんゲノム基礎研究者と密接に連携し、最新の知見を実臨床へ応用できる講義、演習を行う。アジアを中心とした海外の研究機関、医療機関との交流の機会を通じて、国際医療協力の視点を持ったがん医療専門家を養成する。大学病院や地域医療機関との多職種連携演習を通じて、包括的ながん医療が推進できる人材を育成する。		
教育プログラム・ コース修了者のキャリアパス構想	大学病院、地域のがん診療連携拠点病院、地域の基幹病院において、がんゲノム医療を実践するがん専門医師として活躍できる。また大学などの機関で、研究者、教育指導者として貢献できる。		

2. 希少がん・放射線治療学コース

受入開始時期	平成30年4月	修業年限（期間）	4年
対象者	医学系学府医学専攻 大学院生		
養成すべき人材像	がん専門医としての基本的な素養だけでなく、希少がんについての知識や経験をも兼ね備え、ライフステージに応じたがん治療を推進でき、かつ独創的な研究活動を行える放射線治療医師の養成。		
教育内容の特色等 （新規性・独創性等）	放射線治療を通じて、各科にわたる希少がんに関する包括的な知識を学び、各種治療について実践的に学習する。AYA世代から高齢者にわたるライフステージに応じたがん治療について学習し、放射線治療を実践する。また、先端放射線治療の分野においても研究を行い、国際学会等を通じて社会に発信していく。		
教育プログラム・ コース修了者のキャリアパス構想	単に放射線治療専門医の資格を取得するだけでなく、大学病院やがんセンターなどのがん拠点病院において、希少がんに対する治療、ライフステージに応じたがん治療を推進し、更に研究者・教育指導者としても活躍できる専門医の養成が可能。		

3. 小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース

受入開始時期	平成30年4月	修業年限（期間）	4年
対象者	医学系学府医学専攻 大学院生		
養成すべき人材像	小児がんやAYA世代のがん、希少がんに対して、集学的治療を中心となって実施し、新たな診断・治療法の開発を推進できる医師、研究者、指導者を養成する。また多職種と連携して、患者や家族の包括的な相談支援体制を構築できる人材を育成する。		
教育内容の特色等 （新規性・独創性等）	九州・沖縄の小児がん医療拠点としての大学病院と密接に連携し、豊富な症例を対象とした臨床実習と講義を通じて高度な診断、治療を行うがん医療専門家を養成する。		
教育プログラム・ コース修了者のキャリアパス構想	大学病院、地域のがん診療連携拠点病院、地域の基幹病院において、小児がん、AYA世代のがん、希少がんに対して高度の医療を実践するがん専門医師として活躍できる。また大学などの機関で、研究者、教育指導者として貢献できる。		

4. がん専門細胞検査士コース修士課程

受入開始時期	平成29年4月	修業年限（期間）	2年
対象者	保健学専攻検査技術科学分野（病理細胞学研究コース）		
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・本プログラムの取り組みである希少がん及び小児がんの的確なる細胞診断能力を身につける。 ・臨床現場の病理学分野において、細胞検査士としての確かな細胞診断業務を行えること。 		
教育内容の特色等 （新規性・独創性等）	九州大学病院 病理診断科・病理部での2年間の臨床研修を行い臨床現場において、本プログラムにおける希少がん及び小児がんの形態学的検査である病理細胞診断が行えるような能力を身につける。		
教育プログラム・ コース修了者のキャリアパス構想	日本臨床細胞学会の認定資格である細胞検査士の取得を目指し、資格取得後は地域中核病院の病院病理部等で業務にあたる。		

5. 先端医用量子線技術科学コース

受入開始時期	平成30年4月	修業年限（期間）	2年 （社会人で3年コースを選択したら、3年）
対象者	医学研究院保健学部門医用量子線科学分野修士課程		
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床現場で物理的かつ技術的な面で指導的役割を果たし、小児からAYA世代さらに高齢者及び緩和治療までを対象とした臨床研究を推進する先端医用量子線技術科学の医療人（例：診療放射線技師、医学物理士）を養成する。 ・臨床ビッグデータ（ゲノム情報などを含む）を適切に管理、解析でき、ゲノム医療にも対応できる医療データサイエンティストとしての役割を果たす人材を目指す。 ・医学物理の研究者として、自立し独創的研究活動を行い、かつ高度に専門的な業務に従事するために必要な柔軟な問題解決能力及びその基礎となる豊かな学識とグローバルな視野を持つ人材を養成する。 		

教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	<ul style="list-style-type: none"> 臨床ビッグデータ（ゲノム情報を含む）を適切に管理、解析でき、新たな知見を発見できる医療データサイエンスに関する内容を教育する。 臨床の現場で必要とされるニーズ（小児からAYA世代さらに高齢者及び緩和治療までを対象としたがん治療）と基礎理工学を繋ぐ先端医用量子線技術科学を教育し、関連する研究を指導する。 アジアだけでなく世界を視野に入れ留学生を受け入れ、留学生の出身大学との国際共同研究を推進する教育研究プログラムを開発し、国際的な先端医用量子線技術科学を教育する。
教育プログラム・ コース修了者のキャリアパス構想	<ul style="list-style-type: none"> 臨床現場で働く医学物理士かつ医療データサイエンティスト（ゲノム情報を含む）として、画像診断、核医学、放射線治療において高度な理工学的知識を有し指導的立場で臨床業務に従事する。 大学等の研究者として、医学物理における多様な知識創造活動を行い、先進的な医学物理学の学問体系の構築に寄与する。 企業等の技術者として、画像診断、核医学、放射線治療に関する医学物理領域において国際競争力のある最先端・次世代の医療機器を開発する。 アジアを中心とする海外で活躍する医学物理士及び医学物理研究者として、母国及び他国で臨床現場、大学、企業等で医学物理業務を行う。

6. がん研究薬剤師コース博士課程

受入開始時期	平成29年4月	修業年限（期間）	4年
対象者	薬学府臨床薬学専攻博士課程 大学院生		
養成すべき人材像	薬理遺伝学・時間薬理学、希少がん、痛みなど緩和医療における創薬から育薬までを担う薬剤師、研究者及び指導者を養成する。		
教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	平成24年度設置の薬学府臨床薬学専攻博士課程（4年間）においてがんの基礎・臨床に関する研究、講義、演習及び実習を行う。		
教育プログラム・ コース修了者のキャリアパス構想	薬理遺伝学・時間薬理学、希少がん、痛みなど緩和医療における創薬から育薬までを担う薬剤師、研究者及び指導者を養成する。医療現場・企業のがん領域で即戦力となる人材を養成することにより、がん領域における医療の質の向上や産業・経済の発展に貢献できる。		

主な取組みと成果

大学全体としての取組み

1. 多様な新ニーズに対応するがん専門医療人養成について

がんゲノムについての基礎医学的、臨床医学的知識を十分に習得し、実臨床でもがんゲノムパネル検査に基づく診療を積極的に推進し、かつ研究や教育に貢献できる人材を育成するため、参加大学合同の講習会やオンライン講演会を行うとともに、米国や韓国の先進的な施設、大規模施設への訪問研修、拠点間リトリートなどの機会を通じて参加大学全体で多職種に対する教育を可能とするよう努めた。また、がんゲノム医療中核拠点病院で実施されている実際の医療に触れることにより高い教育効果が得られると考えられるため、講習会に加えて、病理実習、がんゲノムパネル検査結果のアノテーション、キュレーション実

習、エキスパートパネル参加によるレポート作成の研修など、がんプロ履修生に対して可能な限り様々な機会を利用した教育を実施した。

がんプロセスの履修生の将来的な増員を目指すため、令和2年度より医学部学生に対してもがん医療についての基盤的な理解を深めるための講義を開始した。第II期プロジェクトの過程途中で平成29年度を迎えた履修生については、希望に沿って同年度に新ニーズに対応する九州がんプロプランへの移行措置を行い、継続してがん専門医療人材の育成ができる体制とした。がんゲノム情報を含む臨床ビッグデータの管理・解析が可能な先端医用量子線技術科学分野の医療人育成にも重点的に取り組んだ。

学生数の確保のためプロジェクト全体としては、ホームページ、SNSによる情報提供と更新をより積極的に行い、がん専門医療人材の重要性を啓蒙した。がん薬物療法専門医や放射線治療専門医取得者の増加を期するため、専門医受験のための相談窓口の設置や専門医受験のための症例実績報告書の添削支援、個別指導により専門医受験者の助けになる対応を行った。

2. ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成について

ライフステージ領域において活躍するがん医療人材を育成する上で、多様性により配慮してゆくため、全体研修会においては男女共同参画を進める際のアンコンシャスバイアスについてや地域医療に関する講演を聴講し、本事業に参画する教員・履修生の理解を深めた。ライフステージ領域において重要な難治性苦痛の緩和については、九州大学コーディネーターが、神経内科、脳外科、神経病理学、薬学部など他分野合同で活躍している「痛みの研究会」に世話人として新たに参画した。がんのライフステージに応じた医療としての難治性苦痛の緩和を推進する教育を推進しているサバイバーシップに関しては小児がんやAYA世代を対象とした講演会、セミナーを開催して専門医療人育成に努めるとともに、小児がん拠点病院、一般社団法人 AYA がんの医療と支援のあり方研究会と共催して、「支援者としてできること学ぶ AYA 教育セミナー」を九州大学で開催した。

小児・AYA～高齢者の各世代に対するがん治療の特徴を把握した上で治療計画を立て、かつ、個々のライフステージにおける身体的・心理的・社会的な面を含む包括的な問題への対策・支援について考察できる医療人の育成を目標として、本プランの大学院コースに「小児・AYA世代を含むライフステージに応じたがん医療」という授業科目を設置し、聴講形式の講義に加えて小児緩和ケアチームの勉強会やカンファレンスへの参加を行った。

3. 海外交流事業について

海外交流事業としての海外医療機関への訪問研修に関して、がんプロ教員および履修生多数が毎回参加しており積極的に質問や意見交換を行っている。韓国アサンメディカルセンターとは毎年継続的にがん専門家を育成する体制を形成しており、その都度テーマを設定し訪問研修を行っている。それ以外にもアメリカ合衆国、台湾、韓国の医療機関への訪問研修も行っている。帰国後は教員および参加した履修生で訪問実績報告書を作成し、自施設との比較を通して明日へのがん診療へ活かす体制をとった。

4. eラーニングについて

九州大学内に「九州がんプロeラーニング支援室」を設置し、講義の収録・編集を行い、5年間で45講義をがんプロ全国e-learningクラウドへ公開を行った。九州がんプロeラーニング支援室は、全国の履修生ができるだけ学習しやすい環境で履修ができるよう、関係各部署と連携しながら、eラーニング管理、大学間交流、セミナー、動画編集、著作権処理などさまざまな活動を行ってきた。

がんプロ履修生はeラーニングシステムを活用し、九州がんプロ内だけでなく他拠点の講義も視聴することで、がんゲノム医療をはじめとした最新情報を得ることができた。

5. その他の取り組みについて

本事業として実施する研修会や海外施設との相互交流、市民公開講座などについては随時九州がんプロのホームページ、SNSにおいて周知を行い、さらに実施報告書を作成し公開している。また、地域や社会に対してより分かりやすい情報発信をするために、大小様々な規模での市民公開講座を積極的に開催した。さらにライフステージに応じたがん対策として、サバイバーも含めたがん患者のより豊かな生活をサポートする目的で、最新のがん医療とアートを融合した市民公開講座を実施した。これらの機会を通じて、より多くの方々にがんプロ事業を理解頂くよう努めている。

医学専攻博士課程がん専門医師養成コースにおいて、毎年度新規がんプロ履修生に対して個人面談を実施し、がんプロの取り組みについて説明を行うとともに、履修生から直接意見を聴取し現状を把握する事で、がんプロにおける教育の改善に努めた。

令和2年度から3年度にかけて、九州大学がんプロ修了生を対象としたキャリアパス調査を実施した。調査対象は平成24年度から平成29年度に履修を開始した者とし、がん関連の専門医取得状況、現在の勤務地、がん拠点病院での勤務であるかどうか、などの項目を含めた調査・集計を実施し、がんプロフェッショナルとしての活躍状況を把握した。

各コースの取り組み

1. ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース

〈概要〉

がんゲノムについての基礎医学的、臨床医学的知識を十分に習得し、実臨床でもがんゲノムパネル検査に基づく診療を積極的に推進し、かつ研究や教育に貢献できる人材を育成するため、参加大学合同の講習会やテレビ会議システムを用いた講演会を行うとともに、米国や韓国の先進的な施設・大規模施設への訪問研修、拠点間リトリートなどの機会を通じて、参加大学全体で多職種に対する教育を可能とするよう努めた。

がんゲノムに関する基礎医学的な知識、実臨床におけるがん遺伝子パネル検査の適応判断と検査の実施、病理検体の評価、パネル検査結果に関するデータベースを用いた検索と解釈（キュレーション・アノテーション）、エキスパートパネルの運営、患者・家族への説明、二次的所見の遺伝カウンセリングの適応判断、などを身につけている。

〈研究成果、講演会の実施、大学間交流、研修等〉

「がんゲノム医療セミナー」として、1年間に5－6回に分けて、多職種を対象に院内講習会を実施した。

令和3年度には、東北次世代がんプロ養成プランとの合同オンコロジーセミナーを開催し、テレビ会議システムを用いたエキスパートパネルを実施した。

〈今後の予定〉

現在教育課程の途中の履修生に対しては、継続して講義、実習を行い、各地域の医療機関でリーダーとしてがんゲノム医療を牽引できるよう、さらに大学間連携に基づく教育を深めていく。

2. 希少がん・放射線治療学コース

〈概要〉

放射線治療に関する基礎知識、臨床知識、最新の知見だけでなく、化学療法や外科治療、ゲノム治療などの総合的ながん治療に関する知識を習得している。加えて、放射線治療とゲノム医療との関連についての知識も身につけつつある。

〈研究成果、講演会の実施、大学間交流、研修等〉

毎年、九州内の放射線治療に携わる医師、技師、物理士、看護師などの多職種の医療従事者が参加する九州放射線治療セミナーを開催し、症例検討や研究発表を行い、意見交換を行っている。また、本セミナーには医学生・研修医・レジデントにも積極的な参加を促している。

毎週開催されるキャンサーボードや放射線治療カンファレンスにおいて、質疑応答や意見交換を行っている。また定期的な研究ミーティングで研究成果について把握・評価している。

〈今後の予定〉

現在教育課程の途中の履修生に対しては、継続して講義を行い、小児がん拠点病院と共同して活動（小児緩和ケアチーム回診および勉強会、小児 AYA フォローアップ外来活動および勉強会、小児がん相談支援部会など）を検討していく。教育の経験や情報の大学間共有もさらに密接な連携に向けて事業を展開する。

3. 小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース

〈概要〉

小児、思春期から青年期を経て成人するまでの過渡期である AYA (adolescent and young adult) 世代がんの特有の問題を知り、実臨床への応用ができるようになるため、専門コースでの教育に加え、地域医療・離島僻地医療の実地の教育、小児がん拠点病院機能を生かした教育を行っており、これらの経験や情報を大学間で共有できるよう努めている。

〈研究成果、講演会の実施、大学間交流、研修等〉

小児緩和ケアチーム勉強会（2か月に1回）、小児がん相談支援部会（年に1回）、小児がんのこどもの教育を考える講演会を実施している。

〈今後の予定〉

現在教育課程の途中の履修生に対しては、継続して講義を行い、病理形態学的研究のみならず、ゲノム医療にも対応する最新研究の講習会を企画し、在籍生だけでなく既卒者の卒後教育をも支援する。

4. がん専門細胞検査士コース修士課程

〈概要〉

臨床現場の病理学分野において、希少がん及び小児がんの的確なる細胞診断能力を身につけ、細胞検査士としての的確な細胞診断業務を行える人材の養成を目指す。細胞検査士とは、患者から採取された検体を染色し顕微鏡において“がん”の有無を正確に判定する“がん”のスクリーニングにおいて、なくてはならない人材とされている。検査材料は婦人科・泌尿器をはじめ身体全体から採取されるものを対象とする。また、従来の形態学的検査技術に加えて、遺伝子解析をはじめとした分子生物学的検査技術も求められるようになってきており、臨床現場における役割の重要性は高まっている。

本コースでは、九州大学病院 病理診断科・病理部での2年間の臨床研修を行い細胞診断能力の獲得を目指すとともに、形態学・分子生物学に関する研究を行い、臨床現場におけるニーズに対応できる人材育

成を目指す。

〈研究成果、講演会の実施、大学間交流、研修等〉

- 1) 韓国アサン医療センター・がんセンター (AMC) 訪問：
2018年10月5～6日の2日間に韓国 AMC で実施された研修に教員1名、コース学生1名参加
- 2) 大分 spa カンファ・九州がんプロ合同研修会：
2019年11月2日～3日の2日間に大分で実施された研修に教員1名、コース学生2名参加
- 3) 令和3年度 九州がんプロ全体研修会：2021.10.14
キャリアパス -細胞検査士を目指す臨床検査技師の視点から-：コース学生1名発表

〈今後の予定〉

今後は、従来の九州大学病院 病理診断科・病理部での2年間の臨床研修および形態学・分子生物学に関する研究に加え、以下のように卒後教育も視野に、本コースの充実を図る。

- 1) 講習会等の企画：病理形態学的研究のみならず、ゲノム医療にも対応する最新研究に関してオンラインを活用した講習会を企画し、在籍生だけでなく既卒者の卒後教育も含め、本コース所属履修生および教員の細胞診研究の充実を図っていく。

5. 先端医用量子線技術科学コース

〈概要〉

本コースでは、臨床現場で物理的かつ技術的な面で指導的役割を果たし、小児から AYA 世代さらに高齢者及び緩和治療までを対象とした臨床研究を推進する先端医用量子線技術科学の医療人（例：高度な診療放射線技師、医学物理士）の養成を目指す。

医学物理士とは、放射線を用いた医療が適切に実施されるよう、医学物理学の専門家としての観点から貢献する。世界的には、医学物理士は、がんの放射線治療のためにはなくてはならない人材とされている。診断分野では、CT、MRI、PET、超音波、マンモグラフィなどの診断装置および診断画像の品質管理・保証を実施する。治療分野においては、医師と連携を取り、治療計画の最適化を行い、診療放射線技師および放射線治療品質管理士と協力し、治療装置の品質管理・保証を行う。

本コースでは、医用画像、ゲノム情報などを含む臨床ビッグデータを適切に管理、解析でき、ゲノム医療にも対応できる医療データサイエンティストとしての役割を果たす人材の養成を目指す。さらに、臨床の現場で必要とされるニーズと基礎理工学を繋ぐ先端医用量子線技術科学を教育し、関連する研究を指導する。

〈情報発信〉

「先端医用量子線技術科学コース 医学物理士・放射線治療品質管理士養成コース」について国内外へ広く情報を発信するため、英文和文併用ホームページ (<http://web.shs.kyushu-u.ac.jp/~mp/>) を2018年3月に開設した。教員紹介、カリキュラム、活動実績、講演会の案内を発信し、さらに海外からの留学生リクルートにも活用している。

〈講演会の実施〉

- 平成29年度第1回九州がんプロ・先端医用量子線技術科学コース講演会（2018年3月10日）
- 平成30年度第1回九州がんプロ・先端医用量子線技術科学コース講演会（2019年2月9日）
- 平成30年度第2回九州がんプロ・先端医用量子線技術科学コース講演会（2019年2月22日）
- 平成30年度第3回九州がんプロ・先端医用量子線技術科学コース講演会（2019年2月27日）
- 令和元年度第1回九州がんプロ・先端医用量子線技術科学コース講演会（2020年1月11日）
- 令和元年度第2回九州がんプロ・先端医用量子線技術科学コース講演会（2020年2月8日）

- 令和2年度第1回九州がんプロ・先端医用量子線技術科学コース講演会（2020年12月19日）
- 令和2年度第2回九州がんプロ・先端医用量子線技術科学コース講演会（2021年1月9日）
- 令和3年度第1回九州がんプロ・先端医用量子線技術科学コース講演会（2021年11月27日）
- 令和3年度第2回九州がんプロ・先端医用量子線技術科学コース講演会（2022年2月19日）

〈大学間交流・国際合同シンポジウム〉

- ・平成30年度：インドネシア・Deponegoro 大学
国際的がんプロフェッショナルの取組みに関するシンポジウム（2019年3月11日）
(<http://web.shs.kyushu-u.ac.jp/~mp/files/image/54/f18c2572c083ec47e6f8675f64903f5b.pdf>)
- ・令和元年度：マレーシア・マラヤ大学
JOINT SYMPOSIUM BETWEEN UNIVERSITY OF MALAYA AND KYUSHU UNIVERSITY
2020年3月6日→新型コロナウイルス感染防止に伴い中止
- ・令和2年度：インドネシアのバンドン工科大学とのオンライン交流会
JOINT SYMPOSIUM BETWEEN UNIVERSITY OF MALAYA AND KYUSHU UNIVERSITY
2020年9月5日
- ・令和3年度：マレーシア・マラヤ大学とのオンラインシンポジウム
JOINT SYMPOSIUM BETWEEN UNIVERSITY OF MALAYA AND KYUSHU UNIVERSITY
2021年9月13日

〈海外研修等・訪問〉

- ・平成30年度：インドネシア・Deponegoro 大学病院研修（2名の修士学生を派遣）
（2019年3月11日～12日）
- ・令和元年度：タイ・Chulalongkorn University 病院研修（2名の修士学生を派遣）
2020年3月2日～6日予定→新型コロナウイルス感染防止に伴い中止
- ・令和元年度：マレーシア・マラヤ大学病院研修（2名の修士学生を派遣）
2020年3月6日～7日予定→新型コロナウイルス感染防止に伴い中止

〈今後の予定〉

本学の保健学専攻修士課程医用量子線科学分野は、医学物理士認定機構により「医学物理士・放射線治療品質管理士養成コース」（すべての領域）として平成25年度（2013年）に認定され、医学物理教育コースの認定を毎年更新し、今後も維持できるようコースの充実を図る。

アジアだけでなく世界を視野に入れ留学生を受け入れ、留学生の出身大学との国際共同研究を推進する教育研究プログラムを開発し、国際的な先端医用量子線技術科学を教育する。したがって、アジア諸国で活躍できる医学物理人材育成のために、保健学専攻修士課程アジア保健学コース（国際コース）にがんプロの育成を拡充する。アジア諸国の医学物理教育と研究の向上に貢献することで、がんプロの国際化を目指す。本専攻ではこれまで5名の留学生が卒業し、国内外で活躍している。本専攻で学んだ高度な医学物理教育を身につけた留学生が自国へ戻っている。そのために留学生獲得をすすめるべくリクルート活動や協定締結を推進していく。さらにアジア諸国の医学物理研究者と国際共同研究を推し進め、国際ジョイントシンポジウムや海外研修を行うことで、国際的に活躍できる研究者を育成指導する指導者の能力向上にも取り組み、本コースの一層の充実を目指す。

今後は、博士後期課程における診断、核医学、放射線治療の医学物理士養成のための大学院教育の向上に取り組む。毎年のがんプロ講演会も土曜日に開催することで、在籍生だけでなく既卒者の卒後教育をも

支援する。本講演会は医学物理士認定機構の認定講習会として開催し、2020年度よりオンライン開催としたことにより、九州をはじめ全国各地から多数の参加申込があった。今後も継続して開催し、日々変化する最先端の医療を提供できるよう、先端医用量子線技術科学におけるがんプロ教育の向上に努める。

6. がん研究薬剤師コース博士課程

〈概要〉

本コースは、本学大学院薬学府臨床薬学専攻博士課程に設置し、履修対象者を薬学府臨床薬学専攻博士課程大学院生とし、大学院博士課程において、ゲノム医療従事者の養成、希少がん及び小児がんに対応できる医療人材の養成、ライフステージに応じたがん対策を推進する人材の養成について、新たな教育プログラム・コースを構築するものです。本コースでは、薬理遺伝学・時間薬理学、希少がん、痛みなど緩和医療における創薬から育薬までを担う薬剤師、研究者及び指導者を養成します。医療現場・企業のがん領域で即戦力となる人材を養成することにより、がん領域における医療の質の向上や産業・経済の発展に貢献します。

〈今後の予定〉

現状の課題としては、がん領域における創薬科学と臨床薬学の研究指向が分離（基礎・応用）していることが挙げられます。今後、がん領域における創薬から育薬までを見渡せる教育・研究環境を一層強化していくことが重要と考えられます。

本学薬学研究院では、文部科学省「化合物ライブラリーを活用した創薬等先端研究・教育基盤事業の整備」を基軸に、薬学研究院附属システム創薬リサーチセンター「グリーンファルマ研究所」が竣工しました（平成25年度施設概算要求）。これを起爆剤に、本学薬の特筆すべき独自性は、患者に優しい創薬手法「エコファーマ」と地球環境に優しい合成技術「グリーンケミストリー」を融合した「グリーンファルマ」の方法・技術にあります。西日本で初めて、最新型のオートローダと電子直接検出器を備えた高性能クライオ電子顕微鏡を導入し、クライオ電顕共用施設として、西日本地域偏在解消に貢献します。原子分解能レベルのタンパク質複合体の立体構造解析を迅速に行える環境が整備され、抗がん剤と標的分子の相互作用を基軸にした創薬育薬に大きく貢献できるものと思われれます。本学独自の大学改革活性化制度により、タンパク構造機能解析の専門家、企業人材、弁理士を招聘し、創薬シーズを探索する若手研究者や学生を支援する研究教育体制を強化し、次世代を担う若手研究者を育成します。

以上の点を踏まえ、冒頭の課題の一つの対応策として、新研究棟「グリーンファルマ研究所」を基盤に、がん領域における創薬から育薬までを担う研究者および指導者を養成します。本研究所では、長年薬学を牽引してきた「システム創薬リサーチ構想」（独自に進められてきた創薬・育薬に関する研究単位を束ね、基礎から臨床まで見渡せる研究環境の構築）の実現を目指します。もう一つの対応策として、創薬育薬を加速化するための即戦力となる企業人材や知財強化のための弁理士を配置し、組織体制を整備します。これにより本学独自のグリーンファルマの中核をなすエコファーマの視点から、既存薬の新たな作用点を発掘し、その誘導体を合成して特許化を加速化します。また薬理遺伝学・時間薬理学、希少がん、痛みなど緩和医療における創薬から育薬までを担う薬剤師、研究者及び指導者を養成します。さらに本学病院キャンパスの地の利を生かした橋渡し研究を実践し、九州全域のみならず、全国へと連携を広げる予定です。

○英文誌

1	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	Kawano Y, Iwama E, Tsuchihashi K, Shibahara D, Harada T, <u>Tanaka K</u> , Nagano O, Saya H, Nakanishi Y, Okamoto I. CD44 variant-dependent regulation of redox balance in EGFR mutation-positive non-small cell lung cancer: A target for treatment. <i>Lung Cancer</i> . 2017 Nov;113:72-78.
2	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	<u>Hirofumi Ohmura</u> et al. Predictive value of the modified Glasgow Prognostic Score for the therapeutic effects of molecular-targeted drugs on advanced renal cell carcinoma. <i>Mol Clin Oncol</i> . 2017 May; 6(5): 669-675.
3	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	<u>Yoshihiro T</u> , Tsuchihashi K, Nio K, Arita S, Nakano T, Yasumatsu R, Jiroumaru R, Ariyama H, Kusaba H, Oda Y, Akashi K, Baba E. Lingual alveolar soft part sarcoma responsive to pazopanib: A case report. <i>Medicine (Baltimore)</i> . 2017 Nov;96 (44):e8470.
4	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	Makiyama A, Arimizu K, Hirano G, Makiyama C, Matsushita Y, Shirakawa T, <u>Ohmura H</u> , Komoda M, Uchino K, Inadomi K, Arita S, Ariyama H, Kusaba H, Shinohara Y, Kuwayama M, Kajitani T, Oda H, Esaki T, Akashi K, Baba E: Irinotecan monotherapy as third-line or later treatment in advanced gastric cancer <i>Gastric Cancer</i> 2017 Aug 10. doi: 10.1007/s10120-017-0759-9. [Epub ahead of print]
5	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	<u>Yoshihiro T</u> , Nio K, Tsuchihashi K, Ariyama H, Kohashi K, Tsuruta N, Hanamura F, Inadomi K, Ito M, Sagara K, Okumura Y, Nakano M, Arita S, Kusaba H, Oda Y, Akashi K, Baba E: Pancreatic acinar cell carcinoma presenting with panniculitis, successfully treated with FOLFIRINOX regimen: A case report <i>Mol Clin Oncol</i> 6: 866-870, 2017.
6	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	Tsuchihashi K, Shimokawa H, Takayoshi K, Aikawa T, Matsushita Y, Wada I, Taguchi R, Ohmura H, <u>Yoshihiro T</u> , Tsuruta N, Hanamura F, Inadomi K, Ito M, Sagara K, Okumura Y, Nakano M, Nio K, Arita S, Ariyama H, Kusaba H, Sonoda K, Akashi K, Baba E: Regorafenib-induced retinal and gastrointestinal hemorrhage in a metastatic colorectal cancer patient with liver dysfunction: a case report <i>Medicine (Baltimore)</i> in press 2017
7	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	Tsuchihashi K, <u>Yoshihiro T</u> , Aikawa T, Nio K, Takayoshi K, Yokoyama T, Fukata F, Arita S, Ariyama H, Shimizu Y, Yoshida Y, Torisu T, Esaki M, Odashiro K, Kusaba H, Akashi K, Baba E: Metastatic esophageal cancer presenting as shock by injury of vagus nerve mimicking baroreceptor reflex <i>Medicine (Baltimore)</i> 2017, Dec;96 (49):e8987
8	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	Muta T, <u>Yoshihiro T</u> , Jinnouchi F, Aoki K, Kochi Y, Shima T, Takenaka K, Ogawa R, Akashi K, Oshima K: Expansion of NKG2C-expressing Natural Killer Cells after Umbilical Cord Blood Transplantation in a Patient with Peripheral T-Cell Lymphoma with Cytotoxic Molecules. <i>Intern Med</i> . 2017 Dec 21.
9	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	<u>T Kamori</u> , G Toyokawa, T Okamoto, Y Kozuma, T Matsubara, N Haratake, S Takamori, T Akamine, K Takada, M Katsura, F Shoji, Y Maehara, Pulmonary vein stump thrombosis after left pneumonectomy, diagnosed based on a high plasma D-dimer level: a case report, <i>J Thorac. Dis</i> 9 (3):E210-214, 2017
10	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	<u>Fujimoto Y</u> , Nakashima Y, Sasaki S, Jogo T, Hirose K, Edahiro K, Korehisa S, Taniguchi D, Kudou K, Nakaji Y, Nakanishi R, Ando K, Saeki H, Oki E, Fujiwara M, Oda Y, Maehara Y, Chemoradiotherapy for Solitary Skeletal Muscle Metastasis from Oesophageal Cancer: Case Report and Brief Literature Review, <i>Anticancer Res</i> .37 (10):5687-5691, 2017
11	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	K. Otsubo, K. Nakatomi, <u>R. Furukawa</u> , K. Ashida, Y. Yoneshima, Y. Nakanishi, I. Okamoto Two cases of late-onset secondary adrenal insufficiency after discontinuation of nivolumab, <i>Annals of Oncology</i> , 27, 3106-3107, 2017
12	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	<u>Arimizu K</u> , Hirano G, Makiyama C, Matsuo M, Sasaguri T, Makiyama A NUT carcinoma of the nasal cavity that responded to a chemotherapy regimen for Ewing's sarcoma family of tumors : a case report. <i>BMC Cancer</i> . 2018 Nov 19;18 (1):1134.
13	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	Izumi T, Sakata K, Okuzaki D, Characterization of human pegivirus infection in liver transplantation recipients, <i>J Med Virol</i> , 91, 2093-2100, 2019
14	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	<u>Kawazoe T</u> , Taniguchi K The Sprouty/Spred family as tumor suppressors: Coming of age., <i>Cancer Sci</i> , 110, 1525-1535, 2019
15	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	<u>Hirono Tsutsumi</u> , Multiclonality and Radiosensitivity of Granulocyte Colony-Stimulating Factor-Producing Lung Adenocarcinoma Positive for an Activating EGFR Mutation, <i>Clin Lung Cancer</i> . 2019 Sep 26. pii: S1525-7304 (19)30259-1.

16	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	Obstructive rectal endometriosis treated by robot-assisted laparoscopic surgery: a case report Surg Case Rep. 2020 Aug 14;6 (1):211. doi: 10.1186/s40792-020-00977-9. Naotaka Kuriyama , Koji Ando, Qingjiang Hu, Yu Miyashita, Yoshiaki Fujimoto, Tomoko Jogo, Kentaro Hokonohara, Ryota Nakanishi, Yuichi Hisamatsu Yasue Kimura, Daisuke Tsurumaru, Kenichi Kohashi, Yoshinao Oda, Eiji Oki, Masataka Nishimura, Masaki Mori
17	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	Ohmura H , Yamaguchi K, Hanamura F, Ito M, Makiyama A, Uchino K, Shimokawa H, Tamura S, Esaki T, Mitsugi K, Shibata Y, Oda H, Tsuchihashi K, Ariyama H, Kusaba H, Oda Y, Akashi K, Baba E. OX40 and LAG3 are associated with better prognosis in advanced gastric cancer patients treated with anti-programmed death-1 antibody. Br J Cancer, 122 (10):1507-1517, 2020
18	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	Hasuda, H. et al. Gastric glomus tumor with a preoperative diagnosis by endoscopic ultrasonography-guided fine needle aspiration: a case report. International Cancer Conference Journal, doi:10.1007/s13691-020-00444-0 (2020).
19	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	Hayashi M , Kenjiro D, Tomoko K, et al.Recurrent intraductal papillary mucinous neoplasms of the pancreas mimicking ampullary cancer, Annals of Gastroenterology, 33, 536-539, 2020
20	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	Toshiya Abe, Hiroshi Sakai, Masataka Hayashi , So Nakamura, Shin Takesue, Masafumi Sada. Intramural metastasis to the appendix from ascending colon cancer: a case report. Surgical Case Reports. 6:69, 2020
21	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	Taguchi R , Tsuchihashi K, Baba E Thrombocytopenia Caused by Dexamethasone in a Patient with Colorectal Cancer Intern Med. 2020;59 (20):2571-2575.
22	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	Hiroyuki Inoue, Hirono Tsutsumi , Kentaro Tanaka, Eiji Iwama, Yoshimasa Shiraishi, Aiko Hirayama , Takayuki Nakanishi , Hiroyuki Ando, Maako Nakajima , Seiji Shinozaki, Hiroaki Ogata, Kazuyasu Uryu, Koji Okamura, Shinichi Kimura, Tomohiro Ogawa, Keiichi Ota, Yasuto Yoneshima, Naoki Hamada, Yoichi Nakanishi, Isamu Okamoto, Increased plasma levels of damage-associated molecular patterns during systemic anticancer therapy in patients with advanced lung cancer, Translational Lung Cancer Research, Vol 10・No 6・2475-2486, 2021
23	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	Shohei Ueno , Masato Uenomachi, Hitoshi Kusaba, Mamoru Ito, Kunihiro Suzuki, Hirofumi Ohmura, Kenji Tsuchihashi, Hiroshi Ariyama, Koichi Akashi, Eishi Baba. Improvement in recurring nivolumab-induced pneumonitis with repetitive administration of infliximab in a patient with head and neck cancer: A case report. Mol Clin Oncol. 2021 Oct;15 (4):221.
24	小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース	Teranishi H, Ishimura M, Koga Y, Eguchi K, Sonoda M, Kobayashi T, Shiraishi S, Nakashima K , Ikegami K, Aman M, Yamamoto H, Takada H, Ohga S. Activated phosphoinositide 3-kinase δ syndrome presenting with gut-associated T-cell lymphoproliferative disease. Rinsho Ketsueki. 2017;58 (1):20-25.
25	小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース	Ohyama N, Torio M, Nakashima K , Koga Y, Kanno S, Nishio H, Nishiyama K, Sasazuki M, Kato H, Asakura H, Akamine S, Sanefuji M, Ishizaki Y, Sakai Y, Ohga S. A childhood-onset intestinal toxemia botulism during chemotherapy for relapsed acute leukemia. Ann Clin Microbiol Antimicrob. 2017 Sep 18;16 (1):61.
26	小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース	Kobayashi T, Koga Y, Ishimura M, Nakashima K , Kato W, Ono H, Sonoda M, Eguchi K, Fukano R, Honjo S, Oda Y, Ohga S. Fever and Skin Involvement at Diagnosis Predicting the Intractable Langerhans Cell Histiocytosis: 40 Case-Series in a Single Center. J Pediatr Hematol Oncol. 2017 Dec 29.
27	小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース	Okuzono S, Ishimura M, Kanno S, Sonoda M, Kaku N, Motomura Y, Nishio H, Oba U , Hanada M, Fukushi JI, Urata M, Kang D, Takada H, Ohga S. Streptococcus pyogenes-purpura fulminans as an invasive form of group A streptococcal infection. Ann Clin Microbiol Antimicrob. 2018 Jul 9;17 (1):31.
28	小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース	Okuda T, Hata N, Suzuki SO, Yoshimoto K, Arimura K, Amemiya T, Akagi Y, Kuga D, Oba U , Koga Y, Ohga S, Iwaki T, Iihara K. Pediatric ganglioglioma with an H3 K27M mutation arising from the cervical spinal cord. Neuropathology. 2018 Apr 19.
29	小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース	Nakashima K , Hasegawa D, Tomizawa D, Miyamura T, Hama A, Iwamoto S, Terui K, Adachi S, Taga T: Characteristics and outcomes of children with acute myeloid leukemia and Down syndrome who are ineligible for clinical trials due to severe comorbidities. Pediatr Blood Cancer 66 (11):e27942, 2019
30	小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース	Terui K, Toki T, Taga T, Iwamoto S, Miyamura T, Hasegawa D, Moritake H, Hama A, Nakashima K , Kanezaki R, Kudo K, Saito AM, Horibe K, Adachi S, Tomizawa D, Ito E: Highly sensitive detection of GATA1 mutations in patients with myeloid leukemia associated with Down syndrome by combining Sanger and targeted next generation sequencing. Genes Chromosomes Cancer [Epub ahead of print] , 2019

○英文誌 (つづき)

31	小児がん・希少がん 臨床腫瘍学コース	<u>Shibui Y</u> , et al. Intrahepatic cholangiocarcinoma after the Fontan procedure. Human pathology case reports 2019;15:15-19
32	小児がん・希少がん 臨床腫瘍学コース	<u>Shibui Y</u> , et al. Glypican-3 expression in malignant small round cell tumors. Oncology letters 2019;17:3523-28
33	小児がん・希少がん 臨床腫瘍学コース	Yanagi Y, Yoshimaru K, Matsuura T, <u>Shibui Y</u> , et al. The outcome of real-time evaluation of biliary flow using near-infrared fluorescence cholangiography with indocyanine green in biliary atresia surgery. Journal of Pediatric Surgery In press
34	小児がん・希少がん 臨床腫瘍学コース	Souzaki R, Kawakubo N, Matsuura T, Yoshiharu K, Koga Y, Takemoto J, <u>Shibui Y</u> et al. Navigation surgery using indocyanine green fluorescent imaging for hepatoblastoma patients. 2019; 35:551-557
35	小児がん・希少がん 臨床腫瘍学コース	Terui K, Toki T, Taga T, Iwamoto S, Miyamura T, Hasegawa D, Moritake H, Hama A, <u>Nakashima K</u> , Kanezaki R, Kudo K, Saito AM, Horibe K, Adachi S, Tomizawa D, Ito E: Highly sensitive detection of GATA1 mutations in patients with myeloid leukemia associated with Down syndrome by combining Sanger and targeted next generation sequencing, Genes Chromosomes Cancer 59, 160-167, 2020
36	小児がん・希少がん 臨床腫瘍学コース	Ueda T, Koga Y, Yoshikawa H, Tanabe M, Yamana K, Oba U, <u>Nakashima K</u> , Ono H, Ichimura T, Hasegawa S, Kato W, Kobayashi T, Nakayama H, Sakai Y, Yoshitake T, Ohga S, Oda Y, Suzuki S, Sonoda KH, Ohga S, Survival and ocular preservation in a long-term cohort of Japanese patients with retinoblastoma, BMC Pediatr, 20 (1), 37, 2020
37	小児がん・希少がん 臨床腫瘍学コース	<u>Yamamoto S</u> , Shiraiishi A, Ishimura M, Motomura Y, Yada Y, Moriuchi H, Ohga S:Cytomegalovirus-Associated Hemolytic Anemia in an infant Born to a Mother with Lupus.Neonatology. 2021; 118 (3): 368-372.
38	小児がん・希少がん 臨床腫瘍学コース	<u>Yamamoto S</u> , Koga Y, Tetsuhara K, Kaku N, Ono H, Suzuki SO, Iwaki T, Ohga S:Hemorrhagic stroke due to leukostasis in pediatric mixed-phenotype acute leukemia.Blood Res 2021; 56 (2): 60.
39	小児がん・希少がん 臨床腫瘍学コース	<u>Yamamoto S</u> , Koga Y, Ono H, Goto H, Hata N, Yamamoto H, Suzuki SO, Sakai Y, Iwaki T, Ohga S:Alectinib-responsive infantile anaplastic ganglioglioma with a novel VCL-ALK gene fusion. Pediatr Blood Cancer 2021; 68 (9): e29122.
40	小児がん・希少がん 臨床腫瘍学コース	Koga Y, Sanefuji M, Toya S, Oba U, Nakashima K, Ono H, <u>Yamamoto S</u> , Suzuki M, Sonoda Y, Ogawa M, Yamamoto H, Kusuhara K, Ohga S:Infantile neuroblastoma and maternal occupational exposure to medical agents.Pediatr Res 2021 Jul 9. doi: 10.1038/s41390-021-01634-z. Online ahead of print.
41	がん専門細胞検査士 コース修士課程	Watanabe S, Yamaguchi S, <u>Fujii N</u> , Eguchi N, Katsuta S, Sugishima S, Iwasaka T, Kaku T. Nuclear Co-expression of p21 and p27 Induced Effective Cell-cycle Arrest in T24 Cells Treated with BCG. Cytotechnology,DOI 10.1007/s10616-018-0278-5. 2018
42	先端医用量子線技術 科学コース	<u>Ninomiya K</u> , Arimura H, Sasahara M, Kai Y, Hirose T, Ohga S, Feasibility of anatomical feature points for estimation of prostate locations in the Bayesian delineation frameworks for prostate cancer radiotherapy, Radiological Physics and Technology 2018, 11 (4), 434-444, 2018
43	先端医用量子線技術 科学コース	Arimura H, Soufi M, <u>Ninomiya K</u> , Kamezawa H, <u>Yamada M</u> , Potentials of radiomics for cancer diagnosis and treatment in comparison with computer-aided diagnosis (review paper). Radiological Physics and Technology, 11 (4), 365-374, 2018
44	先端医用量子線技術 科学コース	Soufi M, Arimura H, <u>Nagami N</u> , Identification of optimal mother wavelets in survival prediction of lung cancer patients using wavelet decomposition-based radiomic features, Medical Physics, 45(11), 5116-5128, 2018
45	先端医用量子線技術 科学コース	Arimura H, Soufi M, Kamezawa H, <u>Ninomiya K</u> , <u>Yamada M</u> , Radiomics with artificial intelligence for precision medicine in radiation therapy (review paper), Journal of Radiation Research, 59, 2018 (E-pub ahead of print)
46	先端医用量子線技術 科学コース	<u>Nagami N</u> , Arimura H, Soufi M, Ohishi M, Imaizumi T, Yamaguchi Y, <u>Ninomiya K</u> , Tokumaru S, Toyama S, Kawasaki K, Kitazato A, Takita S, Uba K, Irie H. An approach for evaluation of delineation accuracy of GTV contours with considering interobserver variability in reference contours: Impact of MAR on radiation treatment planning, Medical Imaging and Information Sciences, 2019 (In press)
47	先端医用量子線技術 科学コース	<u>Kasai Y</u> , Fukuyama Y, Terashima H, Nakamura K, Sasaki T, Relationships between the number of ports and dose evaluation Indices in total body irradiation using TomoDirect and its comparison with TomoHelical, Journal of Applied Clinical Medical Physics, (In press)

48	先端医用量子線技術科学コース	Kawazoe Y , Morishita J, Matsunobu Y, Okumura M, Shin S, Usumoto Y, Ikeda N, A simple method for semi-automatic readjustment for positioning in post-mortem head computed tomography imaging, Journal of Forensic Radiology and Imaging, 2019 (Accepted)
49	先端医用量子線技術科学コース	Motoki SASAHARA , Hidetaka ARIMURA, Kenta NINOMIYA, Takaaki HIROSE, Noriyuki NAGAMI , Yudai KAI, Yusuke SHIBAYAMA, Saiji OHGA, Junnichi FUKUNAGA, Machine-Learning-Based Framework for Estimation of Prostate Locations with Anatomical Feature Points on CBCT Images for Image-Guided Target-Based Patient Positioning in Prostate Cancer Radiotherapy, Medical Imaging and Information Sciences 2019 Volume 36 Issue 3 Pages 122-127, https://doi.org/10.11318/mii.36.122 , 2019.10.
50	先端医用量子線技術科学コース	Noriyuki Nagami , Hidetaka Arimura, Mazen Soufi, Mitsutoshi Ohishi, Takeshi Imaizumi, Yoshimasa Yamagushi, Kenta Ninomiya, Sunao Tokumaru, Shingo Toyama, Kanako Kawasaki, Aiko Kitazato, Satoshi Takita, Kouji Uba, Hiroyuki Irie, An approach for evaluation of delineation accuracy of GTV contours with considering interobserver variability in reference contours: Impact of MAR on radiation treatment planning, Medical Imaging and Information Sciences 2019 Volume 36 Issue 1 Pages 4-9, https://doi.org/10.11318/mii.36.4 , 2019.03.
51	先端医用量子線技術科学コース	Hirata Y , Fujibuchi T, Fujita K, Igarashi T, Nishimaru E, Horita S, Sakurai R, Ono K, Angular dependence of shielding effect of radiation protective eyewear for radiation protection of crystalline lens, Radiological Physics and Technology, 10.1007/Fs12194-019-00538-2, 2019.
52	先端医用量子線技術科学コース	Shu Haseai , Hidetaka Arimura, Kaori Asai, Tadamasu Yoshitake, Yoshiyuki Shioyama, Similar-cases-based planning approaches with beam angle optimizations using water equivalent path length for lung stereotactic body radiation therapy, Radiological Physics and Technology, https://doi.org/10.1007/s12194-020-00558-3 , 2020.03
53	先端医用量子線技術科学コース	Quoc Cuong Le , Hidetaka Arimura, Kenta Ninomiya, Yutaro Kabata, Radiomic features based on Hessian index for prediction of prognosis in head-and-neck cancer patients, Scientific Reports 10, 21301 (2020), https://doi.org/10.1038/s41598-020-78338-7 , 2020.12
54	先端医用量子線技術科学コース	Cui YunHao , Hidetaka Arimura, Risa Nakano , Tadamasu Yoshitake, Yoshiyuki Shioyama, Hidetake Yabuuchi, Automated approach for segmenting gross tumor volumes for lung cancer stereotactic body radiation therapy using CT-based dense V-networks, Journal of Radiation Research, https://doi.org/10.1093/jrr/rraa132 (e-pub on Jan 22, 2021)
55	先端医用量子線技術科学コース	Nohtomi A, Kanzaki Y , Sakamoto N , Maeda H : Observation of water luminescence for diagnostic 120-kV X-rays by using PMT and CCD camera, Nuclear Inst. And Methods in Physics Research, A 988 (2021) 164935
56	先端医用量子線技術科学コース	Kazuki Nishi , Toshioh Fujibuchi, Takashi Yoshinaga, Development of an application to visualise the spread of scattered radiation in radiography using Augmented Reality, Journal of Radiological Protection, 11, 4, 1299-1310, 2020.11.
57	先端医用量子線技術科学コース	Mikayama R , Yabuuchi H, Matsumoto R, Kobayashi K, Yamashita Y, Kimura M , Kamitani T, Sagiyama K, Yamasaki Y. Development of a new phantom simulating extracellular space of tumor cell growth and cell edema for diffusion-weighted magnetic resonance imaging. MAGMA. 2020 Aug;33 (4):507-513
58	先端医用量子線技術科学コース	Kimura M , Yabuuchi H, Matsumoto R, Kobayashi K, Yamashita Y, Nagatomo K, Mikayama R , Kamitani T, Sagiyama K, Yamasaki Y. The reproducibility of measurements using a standardization phantom for the evaluation of fractional anisotropy (FA) derived from diffusion tensor imaging (DTI). MAGMA. 2020 Apr;33 (2):293-298
59	先端医用量子線技術科学コース	Tsubaki Y , Akamatsu G, Shimokawa N , Katsube S , Takashima A, Sasaki M; Japanese Alzheimer's Disease Neuroimaging Initiative. Development and evaluation of an automated quantification tool for amyloid PET images. EJNMMI Phys. 2020;7 (1):59. doi:10.1186/s40658-020-00329-4.
60	先端医用量子線技術科学コース	Shimokawa N , Akamatsu G, Kadosaki M, Sasaki M. Feasibility study of a PET-only amyloid quantification method: a comparison with visual interpretation. Ann Nucl Med. 2020 Sep;34(9):629-635. doi: 10.1007/s12149-020-01486-3. Epub 2020 Jun 13.
61	先端医用量子線技術科学コース	Akimasa Urakami , Hidetaka Arimura, Yukihisa Takayama, Fumio Kinoshita, Kenta Ninomiya, Kenjiro Imada, Sumiko Watanabe, Akihiro Nishie, Yoshinao Oda, Kousei Ishigami, Stratification of prostate cancer patients into low- and high-grade groups using multiparametric magnetic resonance radiomics with dynamic contrast-enhanced image joint histograms, The Prostate, 08 December 2021, https://doi.org/10.1002/pros.24278

○英文誌 (つづき)

62	先端医用量子線技術科学コース	Akihiro Nohtomi, <u>Hideya Maeda</u> , <u>Naoya Sakamoto</u> , Genichiro Wakabayashi, Takushi Takata, Yoshinori Sakurai: First optical observation of ¹⁰ B-neutron capture reactions using a boron-added liquid scintillator for quality assurance in boron neutron capture therapy. Radiological Physics and Technology, Published online 29 November 2021.
63	先端医用量子線技術科学コース	<u>Takeshita T</u> , Magome T, Watanabe R, Onozawa S, Tsuchiya K, Tago M, Sasaki M. Evaluation of a Monte Carlo based algorithm for the influence of totally implantable venous access ports in external radiation therapy. Jpn J Radiol. 2021 Apr;39 (4):387-394. doi: 10.1007/s11604-020-01062-9. Epub 2020 Nov 2.
64	先端医用量子線技術科学コース	Sekikawa Y, <u>Funada K</u> , Akamatsu G, Himuro K, Takahashi A, Baba S, Sasaki M. Monte Carlo simulation of the acquisition conditions for ¹⁷⁷ Lu molecular imaging of hepatic tumors. Ann Nucl Med. 2021 Jul;35 (7):823-833. doi: 10.1007/s12149-021-01620-9. Epub 2021 May 31.
65	先端医用量子線技術科学コース	Takahashi A, <u>Ueno H</u> , Baba S, Sasaki M. Estimation of the lower limits for feasible Ra-223 SPECT imaging: a Monte Carlo simulation study. Asia Ocean J Nucl Med Biol. 2021; 9 (2): 131-139. doi: 10.22038/AOJNMB.2021.54386.1372
66	先端医用量子線技術科学コース	<u>Tsubaki Y</u> , Kitamura T, Shimokawa N, Akamatsu G, Sasaki M, Japanese Alzheimer's Disease Neuroimaging Initiative. Improved accuracy of amyloid PET quantification with adaptive template-based anatomical standardization. J Nucl Med Technol. 2021 Sep;49 (3):256-261. doi: 10.2967/jnmt.120.261701. Epub 2021 Apr 5.
67	先端医用量子線技術科学コース	<u>Hiroshi Yoshitani</u> , Toshioh Fujibuchi, Choirul Anam, Basic study on evaluation of X-ray dose distribution using plastic scintillator plate and digital CMOS camera, Journal of Physics: Conference Series, 1943 (2021) 012058, 2021.
68	先端医用量子線技術科学コース	<u>Kazuki Nishi</u> , Toshioh Fujibuchi, Takashi Yoshinaga, Development of scattered radiation distribution visualization system using WebAR, Journal of Physics: Conference Series, 1943 (2021) 012057, 2021.
69	先端医用量子線技術科学コース	<u>Kazuki Nishi</u> , Toshioh Fujibuchi, Takashi Yoshinaga, Development and evaluation of the effectiveness of educational material for radiological protection that uses augmented reality and virtual reality to visualize the behavior of scattered radiation, Journal of Radiological Protection, accepted 2021 Nov
70	がん研究薬剤師コース博士課程	Shimauchi T, Numaga-Tomita T, Ito T, Nishimura A, <u>Matsukane R</u> , Oda S, Hoka S, Ide T, Koitabashi, Uchida K, Sumimoto H, Mori Y, Nishida M. TRPC3-Nox2 complex mediates doxorubicin-induced myocardial atrophy, JCI Insight, 3;2 (15):e93358, 2017.
71	がん研究薬剤師コース博士課程	Kanado Y, Tsurudome Y, Omata Y, <u>Yasukochi S</u> , Kusunose M, Akamine T, Matsunaga N, Koyanagi S, Ohdo S, Estradiol regulation of P-glycoprotein expression in mouse kidney and human tubular epithelial cells, implication for renal clearance of drugs, Biochem Biophys Res Commun, 12;519 (3):613-619, 2019.
72	がん研究薬剤師コース博士課程	Nakamura, T., Fukuda, M., <u>Matsukane R</u> , Suetsugu, K. Harada, N. Yoshizumi, T. Egashira, N. Mori, M. Masuda, S. Influence of POR*28 Polymorphisms on CYP3A5*3-Associated Variations in Tacrolimus Blood Levels at an Early Stage after Liver Transplantation, Int J Mol Sci, 26;21 (7):2287, 2020.
73	がん研究薬剤師コース博士課程	Kato M, Tsurudome Y, Kanemitsu T, <u>Yasukochi S</u> , Kanado Y, Ogino T, Matsunaga N, Koyanagi S, Ohdo S : Diurnal expression of MRP4 in bone marrow cells underlies the dosing-time dependent changes in the oxaliplatin-induced myelotoxicity. Scientific Reports, 10;10 (1):13484, 2020.
74	がん研究薬剤師コース博士課程	<u>Yasukochi S</u> , Kusunose N, Matsunaga N, Koyanagi S, Ohdo S. Sulfasalazine alleviates neuropathic pain hypersensitivity in mice through inhibition of SGK-1 in the spinal cord. Biochem Pharmacol, 185:114411, 2021.
75	がん研究薬剤師コース博士課程	Koyanagi S, Kusunose N, <u>Yasukochi S</u> , Ohdo S, Basis for diurnal exacerbation of neuropathic pain hypersensitivity and its application for drug development. J Biochem, 30;mvab143, 2021.
76	がん研究薬剤師コース博士課程	<u>Matsukane R</u> , Watanabe, H. Minami, H. Hata, K. Suetsugu, K. Tsuji, T. Masuda, S. Okamoto, I. Nakagawa, T. Ito, T. Eto, M. Mori, M. Nakanishi, Y. Egashira, N. Continuous monitoring of neutrophils to lymphocytes ratio for estimating the onset, severity, and subsequent prognosis of immune related adverse events. Sci Rep 14;11 (1):1324, 2021

○和文誌

1	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	<u>井口詔一</u> 、 <u>播本憲史</u> 、 <u>池上徹</u> 、 <u>副島雄二</u> 、 <u>吉住朋晴</u> 、 <u>前原喜彦</u> 、 <u>発熱を呈し手術適応に苦慮した出血性肝血管腫の1例</u> 、日本臨床外科学会雑誌 2017、第78巻 1055-1059ページ
---	-----------------	---

2	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	横田太郎、西中秀和、山元英崇、後腹膜パラガングリオーマの一例、臨牀と研究、97、117-121、2020、1月
3	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	林昌孝、膝頭十二指腸切除を行った腹腔動脈起始部狭窄を伴う門脈輪状瘻の1例、日本臨床外科学会雑誌、82、2068-2073、2021.11月
4	小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース	野田優子、古賀友紀、太田百絵、宮園真美、若杉陽子、船越幸江、浦部由紀、貴船美保、上田圭希、大場詩子、中島健太郎、宗崎良太、木下義昌、田口智章、大賀正一 小児がん患者の家族に対する抗がん剤曝露の実態調査 癌と化学療法 45 (6) 945-948 2018年6月
5	がん専門細胞検査士コース修士課程	下代清香、渡邊壽美子、加来恒壽、桑岡勲、杉島節夫、大屋正文、子宮頸部扁平上皮病変におけるHPV (Human papillomavirus) 感染と細胞像の関連性、J.Jpn.Soc.Clin.Cytol.2018;57 (5) : 251~258
6	がん専門細胞検査士コース修士課程	渡邊壽美子、加来恒壽、西村和徳、植村瑞紀、上原俊貴、杉島節夫、加藤聖子、小田義直、岩坂剛：子宮頸部腺系病変における細胞像の数量的解析—AGCに注目して—、日本臨床細胞学会九州連合会雑誌 52 : 11-17、2021
7	先端医用量子線技術科学コース	有村秀孝、二宮健太、山田真大、放射線治療分野におけるレディオミックスの展望、医療機器学、88 (4)、485-489、2018、8月
8	先端医用量子線技術科学コース	亀澤秀美、有村秀孝、スーフィーマーゼン、二宮健太、山田真大、放射線治療におけるAIを用いたレディオミックスの可能性、Rad Fun, 16 (12)、38-42、2018、11月
9	先端医用量子線技術科学コース	峰松優、藤淵俊王、有村秀孝、ソーシャルビッグデータを活用した放射線被ばくに対する不安意見の解析システムの開発、保健物理、55,1、2020年
10	先端医用量子線技術科学コース	山田真大、二宮健太、崔云昊、有村秀孝、レディオミックス特徴量に基づく機械学習を用いたNSCLCの組織学的サブタイプの分類、医用画像情報学会雑誌 Vol.37No. 3、2020.10.
11	がん研究薬剤師コース博士課程	松金良祐、濱田哲暢、薬効別にみた薬物動態と臨床でのポイント・分子標的抗がん薬、月刊薬事、Vol.59 No.14、276-285、2017、10月

○国際学会

1	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	Fujimoto Y, Yoshizumi T, Inokuchi S, Yugawa K, Kawasaki J, Shimokawa M, Sakata K, Motomura T, Mano Y, Toshima T, Itoh S, Harada N, Ikegami T, Soejima Y, Maehara Y, Living donor liver transplantation for patients with solid organ malignancy; a series of 10 cases in a single institution. Asian Transplantation week 2017 (seoul) 2017.10.18-10.22
2	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	Keiichi Ota, Tsuyoshi Ueno, Takayuki Nakanishi, Takako Nakano, Takafumi Yamashita, Michihiro Yoshimi, Fujita, Hiroshi Okabayashi, Yoshiaki Tao, Shohei Takata Evaluation of PD-L1 expression prevalence using IHC 22C3 pharmDx in NSCLC specimens with short-duration formalin fixation, ESMO 2019 (Barcelona) 2019.9.28
3	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	Ohmura H, Yamaguchi K, Hanamura F, Kenrou T, Kawagoe S, Arimizu K, Matsushita Y, Kajitani T, Tamura S, Shimokawa H, Uchino K, Oda H, Shinohara Y, Ito M, Tsuchihashi K, Isobe T, Ariyama H, Kusaba H, Akashi K, Baba E, Activation of memory/effector T cells and association between prognosis and OX40-positive T cells in advanced head and neck cancer patients treated with anti-programmed death-1 antibody., ASCO-SITC Clinical Immunology-Oncology Symposium (Orlando, FL, USA) 2020.02.06
4	希少がん・放射線治療学コース	Yushi M, Takaaki M, Kuniaki S, Atsushi F, Akihiro K, Hiroaki W, Kensuke K, Junichi T, Dai S, Shotaro K, Miwa N, Yusuke T, Hajime O, Yosuke K, Hidetoshi E, Katsumi S, Masakazu H, Hiroshi H, Koshi M, Clinical Significance of eIF5-mimic protein 1 expression in pancreatic cancer, AACR Annual Meeting 2019 (Atlanta) 2019.3.29-4.3
5	小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース	Nakashima K, Hasegawa D, Miyamura T, Hama A, Iwamoto S, Terui K, Tomizawa D, Adachi S, Taga T. Characteristics and outcome of children with acute myeloid leukemia and Down syndrome ineligible for clinical studies. The International Society of Pediatric Oncology (Washington DC) 2017.10.12-15
6	小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース	Utako Oba, Yuhki Koga, Riichiro Kawaguchi, Kentaro Nakashima, Yojiro Akagi, Nobuhiro Hata, Nanae Yamamoto, Kenichi Kohashi, Satoshi Masuda, Koji Iihara, Yoshinao Oda, Shouchi Ohga :NIVOLUMAB therapy for a pediatric-onset primary intracranial melanoma. The 19th International Symposium on Pediatric Neuro-Oncology 13-16, Dec,2020, Karuizawa
7	小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース	Yamamoto S, Shiraishi A, Eguchi K, Ishimura M, Motomura Y, Yada Y, Moriuchi H, Ohga S: Cytomegalovirus-associated Hemolytic Anemia In An Infant Born To A Mother with Lupus. The 12th JSH International Symposium 2021 in Kamakura May 14th – 15th, 2021

○国際学会（つづき）

8	先端医用量子線技術科学コース	<u>Shu Haseai</u> , Hidetaka Arimura, Misato Imai, Tamamasa Yoshitake, Yoshiyuki Shioyama, Hiroshi Honda, Saiji Ohga, Tomonari Sasaki, Computer-assisted treatment planning approach using similar cases for lung stereotactic body radiation therapy (Poster), 59th Annual Meeting of American Association of Physicists in Medicine (AAPM2017, Denver, USA), 2017.07.30-08.03
9	先端医用量子線技術科学コース	<u>Kenta Ninomiya</u> , Hidetaka Arimura, Motoki Sasahara, Saiji Ohga, Yoshiyuki Umezu, Hiroshi Honda, Tomonari Sasaki, Bayesian delineation framework of clinical target volumes for prostate cancer radiotherapy using an anatomical-features-based machine learning technique (Poster), SPIE medical imaging, (Houston, USA) 20180210-0215
10	先端医用量子線技術科学コース	Hirata Y, Fujibuchi T, Shielding effect of the crystalline lens by direction by radiological protection glasses, 5th Asian & Oceanic IRPA regional congress on radiation protection (Melborn) 2018. May 21
11	先端医用量子線技術科学コース	<u>Kawazoe Y</u> , Morishita J, Ikeda N, Okumura M, Shin S, Matsunobu Y, Improved image observation in postmortem head CT imaging with three-dimensional positioning adjustment, The 24th Congress of the International Academy of Legal Medicine (Fukuoka, Japan) 2018. June 5-8
12	先端医用量子線技術科学コース	<u>Kawazoe Y</u> , Morishita J, Ikeda N, Okumura M, Shin S, Matsunobu Y, Shimizu Y, Yoon Y, Three-dimensional adjustment in positioning for post-mortem head CT images, 2018 Korean Society of Radiological Science Conference (Suwon, Korea) 2018. June 9
13	先端医用量子線技術科学コース	<u>Sakata Y</u> , Morishita J, Yoon Y, <u>Kawazoe Y</u> , Shimizu Y, Evaluation of Ultrasound Strain Elastography: Comparison of Indices by Hue and NTSC Luminance, 2018 Korean Society of Radiological Science Conference (Suwon, Korea) 2018. June 9
14	先端医用量子線技術科学コース	<u>Kimoto S</u> , Hirose T, Hashimoto N, <u>Shoji A</u> , Tsutsui Y, Himuro K, Baba S, Sasaki M, The influence of time of flight (TOF) information on scatter fraction and the effect of scatter correction on 18F-PET images, 65th Annual Meeting, Society of Nuclear Medicine and Molecular Imaging (Philadelphia, USA) 2018. June 23-26 (24)
15	先端医用量子線技術科学コース	<u>Kimoto S</u> , Hashimoto N, <u>Shoji A</u> , Tsutsui Y, Himuro K, Baba S, Takahashi A, Sasaki M, The evaluation of the spatial resolution of 11C-, 18F- and 64Cu-PET images on a clinical PET/CT scanner using Monte Carlo Simulation and phantom examination, 65th Annual Meeting, Society of Nuclear Medicine and Molecular Imaging (Philadelphia, USA) 2018. June 23-26 (24)
16	先端医用量子線技術科学コース	<u>Shoji A</u> , Morita K, Takeshita T, Hashimoto N, <u>Kimoto S</u> , Tsutsui Y, Himuro K, Baba S, Sasaki M, A Gaussian filter influenced the evaluation of heterogeneity on PET images, 65th Annual Meeting, Society of Nuclear Medicine and Molecular Imaging (Philadelphia, USA), 2018. June 23-26 (24)
17	先端医用量子線技術科学コース	<u>Shimokawa N</u> , Akamatsu G, Kadosaki M, <u>Shoji A</u> , <u>Kimoto S</u> , <u>Takashima A</u> , Sasaki M, A comparison and examination of visual and quantitative evaluations in amyloid positron emission tomography, 65th Annual Meeting, Society of Nuclear Medicine and Molecular Imaging (Philadelphia, USA) 2018. June 23-26 (24)
18	先端医用量子線技術科学コース	<u>Shimokawa N</u> , Akamatsu G, Kadosaki M, <u>Shoji A</u> , <u>Kimoto S</u> , <u>Takashima A</u> , Sasaki M, The effect of different regions of interest on the quantitative evaluation in amyloid PET images, 65th Annual Meeting, Society of Nuclear Medicine and Molecular Imaging (Philadelphia, USA) 2018. June 23-26 (24)
19	先端医用量子線技術科学コース	<u>Funada K</u> , Takahashi A, Himuro K, Baba S, Sasaki M, Investigation of Collimator Broad Correction for Dopamine Transporter SPECT Imaging using Monte Carlo Simulation, 65th Annual Meeting, Society of Nuclear Medicine and Molecular Imaging (Philadelphia, USA) 2018. June 23-26 (24)
20	先端医用量子線技術科学コース	<u>Matsukawa H</u> , Sasaki T, Hirayama R, Hirose T, Fukunaga J, Assessment of the Anatomical Position of Point B and the Relationship Between Point B Dose and the Dose Delivered to Pelvic Lymph Nodes in CT-Based HDR Brachytherapy for Uterine Cervical Cancer, American Association of Physicists in Medicine (AAPM) 60th Annual Meeting (Nashville, USA) 2018. July 29-August 2
21	先端医用量子線技術科学コース	<u>Kasai Y</u> , Fukuyama Y, Terashima H, Sasaki T, Dose evaluation indices for total body irradiation using TomoDirect with different numbers of ports: a comparison with the TomoHelical method, 18th Asia-Oceania Congress of Medical Physics (Kuala Lumpur, Malaysia) 2018. November 11-14
22	先端医用量子線技術科学コース	<u>Ueki T</u> , Nohtomi A, Wakabayashi G, A Design Study of an Application of the CsI Self-activation Method to the Neutron Rem-counter Technique, 2018 IEEE NSS/MIC/RTSD (Sydney, Australia) 2018. November 10-17
23	先端医用量子線技術科学コース	<u>Nakano R</u> , Arimura H, Haekal M, Ohga S, Automated segmentation framework of lung gross tumor volumes on 3D planning CT images using dense V-Net deep learning, IWAIT-IFMIA2019 (Singapore) 2019. January 6-9

24	先端医用量子線技術科学コース	<u>Yamada M</u> , Arimura H, <u>Ninomiya K</u> , Soufi M, Automated classification of histological subtypes of NSCLC using support vector machines with radiomic features, IWAIT-IFMIA2019 (Singapore) 2019. January 6-9
25	先端医用量子線技術科学コース	<u>Zhuangfei M</u> , Arimura H, Kakeda S, Korogi Y, Automated approach for estimation of sizes of unruptured intracranial aneurysms in MRA images using localized principal component analysis, IWAIT-IFMIA2019 (Singapore) 2019. January 6-9
26	先端医用量子線技術科学コース	<u>Yamamoto T</u> , Fujibuchi T, Estimation for basic characteristics of wireless multi-sensor active personal dosimeter-tablet system, Simposium Kyudai dan UNDIP (Semarang) 2019. March 11
27	先端医用量子線技術科学コース	<u>Katsube S</u> , <u>Tsubaki Y</u> , Tsutsui Y, Baba S, Nohtomi A, Fujibuchi T, Sasaki M. Performance of 18F Cerenkov Luminescence Detection on General Optical Imaging Devices. 105th Scientific Assembly and Annual Meeting, Radiological Society of North America (RSNA) 2019. Chicago, USA. December 1-6, 2019.
28	先端医用量子線技術科学コース	<u>Makoto Ozaki</u> , Junji Morishita, Yoichiro Shimizu, Yusuke Kawazoe, Yayoi Sakata. Feasibility study of similar subtraction images using similar chest radiographs of different patients. 2019 Korean Society of Radiological Science Conference (KSRS) 2019年6月1日
29	先端医用量子線技術科学コース	<u>Yuya Yamashita</u> , Nobukazu Tanaka, Junji Morishita. Potential Usefulness of Scattered Radiation Removal Processing for Chest Radiography. 2019 Korean Society of Radiological Science Conference (KSRS) 2019年6月1日
30	先端医用量子線技術科学コース	<u>Kawachino T</u> , Fujibuchi T, Kaneko T, Okada Y, Fukunaga J, Komiya I, Examination of Setup Training Method of Radiotherapy using Virtual Reality and Mixed Reality, AAPM 2019 (San Antonio, USA) 2019.07.14-18
31	先端医用量子線技術科学コース	<u>Yamamoto T</u> , Fujibuchi T, Evaluation of Basic Performance of Real-Time Wireless Dosimetry System for Interventional Radiology, 5th International Symposium on the System of Radiological Protection, (Adelaide, Australia) 2019.11.17-21
32	先端医用量子線技術科学コース	<u>Kawachino T</u> , Fujibuchi T, Kaneko T, Okada Y, Fukunaga J, Komiya I, Improvement of Setup Training Method of Radiotherapy using Virtual Reality and Mixed Reality, Korean Society of Radiological Science (Soul, South Korea) 2019.5.20
33	先端医用量子線技術科学コース	<u>Hanada Y</u> , Nohtomi A, Ueki T, Kurihara R, A fundamental study of a development of neutron dosimeter using double self-activated CsI scintillators for neutron doses around clinical Linacs, IEEE NSS-MIC 2019 (Manchester, UK) 2019.10.26-11.02
34	先端医用量子線技術科学コース	<u>Kana Edamitsu</u> , Hideaki Matsukawa, Taka-aki Hirose, Jun-ichi Fukunaga, Tomonari Sasaki. Intra-fractional Dose Variation of Organs at Risk in High Dose Rate Image-guided Brachytherapy for Cervical Cancer RSNA2019 in Chicago 2019.12.1-5
35	先端医用量子線技術科学コース	<u>LE Cuong Quoc</u> , Hidetaka Arimura, Masahiro Yamada, Hidemi Kamezawa, Prediction of Five-year Survival Probabilities of Head-and-neck Cancer Patients Based on Radiomic Signatures Selected by Coxnet (Oral, Aug. 8), PIT-FMB & SEACOMP2019 (Bali, 8-10, Aug. 2019), 2019.08
36	先端医用量子線技術科学コース	<u>Truong Gia Huy</u> , Hidetaka Arimura, Kentaro Tanaka, Kenta Ninomiya, Prediction of Tumor Growth Trajectories During Molecularly Targeted Therapy Based on Mathematical Models (E-Poster), 20th Asia-Oceania Congress on Medical Physics (AOCMP), 18th South-East Asian Congress of Medical Physics (SEACOMP), (WEB conference), 2020.12
37	先端医用量子線技術科学コース	<u>Akimasa Urakami</u> , Hidetaka Arimura, Fumio Kinoshita, Kenta Ninomiya, Sumiko Watanabe, Kenjiro Imada, Yoshinao Oda, Automatic stratification of prostate cancer patients into low- and high-grade groups based on multiparametric MR image feature analysis (E-Poster), 20th Asia-Oceania Congress on Medical Physics (AOCMP), 18th South-East Asian Congress of Medical Physics (SEACOMP), (WEB conference), 2020.12.
38	先端医用量子線技術科学コース	<u>Quoc Cuong-Le</u> , Hidetaka Arimura, Kenta Ninomiya, Hidemi Kamezawa, Radiomics-based analysis for prediction of five-year overall survivals in head-and-neck cancer patients (Sep. 25), The 10th International Seminar on New Paradigm and Innovation on Natural Science and Its Application (ISNPINSA-10), (WEB conference), 2020.09.
39	先端医用量子線技術科学コース	<u>Kazutoshi Moriyama</u> , Hidetaka Arimura, Kazuma Kobayashi, <u>Quoc Cuong-Le</u> , Kenta Ninomiya, <u>Akimasa Urakami</u> , Hiroyuki Okamoto, Hiroshi Igaki, Identification of primary cancer sites of brain metastases based on brain MR image feature analysis (Sep. 25), The 10th International Seminar on New Paradigm and Innovation on Natural Science and Its Application (ISNPINSA-10), (WEB conference), 2020.09.

○国際学会（つづき）

40	先端医用量子線技術科学コース	<u>Keiki Inoue</u> , <u>Hideaki Matsukawa</u> , <u>Kana Edamitsu</u> , <u>Kazuki Matsumoto</u> , <u>Yuichiro Takayama</u> , <u>Taka-aki Hirose</u> , <u>Jun-ichi Fukunaga</u> , <u>Yoshiyuki Shioyama</u> , <u>Tomonari Sasaki</u> , Comparison of dose distribution by the difference of the dose calculation algorithm for the same treatment plan, 2020 Joint AAPM/COMP Virtual Meeting
41	先端医用量子線技術科学コース	<u>Yuichiro Takayama</u> , <u>Kana Edamitsu</u> , <u>Hideaki Matsukawa</u> , <u>Taka-aki Hirose</u> , <u>Jun-ichi Fukunaga</u> , <u>Yoshiyuki Shioyama</u> , <u>Tomonari Sasaki</u> . Intra-fractional Dose Variation of HR-CTV and Applicator shift in image-guided Brachytherapy for. cervical cancer, 2020 Joint AAPM/COMP Virtual Meeting
42	先端医用量子線技術科学コース	<u>Kanzaki Y</u> , <u>Nohtomi A</u> , <u>Fukunaga J</u> , <u>Shioyama Y</u> : An observation of luminescence imaging of water during irradiation by 10MV clinical linac using a CCD camera, 2020 IEEE Nuclear Science Symposium and Medical Imaging Conference 27th International Symposium on Room Dosimetry and Reactor Applications Dosimetry and Reactor Applications (Boston) 31 October – 7 November 2020
43	先端医用量子線技術科学コース	<u>Kazuki Nishi</u> , <u>Toshioh Fujibuchi</u> , <u>Takashi Yoshinaga</u> , Development of scattered radiation distribution visualization system using Augmented Reality in web browser, The 10th International Seminar on New Paradigm and Innovation on Natural Science and Its Application (Indonesia (web)) 2020.9.24
44	先端医用量子線技術科学コース	<u>H Yoshitani</u> , <u>T Fujibuchi</u> , <u>C Anam</u> , Basic study on evaluation of X-ray dose distribution using plastic scintillator plate and digital CMOS camera, The 10th International Seminar on New Paradigm and Innovation on Natural Science and Its Application (Indonesia (web)) 2020.9.24
45	先端医用量子線技術科学コース	<u>Kazuki Nishi</u> , <u>Toshioh Fujibuchi</u> , Development of application to visualize the spread of scattered radiation using Augmented Reality, the 15th International Congress of the International Radiation Protection Association (IRPA) January 18-22, 2021 in Seoul, Korea. (web)
46	先端医用量子線技術科学コース	<u>Hiroshi Yoshitani</u> , <u>Toshioh Fujibuchi</u> , Performance evaluation of gamma-ray real-time imaging system with digital camera, the 15th International Congress of the International Radiation Protection Association (IRPA) January 18-22, 2021 in Seoul, Korea. (web)
47	先端医用量子線技術科学コース	<u>Hiroki Fujiwara</u> , <u>Hidetake Yabuuchi</u> , <u>Yasuo Yamasita</u> , <u>Tatsuhiko Wada</u> , <u>Koji Kobayashi</u> , <u>Toko Hoshuyama</u> . High-resolution Magnetic Resonance Imaging of Intraparotid Facial Nerve Using Compressed SENSE. European Congress of Radiology (ECR) 2020 July 15-19, 2020, Online
48	先端医用量子線技術科学コース	<u>Toko Hoshuyama</u> , <u>Hidetake Yabuuchi</u> , <u>Hiroshi Narita</u> , <u>Eiichi Ikebe</u> , <u>Hiroki Fujiwara</u> . Utility of Ultrashort Echo Time (UTE) Imaging in diagnosis of Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament (OPLL): A Phantom Study. European Congress of Radiology (ECR) 2020 July 15-19, 2020, Online
49	先端医用量子線技術科学コース	<u>Makoto Ozaki</u> , <u>Junji Morishita</u> , <u>Yoichiro Shimizu</u> , <u>Sasaki Yasuo</u> , <u>Yuya Yamashita</u> , <u>Yongsu Yoon</u> , <u>Hidetake Yabuuchi</u> . Usefulness of novel temporal subtraction technique with small region of interest for finding suspicious lung nodule on digital chest radiographs. AAPM. July 12 - 16, 2020, online meeting.
50	先端医用量子線技術科学コース	<u>Tsubaki Y</u> , <u>Akamatsu G</u> , <u>Shimokawa N</u> , <u>Takashima A</u> , <u>Katsube S</u> , <u>Sato H</u> , <u>Kumamoto K</u> , <u>Sasaki M</u> : "Examination of the relationship between PiB-PET and FDG-PET in Alzheimer's disease using random forest and two-sample t-test." (Poster). 67th Annual Meeting, Society of Nuclear Medicine and Molecular Imaging, Online, 2020.7.11-14.
51	先端医用量子線技術科学コース	<u>Katsube S</u> , <u>Akamatsu G</u> , <u>Tsubaki Y</u> , <u>Shimokawa N</u> , <u>Takashima A</u> , <u>Sato H</u> , <u>Kumamoto K</u> , <u>Sasaki M</u> : "Combination Analysis of Pittsburgh Compound - B Positron Emission Tomography and 18F-Fluorodeoxyglucose Positron Emission Tomography for Alzheimer's Disease with the t Test." (Oral). 67th Annual Meeting, Society of Nuclear Medicine and Molecular Imaging, Online, 2020.7.11-14.
52	先端医用量子線技術科学コース	<u>Kumamoto K</u> , <u>Katsube S</u> , <u>Tsubaki Y</u> , <u>Sato H</u> , <u>Tsutsui Y</u> , <u>Himuro K</u> , <u>Baba S</u> , <u>Sasaki M</u> : "Comparison of continuous bed motion and step-and-shoot method in SiPM PET/CT." (Oral). 67th Annual Meeting, Society of Nuclear Medicine and Molecular Imaging, Online, 2020.7.11-14.
53	先端医用量子線技術科学コース	<u>Sato H</u> , <u>Katsube S</u> , <u>Tsubaki Y</u> , <u>Kumamoto K</u> , <u>Tsutsui Y</u> , <u>Himuro K</u> , <u>Baba S</u> , <u>Sasaki M</u> : "Improved time of flight timing resolution provides high quality PET images." (Oral). 67th Annual Meeting, Society of Nuclear Medicine and Molecular Imaging, Online, 2020.7.11-14.
54	先端医用量子線技術科学コース	<u>Mai Egashira</u> , <u>Hidetaka Arimura</u> , <u>Truong Huy</u> , <u>Shirakawa Yuko</u> , <u>Kenta Ninomiya</u> , <u>Yoshiyuki Shioyama</u> , <u>Tadamasa Yoshitake</u> , Prediction of Therapeutic Outcomes of Patients with Non-Small Cell Lung Cancer for Stereotactic Ablative Radiotherapy Based On a Differential Model (Poster, July 26), 2021 AAPM Virtual Meeting

55	先端医用量子線技術科学コース	<u>Akimasa Urakami</u> , Hidetaka Arimura, Yukihisa Takayama, Fumio Kinoshita, Kenta Ninomiya, Kenjiro Imada, Sumiko Watanabe, Akihiro Nishie, Yoshinao Oda, Kousei Ishigami, Automatic Stratification of Prostate Cancer Patients Into Low- and High-Grade Groups Using a Support Vector Machine Model with Multiparametric Magnetic Resonance Image Features (Poster, July 29), 2021 AAPM Virtual Meeting
56	先端医用量子線技術科学コース	<u>Takumi Kodama</u> , Hidetaka Arimura, Radiomics analysis for prognostic prediction for time to progression in non-small cell lung cancer patients treated with stereotactic ablative radiotherapy (Sep.13), Symposium on Intelligent Data Science for Radiological Imaging between University of Malaya and Kyushu University, Virtual Meeting
57	先端医用量子線技術科学コース	<u>Kumamoto K</u> , <u>Katsube S</u> , <u>Tsubaki Y</u> , <u>Sato S</u> , Tsutsui Y, Himuro K, Baba S, Sasaki M. The possibility of the continuous bed motion method replacing the traditional step-and-shoot method by using a SiPM-PET/CT scanner. The 68th Annual Meeting, Society of Nuclear Medicine and Molecular Imaging. 2021, June 11-15.
58	先端医用量子線技術科学コース	<u>Sato S</u> , <u>Katsube S</u> , <u>Tsubaki Y</u> , <u>Kumamoto K</u> , Tsutsui Y, Himuro K, Baba S, Sasaki M. Impacts of improved TOF timing resolutions on cold contrast of PET images. The 68th Annual Meeting, Society of Nuclear Medicine and Molecular Imaging. 2021, June 11-15.
59	先端医用量子線技術科学コース	<u>Suetsugu Y</u> , Higashi N, Fukuyama Y, Inoue K, Matsumoto K, Terashima H, Sasaki T. Field junction technique for total body irradiation using tomotherapy with TomoDirect mode. 2021 AAPM Virtual Meeting
60	先端医用量子線技術科学コース	<u>Haruya Shinagawa</u> , J Morishita, M Okumura, N Ikeda, Personal identification using local features from scout images of postmortem computed tomography: a pilot study, Korean Society of Radiation Science (KSRS) 2021, 2021.05.
61	先端医用量子線技術科学コース	<u>Yeji KIM</u> , Y YOON, J MORISHITA, An automated extraction method of chest X-ray radiography-like two-dimensional image from the scout-view image of postmortem computed tomography for personal identification, Korean Society of Radiation Science (KSRS) 2021, 2021.05.
62	がん研究薬剤師コース博士課程	<u>Matsukane R</u> , Hayashi M, Takahashi M, Aikawa H, Ouchi M, Okada H, Masuda S, Hamada A, Intra tumor analysis of trastuzumab distribution by PID staining, breakthrough method with high visibility and single cell quantification, American Society for Clinical Pharmacology and Therapeutics (Florida) 2018.3.21-3.24.
63	がん研究薬剤師コース博士課程	<u>Matsukane R</u> , Hayashi M, Takahashi M, Ouchi M, Aikawa H, Okada H, Masuda S, Hamada A, Novel high-sensitive drug detecting, PID method reveals intra-tumor pharmacokinetics of trastuzumab and factors affect to its remarkable heterogeneity, 18th World Congress of Basic and Clinical Pharmacology (Kyoto), 2018.7.1-7.6.
64	がん研究薬剤師コース博士課程	<u>Yasukochi S</u> , Kusunose N, Itoyama S, Matsunaga N, Koyanagi S, Ohdo S., Circadian clock-based strategy for exploration of approved drug to alleviate neuropathic pain hypersensitivity, The 48th Naito Conference (Sapporo), 2019.10.8-10.11.
65	がん研究薬剤師コース博士課程	<u>Matsukane R</u> , Katsube Y, Tajima S, Watanabe H, Egashira N, Masuda S, Role of MATE1 in the platinum-based chemotherapy against endometrial cancer, BioMedical Transporters (Lucerne), 2019.8.4-8.8.

○国内学会

1	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	大村洋文、当科で経験した悪性パラガングリオーマの3例に対する全身化学療法、第15回日本臨床腫瘍学会学術集会（神戸）2017年7月28日
2	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	吉弘知恭、二尾健太、土橋賢司、在田修二、安松隆治、孝橋賢一、有山寛、草場仁志、赤司浩一、馬場英司 パゾパニブが奏効した胞巣状軟部肉腫の1例 第15回 日本臨床腫瘍学会学術集会（神戸）2017年7月27日
3	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	原田郁咲、吉弘知恭、二尾健太、土橋賢司、在田修二、有山寛、草場仁志、赤司浩一、馬場英司 骨髄癌腫症を呈した原発不明癌の1例 第318回日本内科学会九州地方会（鹿児島）2017年8月5日
4	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	下川穂積、大村洋文、川越志穂、梶谷竜裕、内野慶太 マルチキナーゼ阻害薬使用中のフレア現象に関する後ろ向き研究 第15回日本臨床腫瘍学会学術集会、神戸、2017年7月
5	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	梶谷竜裕、大村洋文、川越志穂、熊谷穂積、内野慶太 当院における進行性腎細胞癌に対する1次・2次 VEGFR-TKI sequential 投与の現状 第15回日本臨床腫瘍学会学術集会、神戸、2017年7月
6	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	川越志穂、内野慶太、大村洋文、梶谷竜裕、下川穂積、楠本哲也、池尻公二 切除不能進行・再発大腸癌における1次治療のRECIST 縮小率の解析 第15回日本臨床腫瘍学会学術集会、神戸、2017年7月

○国内学会（つづき）

7	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	高森信吉、豊川剛二、高田和樹、木下郁彦、松原太一、上妻由佳、原武直紀、赤嶺貴紀、桂正和、迎伸孝、庄司文裕、岡本勇、岡本龍郎、小田義直、岩城徹、飯原弘二、中西洋一、前原喜彦、非小細胞肺癌における脳転移巣のPD-L1発現と臨床病理学的因子・予後の関係、第58回日本肺癌学会学術集会（横浜）（2017年10月14-15日ポスター）
8	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	吉屋圭史、松田大介、山下勝、吉賀亮輔、松原裕、井上健太郎、古山正、松本拓也、前原喜彦、下肢動脈血管内治療用バルーンカテーテルの張力耐久性と安全性に関する応用力学的検証、第58回日本脈管学会総会（名古屋）2017年10月19-21日、ポスター
9	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	山下勝、黒瀬俊、井上健太郎、中山謙、吉賀亮輔、吉屋圭史、森崎浩一、古山正、前原喜彦、脾移植後仮性動脈瘤および腸骨動脈腸管瘻に対し多期的手術により救命した例、第110回日本血管外科学会九州地方会（宮崎）2017年8月26日、口演
10	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	山下勝、松本拓也、中山謙、吉賀亮輔、吉屋圭史、井上健太郎、森崎浩一、古山正、田中理子、米満吉和、前原喜彦、重症虚血肢に対する血管新生遺伝子治療が患者のQOLに及ぼす影響、第58回日本脈管学会総会（名古屋）2017年10月19-21日、ポスター
11	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	山下勝、中山謙、吉屋圭史、吉賀亮輔、森崎浩一、古山正、前原喜彦、破裂性腹部大動脈瘤における腸管虚血、急性期医療フォーラム（福岡）2018年3月2日、一般演題
12	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	中山謙、山下勝、吉賀亮輔、吉屋圭史、井上健太郎、森崎浩一、松本拓也、村上厚文、前原喜彦、vessel infection の診断におけるプレセプシンの有用性、第58回日本脈管学会総会（名古屋）2017年10月19-21日、ポスター
13	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	川崎淳司、吉住朋晴、泉琢磨、井口詔一、湯川恭平、藤本侑希子、下川雅弘、坂田一仁、冨野高広、大平将史、間野洋平、本村貴志、戸島剛男、伊藤心二、原田昇、播本憲史、池上徹、副島雄二、前原喜彦、類洞様血管構造をもつ肝細胞癌と生体肝移植後肝癌再発に関する研究、第22回日本外科病理学会学術集会（栃木）2017年11月10日～11日、口演
14	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	川崎淳司、吉住朋晴、泉琢磨、井口詔一、湯川恭平、藤本侑希子、下川雅弘、坂田一仁、冨野高広、大平将史、間野洋平、本村貴志、戸島剛男、伊藤心二、原田昇、播本憲史、池上徹、副島雄二、前原喜彦、類洞様血管構造をもつ肝細胞癌と生体肝移植後肝癌再発に関する研究、第28回日本消化器癌発生学会総会（熊本）2017年11/17-18、ポスター
15	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	湯川恭平、吉住朋晴、藤本侑希子、井口詔一、川崎淳司、坂田一仁、下川雅弘、大平将史、間野洋平、本村貴志、戸島剛男、伊藤心二、原田昇、池上徹、副島雄二、相島慎一、前原喜彦、肉腫様間質を伴う肝内胆管癌（癌肉腫）の1切除例、第28回日本消化器癌発生学会（熊本）平成29年11月18日、ポスター
16	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	堤央乃、井上博之、高野智嗣、中垣憲明、金城満、古森雅志、中西洋一、EGFR 遺伝子変異陽性肺腺癌に対するEGFR-TKI治療中にB細胞リンパ腫の白血化を来した1例、第16回日本臨床腫瘍学会学術集会（神戸）、2018年7月19日～21日
17	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	堤央乃、原田英治、鈴木邦裕、濱田直樹、布村拓也、吉本五一、松元幸一郎、中西洋一、肺胞出血を契機に診断に至った特発性血小板減少性紫斑病の1例、第323回日本内科学会九州地方会（鹿児島）、2018年11月18日
18	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	蓮田博文：同・異時性の四重複癌の一症例 2018年7月21日 第255回 外科集談会
19	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	有水耕平、当院における腎癌、胃癌、頭頸部癌に対するNivolumabの使用経験、第16回日本臨床腫瘍学会（神戸）2018年7月20日
20	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	川副徹郎、佐伯浩司、中島雄一郎、沖英次、小田義直、谷口浩二、食道扁平上皮癌における炎症シグナル伝達経路阻害による治療の基礎的検討、第119回日本外科学会（大阪）2019年4月20日
21	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	川副徹郎、中島雄一郎、安藤幸滋、木村和恵、沖英次、小田義直、森正樹、谷口浩二、炎症関連シグナル伝達経路を標的とした食道扁平上皮癌の新規治療法の開発、第57回日本癌治療学会学術集会（福岡）、2019年10月26日
22	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	松岡弘也、大腸癌におけるCTDSP1のイリノテカン耐性メカニズムへの関与、第119回日本外科学会（大阪）、2019年4月19日
23	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	松岡弘也、CTDSP1 determines irinotecan sensitivity and its inhibitor rabeprazole suppresses irinotecan effect in colorectal cancer, 第74回日本消化器外科学会（東京）、2019年7月18日
24	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	松岡弘也、CTDSP1 determines irinotecan sensitivity and its inhibitor rabeprazole suppresses irinotecan effect in colorectal cancer, 第57回日本癌治療学会（福岡）、2019年10月26日

25	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	中村聡、古森雅志、中垣憲明、高野智嗣、衛藤大祐、井手真亜子、上野剛史、金城満、下釜達朗、柴田大樹、急速な経過で死亡に至った Blastomatoid pulmonary carcinosarcoma の一例、第83回日本呼吸器学会・日本結核病学会 日本サルコイドーシス / 肉芽腫性疾患学会 2019年9月6日
26	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	中西喬之、気管支内視鏡下生検後に肺化膿症を来した一例、第83回日本呼吸器学会九州地方会（北九州）2019年9月6日
27	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	井口詔一、生体肝移植ドナーに対する術前 ARFI によるグラフト機能予測に関する検討、第119回日本外科学会定期学術集会（大阪）2019年4月18日～20日
28	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	井口詔一、肝癌増殖におけるオートファジーアダプター蛋白 optineurin の意義、第55回日本肝癌研究会（東京）2019年7月4日-5日
29	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	井口詔一、DNA repair enzyme OGG1 improves prognosis of pancreatic ductal adenocarcinoma、第57回癌治療学会学術集会（福岡）2019年10月24日-26日
30	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	井口詔一、肝移植レシピエントにおける調節性 B 細胞発現の検討、第55回日本移植学会総会（広島）2019年10月10日-12日
31	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	第120回日本外科学会 Multispectral Imaging Device を用いた腹腔鏡下前方切除における吻合位置の検討 サージカルフォーラム 栗山直剛、安藤幸滋、胡慶江、財津瑛子、津田康雄、久松雄一、中島雄一郎、木村和恵、沖英次、森正樹 2020年8月13日 横浜
32	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	第75回消化器外科学会 new colorectal anastomosis to prevent anastomotic leakage in anterior resection for rectal cancer 一般演題 栗山直剛、安藤幸滋、胡慶江、財津瑛子、津田康雄、久松雄一、中島雄一郎、木村和恵、沖英次、森正樹 2020年12月15日 和歌山
33	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	第74回手術手技研究会 腹腔鏡下前方切除術における吻合法からみた合併症の検討 一般演題 栗山直剛、安藤幸滋、胡慶江、財津瑛子、津田康雄、久松雄一、中島雄一郎、木村和恵、沖英次、森正樹 2020年10月9日 松江
34	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	第45回外科系連合学会 腹腔鏡下前方切除術における術中 ICG 蛍光法を用いた血流評価の有用性 一般演題 栗山直剛 安藤幸滋 蓮田博文 胡慶江 財津瑛子 津田康雄 久松雄一 中島雄一郎 木村和恵 沖英次 森正樹 2020年12月22日 久留米
35	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	第257回福岡外科集談会 ロボット支援下手術で治療し得た閉塞性直腸子宮内膜症の1例 一般演題 栗山直剛、安藤幸滋、宮下優、藤本禎明、城後友望子、銚之原健太郎、胡慶江、中西良太、久松雄一、木村和恵、沖英次、森正樹 2020年8月1日誌上開催 福岡
36	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	大村洋文、山口享子、花村文康、伊東守、牧山明資、内野慶太、下川穂積、江崎泰斗、三ツ木健二、柴田義宏、小田尚伸、土橋賢司、有山寛、草場仁志、赤司浩一、馬場英司、抗 PD-1療法を受けた進行胃癌症例における CD28null CD4+T 細胞と予後の関係、第92回日本胃癌学会総会（横浜）2020年7月1日-31日
37	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	Ohmura H, Yamaguchi K, Hanamura F, Kenrou T, Kawagoe S, Arimizu K, Matsushita Y, Kajitani T, Tamura S, Shimokawa H, Uchino K, Oda H, Shinohara Y, Ito M, Tsuchihashi K, Isobe T, Ariyama H, Kusaba H, Akashi K, Baba E, Comprehensive analysis of immune cell subsets in advanced head and neck cancer patients treated with anti PD 1 antibody, 第79回日本癌学会学術総会（広島）2020年10月1日-31日
38	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	蓮田博文 切除不能進行再発胃癌へのニボルマブの使用経験 第120回日本外科学会定期学術集会（横浜）2020年8月13日-15日
39	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	蓮田博文 大規模遺伝子データ解析に基づいた食道扁平上皮癌のがん遺伝子候補の同定 第74回日本食道学会学術集会（徳島）2020年12月10日-11日
40	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	蓮田博文 術前に超音波穿刺吸引細胞診で診断された胃グロムス腫瘍の一切除例 第45回日本外科系連合学会学術集会（久留米）2020年12月22日-24日
41	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	堤央乃、進行肺癌治療経過中における血漿中傷害関連分子パターン（DAMPs）推移の検討、第24回日本がん分子標的治療学会学術集会（徳島）2020年10月6-8日
42	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	YukiAndo, Whole exome sequencing analysis of Japanese breast cancer、第79回日本癌学会学術総会（広島）2020年10月
43	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	安東由貴、microRNA array を用いた乳癌再発予測の新規血中バイオマーカーの同定～pre-microRNA に着目して～、第28回日本乳癌学会学術総会（名古屋）2020年10月
44	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	鮎津治彦、涙嚢部原発の lipofibromatosis の1例、九州眼科学会、2020/05/30

○国内学会（つづき）

45	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	酒井陽玄、食道扁平上皮癌先進部における Desmoplastic Reaction の意義、第120回日本外科学会総会（横浜）2020年8月13-15日
46	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	酒井陽玄、Prognostic significance of Desmoplastic Reaction categorization in esophageal squamous cell carcinoma, 第75回日本消化器外科学会総会（和歌山）2020年12月15-17日
47	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	田口綾祐、DNMT3B contributes to the organoid-formation ability of colorectal-cancer cells derived from patients. 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会2022年2月17日（木）～19日（土）京都
48	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	蓮田博文、生活習慣が原因とされる食道扁平上皮癌患者の腸内細菌叢と治療による菌叢の変動の検討、第121回日本外科学会学術集会（横浜）、2021年4月8日
49	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	蓮田博文、当科での使用経験から見た胃癌に対するニボルマブの臨床意義、第76回日本消化器外科学会総会（京都）2021年7月7日
50	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	上野翔平、FOLFOX+Trastuzumab therapy for HER2-positive gastric cancer with bone marrow carcinomatosis, 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会（京都）2022年2月17日-19日
51	希少がん・放射線治療学コース	本村有史、食道扁平上皮癌における、がん幹細胞を標的としたスルファサラジン併用放射線治療の検討、癌と遺伝子・大分外科フォーラム（大分）2019年7月1日
52	希少がん・放射線治療学コース	本村有史、がん幹細胞を標的とした、食道扁平上皮癌に対するスルファサラジン併用の新規放射線治療法の開発、第23回日本がん分子標的治療学会学術集会（大阪）2019年6月12-14日
53	希少がん・放射線治療学コース	Yushi Motomura, Takaaki Masuda, Kuniaki Sato, Atsushi Fujii, Akihiro Kitagawa, Miwa Noda, Seiichiro Takao, Hajime Otsu, Hiroki Uchida, Katsumi Sakamoto, Masakazu Hirakawa, Koshi Mimori, Clinical Significance of eIF5-mimic protein 1 expression in pancreatic cancer, 第78回日本癌学会学術総会（京都）2019年9月26-28日
54	小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース	中島健太郎、長谷川大輔、宮村能子、濱麻人、岩本彰太郎、照井君典、富澤大輔、足立壯一、多賀崇 ダウン症候群に発症した急性骨髄性白血病の臨床研究非登録例についての後方視的観察研究 第59回日本小児血液・がん学会学術集会（愛媛）2017年11月10日
55	小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース	渋谷勇一、武本淳吉、久田正昭、宗崎良太、木下義晶、石井加奈子、都研一、孝橋賢一、大賀正一、田口智章、小田義直、小児精巣 Leydig cell tumor の1例、第59回日本小児血液・がん学会、平成29年11月9日～11日、愛媛
56	小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース	宗崎良太、木下義晶、川久保尚徳、高橋良彰、吉丸耕一郎、松浦俊治、渋谷勇一、武本淳吉、孝橋賢一、小田義直、田口智章、肝芽腫肺転移巣・原発巣切除に対する ICG ナビゲーション、PSJM2017（第37回日本小児内視鏡外科・手術手技研究会）平成29年10月26日～27日、神奈川
57	小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース	木下義晶、古賀友紀、宗崎良太、川久保尚徳、石井生、大場詩子、高田英俊、渋谷勇一、武本淳吉、孝橋賢一、小田義直、大賀正一、田口智章 1990年～2017年に治療を行った横紋筋肉腫50例の治療成績：単一施設からの発表 A review of 50 cases of rhabdomyosarcoma treated between 1990-2017: a report from the single institution, 第59回日本小児血液・がん学会 平成29年11月9日～11日、愛媛
58	小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース	武本淳吉、孝橋賢一、渋谷勇一、宗崎良太、木下義晶、古賀友紀、大賀正一、田口智章、小田義直 腎明細胞肉腫における BCOR 遺伝子内縦列重複 第59回日本小児血液・がん学会 平成29年11月9日～11日、愛媛
59	小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース	宗崎良太、木下義晶、川久保尚徳、小幡聡、渋谷勇一、武本淳吉、孝橋賢一、小田義直、田口智章 腹腔鏡下に全摘しえた嚢胞性神経芽腫の3例 第30回日本内視鏡外科学会 平成29年12月7日～9日、京都
60	小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース	大場詩子、古賀友紀、川口理一郎、中島健太郎、大賀正一、赤木洋二郎、秦暢宏、吉本幸司、飯原弘二、孝橋賢一、小田義直 中枢神経原発悪性黒色腫に対して Nivolumab を使用した小児例 第500回日本小児科学会福岡地方会例会（福岡）2018年6月9日
61	小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース	大場詩子 小児がん診療の実際～臨床現場で感じること～ 小児がんのこどもの教育を考える講演会（福岡）2018年8月18日
62	小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース	大場詩子1)、古賀友紀1)、本田裕子2)、小野宏彰1)、中島健太郎1)、楠原浩一2)、大賀正一1) 1)九州大学小児科 2)産業医科大学小児科 急性赤白血病の小児5症例 小児造血幹細胞移植セミナー九州2018 福岡 2018年9月9日
63	小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース	Utako Oba1), Yuhki Koga1), Ichita Hasegawa1), Tamaki Ueda1), Kentaro Nakashima1), Tomomi Ide2), Hiroyuki Tsutsui2), Shouichi Ohga1). Adult-onset AML in Down syndrome: a case with RUNX1-RUNX1T1 t (8;21)(q22;q22) and a literature review. 第80回日本血液学会学術集会（大阪）2018年10月12-14日

64	小児がん・希少がん 臨床腫瘍学コース	Utako Oba ¹), Yuhki Koga ¹), Riichiro Kawaguchi ¹), Kentaro Nakashima ¹), Masataka Ishimura ¹), Yojiro Akagi ²), Nobuhiro Hata ²), Koji Yoshimoto ²), Kenichi Kohashi ³), Koji Iihara ²), Yoshinao Oda ³), Shouichi Ohga ¹) 中枢神経原発悪性黒色腫に対して Nivolumab を使用した小児例 第60回日本小児血液・がん学会学術集会(京都) 2018年11月14-16日
65	小児がん・希少がん 臨床腫瘍学コース	渋谷勇一、治療終了後16年後に再発をきたしたマススクリーニング発見神経芽腫の1例、第56回日本小児外科学会学術集会(福岡) 2019年5月25日
66	小児がん・希少がん 臨床腫瘍学コース	渋谷勇一、Medical support of pediatric cancers in Cambodia, 第61回日本小児血液・がん学会学術集会(広島) 2019年11月14-16日
67	小児がん・希少がん 臨床腫瘍学コース	山本俊亮、後藤洋徳、加藤稚子、小野宏彰、大場詩子、賀来典之、秦暢宏、溝口昌弘、古賀友紀、大賀正一：頭蓋内出欠を契機に診断された急性白血病の4例。第63回日本小児血液・がん学会学術集会 2021.11.25-27 (web)
68	小児がん・希少がん 臨床腫瘍学コース	横山智美、坂田優、山本俊亮、浅井完、後藤洋徳、加藤稚子、小野宏彰、大場詩子、中島健太郎、古賀友紀、大賀正一：再発・難治急性リンパ性白血病に対する新たな治療戦略～当院における CAR-T 療法の経験～第 512 回日本小児科学会福岡地方会例会 2021.4.10 福岡
69	がん専門細胞検査士 コース修士課程	臼井美奈、乳腺細胞診におけるセンチネルリンパ節への転移の有無と細胞像の比較検討。第56回日本臨床細胞学会秋季大会(福岡) 平成29年11月18日
70	がん専門細胞検査士 コース修士課程	近藤守、培養日数と二核細胞の変化に関する検討。第56回日本臨床細胞学会秋季大会(福岡) 平成29年11月18日
71	がん専門細胞検査士 コース修士課程	森山拓人、BCG failure 症例の自然尿細胞診に出現する異型細胞の形態学的検討。第56回日本臨床細胞学会秋季大会(福岡) 平成29年11月18日
72	がん専門細胞検査士 コース修士課程	前田裕亮、BCG 曝露における T24細胞の p21発現への p27の影響—タンパク質発現の判定の客観化—。第56回日本臨床細胞学会秋季大会(福岡) 平成29年11月18日
73	がん専門細胞検査士 コース修士課程	前田裕亮、渡邊壽美子、藤井直人、加来恒壽、岩坂剛、杉島節夫：BCG 曝露による T24細胞の p21・p27発現における客観的検討。第59回日本臨床細胞学会総会春期大会(札幌) 2018年6月3日
74	がん専門細胞検査士 コース修士課程	近藤守、渡邊壽美子、西村和徳、加来恒壽、岩坂剛、杉島節夫：栄養状態と二核細胞の細胞周期に関する検討。第59回日本臨床細胞学会総会春期大会(札幌) 2018年6月3日
75	がん専門細胞検査士 コース修士課程	森山拓人、渡邊壽美子、軍馬麻紀、鷺山和幸、加来恒壽、杉島節夫：BCG failure 症例の自然尿細胞診に出現する異型細胞の形態学的検討。第59回日本臨床細胞学会総会春期大会(札幌) 2018年6月3日
76	がん専門細胞検査士 コース修士課程	渡邊壽美子、平井絵梨花、藤井直人、江口奈津希、山口将太、杉島節夫、加来恒壽、岩坂剛：細胞周期関連タンパク質発現からみた BCG 膀胱内注入療法の効果判定。第57回日本臨床細胞学会秋期大会(横浜) ワークショップ 2018年11月18日
77	がん専門細胞検査士 コース修士課程	中司成：BCG 曝露 T24細胞における pRB と p21発現の関連性。第57回日本臨床細胞学会秋期大会(横浜) 2018年11月18日
78	がん専門細胞検査士 コース修士課程	中司成、渡辺寿美子、上原俊貴、加来恒壽、岩坂剛、BCG 曝露 T24細胞における pRb と p21発現の関連性 II。第60回日本臨床細胞学会総会 春期大会(東京) 2019年6月8日
79	がん専門細胞検査士 コース修士課程	上原俊貴、渡辺寿美子、前田裕亮、加来恒壽、岩坂剛、蛍光染色を用いたタンパク質発現判定法の検討—シングルセル解析—。第60回日本臨床細胞学会総会 春期大会(東京) 2019年6月8日
80	がん専門細胞検査士 コース修士課程	渡辺寿美子、中司成、上原俊貴、遠峰由希恵、加藤聖子、小田義直、加来恒壽、岩坂剛、腺癌細胞の核内所見と細胞周期の関連性：培養細胞を使用してワークショップ10。第60回日本臨床細胞学会総会 春期大会(東京) 2019年6月9日
81	がん専門細胞検査士 コース修士課程	上原俊貴、大喜雅文、渡邊壽美子、大久保文彦、山元英崇、加藤聖子、小田義直、加来恒壽、岩坂剛、内膜細胞診における Deep Learning の有用性の検討。第35回日本臨床細胞学会九州連合会総会(宮崎) 2019年7月20日
82	がん専門細胞検査士 コース修士課程	細山田理葉、中司成、上原俊貴、加来恒壽、岩坂剛、渡邊壽美子、BCG 曝露 T24細胞における pRB と p27の関連性。第58回日本臨床細胞学会秋期大会(岡山) 2019年11月17日
83	がん専門細胞検査士 コース修士課程	岩崎遥菜、近藤守、上原俊貴、加来恒壽、岩坂剛、渡邊壽美子、二核細胞の分裂に関する検討。第58回日本臨床細胞学会秋期大会(岡山) 2019年11月17日
84	がん専門細胞検査士 コース修士課程	細山田理葉、中司成、上原俊貴、加来恒壽、岩坂剛、渡邊壽美子：BCG 曝露 T24細胞における pRB、p27と核形の関連性。第61回日本臨床細胞学会総会(春期大会) Web、2020年6月20日～7月19日

○国内学会（つづき）

85	がん専門細胞検査士 コース修士課程	岩崎遥菜、渡邊壽美子、上原俊貴、加来恒壽、岩坂剛：二核細胞の分裂に関する検討、第61回日本臨床細胞学会総会（春期大会）Web、2020年6月20日～7月19日
86	がん専門細胞検査士 コース修士課程	上原俊貴、渡邊壽美子、甲斐友基、大喜雅文、加来恒壽、岩坂剛：Deep Learning による DNA 染色像からの細胞周期推定に関する検討、第59回日本臨床細胞学会秋期大会 Web、2020年11月21日～12月27日
87	がん専門細胞検査士 コース修士課程	渡邊壽美子、岩崎遥菜、細山田理葉、上原俊貴、加藤聖子、小田義直、加来恒壽、岩坂剛。シンポジウム1：次世代の細胞診 細胞形態のメッセージを読む：次世代の細胞診の目指すもの。第62回 日本臨床細胞学会 春期大会、現地開催：2021.6.4～6.6 web 開催：2021.6.18～7.11
88	がん専門細胞検査士 コース修士課程	上原俊貴、中司成、大石善文、加来恒壽、岩坂剛、渡邊壽美子。BCG 曝露培養細胞における pRB 蛋白発現と核面積との関連。第62回 日本臨床細胞学会 春期大会、現地開催：2021.6.4～6.6 web 開催：2021.6.18～7.11
89	がん専門細胞検査士 コース修士課程	中島海、岩崎遥菜、上原俊貴、加来恒壽、岩坂剛、渡邊壽美子。二核細胞と GLUT1の関連性に関する検討。第62回 日本臨床細胞学会 春期大会、現地開催：2021.6.4～6.6 web 開催：2021.6.18～7.11
90	がん専門細胞検査士 コース修士課程	甲斐友基、上原俊貴、加来恒壽、岩坂剛、渡邊壽美子。深層学習を用いた子宮体部細胞画像認識モデルの開発。第60回日本臨床細胞学会秋期大会、現地開催：2021.11.20～11.21 web 開催：2021.12.9～2022.1.13
91	先端医用量子線技術 科学コース	Ayano Shoji, Keishin Morita, Naoki Hashimoto, Yuji Tsutsui, Kazuhiko Himuro, Shingo Baba, Masayuki Sasaki. The characteristics of parameters in texture analysis for evaluating heterogeneity. 第37回日本核医学技術会総会学術大会（横浜市）平成29年10月5日-7日。
92	先端医用量子線技術 科学コース	Saki Kimoto, Naoki Hashimoto, Ayano Shoji, Yuji Tsutsui, Kazuhiko Himuro, Shingo Baba, Masayuki Sasaki. The evaluation of the spatial resolution of 64Cu-PET images using a clinical PET/CT scanner. 第37回日本核医学技術会総会学術大会（横浜市）平成29年10月5日-7日。
93	先端医用量子線技術 科学コース	Naoki Hashimoto, Saki Kimoto, Keishin Morita, Yuji Tsutsui, Kazuhiko Himuro, Shingo Baba, Masayuki Sasaki. The effect of a smoothing filter on small lesion detectability with a clinical PET/CT. 第37回日本核医学技術会総会学術大会（横浜市）平成29年10月5日-7日。
94	先端医用量子線技術 科学コース	下川夏実、赤松剛、門崎都、庄司彩乃、橋本直樹、木本沙希、廣瀬智哉、佐々木雅之。アミロイド PET 定量評価における関心領域の違いの影響。第12回 九州放射線医療技術学術大会、第66回（社）日本放射線技術学会九州部会学術大会、第63回九州放射線技師学術大会（鹿児島）。平成29年11月18日～19日
95	先端医用量子線技術 科学コース	門崎都、赤松剛、下川夏実、庄司彩乃、橋本直樹、木本沙希、廣瀬智哉、佐々木雅之。アミロイド PET における視覚評価と定量評価の比較検討。第12回 九州放射線医療技術学術大会、第66回（社）日本放射線技術学会九州部会学術大会、第63回九州放射線技師学術大会（鹿児島）。平成29年11月18日～19日
96	先端医用量子線技術 科学コース	廣瀬智哉、筒井悠治、橋本直樹、木本沙希、庄司彩乃、門崎都、下川夏実、氷室和彦、馬場眞吾、佐々木雅之。PET 画像の散乱線含有率への TOF 情報および散乱線補正の影響。第12回 九州放射線医療技術学術大会、第66回（社）日本放射線技術学会九州部会学術大会、第63回九州放射線技師学術大会（鹿児島）。平成29年11月18日～19日
97	先端医用量子線技術 科学コース	二宮健太、有村秀孝、笹原基希、廣瀬貴章、大賀才路、梅津芳幸、本田浩、佐々木智成、前立腺癌放射線治療における臨床標的体積の自動抽出法（口頭）、第36回日本医用画像工学会大会 JAMIT2017（岐阜）、20170727-0729
98	先端医用量子線技術 科学コース	笹原基希、有村秀孝、# 廣瀬貴章、# 二宮健太、柴山祐亮、大賀才路、福永淳一、梅津芳幸、本田浩、佐々木智成、前立腺癌放射線治療における腫瘍ベース患者セットアップ法の検討（Oral）、医用画像情報学会（MII）平成29年度春季（第180回）大会（岐阜）、2018.01.27
99	先端医用量子線技術 科学コース	松川英明、佐々木智成、平山亮太、廣瀬貴章、福永淳一。子宮頸癌小線源治療における線量評価点（B点）との解剖学的位置と DVH に関する研究 日本放射線腫瘍学会第30回学術大会（大阪）平成29年11月17-20日
100	先端医用量子線技術 科学コース	笠井裕貴、村山鈴奈、福山幸秀、寺嶋廣美、川村慎二、佐々木智成 TomoDirect を用いた全身照射（TBI）における門数と評価指標に関する検討 日本放射線腫瘍学会第30回学術大会（大阪）平成29年11月17-20日
101	先端医用量子線技術 科学コース	村山鈴奈、笠井裕貴、福山幸秀、寺嶋廣美、佐々木智成 TomoDirect による全身照射の臨床応用可能性の検証 第66回（社）日本放射線技術学会九州部会学術大会、第63回九州放射線技師学術大会（鹿児島）。平成29年11月18日～19日

102	先端医用量子線技術科学コース	<u>Kimoto S</u> , Hashimoto N, <u>Shoji A</u> , Tsutsui Y, Himuro K, Baba S, Takahashi A, Sasaki M, The evaluation of the spatial resolution of 11C-, 18F- and 64Cu-PET images using phantom examination and simulation, 第77回日本放射線技術学会総会学術大会（横浜市）2018年4月12-15日（13日）
103	先端医用量子線技術科学コース	<u>Shoji A</u> , Morita K, Takeshita T, Tsutsui Y, Himuro K, Baba S, Sasaki M, Influence of a Gaussian filter on the evaluation of the PET heterogeneity, 第77回日本放射線技術学会総会学術大会（横浜市）2018年4月12-15日（13日）
104	先端医用量子線技術科学コース	<u>Shimokawa N</u> , Akamatsu G, Kadosaki M, <u>Shoji A</u> , Hashimoto N, <u>Kimoto S</u> , Sasaki M, Relationship between visual judgement and quantitative values in amyloid PET, 第77回日本放射線技術学会総会学術大会（横浜市）2018年4月12-15日（15日）
105	先端医用量子線技術科学コース	<u>Shimokawa N</u> , Akamatsu G, Kadosaki M, <u>Shoji A</u> , Hashimoto N, <u>Kimoto S</u> , Sasaki M, Influence of regions-of-interest template on the quantitative evaluation of amyloid PET, 第77回日本放射線技術学会総会学術大会（横浜市）2018年4月12-15日（15日）
106	先端医用量子線技術科学コース	<u>Kawazoe Y</u> , Morishita J, Ikeda N, Okumura M, Shin S, Matsunobu Y, Shimizu Y, Improvement of Image Comparison and Personal Identification Using Head CT Images with Three-Dimensional Positioning Adjustment, 第74回日本放射線技術学会総会学術大会（横浜市）2018年4月12-15日
107	先端医用量子線技術科学コース	<u>Hara K</u> , Yabuuchi H, Yongsu Y, Narita H, Yasuda Y, <u>Harada N</u> , Kurihara Y, Assessment of Usefulness of the Breath-hold Training Method to Improve Reproducibility of Quantitative Values by Inspiratory and Expiratory Lung Magnetic Resonance Imaging, 第74回日本放射線技術学会総会学術大会（横浜市）2018年4月12-15日
108	先端医用量子線技術科学コース	舟田圭汰、高橋昭彦、氷室和彦、馬場眞吾、佐々木雅之、モンテカルロシミュレーションによるドパミントランスポータ SPECT 画像におけるコリメータ開口補正の影響の検討、第74回日本放射線技術学会総会学術大会（横浜市）2018年4月12-15日
109	先端医用量子線技術科学コース	上野響生、高橋昭彦、大島良太、氷室和彦、馬場眞吾、佐々木雅之、Ra-223の SPECT 画像におけるコリメータ最適化の検討：モンテカルロ研究、第74回日本放射線技術学会総会学術大会（横浜市）2018年4月12-15日
110	先端医用量子線技術科学コース	<u>Nagami N</u> , Arimura H, Soufi M, Ohishi M, Imaizumi T, Uba K, Irie H, Quantification of feasibility of a metal artifact reduction technique for delineation of GTV in RTP for head and neck cancer, 第74回日本放射線技術学会総会学術大会（横浜市）2018年4月12-15日
111	先端医用量子線技術科学コース	<u>Ninomiya K</u> , Arimura H, Sasahara M, Hirose T, Ohga S, Umezu Y, Honda H, Automated Localization Approach of Prostates for Radiotherapy using Anatomical-feature-based Machine Learning and its Feasibility in Bayesian Target Contouring Framework, 第74回日本放射線技術学会総会学術大会（横浜市）2018年4月12-15日
112	先端医用量子線技術科学コース	<u>Nakano R</u> , Arimura H, Asamura R, Ohga S, Honda H, Tomonari Sasaki, Deep-learning-based segmentation of GTV regions of lung cancer using datasets of planning CT and PET/CT images, 第115回日本医学物理学会学術大会（横浜市）2018年4月12-15日
113	先端医用量子線技術科学コース	<u>Yamada M</u> , Arimura H, Soufi M, Development of a framework for prediction of lung cancer patients' prognoses using PCA-based radiomics features, 第115回日本医学物理学会学術大会（横浜市）2018年4月12-15日
114	先端医用量子線技術科学コース	<u>Zhuangfei M</u> , Meaningful life in Japan within six months, 第115回日本医学物理学会学術大会（横浜市）2018年4月12-15日
115	先端医用量子線技術科学コース	笠井裕貴、TomoDirect を用いた全身照射における門数と評価指標に関する検討、第7回 TomoTherapy セミナー2018（東京都）2018年6月23日
116	先端医用量子線技術科学コース	川内野友則、藤淵俊王、放射線治療セットアップトレーニングでの呼吸情報取込みの手法の検討、第55回放射線影響懇話会（久留米市）、2018年7月21日
117	先端医用量子線技術科学コース	二宮健太、有村秀孝、笹原基希、廣瀬真章、大賀才路、前立腺癌放射線治療におけるベイズ領域推定法のための解剖学的特徴点に基づいた前立腺位置推定法、第37回日本医用画像工学会大会（つくば市）2018年7月25日-27日
118	先端医用量子線技術科学コース	山田真大、有村秀孝、マーゼン・スーフィ、主成分分析を用いたレディオミクス特徴量による肺癌患者の予後予測法、第37回日本医用画像工学会大会（つくば市）2018年7月25日-27日
119	先端医用量子線技術科学コース	川添優介、杜下淳次、池田典昭、奥村美紀、進政太郎、松延佑将、清水陽一郎、Yongsu Yoon、半自動ポジショニング補正を実施した頭部 CT 画像を利用する個人識別の改善、第46回日本放射線技術学会秋季学術大会（仙台市）2018年10月4日-6日（5日）

○国内学会（つづき）

120	先端医用量子線技術科学コース	坂田弥生、杜下淳次、清水陽一郎、ユンヨンス、超音波エラストグラフィの色表示に関する新しい評価方法の検討、第46回日本放射線技術学会秋季学術大会（仙台市）2018年10月4日-6日（6日）
121	先端医用量子線技術科学コース	山本昂侑、藤淵俊王、石垣陽、松本佳宣、小助川典久、X線診療場に最適化したリアルタイム線量測定システムの基本性能評価、第46回日本放射線技術学会秋季学術大会（仙台市）、2018年10月4日
122	先端医用量子線技術科学コース	中野里彩、有村秀孝、大賀才路、治療計画CT画像において深層学習を用いた3種類の肺癌の肉眼的腫瘍体の抽出、日本放射線腫瘍学会第31回学術大会（京都市）2018年10月11日-13日
123	先端医用量子線技術科学コース	長谷合修、有村秀孝、浅井佳央里、吉武忠正、大賀才路、塩山善之、本田浩、佐々木智成、類似症例に基づく肋骨線量を考慮した肺定位放射線治療自動立案法、日本放射線腫瘍学会第31回学術大会（京都市）2018年10月11日-13日
124	先端医用量子線技術科学コース	市野凌資、ユンヨンス、清水陽一郎、川添優介、坂田弥生、杜下淳次、汎用モーションセンサを用いた撮影補助システムの基礎的検討、第13回九州放射線医療技術学術大会（那覇市）2018年11月10日-11日
125	先端医用量子線技術科学コース	大浦宏二、杜下淳次、川添優介、清水陽一郎、坂田弥生、ユンヨンス、池田典昭、頭部X線CT画像から測定する側頭骨含気腔を用いた個人識別に関する基礎的検討、第13回九州放射線医療技術学術大会（那覇市）2018年11月10日-11日
126	先端医用量子線技術科学コース	尾崎誠、杜下淳次、清水陽一郎、川添優介、坂田弥生、経時差分処理で発生するアーチファクトの低減を目的とした類似差分処理の有用性の検討、第13回九州放射線医療技術学術大会（那覇市）2018年11月10日-11日
127	先端医用量子線技術科学コース	鎌田啓人、藪内英剛、近藤雅敏、原田伸明、原薫、本田浩、超高精細CTを用いた気管支壁の定量評価：FBP法と2種の逐次近似再構成法の比較、第13回九州放射線医療技術学術大会（那覇市）2018年11月10-11日
128	先端医用量子線技術科学コース	中西悠佳、藪内英剛、原薫、原田伸明、神谷武志、本田浩、気腫合併肺線維症 Combined pulmonary fibrosis and emphysema (CPFE) の診断におけるCT定量値の有用性の検討、第13回九州放射線医療技術学術大会（那覇市）2018年11月10-11日
129	先端医用量子線技術科学コース	藤原光希、藪内英剛、小島宰、原田伸明、原薫、山下泰生、小林幸次、本田浩、微細構造の描出における圧縮センシングの有用性の検討、第13回九州放射線医療技術学術大会（那覇市）2018年11月10-11日
130	先端医用量子線技術科学コース	寶珠山桃子、藪内英剛、原薫、原田伸明、佐々木雅之、本田浩、Short-T1 Inversion Recovery (STIR), Diffusion Weighted Imaging (DWI), FDG-PET/CTによる非小細胞肺癌患者のリンパ節転移検出能の検討、第13回九州放射線医療技術学術大会（那覇市）2018年11月10-11日
131	先端医用量子線技術科学コース	木本沙希、高橋昭彦、橋本直樹、庄司彩乃、下川夏実、高島彩、筒井悠治、氷室和彦、馬場眞吾、佐々木雅之、シミュレーションとファントム実験を用いた臨床用PET画像の空間分解能の評価、第38回日本核医学技術会総会学術大会（宜野湾市）2018年11月15日-17日（6日）
132	先端医用量子線技術科学コース	庄司彩乃、守田圭伸、橋本直樹、竹下利貴、木本沙希、筒井悠治、氷室和彦、馬場眞吾、佐々木雅之、ヒートマップを用いたPET不均一集積とテクスチャー特徴量の関係、第38回日本核医学技術会総会学術大会（宜野湾市）2018年11月15日-17日（6日）
133	先端医用量子線技術科学コース	下川夏実、赤松剛、庄司彩乃、木本沙希、高島彩、佐々木雅之、アミロイドPETの定量評価へ関心領域の違いが及ぼす影響、第38回日本核医学技術会総会学術大会（宜野湾市）2018年11月15日-17日（6日）
134	先端医用量子線技術科学コース	高島彩、庄司彩乃、杠友希、木本沙希、下川夏実、筒井悠治、氷室和彦、馬場眞吾、佐々木雅之、テクスチャー解析を用いた脳ドパミントランスポート SPECTにおける集積不均一性評価、第38回日本核医学技術会総会学術大会（宜野湾市）2018年11月15日-17日（6日）
135	先端医用量子線技術科学コース	高橋昭彦、木本沙希、氷室和彦、馬場眞吾、佐々木雅之、ポジトロンレンジがPET画像の病変検出能におよぼす影響について：シミュレーション研究、第38回日本核医学技術会総会学術大会（宜野湾市）2018年11月15日-17日（6日）
136	先端医用量子線技術科学コース	関川祐矢、舟田圭汰、氷室和彦、高橋昭彦、馬場眞吾、佐々木雅之、モンテカルロシミュレーションを用いた肝内腫瘍に対する ¹⁷⁷ Luの分子イメージングと収集条件の検討、第38回日本核医学技術会総会学術大会（宜野湾市）2018年11月15日-17日（6日）
137	先端医用量子線技術科学コース	上野響生、高橋昭彦、氷室和彦、馬場眞吾、佐々木雅之、Ra-223のSPECT画像におけるコリメータ最適化の検討：モンテカルロ研究、第38回日本核医学技術会総会学術大会（宜野湾市）2018年11月
138	先端医用量子線技術科学コース	二宮健太、有村秀孝、小柳遼馬、木下史生、アラムギール ホッセン、渡邊壽美子、今田憲二郎、小田義直、前立腺癌における病理画像特徴量とグリソンスコアの関係（口頭、20190123）、電子情報通信学会医用画像研究会（沖縄、1月22日～23日、2019）

139	先端医用量子線技術科学コース	<u>Makoto Ozaki</u> , Junji Morishita, Yoichiro Shimizu, Yusuke Kawazoe, Yayoi Sakata, Yasuo Sasaki, Hidetake Yabuuchi. Investigation of similar images for similar subtraction technique to reduce artifacts on subtraction images. The 75th Annal Meeting of the JSRT (横浜) 2019年4月11日
140	先端医用量子線技術科学コース	<u>Shimokawa N</u> , Akamatsu G, <u>Shoji A</u> , <u>Kimoto S</u> , <u>Takashima A</u> , Sasaki M. Quantitative evaluation of serial changes on amyloid PET in research data on dementia observation. 第75回 日本放射線技術学会総会学術大会、横浜、平成31年4月11-14日.
141	先端医用量子線技術科学コース	<u>Shimokawa N</u> , Kitamura T, <u>Tsubaki Y</u> , Akamatsu G, Sasaki M. Influence of templates for anatomical standardization on quantitative evaluation of amyloid PET. 第75回 日本放射線技術学会総会学術大会、横浜、平成31年4月11-14日.
142	先端医用量子線技術科学コース	<u>Tsubaki Y</u> , Akamatsu G, <u>Shimokawa N</u> , Kitamura T, <u>Takashima A</u> , <u>Katsube S</u> , Sasaki M. Development of automatic quantitative evaluation program of amyloid PET by using adaptive template and empirical PiB-prone ROI. 第75回 日本放射線技術学会総会学術大会、横浜、平成31年4月11-14日.
143	先端医用量子線技術科学コース	<u>Takashima A</u> , <u>Shimokawa N</u> , Tsutsui Y, Baba S, Sasaki M. The usefulness of texture analysis analyzing heterogeneous uptake on DaT SPECT images for the differential diagnosis. 第75回 日本放射線技術学会総会学術大会、横浜、平成31年4月11-14日.
144	先端医用量子線技術科学コース	<u>Katsube S</u> , <u>Tsubaki Y</u> , Tsutsui Y, Nohtomi A, Fujibuchi T, Sasaki M. Quantitative Evaluation of 18F Cerenkov Luminescence Imaging using Optical Imaging Modalities. 第75回 日本放射線技術学会総会学術大会、横浜、平成31年4月11-14日.
145	先端医用量子線技術科学コース	藤原光希、藪内英剛、小島宰、山下泰生、小林幸次、本田浩. 微細構造の描出における圧縮センシングの有用性の検討 第75回日本放射線技術学会総会学術大会 平成31年4月11-14日 横浜市
146	先端医用量子線技術科学コース	<u>Sachine Nakayama</u> , Hidetaka Arimura, Mohammad Haekal, <u>Masahiro Yamada</u> , Prognostic shape-based features on CT images for non-small-cell lung cancer patients (Oral, 12-April-2019), the 117th Scientific Meeting of the Japan Society of Medical Physics (JSMP) (Yokohama, April, 11-14, 2019), 2019.04
147	先端医用量子線技術科学コース	<u>Aki Yoshihisa</u> , Hidetaka Arimura, Hidemi Kamezawa, Soufi Mazen, <u>Masahiro Yamada</u> , Selection of wavelet basis functions in radiomic prediction for prognoses in head and neck cancer patients (Oral, 12-April-2019), the 117th Scientific Meeting of the Japan Society of Medical Physics (JSMP) (Yokohama, April, 11-14, 2019), 2019.04.
148	先端医用量子線技術科学コース	<u>Kenta Ninomiya</u> , Hidetaka Arimura, Kentaro Tanaka, Exploring potential of radiomic features in identification of EGFR-mutant in lung cancer patients (Oral, 12-April-2019), the 117th Scientific Meeting of the Japan Society of Medical Physics (JSMP) (Yokohama, April, 11-14, 2019), 2019.04
149	先端医用量子線技術科学コース	<u>Ma Zhuangfei</u> , Arimura Hidetaka, Kakeda Shingo, Korogi Yukunori, Automated approach for estimation of sizes of unruptured intracranial aneurysms in MRA images by using localized sparse non-negative matrix factorization (Oral, 12-April-2019), the 117th Scientific Meeting of the Japan Society of Medical Physics (JSMP) (Yokohama, April, 11-14, 2019), 2019.04.
150	先端医用量子線技術科学コース	<u>Yumika Hanada</u> , Akihiro Nohtomi, Taishi Ueki, Ryouyusuke Kurihara, Fundamental study of the neutron ambient dose-equivalent measurement using two CsI self-activation method, 第117回医学物理学学会学術大会 (横浜) 2019年4月11-14日
151	先端医用量子線技術科学コース	<u>Kazuki Matsumoto</u> , Yuki Kasai, Yukihide Fukuyama, Hiromi Terashima, Tomonari Sasaki Dose Evaluation Indices in Myeloablative Total Body Irradiation Using Static Mode of Helical Rotational Intensity Modulated Radiation Therapy System with Different Numbers of Ports 第76回日本放射線技術学会総会学術大会 横浜市 2019.4.11-14
152	先端医用量子線技術科学コース	<u>Kana Edamitsu</u> , Hideaki Matsukawa, Taka-aki Hirose, Jun-ichi Fukunaga, Tomonari Sasaki. Intra-fractional Dose Variation of Organs at Risk in High Dose Rate Image-guided Brachytherapy for Cervical Cancer 第76回日本放射線技術学会総会学術大会 横浜市 2019.4.11-14
153	先端医用量子線技術科学コース	峰松優、藤淵俊王、ソーシャルビッグデータを活用した放射線被ばくに対する不安意見の解析システムの構築、第75回日本放射線技術学会総会学術大会 (横浜) 2019年4月11-14日
154	先端医用量子線技術科学コース	川内野友則、藤淵俊王、金子晃介、岡田義広、福永淳一、小宮勲、仮想現実および複合現実を用いた実践的な放射線治療セットアップトレーニング方法の構築、第75回日本放射線技術学会総会学術大会 (横浜) 2019年4月11-14日
155	先端医用量子線技術科学コース	上野響生、デジタルファントムを用いた Ra-223 SPECT 画像のモンテカルロシミュレーション 第75回日本放射線技術学会総会学術大会2019年4月12日

○国内学会（つづき）

156	先端医用量子線技術科学コース	<u>Ma Zhuangfei</u> , Arimura Hidetaka, Risa Nakano, Tadamasu Yoshitake, Yoshiyuki Shioyama, Automated approach for estimation of sizes of lung cancer on planning CT images using dense V-net CNN with non-negative matrix factorization (Poster+Oral), 第38回日本医用画像工学会大会 (JAMIT) (Nara, July24-26, 2019), 2019.07
157	先端医用量子線技術科学コース	<u>LE Cuong Quoc</u> , Hidetaka Arimura, Masahiro Yamada, Hidemi Kamezawa, Prediction of five-year survival probabilities of head-and-neck cancer patients using support vector machine based on radiomic signatures selected by Coxnet (Poster+Oral), 第38回日本医用画像工学会大会 (JAMIT) (Nara, July24-26, 2019), 2019.07
158	先端医用量子線技術科学コース	Risa Nakano, Arimura Hidetaka, Mohammad Haekal, Saiji Ohga, Tadamasu Yoshitake, Yoshiyuki Shioyama, Dense V-Net automated segmentation approach for gross tumor volumes on 3D planning CT images for lung cancer (Poster+Oral), 第38回日本医用画像工学会大会 (JAMIT) (Nara, July24-26, 2019), 2019.07.
159	先端医用量子線技術科学コース	<u>Masahiro Yamada</u> , Arimura Hidetaka, Kenta Ninomiya, Classification of histological subtypes of NSCLC using Coxnet and NMF (Poster+Oral), 第38回日本医用画像工学会大会 (JAMIT) (Nara, July24-26, 2019), 2019.07.
160	先端医用量子線技術科学コース	山本昂侑、藤淵俊王、ワイヤレス式リアルタイム線量測定システムの開発と特性評価、第56回放射線影響懇話会（熊本）2019年7月27日
161	先端医用量子線技術科学コース	神崎祐依、納富昭弘、櫻井良憲、栗原凌佑、Csl 板の自己放射化と CCD を用いた熱中性子ビーム測定と生成放射能の校正、応用物理学会・次世代放射線シンポジウム2019（首都大学東京）2019年8月8-9日
162	先端医用量子線技術科学コース	尾崎誠、杜下淳次、清水陽一郎、佐々木康夫、藪内英剛、確信度の向上を目的とした類似差分画像の有用性の検討、第9回全国大学夏季交流研修会（長崎）2019年8月27日
163	先端医用量子線技術科学コース	山下雄也、杜下淳次、川添優介、尾崎誠、Yoon Yongsu、奥村美紀、池田典昭、ドイツ水平面を利用した死後の頭部 X 線 CT 画像のポジショニング補正の試み、第9回全国大学夏季交流研修会（長崎）2019年8月27日
164	先端医用量子線技術科学コース	山下雄也、杜下淳次、川添優介、尾崎誠、Yoon Yongsu、奥村美紀、池田典昭、死後の頭部 X 線 CT 画像のランドマークを用いたポジショニング補正の再現性の改善、第185回医用画像情報学会（広島）2019年9月14日
165	先端医用量子線技術科学コース	尾崎誠、杜下淳次、清水陽一郎、佐々木康夫、藪内英剛、経時差分画像と比較した類似差分画像の有用性の検討、第185回医用画像情報学会（広島）2019年9月14日
166	先端医用量子線技術科学コース	上野響生、Ra-223 SPECT 画像化の可能性について：モンテカルロ研究 第39回日本核医学技術学会総会学術大会（松山）2019年11月1日
167	先端医用量子線技術科学コース	下川夏実、赤松剛、高島彩、椿悠馬、勝部俊、佐々木雅之、PET 定量評価を用いた脳領域別のアミロイド蓄積の経時的変化、第39回 日本核医学技術学会総会学術大会、松山市、令和元年11月1日～3日、
168	先端医用量子線技術科学コース	椿悠馬、赤松剛、下川夏実、高島彩、勝部俊、佐々木雅之、脳 PET 定量解析を用いたアルツハイマー病のアミロイド集積と糖代謝低下の関連の検討、第39回 日本核医学技術学会総会学術大会、松山市、令和元年11月1日～3日、
169	先端医用量子線技術科学コース	高島彩、下川夏実、勝部俊、椿悠馬、筒井悠治、馬場真吾、佐々木雅之、脳ドパミントランスポータ SPECT による鑑別診断における radiomics 解析の有用性の検討、第39回 日本核医学技術学会総会学術大会、松山市、令和元年11月1日～3日、
170	先端医用量子線技術科学コース	勝部俊、椿悠馬、下川夏実、高島彩、筒井悠治、馬場真吾、藤淵俊王、佐々木雅之、高感度デジタルカメラを用いた18F チェレンコフ光画像化の検討、第39回 日本核医学技術学会総会学術大会、松山市、令和元年11月1日～3日、
171	先端医用量子線技術科学コース	佐藤秀昭、筒井悠治、氷室和彦、下川夏実、高島彩、勝部俊、椿悠馬、熊本航大、佐々木雅之、TOF 時間分解能の違いが PET 画像の画質へ及ぼす影響、第14回九州放射線医療技術学術大会、熊本市、2019年11月9日～10日、
172	先端医用量子線技術科学コース	熊本航大、筒井悠治、氷室和彦、下川夏実、高島彩、勝部俊、椿悠馬、佐藤秀昭、佐々木雅之、PET データ収集におけるステップアンドシュート法と連続ベッド移動法の比較、第14回九州放射線医療技術学術大会、熊本市、2019年11月9日～10日、
173	先端医用量子線技術科学コース	山下雄也、杜下淳次、川添優介、尾崎誠、Yoon Yongsu、奥村美紀、池田典昭、死後の頭部 X 線 CT 画像のポジショニング補正：再現性の改善、第14回九州放射線医療技術学術大会（熊本）2019年11月10日

174	先端医用量子線技術科学コース	<u>Akimasa Urakami</u> , Hidetaka Arimura, Fumio Kinoshita, Kenjiro Imada, Yukihiro Takayama, Akihiro Nishie, Kousei Ishigami, Yoshinao Oda, Sumiko Watanabe, Automatic stratification of prostate cancer patients into low- and high-grade groups using machine learning models with MR image features, 第39回日本医用画像工学会大会 (JAMIT 2020), (WEB conference), 2020.09.
175	先端医用量子線技術科学コース	<u>Le C. Quoc</u> , Hidetaka Arimura, Kenta Ninomiya, Hidemi Kamezawa, Yutaro Kabata, A Radiomics-based Prediction of Five-year Survival Probabilities of Head-and-Neck Cancer Patients, The 119th Scientific Meeting of the Japan Society of Medical Physics (WEB conference), 2020.05.
176	先端医用量子線技術科学コース	<u>Akimasa Urakami</u> , Hidetaka Arimura, Kenjiro Imada, Fumio Kinoshita, Yoshinao Oda, Automatic Stratification of Prostate Cancer Patients Using SVM Built with MR Image Features, The 119th Scientific Meeting of the Japan Society of Medical Physics (WEB conference), 2020.05.
177	先端医用量子線技術科学コース	<u>Satoshi Sakata</u> , Arimura Hidetaka, Ryo Toya, Yudai Kai, Distinguishability between Lymph Nodes and Metastasis from Head and Neck Cancer Using Image Features Calculated on CT Images, The 119th Scientific Meeting of the Japan Society of Medical Physics (WEB conference), 2020.05.
178	先端医用量子線技術科学コース	<u>Keiki Inoue</u> , Hideaki Matsukawa, Kazuki Matsumoto, Taka-aki Hirose, Jun-ichi Fukunaga, Yoshiyuki Shioyama, Tomonari Sasaki, Comparison of Dose Distribution by the Difference of Dose Calculation Algorithm for the Same Treatment Plan JSRT2020
179	先端医用量子線技術科学コース	<u>Ryo Takatsuka</u> , Yuki Kasai, Kazuki Matsumoto, Yukihide Fukuyama, Hiromi Terashima, Tomonari Sasaki, Investigation of TE in total body irradiation using TomoTherapy JSRT2020
180	先端医用量子線技術科学コース	<u>Yuichiro Takayama</u> , Kana Edamitsu, Hideaki Matsukawa, Taka-aki Hirose, Jun-ichi Fukunaga, Yoshiyuki Shioyama, Tomonari Sasaki, Intra-fractional Dose Variation of HR-CTV and Applicator shift in image-guided Brachytherapy for cervical cancer JSRT2020
181	先端医用量子線技術科学コース	神崎祐依、納富昭弘、櫻井良憲、Observation of neutron distribution at E3 port of KUR by the self-activation of a CsI plate with a CCD camera: 119 回 日本医学物理学学会学術大会 2020.5.15-6.14
182	先端医用量子線技術科学コース	坂本直哉、納富昭弘、花田侑美佳、長野永美、若林源一郎、島津美宙、Study of neutron detection based on the self-activation of iodobenzene added to liquid scintillator with different mass concentrations: 119 回 日本医学物理学学会学術大会 2020.5.15-6.14
183	先端医用量子線技術科学コース	前田英哉、納富昭弘、黒澤俊介、小玉翔平、若林源一郎、島津美宙、CaI2結晶のヨウ素自己放射化法による中性子測定への適用 2020年 次世代放射線シンポジウム 2020.8.20-21
184	先端医用量子線技術科学コース	坂本直哉、納富昭弘、花田侑美花、金政浩、新城優治、櫻井良憲、ヨウ素添加プラスチックシンチレータの BNCT 中性子場への適用に関する検討 2020年 次世代放射線シンポジウム 2020.8.20-21
185	先端医用量子線技術科学コース	納富昭弘、神崎結依、坂本直哉、前田英哉、120kV 診断用 X 線による水発光の光電子増倍管と CCD カメラによる観測、研究会「放射線検出器とその応用」(第35回) 2021.1.20-22
186	先端医用量子線技術科学コース	吉谷悠、藤淵俊王、デジタルカメラを用いたガンマ線リアルタイムイメージング装置の性能評価、第76回日本放射線技術学会総会学術大会(横浜) 2020年5月23日-6月14日 web
187	先端医用量子線技術科学コース	西和紀、藤淵俊王、拡張現実による病室撮影時の散乱線挙動の可視化アプリケーションの開発、デジタルカメラを用いたガンマ線リアルタイムイメージング装置の性能評価、第76回日本放射線技術学会総会学術大会(横浜) 2020年5月23日-6月14日 web
188	先端医用量子線技術科学コース	尾崎誠、杜下淳次、清水陽一郎、佐々木康夫、山下雄也、藪内英剛、局所的な関心領域を差分する新たな差分処理による肺門部の病変描出の向上、第15回九州放射線医療技術学術大会、2020年11月14日-15日、長崎市。
189	先端医用量子線技術科学コース	<u>Tsubaki Y</u> , Akamatsu G, <u>Shimokawa N</u> , <u>Takashima A</u> , <u>Katsube S</u> , Sasaki M: "Investigation of the Relationship between PiB-PET and FDG-PET in Alzheimer's Disease by Using Quantitative Analysis." (口述) 第76回日本放射線技術学会総会学術大会、Online, 2020.5.15-6.5.
190	先端医用量子線技術科学コース	<u>Katsube S</u> , Akamatsu G, <u>Tsubaki Y</u> , <u>Shimokawa N</u> , <u>Takashima A</u> , Sasaki M: "Detection of Abnormal Accumulation of PiB-PET and FDG-PET in Alzheimer's Disease and Examination of Its Relationship." (口述) 第76回日本放射線技術学会総会学術大会、Online, 2020.5.15-6.5.
191	先端医用量子線技術科学コース	<u>Kumamoto K</u> , <u>Tsubaki Y</u> , <u>Katsube S</u> , <u>Sato H</u> , <u>Tsutsui Y</u> , <u>Himuro K</u> , Sasaki M: "Evaluation of the PET Images Quality Using Continuous Bed Moving Method." (ポスター) 第76回日本放射線技術学会総会学術大会、Online, 2020.5.15-6.5.

○国内学会（つづき）

192	先端医用量子線技術科学コース	<u>Sato H, Tsubaki Y, Katsube S, Kumamoto K, Tsutsui Y, Himuro K, Sasaki M</u> : “Influence of the Time-of-flight Timing Resolution on Image Quality of PET/CT.” (ポスター) 第76回日本放射線技術学会総会学術大会、Online, 2020.5.15-6.5.
193	先端医用量子線技術科学コース	椿悠馬、赤松剛、勝部俊、熊本航大、佐藤秀昭、佐々木雅之: “グラフ理論解析をいた早期アルツハイマー病における FDG-PET および PiB-PET の比較検討.” (口述) 第40回日本核医学技術学会総会学術大会、神戸、2020.11.12-14.
194	先端医用量子線技術科学コース	佐藤秀昭、椿悠馬、勝部俊、熊本航大、筒井悠治、氷室和彦、佐々木雅之: “ファントム試験による異なる TOF 時間分解能がもたらす PET 画像の画質への影響.” (口述) 第40回日本核医学技術学会総会学術大会、神戸、2020.11.12-14.
195	先端医用量子線技術科学コース	熊本航大、勝部俊、椿悠馬、佐藤秀昭、筒井悠治、氷室和彦、佐々木雅之: “半導体 PET/CT 装置における連続ベッド移動によるデータ収集の検討.” (ポスター) 第40回日本核医学技術学会総会学術大会、神戸、2020.11.12-14.
196	先端医用量子線技術科学コース	山下雄也、衛藤希、尾崎誠、Yoon Yongsu、川添優介、奥村美紀、池典昭、杜下淳次。ドイツ水平線に合わせる死後頭部 X 線 CT 画像の半自動ポジショニング補正法の歯根部観察への応用。第15回九州放射線医療技術学術大会、2020年11月14日-15日、長崎市。
197	先端医用量子線技術科学コース	山下雄也、衛藤希、Yoon Yongsu、山添淳一、杜下淳次。死後頭部 X 線 CT 画像に対する上顎歯根部描出法の開発。日本法医学会学術九州地方集会。2020年10月16日-17日、web 学会。
198	先端医用量子線技術科学コース	山下雄也、杜下淳次、奥村美紀、Yoon Yongsu、池田典昭。死後の頭部 X 線 CT 画像のポジショニング補正法の改良。第104回日本法医学会学術全国集会、2020年9月24日-25日、京都市。
199	先端医用量子線技術科学コース	<u>Truong Gia Huy, Hidetaka Arimura, Kentaro Tanaka, Kenta Ninomiya</u> , Estimation of tumor growth trajectories during TKI targeted therapy based on Gompertz model (Oral, Apr. 17), The 121st Scientific Meeting of the Japan Society of Medical Physics (JSMP)
200	先端医用量子線技術科学コース	<u>Yuya Hirakawa, Hidetaka Arimura, Cui Yunhao</u> , High Resolution Reconstruction of Low-Frequency MR Images Using Convolutional Neural Network (Oral, Apr.17), The 77th Annual Meeting of the Japanese Society of Radiological Technology (JSRT)
201	先端医用量子線技術科学コース	<u>Takumi Kodama, Hidetaka Arimura, Kenta Ninomiya, Yuko Shirakawa, Tadamasu Yoshitake, Yoshiyuki Shioyama</u> , Radiomics Prediction for Progression in NSCLC Patients Treated with Stereotactic Body Radio Therapy (Oral, Apr.17), The 77th Annual Meeting of the Japanese Society of Radiological Technology (JSRT)
202	先端医用量子線技術科学コース	<u>Mai Egashira, Hidetaka Arimura, Truong Gia Huy, Yuko Shirakawa, Kenta Ninomiya, Tadamasu Yoshitake, Yoshiyuki Shioyama</u> , Prediction of Therapeutic Outcomes for Patients with Non-small Cell Lung Cancer who Received Stereotactic Ablative Radiotherapy (Oral, Apr.17), The 77th Annual Meeting of the Japanese Society of Radiological Technology (JSRT)
203	先端医用量子線技術科学コース	森山和俊、有村秀孝、小林和馬、Quoc Cuong Le、二宮健太、浦上暉允、岡本裕之、井垣浩、脳 MR 画像解析に基づく転移性脳腫瘍の原発巣推定、医用画像情報学会令和3年度年次（第190回）大会（Web 開催）
204	先端医用量子線技術科学コース	<u>Takumi Kodama, Hidetaka Arimura, Kenta Ninomiya, Yuko Shirakawa, Tadamasu Yoshitake, Yoshiyuki Shioyama</u> , Radiomics Prediction for Progression in NSCLC Patients Treated with Stereotactic Body Radiation Therapy, The 40th JAMIT Annual Hybrid Meeting
205	先端医用量子線技術科学コース	<u>Hideya Maeda, Akihiro Nohtomi, Shunsuke Kurosawa, Shohei Kodama, Genichiro Wakabayashi, Miyu Shimazu</u> ; The activation properties of CaI_2 crystal on neutron detection. by the self-activation method with an iodine-containing scintillator. 第121回日本医学物理学会学術大会（横浜）2021年4月16日
206	先端医用量子線技術科学コース	<u>Naoya Sakamoto, Akihiro Nohtomi, Yui Kanzaki, Hideya Maeda, Genichiro Wakabayashi</u> : An evaluation of quenching effects and an analysis of a long half-life component. for neutron measurement with iodine-added liquid scintillator. 第121回日本医学物理学会学術大会（横浜）2021年4月16日
207	先端医用量子線技術科学コース	<u>Kumamoto K, Katsube S, Tsubaki Y, Sato S, Tsutsui Y, Himuro K, Sasaki M</u> . Effects of bed speed and slice thickness on spatial resolution in PET/CT scanners. 第77回 日本放射線技術学会総会学術大会。横浜市ハイブリッド開催。令和03年4月15日～17日。
208	先端医用量子線技術科学コース	<u>Sato S, Katsube S, Tsubaki Y, Kumamoto K, Tsutsui Y, Himuro K, Sasaki M</u> . Effects of different TOF timing resolutions on detectability of cold spheres. 第77回 日本放射線技術学会総会学術大会。横浜市ハイブリッド開催。令和03年4月15日～17日。

209	先端医用量子線技術科学コース	熊本航大、椿悠馬、勝部俊、佐藤秀昭、筒井悠治、山下泰生、佐々木雅之. SiPM-PET/CT 装置における寝台移動速度とスライス厚がホット球描出に与える影響. 第41回日本核医学技術学会総会学術大会. 名古屋市ハイブリッド. 令和03年11月4日-6日.
210	先端医用量子線技術科学コース	佐藤秀昭、熊本航大、筒井悠治、山下泰生、馬場眞吾、佐々木雅之. SiPM と PMT-PET/CT における異なる TOF 時間分解能がコールド球描出能にもたらす影響. 第41回日本核医学技術学会総会学術大会. 名古屋市ハイブリッド. 令和03年11月4日-6日.
211	先端医用量子線技術科学コース	末次善紀、東直樹、中野竣、山中宥樺、福山幸秀、寺嶋廣美、佐々木智成 TomoDirect を用いた下体部の全身照射 (TBI) における門数と評価指標に関する検討 日本放射線腫瘍学会第34回学術集会 (Web 開催)
212	先端医用量子線技術科学コース	末次善紀、東直樹、福山幸秀、井上慶輝、松本和樹、山中宥樺、川原佑登、立石賢、中野竣、平田裕大、寺嶋廣美、佐々木智成 TomoDirect を用いた全身照射における Field Junction Technique の検討 第16回九州放射線医療技術学術大会 (佐賀市)
213	先端医用量子線技術科学コース	山中宥樺、立石賢、末次善紀、川原佑登、中野竣、平田裕大、福永淳一、廣瀬貴章、佐々木智成 肺癌の VMAT-SBRT における計算アルゴリズムとコリメータ角度に関する検討 第16回九州放射線医療技術学術大会 (佐賀市)
214	先端医用量子線技術科学コース	立石賢、山中宥樺、末次善紀、川原佑登、平田裕大、中野竣、福永淳一、廣瀬貴章、佐々木智成 肺癌の SBRT に対する VMAT におけるコリメータ角度に関する検討 第16回九州放射線医療技術学術大会 (佐賀市)
215	先端医用量子線技術科学コース	平田裕大、末次善紀、東直樹、福山幸秀、川原佑登、立石賢、中野竣、寺嶋廣美、佐々木智成 Helical TomoTherapy を用いた全骨髄照射の下体部における最適な Modulation Factor (MF) に関する検討 第16回九州放射線医療技術学術大会 (佐賀市)
216	先端医用量子線技術科学コース	幾島洋一郎、徳禮将吾、佐藤周作、幾島宏二郎、橋本憲幸、杜下淳次、藪内英剛、医療用モニタの解像度と画像表示サイズが超高精細 CT 画像の高コントラスト分解能に及ぼす影響、日本放射線技術学会、2021.10.
217	先端医用量子線技術科学コース	岸田大典、吉谷悠、藤淵俊王、CMOS カメラによるリアルタイム散乱線分布モニタリングの基礎検討、日本放射線技術学会第49回秋季学術大会 (熊本) 2021年10月15日
218	先端医用量子線技術科学コース	清水美里、藤淵俊王、心臓カテーテル検査における照射条件別臓器線量推定法の検討、日本放射線技術学会第49回秋季学術大会 (熊本) 2021年10月15日
219	先端医用量子線技術科学コース	濱田圭介、藤淵俊王、放射線治療計画装置における皮膚表面線量評価のための基礎的検討、日本放射線技術学会第49回秋季学術大会 (熊本) 2021年10月15日
220	先端医用量子線技術科学コース	中嶋美沙希、藤淵俊王、血管造影室内の3次元散乱線分布の可視化の検討、日本放射線技術学会第49回秋季学術大会 (熊本) 2021年10月15日
221	先端医用量子線技術科学コース	吉谷悠、藤淵俊王、プラスチックシンチレータとデジタルカメラを用いた線量分布測定法の改善と性能評価、日本放射線技術学会第49回秋季学術大会 (熊本) 2021年10月15日
222	先端医用量子線技術科学コース	西和紀、藤淵俊王、吉永崇、クロスリアリティによる散乱線挙動可視化教材の放射線教育効果の評価、日本放射線技術学会第49回秋季学術大会 (熊本) 2021年10月15日
223	先端医用量子線技術科学コース	西和紀、藤淵俊王、吉永崇、ウェブブラウザで利用できる拡張現実を用いた散乱線の挙動を可視化するシステムを用いた教材の開発、第77回日本放射線技術学会総会学術大会 (横浜) 4月15日
224	先端医用量子線技術科学コース	吉谷悠、藤淵俊王、プラスチックシンチレータ板とデジタルカメラを用いた CT 検査の線量分布の評価、第77回日本放射線技術学会総会学術大会 (横浜) 4月15日
225	がん研究薬剤師コース博士課程	松金良祐、林光博、相川博明、濱田哲暢、新規組織診断技術 HSTT の組織内薬物動態解析への応用と評価、第38回日本臨床薬理学会学術総会 (横浜)、2017年12月7日~9日.
226	がん研究薬剤師コース博士課程	松金良祐、林光博、高橋優、大内麻由、岡田尚大、増田智先、濱田哲暢、新規薬物イメージング法を用いた抗体医薬 trastuzumab の腫瘍内薬物動態解析、第26回クリニカルファーマシーシンポジウム (東京)、2018年6月23日~24日.
227	がん研究薬剤師コース博士課程	安河内冴、楠瀬直喜、糸山さやか、松永直哉、小柳悟、大戸茂弘、神経障害性疼痛の概日リズム制御因子を標的とした既存薬ライブラリーからの鎮痛候補薬の探索、第13回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム (岐阜)、2019年10月19日~20日.
228	がん研究薬剤師コース博士課程	安河内冴、楠瀬直喜、糸山さやか、松永直哉、小柳悟、大戸茂弘、神経障害性疼痛の概日リズム制御因子 SGK1 を標的とした既存薬ライブラリーからの鎮痛候補薬の探索、第19回痛みの研究会 (福岡)、2019年9月9日

○国内学会（つづき）

229	がん研究薬剤師コース博士課程	安河内冴、楠瀬直喜、糸山さやか、松永直哉、小柳悟、大戸茂弘、神経障害性疼痛の概日リズム制御因子 SGK1を標的とした既存薬ライブラリーからの鎮痛候補薬の探索、第43回西日本薬理学研究会（福岡）、2019年8月23日～24日。
230	がん研究薬剤師コース博士課程	糸山さやか、安河内冴、楠瀬直喜、松永直哉、小柳悟、大戸茂弘、脊髄内の脂質メディエーターに着目したがん性疼痛の概日リズム制御機構の解析、第36回日本薬学会九州支部大会（長崎）、2019年11月16日～17日。
231	がん研究薬剤師コース博士課程	松金良祐、南晴奈、池田宗彦、秦晃二郎、渡邊裕之、辻敏和、江頭伸昭、増田智先、日常診療情報を用いた免疫関連有害事象（irAE）のリスク因子ならびに早期発見マーカーの探索、第40回日本臨床薬理学学会学術大会（東京）、2019年12月4日～6日。
232	がん研究薬剤師コース博士課程	安河内冴、楠瀬直喜、山内智暁、小俣裕司、鶴田朗人、松永直哉、小柳悟、大戸茂弘、既存薬ライブラリーを用いた新規神経障害性疼痛治療薬の探索、日本薬学会第35回年会 学生主催シンポジウム SNPEE2020（熊本）、2020年5月14日～16日。
233	がん研究薬剤師コース博士課程	安河内冴、楠瀬直喜、山内智暁、山川稚葉、小俣裕司、鶴田朗人、松永直哉、小柳悟、大戸茂弘、鎮痛増悪分子 SGK-1を標的としたスルファサラジンによる神経障害性疼痛に対する新規治療戦略の構築、次世代を担う若手のための医療薬科学シンポジウム（岡山）、2020年11月28日。
234	がん研究薬剤師コース博士課程	安河内冴、楠瀬直喜、山内智暁、小俣裕司、鶴田朗人、松永直哉、小柳悟、大戸茂弘、時間薬学的アプローチによる神経障害性疼痛に対する鎮痛化合物の探索と新規治療戦略の構築、第41回日本臨床薬理学会（福岡）、2020年12月3日～5日。
235	がん研究薬剤師コース博士課程	安河内冴、楠瀬直喜、山内智暁、山川稚葉、小俣裕司、鶴田朗人、松永直哉、小柳悟、大戸茂弘、鎮痛増悪分子 SGK-1を標的としたスルファサラジンによる神経障害性疼痛に対する新規治療戦略の構築、第29回医療薬学フォーラム2021（沖縄）、2021年7月24日～25日。
236	がん研究薬剤師コース博士課程	山内智暁、岡野佑美、安河内冴、吉田優哉、鶴田朗人、松永直哉、小柳悟、大戸茂弘、Disruption of circadian metabolic regulation of cysteine contributes to the rapid growth and malignancy of murine hepatic cancer cells、第15回若手のための医療薬科学シンポジウム（東京）、2021年10月23日～24日。
237	がん研究薬剤師コース博士課程	山川稚葉、安河内冴、鶴留優也、牛島健太郎、鶴田朗人、松永直哉、小柳悟、大戸茂弘、神経障害性疼痛の発症における時計遺伝子 Period2の機能解析、第38回日本薬学会九州山口支部大会（熊本）、2021年11月13日。
238	がん研究薬剤師コース博士課程	安河内冴、山川稚葉、山内智暁、小俣裕司、鶴田朗人、松永直哉、小柳悟、大戸茂弘、フェブキソスタットのBCRP機能阻害によるスルファサラジンの消化管吸収改善と末梢神経障害性疼痛緩和作用に及ぼす効果、第36回日本薬物動態学会年会（群馬）、2021年11月16日～19日。
239	がん研究薬剤師コース博士課程	小柳悟、加藤泉希、鶴留優也、金光拓海、安河内冴、金堂有起、荻野敬史、松永直哉、大戸茂弘、オキサリプラチン誘発性の骨髄抑制に及ぼすMRP4発現の概日リズムの影響、第36回日本薬物動態学会年会（群馬）、2021年11月16日～19日。
240	がん研究薬剤師コース博士課程	安河内冴、山川稚葉、鶴田朗人、吉田優哉、松永直哉、小柳悟、大戸茂弘、脊髄中 SGK-1を標的としたスルファサラジンとフェブキソスタットによる神経障害性疼痛に対する新規治療戦略、第95回日本薬理学会年会（福岡）、2022年3月7日～9日。
241	がん研究薬剤師コース博士課程	山川稚葉、安河内冴、鶴留優也、牛島健太郎、鶴田朗人、松永直哉、小柳悟、大戸茂弘、概日リズム変調時における神経障害性疼痛の発症抑制メカニズムの解析、第142回日本薬学会年会（名古屋）、2022年3月25日～28日。

○その他（受賞等）

1	がん専門細胞検査士コース修士課程	中司成：第57回日本臨床細胞学会秋期大会 優秀演題賞（平成30年11月18日）
2	先端医用量子線技術科学コース	二宮健太、有村秀孝、他：第37回日本医用画像工学会大会 奨励賞、“前立腺癌放射線治療におけるベイズ領域推定法のための解剖学的特徴点に基づいた前立腺位置推定法”、第37回日本医用画像工学会大会（つくば市）2018年7月25日-27日
3	先端医用量子線技術科学コース	山本昂侑、学生セッション 優秀賞、第46回日本放射線技術学会秋季学術大会
4	先端医用量子線技術科学コース	川内野友則、藤淵俊王、金子晃介、岡田義広、福永淳一、小宮勲、仮想現実および複合現実を用いた実践的な放射線治療セットアップトレーニング方法の構築、第75回日本放射線技術学会総会学術大会 Bronze Award 2019年4月14日

5	先端医用量子線技術科学コース	<u>Yumika Hanada</u> , Akihiro Nohtomi, Taishi Ueki, Ryousuke Kurihara, The 117th Scientific Meeting of JSMP: President's Award Gold, 2019.04.14
6	先端医用量子線技術科学コース	<u>LE Cuong Quoc</u> , LE Cuong Quoc, Hidetaka Arimura, Masahiro Yamada, Hidemi Kamezawa, "Prediction of Five-year Survival Probabilities of Head-and-neck Cancer Patients Based on Radiomic Signatures Selected by Coxnet", Best Oral Presentation Award, 17th SEACOMP & the 3rd PIT-FMB (Bali, Indonesia, 8-10, Aug 2019), 2019.08.
7	先端医用量子線技術科学コース	<u>兒玉拓巳</u> ：第40回日本医用画像工学会大会奨励賞 “体幹部定位放射線治療を受けた非小細胞肺癌患者における癌の進行予測のためのレディオミクス解析”、第40回日本医用画像工学会大会、オンライン開催、2021/10/13
8	先端医用量子線技術科学コース	<u>熊本航大</u> ：The 68th Annual Meeting, Society of Nuclear Medicine and Molecular Imaging. 2021 ERF SNMMI-TS Professional Development Grant Award for the SNMMI Annual Meeting for CNMT and ARRT (N) technologist and students. 2021, June 11-15.
9	先端医用量子線技術科学コース	<u>佐藤秀昭</u> ：The 68th Annual Meeting, Society of Nuclear Medicine and Molecular Imaging. 2021 ERF SNMMI-TS Professional Development Grant Award for the SNMMI Annual Meeting for CNMT and ARRT (N) technologist and students. 2021, June 11-15.
10	先端医用量子線技術科学コース	<u>吉谷悠</u> ：第77回日本放射線技術学会総会学術大会 CyPos 賞 Bronze Award
11	がん研究薬剤師コース博士課程	<u>松金良祐</u> 、林光博、相川博明、濱田哲暢、新規組織診断技術 HSTT の組織内薬物動態解析への応用と評価、第38回日本臨床薬理学会学術総会（横浜）、2017年12月7日～9日、優秀演題賞（口演）
12	がん研究薬剤師コース博士課程	<u>松金良祐</u> 、林光博、高橋優、大内麻由、岡田尚大、増田智先、濱田哲暢、新規薬物イメージング法を用いた抗体医薬 trastuzumab の腫瘍内薬物動態解析、第26回クリニカルファーマシーシンポジウム（東京）、018年6月23日～24日、優秀発表賞（ポスター）
13	がん研究薬剤師コース博士課程	<u>安河内冴</u> 、楠瀬直喜、山内智暁、小俣裕司、鶴田朗人、松永直哉、小柳悟、大戸茂弘、既存薬ライブラリーを用いた新規神経障害性疼痛治療薬の探索、日本薬剤学会第35回年会 学生主催シンポジウム SNPEE2020（熊本）、2020年5月14日～16日、SNPEE presentation Award（口演）
14	がん研究薬剤師コース博士課程	<u>安河内冴</u> 、楠瀬直喜、山内智暁、山川稚葉、小俣裕司、鶴田朗人、松永直哉、小柳悟、大戸茂弘、鎮痛増悪分子 SGK-1 を標的としたスルファサラジンによる神経障害性疼痛に対する新規治療戦略の構築、次世代を担う若手のための医療薬科学シンポジウム（岡山）、2020年11月28日、優秀発表賞（口演）
15	がん研究薬剤師コース博士課程	<u>安河内冴</u> ：薬剤学 一生命と薬一、Web 対談：SNPEE2020 “Diversity ～薬剤学の色んな『か・た・ち』を学ぼう～” vol.8（1）、p.26-p.33、2021年1月

学生・修了生の感想

・ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース 大村 洋文

研究テーマ「悪性腫瘍の病態、治療抵抗性に関連する免疫担当細胞の解析」

私は、2020（令和2）年度に九州大学大学院医学系学府「ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース」を修了しました。

私は複雑な合併症、様々な苦痛を抱えるがん患者さんへの臓器横断的、そして全人的な医療に携わりたいと考え、腫瘍内科を志しました。近年がん薬物療法の開発が進み、治療内容が複雑化しておりますが、治療内容を理解し、臨床の場で提供するためには、がんの病態について理解を深める必要があると感じ、本コースを専攻しました。

本コースでは各臓器、領域における専門家の先生方の講義を受けることで、がんに関する知見を深めることができ、特にがんゲノム医療については、近年がん遺伝子パネル検査が保険収載され、当院が「がんゲノム中核拠点病院」であることから、実際に遺伝子パネル検査のレポートを作成、検討会（エキスパートパネル）に参加し、最新の医療を経験することができました。

また研究については、臨床検体を用いた、がん化学療法中の免疫細胞の変化、治療効果との関連についての解析を行い、研究成果を国内外の学会で発表する機会を与えていただき、さらに論文執筆、学位取得まで一つ一つ親身にご指導をいただきました。

2021年度にがん薬物療法専門医の資格を取得し、現在、九州大学病院 血液・腫瘍・心血管内科でがん診療に携わっております。このコースでの4年間こそが現在の腫瘍内科医としての礎となっていると感じつつ、より良い治療を提供できますよう、日々研鑽を積んで参る所存です。



・ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース 岡村 晃資

研究テーマ「ヒトエンテロウイルスを用いた新規癌治療法の研究開発」

私は、2018（平成30）年度に、「ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース」に入学し、現在4年目になります。呼吸器科での臨床業務の中で、より専門的な知識や考え方を身につけたいと思い、将来的にも癌治療に関わっていきたくと考え、大学院に入学し同コースにて基礎研究を行うことを選択しました。

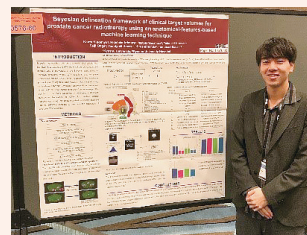
1年目は、各科の先生方から講義を受け、また他科でも研修させていただき、最新の知見を得ることができました。2年目以降は本格的に研究に従事するようになりましたが、どう研究を進めていくかほとんど分からない状態から、文献検索・実験の計画・実験のテクニック・結果の評価・文章の書き方など、先生方から親身に指導していただきました。実験について良い結果が出ない時もよくありますが、その際にどう考えて次につなげていくかをも学ばせていただきました。

大学院を卒業後は、ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コースで学んだ経験を活かして、多くの患者さんのお役に立てるように努力していきたくと思います。



・先端医用量子線技術科学コース 二宮 健太

研究テーマ「前立腺癌放射線治療のための前立腺領域自動抽出システムの開発」



私は、2017（平成29）年度に、九州大学大学院医学系学府の「先端医用量子線技術科学コース」に入学しました。

本コースでは、放射線技術に基づいた癌の画像取得・診断や治療法の基礎理論から応用に関する幅広い内容を学ぶことができました。在籍していた研究室では、前立腺癌放射線治療計画にターゲットとして用いる前立腺領域をCT画像上で自動抽出する手法を、ベイズ統計とAI（人工知能）技術の一つである機械学習に基づいて開発し、研究内容を国内外の学会で発表しました。在籍中に英文雑誌に論文が採択され、その研究成果を世界に発信することができました。また、マレーシアのマラヤ大学に短期留学をする機会もいただき、マラヤ大学病院での放射線治療の現状に関して学ぶことができました。留学中には、現在在籍している同大学院博士課程での研究テーマである、肺癌のCT画像と遺伝子変異の関係に関する共同研究を行うきっかけが生まれました。本コースでは2年という短い期間にもかかわらず、癌の診断や治療に関する最先端の知識や経験だけでなく、世界に通用するコミュニケーションや研究能力を身につけることができました。

2022年3月には博士課程を修了し、4月からアメリカ、カリフォルニア州にある Sanford Burnham Prebys Medical Discovery Institute で博士研究員として、癌治療のための新薬開発や、加齢と癌の関係を明らかにすることを目指した研究を行っていく予定です。これからも本コースで身につけた知識や技術をもとに医学の発展に貢献できる研究をし続けていきたいと考えています。

・がん研究薬剤師コース博士課程 安河内 冨

研究テーマ「がん性疼痛の概日変動メカニズムの解明」



私は、2019（令和元）年度に、九州大学大学院薬学府の「がん専門薬剤師養成コース（博士課程）」に入学しました。

私は、博士課程に入学してからがんと痛みについての研究をおこなっており、将来的には病院薬剤師として勤務し、がん専門薬剤師を取得したいとの思いから本コースを受講しました。博士課程に在籍中ということもあり、本業である研究に注力しながらのコース受講に少なからず不安もありましたが、本コースでは e-learning での受講も可能であったため、学会発表や研究の合間を縫って専門的な知識を身につけることができました。また、オンライン開催ではありましたが研究成果発表会もあり、薬学とは異なる視点からがんについての知識を得ることができました。

来年度まで博士課程に在籍しますが、卒業後もがん研究に携われるよう本コースで得られた知識を活かしつつ、がんについてのさらに広い知見を深め、得られた知識を臨床にフィードバックできるよう精進いたします。

最後に、お忙しい中指導して下さった先生方に心よりお礼申し上げます。

総括

実現できたこと

がんプロ履修生に対して「臨床腫瘍学の基本」「がん治療総論」「がんゲノム医療」「小児・AYA世代を含むライフステージに応じたがん医療」「希少がんを含む各種がんの治療」と今期のがんプロフェッショナル養成プランに重点を置いてテーマを設定、講義を行いがん診療への理解を深めた。また、週に1回開催されているエキスパートパネルへの参加を通して、がん遺伝子パネル検査に基づくゲノム医療を実施できるがんプロ履修生の育成も行った。

小児・AYA世代のがん、希少がんやライフステージに応じたがんに対応する人材については、小児・AYA～高齢者の各世代に対するがん治療の特徴を把握した上で治療計画を立て、かつ、個々のライフステージにおける身体的・心理的・社会的な面を含む包括的な問題への対策・支援について考察できる医療人の育成を目標として、本プランの大学院コースに「小児・AYA世代を含むライフステージに応じたがん医療」という科目を新たに設置し、聴講形式の講義に加えて小児緩和ケアチーム勉強会やカンファレンスへの参加、緩和ケア専門施設訪問の実習も行った。

本学がんプロ修了生を対象としたキャリアパス調査では、外科系がんプロ修了生のほとんどは外科専門医を取得しており、内科系がんプロ修了生の半数以上はがん薬物療法専門医を取得していた。勤務地としては九州圏内が多く、研究目的に国内留学や海外留学中の意思も複数名存在した。勤務施設のがん診療に対する役割を調査したところ、73%の九州がんプロ修了生が都道府県がん診療連携拠点病院もしくは地域がん診療連携拠点で勤務し、がん診療の中心的役割を担っていることが判明した。

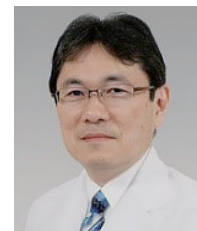
課題（今後に向けての予定）

令和3年度をもって本事業は終了するが、現九州がんプロ履修生に対しては各大学において講義、実習などは継続し単位取得可能となる準備を行っている。令和4年度以降の活動については、運営推進協議会の枠組みは維持し、オンラインシステムを利用した大学間の会議や合同研修などこれまで九州がんプロ全体で行ってきた事業についても継続して行い、引き続きがん専門医療人の育成に努める。

福岡大学

コーディネーター教員

医学部腫瘍・血液・感染症内科学 教授 高松 泰



各コースの内容

1. ライフステージに応じたがん専門医療人育成コース

受入開始時期	平成30年4月	修業年限（期間）	4年
対象者	先端医療科学系臨床腫瘍学専攻 大学院生		
養成すべき人材像	小児期、思春期・若年成人期、老年期など様々な世代のがん患者に対して、それぞれの世代に発症する腫瘍の細胞生物学的特徴を把握して治療計画を立てることができ、かつそれぞれの世代の患者が抱える身体的、精神的、社会的な問題点を理解した上で患者の支援ができる医療人を育成する。		
教育内容の特色等 （新規性・独創性等）	全国 e-learning クラウドシステムを利用して大学病院以外で働いている医師が社会人大学院生として入学できる。 テレビ会議システムを使って大学病院外で講義やセミナーを受講できる。		
教育プログラム・ コース修了者のキャリアパス構想	地域のがん診療病院で、診療チームのリーダーとしてがん患者の治療や支援に携わる。 在宅診療医もしくはかかりつけ医として、がん診療病院の医療者と連携してがん患者の闘病生活を支援する。		

2. 多職種連携がん専門医療人育成コース（インテンシブ）

受入開始時期	平成29年10月	修業年限（期間）	1年
対象者	がん診療に携わる医師、看護師、薬剤師、理学療法士、大学院生など		
養成すべき人材像	がんの組織型、分子生物学的特徴、病期など腫瘍の特徴と、全身状態、臓器機能、精神状態、社会的背景など患者の特徴を理解でき、がん薬物療法や外科手術、放射線治療の特徴・適用と有害事象・禁忌を知った上で、がん患者に対するチーム医療を計画・遂行できる医療人を育成する。		
教育内容の特色等 （新規性・独創性等）	がんに関する基礎的な知識・技術とがん医療の各論が研修できる。 テレビ会議システムを使って大学病院外で講義やセミナーを受講できる。		

教育プログラム・
コース修了者のキャ
リアパス構想

がん診療チームの一員として、治療計画の立案、患者への説明、安全かつ有効な治療の実践、患者の身体機能や栄養の維持に従事する。

主な取り組みと成果

1. ライフステージに応じたがん専門医療人育成コース

4名の大学院生が入学し、思春期・成人期に起こる婦人科がんに対して研究を行っている。2年時に、進捗状況を確認するとともに、その後の研究の進め方について検討する目的で、がんプロ中間発表会を開催している。大学院生は、研究成果を学会および論文発表するとともに、病院内のキャンサーボードで婦人科がん患者の治療について多職種と議論を行い臨床能力の向上に努めている。

2. 多職種連携がん専門医療人育成コース（インテンシブ）

がん薬物療法の有害事象対策、疼痛緩和など支持療法、抗がん薬の職業被爆、がんゲノム医療、腫瘍循環器病学をテーマにインテンシブコースの講演会を開催している。特別講演に加えて毎回テーマに関する自施設の取り組みについて医師、看護師もしくは薬剤師が発表することで、院内メンバーのモチベーションが向上していると考えられる。またがんゲノム医療に対する院内スタッフの理解が深まり、診療体制の整備が進んでいる。



ライフステージに応じたがん対策を推進する目的で、患者のリハビリテーションに関するワーキンググループを立ち上げた。がん治療を行う診療科とリハビリテーション科、看護部、薬剤部、栄養部が協力して、治療前に高齢がん患者の機能評価を行い、機能回復を目指したリハビリ介入を行う取り組みを開始した。転倒などインシデントの発生を予防し、手術や薬物療法など必要ながん治療を安全かつ有効に実施・完遂できることを目指して活動している。

福岡県がん診療連携拠点病院である九州大学、九州がんセンターと共同で固形がんおよび血液腫瘍の診療に関する勉強会を医師、看護師、薬剤師が参加して開催している。他施設の医療者と意見交換をすることで、がん診療に関する知識・技術の学修効果が高まっている。また福岡市医師会と連携した研究会を2018年より行っている。がん診療に関するかかりつけ医、在宅医との病診連携の推進に役立つと考えられる。

英文誌・和文誌・国際学会・国内学会等での発表一覧

○英文誌

1	ライフステージに応じたがん専門医療人育成コース	Miyahara D, Yotsumoto F, Hirakawa T, Yoshikawa K, Shigekawa K, Miyata K, Ito T, Nam SO, Kurakazu M Kanamori Y, Amada S, Miyamoto S. Clinical Features of Recurrence in Patients Without Residual Tumour in Endometrial Cancer. <i>Anticancer Res</i> 39:4581-4588, 2019
---	-------------------------	---

○和文誌

1	ライフステージに応じたがん専門医療人育成コース	宮本新吾、伊東智宏、南 星旭、四元房典、宮原大輔、吉川賢一、平川豊文、重川浩一郎、宮田康平、福田宣義、山本卓明、西村典子、申神正子、高石清美、伊東裕子。子宮筋腫に対して全腹腔鏡下子宮全摘術を実施し、術後に下腿コンパートメント症候群を発症した一例。福岡大学医学紀要46：107-111、2019。
2	ライフステージに応じたがん専門医療人育成コース	伊東裕子、倉員正光、南星旭、勝田隆博、伊東智宏、井槌大介、四元房典、宮原大輔、宮本新吾。腹腔鏡下子宮筋腫核出術と開腹子宮筋腫核出術とが及ぼす周産期予後の検討。日本産科婦人科内視鏡学会雑誌 35：175-179、2019。
3	ライフステージに応じたがん専門医療人養成コース	平川豊文、四元房典、宮田康平、甲賀かをり、小松宏彰、谷口文紀、原田省、宮本新吾、子宮内膜症治療における間葉系幹細胞を用いた新たな治療戦略、日本エンドメトリオーシス学会会誌、42：29-33、2021

○国内学会

1	ライフステージに応じたがん専門医療人育成コース	重川浩一郎、深川怜史、倉員正光、井槌大介、漆山大知、宮田康平、荒木陵多、南星旭、讚井絢子、四元房典、村田将春、宮本新吾。当センターにおける前置血管12症例の管理方針の妥当性の検討。第71回日本産科婦人科学会学術講演会（名古屋）2019/4/11-14
2	ライフステージに応じたがん専門医療人育成コース	深川怜史、倉員正光、重川光一郎、井槌大介、宮田康平、荒木陵多、讚井絢子、伊東裕子、村田将春、宮本新吾。当センターにおける17 α -hydroxyprogesterone caproateの有効性と安全性の検証。第71回日本産科婦人科学会学術講演会（名古屋）2019/4/11-14
3	ライフステージに応じたがん専門医療人育成コース	宮田康平、井槌大介、深川怜史、荒木陵多、讚井絢子、倉員正光、村田将春、宮本新吾。当院で管理した慢性早剥羊水過少症候群2症例一産科の視点から。第55回日本周産期・新生児医学会（松本）2019/7/13-15
4	ライフステージに応じたがん専門医療人育成コース	倉員正光、村田将春、井槌大介、深川怜史、宮田康平、平川豊文、清島千尋、漆山大知、荒木陵多、讚井絢子、南星旭、四元房典、宮原大輔、宮本新吾。当センターにおける卵子提供妊娠の周産期背景と予後。第55回日本周産期・新生児医学会（松本）2019/7/13-15
5	ライフステージに応じたがん専門医療人育成コース	深川怜史、倉員正光、重川浩一郎、井槌大介、宮本新吾、讚井絢子、村田将春。当センターにおける17 α -hydroxyprogesterone caprateを用いた流早産予防の取り組み。第55回日本周産期・新生児医学会（松本）2019/7/13-15
6	ライフステージに応じたがん専門医療人育成コース	重川浩一郎、深川怜史、井槌大介、倉員正光、荒木陵多、讚井絢子、伊東裕子、宮本新吾、村田将春。当センターで経験した分娩・産褥期の大量出血による高度貧血の21例。第55回日本周産期・新生児医学会（松本）2019/7/13-15
7	ライフステージに応じたがん専門医療人育成コース	平川豊文、Development of regenerative medicine using adipose-derived mesenchymal stem cell (ADMC) for endometriosis, 第72回日本産科婦人科学会学術講演会（東京）2020年4月23-26日
8	ライフステージに応じたがん専門医療人育成コース	深川怜史、倉員正光、重川浩一郎、倉員真理子、平川豊文、井槌大介、清島千尋、漆山大知、讚井絢子、宮田康平、宮本新吾、当院で周産期管理した妊娠梅毒の症例、第161回福岡産科婦人科学会（福岡）2020年9月27日
9	ライフステージに応じたがん専門医療人育成コース	四元房典、吉川賢一、平川豊文、清島千尋、漆山 大知、宮本新吾、癌治療標的分子RCAS1の発現制御分子の同定、第19回日本婦人科がん分子標的研究会 2020年11月14日
10	ライフステージに応じたがん専門医療人育成コース	吉川賢一、四元房典、宮田康平、平川豊文、清島 千尋、漆山大知、宮本新吾、癌治療標的分子HB-EGFの翻訳制御分子の同定、第19回日本婦人科がん分子標的研究会 2020年11月14日
11	ライフステージに応じたがん専門医療人育成コース	漆山大知、倉員正光、平川豊文、倉員真理子、井槌大介、讚井絢子、深川怜史、宮田康平、宮本新吾、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行による自粛生活が周産期医療に与えた変動、第162回福岡産科婦人科学会 2021年1月24日

○国内学会（つづき）

12	ライフステージに応じたがん専門医療人育成コース	平川豊文、四元 房典、宮田康平、甲賀かをり、小松宏彰、谷口文紀、原田省、宮本新吾、子宮内膜症モデルマウスを用いた脂肪組織由来間葉系幹細胞による治療効果の検討、第42回日本エンドメトリオーシス学会学術講演会、2021年2月11-17日
13	ライフステージに応じたがん専門医療人養成コース	石田倅子、宮田康平、倉員真理子、平川豊文、産後の抑うつ傾向に影響する産科関連因子の検討、第73回日本産科婦人科学会学術講演会、2021年4月22-25日、新潟
14	ライフステージに応じたがん専門医療人養成コース	石田倅子、宮田康平、倉員真理子、平川豊文、17 α -hydroxyprogesterone caproate (17P) の流早産予防、第78回九州連合産科婦人科学会、2021年5月23日、鹿児島 web
15	ライフステージに応じたがん専門医療人養成コース	井槌大介、讃井絢子、石田倅子、倉員真理子、新生児重症貧血を呈した母児間輸血症候群の3例、第163回福岡産科婦人科学会、2021,10,10、web
16	ライフステージに応じたがん専門医療人養成コース	平川豊文、宮本新吾、ウルトラファインバブル化したガソトランスミッターによる受精卵分化への有効性の検討、第66回日本生殖医学会、2021.11.11（鳥取）

○その他（受賞等）

1	ライフステージに応じたがん専門医療人育成コース	平川豊文、第42回日本エンドメトリオーシス学会学術講演会 演題発表賞（臨床部門）、2021年2月11-17日
---	-------------------------	--

学生・修了生の感想

・ライフステージに応じたがん専門医療人育成コース 平川 豊文

研究テーマ「子宮内膜症治療における間葉系幹細胞を用いた新たな治療戦略」

私は、2018（平成30）年度に、福岡大学の「ライフステージに応じたがん専門医療人育成コース」に入学しました。

私は、産婦人科医として日々女性特有の悪性腫瘍の診断・治療を行なっていく中で、若年から高齢者、さらには妊婦に至るまで実にさまざまなライフステージごとのがん患者と接する機会があり、その関わり方の重要性を感じていました。そこで幅広い視点から診療にあたるようになりたいという思いから、本コースを履修させて頂きました。さらに、近年増加傾向である卵巣癌について早期発見・治療ができないかを考えるにあたり、その前癌病変とも位置付けられる子宮内膜症に着目し、大学院で間葉系幹細胞を用いた新たな治療戦略をテーマに基礎研究を行いました。私は本コース在籍中に、「日本産科婦人科学会 産婦人科専門医」「日本周産期新生児学会 周産期専門医」の資格を取得しました。特に産婦人科専門医試験の腫瘍分野では幅広い悪性腫瘍の知識が問われ、本コースでの研修会やeラーニングでの講義は大変役に立ちました。

現在私は、大学で基礎研究を行うとともに、外来や手術、化学療法などの診療に従事し、論文発表や学会発表など学術活動を積極的に行っています。本コースで学んだことを生かして、今後も患者それぞれの立場に立った全人的な医療を心がけて、日々精進してまいりたいと思います。

実現できたこと

ライフステージに応じたがん専門医療人育成コースに4名の大学院生が入学した。思春期・成人期に起こる婦人科がんに対して研究を行っている。また高齢がん患者の治療を安全かつ有効に行うことを目的に、診療科の医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、リハビリ医師が協力して高齢がん患者の機能評価を行い、機能回復を目指したリハビリおよび栄養指導を行う取り組みを開始した。

多職種連携がん専門医療人育成コース（インテンシブ）として、がん薬物療法の有害事象対策、疼痛緩和など支持療法、抗がん薬の職業被爆、がんゲノム医療、腫瘍循環器病学をテーマにインテンシブコースの講演会を開催した。またがん診療に関する知識・技術を向上すべく福岡県がん診療連携拠点病院である九州大学、九州がんセンターと連携した勉強会、およびがん診療に関する病診連携の推進を目的にかかりつけ医、在宅医と共同で勉強会を開催することができた。

社会への情報発信として、リンパ腫の患者会（ネクサスジャパン）および骨髄腫の患者会（オリゾン）と共催して毎年医療セミナー開催した。コロナ禍でもオンライン形式でセミナーを実施することができた。

課題（今後に向けての予定）

ライフステージに応じたがん専門医療人育成コースの課題は、腫瘍内科医、放射線科医の大学院入学者を増やすことである。医学生に対する講義で最新のがん薬物療法や放射線療法、さらにサバイバーシップについて取り上げ、臨床実習に緩和ケア病院での実習を組み込むなど、がん診療に興味を持たせるよう努めているが、まだ成果が現れていない。

多職種連携がん専門医療人育成コース（インテンシブ）は、これまでに実施したテーマの講演会を繰り返すことで学習効果の到達度を高める。また新しいテーマを取り上げ、幅広い知識・技能を修得してがん診療の質の向上に努める。

久留米大学

コーディネーター教員

大学院医学研究科 個別最適医療系先端癌治療学
悪性腫瘍専門医養成ユニット「希少がん診療養成コース」 教授 赤木 由人



大学院医学研究科 看護学専攻 教授 原 頼子



各コースの内容

1. 先端癌治療学悪性腫瘍専門医養成ユニット「希少がん診療養成コース」

受入開始時期	平成30年4月	修業年限（期間）	4年
対象者	医学研究科博士課程個別最適医療系専攻大学院生		
養成すべき人材像	遺伝性癌に対する幅広い知識と倫理的教養をもって診療にあたることができる。		
教育内容の特色等 （新規性・独創性等）	1. がんと遺伝学の基礎的知識の習得 2. コミュニケーション能力の習得 3. がん治療における薬物の動態と耐性について学ぶ		
教育プログラム・ コース修了者のキャ リアパス構想	薬物療法や家族性腫瘍の認定医や専門医の取得		

2. 専門職養成コース がん看護分野 CNS 養成

受入開始時期	平成30年4月	修業年限（期間）	2年
対象者	看護師		
養成すべき人材像	地域および施設におけるがんの予防から終末期の緩和ケアまでの全過程において、がん看護のスペシャリスト		

教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	がん看護専門看護師として、必要な看護実践力、がん医療チームにおける教育、相談、研究、調整、倫理調整等の役割が果たせる人間性豊かな人材を育成し、医療を受ける人びととその家族、医療機関で働く人びと、地域の人びとへの貢献を目指すことを目的とする。
教育プログラム・ コース修了者のキャリアパス構想	がん緩和ケア、がん化学療法、がん放射線療法の知識を持ち、卓越した実践力と組織改革力を持ち看護部門の中でも専門看護師としての役割を確立する。

3. 大学院医学研究科修士課程「科目等履修制度」(インテンシブ)

受入開始時期	平成30年4月	修業年限(期間)	1年
対象者	看護師、コメディカル		
養成すべき人材像	地域および施設におけるがんの予防から終末期の緩和ケアまでの全過程において、がん医療のスペシャリスト		
教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	地域で必要とされるリーダーシップを持ち、柔軟でアクティブに問題解決できる思考力を持つことを目的とし、教育の専門者と看護の専門者がコラボレーションする科目が含まれる。		
教育プログラム・ コース修了者のキャリアパス構想	地域医療での中心的な役割を担うことができる		

主な取組みと成果

1. 小児・AYA世代・希少がんについて

希少癌の認知とそれに対する研究計画の立案を進めている。
セミナーや公開講座において希少癌の啓蒙を行っている。



2. ライフステージに応じたがん医療について

常に新しい知識を得ることを目的としたがんプロセミナーや、看護実践力を向上させるための事例検討会を開いている。

医学研究科修士課程がん看護分野の修了生および履修生から構成する久留米ネットワークの会とがんプロフェッショナル養成プランのコラボレーションセミナーを開催し、地域の医療者・がん患者に向けて情報発信の役割を果たしている。



英文誌・和文誌・国際学会・国内学会等での発表一覧

○和文誌

1	先端癌治療学悪性腫瘍専門医養成ユニット 「希少がん診療養成コース」	緒方傑、岡洋右、末吉晋、島松一秀、溝部智亮、藤田文彦、赤木由人 非外傷性脾摘後に診断された littoral cell angioma の1例 日本臨床外科学会雑誌 第80巻1号別冊145-150
2	先端癌治療学悪性腫瘍専門医養成ユニット 「希少がん診療養成コース」	緒方傑、緒方裕、仕垣隆浩、吉田直裕、大地貴史、溝部智亮、藤田文彦、衣笠哲史、赤木由人 姑息的卵巣転移巣切除が奏功した直腸癌多発肺転移の1例 日本大腸肛門病学会雑誌 第72巻5号220-22

○国内学会

1	先端癌治療学悪性腫瘍専門医養成ユニット 「希少がん診療養成コース」	緒方傑、衣笠哲史、藤田文彦、主藤朝也、溝部智亮、大地貴文、吉田直裕、四方田隆任、仕垣隆浩、赤木由人 当院における T1直腸癌切除症例についての検討 第90回大腸癌研究会（東京）2019年1月25日
2	先端癌治療学悪性腫瘍専門医養成ユニット 「希少がん診療養成コース」	緒方傑、衣笠哲史、藤田文彦、溝部智亮、大地貴史、吉田直裕、四方田隆任、仕垣隆浩、緒方裕、赤木由人 当科における直腸癌に対する diverting stoma 造設後の術後イレウスの検討 第44回日本外科系連合学会学術集会（金沢）2019年6月21日
3	先端癌治療学悪性腫瘍専門医養成ユニット 「希少がん診療養成コース」	緒方傑、衣笠哲史、藤田文彦、主藤朝也、溝部智亮、大地貴史、吉田直裕、四方田隆任、仕垣隆浩、赤木由人、杉原健一 第74回日本大腸肛門病学会学術集会（東京）2019年10月12日
4	先端癌治療学悪性腫瘍専門医養成ユニット 「希少がん診療養成コース」	緒方傑、藤田文彦、衣笠哲史、主藤朝也、溝部智亮、大地貴史、中根浩幸、赤木由人 当院における外科的切除を行った直腸 NET 症例の検討 第91回大腸癌研究会（東京）2019年7月5日
5	先端癌治療学悪性腫瘍専門医養成ユニット 「希少がん診療養成コース」	緒方傑、衣笠哲史、藤田文彦、主藤朝也、溝部智亮、大地貴史、吉田直裕、四方田隆任、仕垣隆浩、赤木由人 当科における diverting stoma の閉鎖時期の検討 第74回日本消化器外科学会総会（東京）2019年7月18日
6	先端癌治療学悪性腫瘍専門医養成ユニット 「希少がん診療養成コース」	緒方傑、多施設共同研究集積データを用いた Stage II 大腸癌における再発高リスク因子の検討。第75回日本消化器外科学会総会（和歌山）2020年12月16日
7	先端癌治療学悪性腫瘍専門医養成ユニット 「希少がん診療養成コース」	緒方傑、副腎転移との鑑別が困難であったメトトレキサート関連リンパ増殖性疾患の1例。第45回日本外科系連合学会学術集会（久留米）2020年12月23日
8	先端癌治療学悪性腫瘍専門医養成ユニット 「希少がん診療養成コース」	緒方傑、塩酸イリノテカンに対する感受性・耐性関連遺伝子群の探索、第25回バイオ治療法研究会学術集会（福岡）2021年12月11日
9	専門職養成コース がん看護分野 CNS 養成	阿部容子、江崎章子、原頼子：療養の場所を決定する時のがん患者と家族の合意形成に向けた意思決定支援の実践 第34回日本がん看護学会学術集会（東京）2020年2月22日

学生・修了生の感想

・希少がん診療養成コース 緒方 傑

研究テーマ「がん薬物耐性に関する研究」

希少がん診療養成コースを選択はしていませんが、上記の研究の傍ら希少癌についても勉強中です。臨床的には診断は確立されてきましたが、治療特に再発予防や再発治療はこれからだと思われま。まずは社会への周知が必要と思っています。



・がん看護分野・CNS 養成コース 太郎良 純香

研究テーマ「緩和ケア病棟看護師のレジリエンスに影響する要因」



私は、2019（令和元）年度に、久留米大学の「がん看護分野 CNS コース」を修了しました。

私は、がん性疼痛看護認定看護師として、患者と関わる中で、全人的苦痛の緩和やその基本となるケアリングの大切さについて、学ばせていただく多くの機会がありました。難渋する事例については、科学的根拠や看護理論をもとに、現象を捉えることの重要性について痛感しており、より確かなものになりたいと思いました。また、貴重な経験を言語化する力、問題解決する力を身につけることが、認定看護師としての役割の遂行となり、最善のケアのための倫理調整、多職種との協働・連携における調整、教育の推進へと活動をより拡充できるのではないかと考え、がん看護専門看護師の資格取得を目指すことを決めました。

大学院でのカリキュラムにおいて、特に実習では、事象を丁寧に捉え、患者・家族の反応の意味に目を向けることの大切さやがん看護専門看護師の俯瞰的、包括的な思考、個々のケースに合わせた意図的な介入の重要性について学ぶことができました。医療者に対しても相手を尊重して謙虚な態度で信頼関係を構築していくがん看護専門看護師のあり様についても学ぶことができました。

現在、私は緩和ケアセンタージェネラルマネージャーとして、組織横断的に活動をしています。今後、大学院（がんプロコース）での学びを生かし、自施設や地域における、全病期のがんを患う患者のケアに還元できるよう研鑽していきたいと思っています。

総括

実現できたこと

- ・がん看護専門看護師コースの修了生から、毎年、日本看護協会が認定するがん看護上級実践看護師（専門看護師）資格取得者を輩出している。
- ・久留米ネットワークや、がんプロを通し外部の専門看護師との交流がある。
- ・久留米ネットワークとがんプロフェッショナル養成プランとのコラボレーションセミナーが看護の実践力向上に効果を表している。
- ・専門看護師という実践家を育成するコースであるが、文献検討を重要視し、エビデンスを求迫するための研究力習得にも力を入れている。

課題（今後に向けての予定）

- ・必要とされている領域に対し、成果を出し、貢献するためには、上級実践看護師（専門看護師）と特定看護師の役割を明確に理解してもらうことが必要である。
- ・専門職資格を取りたいと考える医療者のリクルートが必要である。
- ・実践力のある専門看護師を育成するための教育内容や、教員の充実が必要である。

佐賀大学

コーディネーター教員

医学域医学系内科学講座（血液・腫瘍内科）准教授 安藤 寿彦



各コースの内容

1. 統合的地域がん治療専門医育成コース

受入開始時期	平成30年4月	修業年限（期間）	4年
対象者	大学院医学系研究科博士課程医科学専攻大学院生		
養成すべき人材像	佐賀大学、地域基幹病院を中心とする地域ネットワーク形成と、患者のライフステージに合わせた、専門的ながんチーム診療を構築する医療人を養成する。		
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	がんゲノム医療、小児がん・希少がん治療、あるいは青年期から高齢者までライフステージに応じた治療戦略を、施設、職種横断的に取り組むべく、地域ネットワークを構築する人材を育て、地域がん診療レベルの向上を得る。eラーニング・クラウドの活用、専門医による直接指導をおこなう。		
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	佐賀県下において、佐賀大学、地域基幹病院を中心とする地域ネットワークにおいて専門的知識を生かし、佐賀のがん医療推進において中心的役割を果たす。		

2. 統合的地域がん医療人育成プログラム

受入開始時期	平成30年4月	修業年限（期間）	2年
対象者	大学院先進健康科学研究科修士課程医科学コース大学院生		
養成すべき人材像	佐賀大学、地域基幹病院を中心とする地域ネットワーク形成と、患者のライフステージに合わせた、専門的ながんチーム診療を構築する医療人を養成する。		
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	がんゲノム医療、小児がん・希少がん治療、あるいは青年期から高齢者までライフステージに応じた治療戦略を、施設、職種横断的に取り組むべく、地域ネットワークを構築する人材を育て、地域がん診療レベルの向上を得る。eラーニング・クラウドの活用、専門医による直接指導をおこなう。		
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	佐賀県下において、佐賀大学、地域基幹病院を中心とする地域ネットワークにおいて専門的知識を生かし、佐賀のがん医療推進において中心的役割を果たす。		

主な取組みと成果

1. がんゲノム医療

◆特色ある取組

- ・早期からがんゲノム医療に取り組んでおり、保険診療開始前からがんゲノム検査施行。
- ・がんゲノム医療連携病院として京都大学とのエキスパートパネルを年間約30件実施。
- ・がんゲノム診療部門を令和3年4月から佐賀大学医学部附属病院がんセンター内に立ち上げ、がんゲノム外来を行い、診療部門間の連携調整を実施。
- ・保険診療以外にも自由診療でのリキッドバイオプシーによるがんゲノム検査も継続。



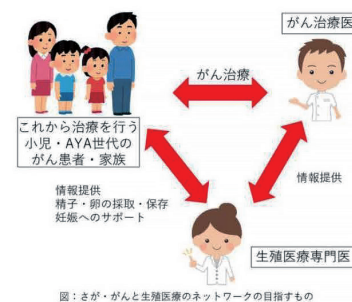
◆成果・実績

- ・大学院生がエキスパートパネルや事前勉強会に参加し症例提示（約30件）。
- ・大学院生ががんゲノム診療部門スタッフ併任し、がんゲノム外来週1回実施。
- ・臨床遺伝専門医取得（2021年1名）
- ・看護師6名ががんゲノム医療コーディネーター取得（2019年～2021年）
- ・令和3年度がんゲノム検査実施件数（年間30件）
- ・がんゲノム関係（成人・小児）、遺伝カウンセリング関連のセミナー実施。
- ・県民公開講座およびがんプロセミナーでのがんゲノム診療部門の周知・啓蒙実施。

2. 小児・AYA世代・希少がん

◆特色ある取組

- ・小児領域は九州大学小児科と連携し診療および学生への還元を行っている。
- ・小児がんのがんゲノム診療は特殊性が高いため、小児がんのエキスパートパネルに関しては、京都大学以外に国立成育医療研究センターと連携しており、毎週木曜日にWebカンファレンスを行っている。
- ・希少がんの症例は、週に一度は呼吸器内科の診療教授を含め、または2週に一度は外科と合同で治療に関して討論をしている。
- ・希少がんでは標準治療が確立していないため、積極的にがんゲノム検査に提出を行っている。
- ・九州大学希少がんセンターと連携し、必要時診断と治療についてコンサルテーションを行っている。（令和2年がんプロセミナー講師依頼）



図：さが・がんと生殖医療のネットワークの目指すもの

◆成果・実績

【小児領域】

- ・佐賀県において、2020年4月から造血幹細胞移植後の症例に対する予防接種の再接種に対する公費補助開始。2021年12月までに4名の造血幹細胞移植後の患児に対して、計34回のワクチン接種と費用助成を実施した。
- ・2020年6月から佐賀県小児・AYA世代がん患者妊孕性温存治療支援事業でのがん患者の妊孕性対策

が開始。

- ・がん患者妊孕性温存については、2020年3月「さが・がんと生殖医療のネットワーク」を立ち上げた。

【希少がん】

- ・毎週木曜日8時30分より腫瘍カンファレンス、第1・3月曜日17時より外科とのカンファレンスを行っている。
- ・骨軟部腫瘍や原発不明がんなどの希少がんで2021年に5例のがんゲノム検査を提出した。
- ・2020年10月13日に九州大学病院血液・腫瘍・心血管内科 土橋医師に希少がんについての講演をしていただき、さらに連携を強化している。

3. ライフステージに応じたがん医療

◆特色ある取組

- ・佐賀県緩和ケア部会を開催し、緩和ケアチームの質向上のためのピアレビューと佐賀県の緩和ケアの質向上のための緩和ケアパスについて検討。
- ・地域医療機関連携協力カンファレンスを開催し、地域医療機関と事例検討会を実施。
- ・適応があれば神経ブロックを積極的に施行し、鎮痛薬の投与量を減少、QOLの向上に繋げている。(例えば、すい臓がんに対する腹腔神経叢ブロック、骨盤内臓器由来の痛みに対する上下腹腔神経叢ブロックなど)
- ・平成28年度より、がん看護外来を開設し、独居高齢者・若年がん患者への支援、アピアランスケアなど様々なライフステージにある患者のニーズに応じて、療養や生活の調整ができるよう多職種協働しながら支援している。



◆成果・実績

- ・がんサバイバーの経済対策(就労支援): 院内活動中の両立支援促進員(令和元年にがんプロセミナー講師)と連携し実施中。

英文誌・和文誌・国際学会・国内学会等での発表一覧

○英文誌

1	統合的地域がん治療 専門医育成コース	Kamachi K, Shindo T, Miyahara M, Kitaura K, Akashi M, Shin-I T, Suzuki R, Oshima K, Kimura S. Epstein-Barr virus-related diffuse large B-cell lymphoma in mogamulizumab-treated adult T-cell leukemia with incomplete T-cell reconstitution. Int J Hematol. 2018 Oct 27. doi: 10.1007/s12185-018-2552-x.
2	統合的地域がん治療 専門医育成コース	Kubota Y, Kamachi K, Wakayama K, Kitamura H, Yoshihara M, Hisatomi T, Fukushima N, Ichinohe T, Sueoka E, Kimura S. Acute myeloid leukemia with t(19;21)(q13;q22) and marked eosinophilia. Ann Hematol. 98, 221-222, 2019.
3	統合的地域がん治療 専門医育成コース	Kamachi K, Kubota Y, Nagaie T et al. Primary Chest Wall MYC/BCL6 Double-hit Lymphoma with t(3;7)(q27;p12) and t(8;14)(q24;q32) Translocations, Intern Med, 58, 2073-2077, 2019
4	統合的地域がん治療 専門医育成コース	Ureshino H, Kamachi K, Kimura S Mogamulizumab for the Treatment of Adult T-cell Leukemia/ Lymphoma, Clin Lymphoma Myeloma Leuk, 19, 326-331, 2019
5	統合的地域がん治療 専門医育成コース	Watanabe T, Yamashita S, Ureshino H, Kamachi K, Kurahashi Y, Fukuda-Kurahashi Y, Yoshida N, Hattori N, Nakamura H, Sato A, Kawaguchi A, Sueoka-Aragane N, Kojima K, Okada S, Ushijima T, Kimura S, Sueoka E. Targeting aberrant DNA hypermethylation as a driver of ATL leukemogenesis by using the new oral demethylating agent OR-2100. Blood. 2020 Aug 13;136(7):871-884.

○英文誌（つづき）

6	統合的領域がん治療 専門医育成コース	Ureshino H, <u>Kamachi K</u> , Kimura S. Surrogate Markers for Treatment-Free Remission in Patients With Chronic Myeloid Leukemia. Clin Lymphoma Myeloma Leuk. 2020 Dec;20 (12):785-790.
7	統合的領域がん治療 専門医育成コース	Ureshino H, <u>Kamachi K</u> . Vascular events may predict the prognosis of patients with chronic myeloid leukemia. Int J Hematol. 2020 Aug;112 (2):263.
8	統合的領域がん治療 専門医育成コース	<u>Kamachi K</u> , Ando T, Tsuruoka N, Hashiguchi M, Kidoguchi K, Kusaba K, Sano H, Sano H, Yamaguchi K, Nishioka A, Yoshimura M, Yokoo M, Kubota Y, Kojima K, Kimura S. Successful Anti-TNF-Alpha Therapy for Crohn's Disease After Allogeneic Stem Cell Transplantation: A Case Report. Tohoku J Exp Med. 2020 Jun;251 (2):81-85.
9	統合的領域がん治療 専門医育成コース	Ureshino H, <u>Kamachi K</u> , Kimura S. Does patient sex play a role in treatment-free remission in chronic myeloid leukemia? Int J Hematol. 2020 Jun;111 (6):903.
10	統合的領域がん治療 専門医育成コース	Fujita M, <u>Kamachi K</u> , Yokoo M, Kidoguchi K, Kusaba K, Kizuka-Sano H, Yamaguchi K, Nishioka A, Yoshimura M, Kubota Y, Ando T, Kojima K, Kimura S. Accelerated Phase of Atypical Chronic Myeloid Leukemia with Severe Disseminated Intravascular Coagulation at Initial Presentation. Intern Med. 2020 Jun 15;59 (12):1549-1553.
11	統合的領域がん治療 専門医育成コース	Ureshino H, Koarada S, <u>Kamachi K</u> , Yoshimura M, Yokoo M, Kubota Y, Ando T, Ichinohe T, Morio T, Kimura S. Immune dysregulation syndrome with de novo CTLA4 germline mutation responsive to abatacept therapy. Int J Hematol. 2020 Jun;111 (6):897-902.
12	統合的領域がん治療 専門医育成コース	Kenta Takahashi, Eri Ishibashi, Toshio Kubo, <u>Yohei Harada</u> , Hideyuki Hayashi, Masayuki Kano, Yasushi Shimizu, Hidekazu Shiota, Yukiko Mori, Manabu Muto, Chikashi Ishioka, Hirotoshi Dosaka-Akita, Hisahiro Matsubara, Hiroshi Nishihara, Naoko Sueoka-Aragane, Shinichi Toyooka, Akihiro Hirakawa, Ukihide Tateishi, Satoshi Miyake, Sadakatsu Ikeda. A phase 2 basket trial of combination therapy with trastuzumab and pertuzumab in patients with solid cancers harboring human epidermal growth factor receptor 2 amplification (JUPITER trial) .Medicine. 2020 Jun;99:32 (e 21457) .
13	統合的領域がん治療 専門医育成コース	Tomonori Abe, Chiho Nakashima, Akemi Sato, <u>Yohei Harada</u> , Eisaburo Sueoka, Shinya Kimura, Atsushi Kawaguchi, Naoko Sueoka-Aragane. Origin of circulating free DNA in patients with lung cancer. PLOS ONE. 2020 Jul;15 (7): e0235611.
14	統合的領域がん治療 専門医育成コース	<u>Harada Y</u> , Sato A, Araki M, Matsumoto S, Isaka Y, Sagae Y, Abe T, Aoyagi Y, Sueoka E, Okuno Y, Kimura S and Sueoka-Aragane N, Integrated approach to functional analysis of an ERBB2 variant of unknown significance detected by a cancer gene panel test. Cellular Oncology, in press
15	統合的領域がん治療 専門医育成コース	<u>Yoshida-Sakai N</u> , Watanabe T, Yamamoto Y, Ureshino H, <u>Kamachi K</u> , Kurahashi Y, Fukuda-Kurahashi Y, Kimura S, Adult T-cell leukemia-lymphoma acquires resistance to DNA demethylating agents through dysregulation of enzymes involved in pyrimidine metabolism. International Journal of Cancer, in press
16	統合的領域がん治療 専門医育成コース	<u>Kamachi K</u> , Ureshino H, Watanabe T, <u>Yoshida N</u> , Yamamoto Y, Kurahashi Y, Fukuda-Kurahashi Y, Hayashi Y, Hirai H, Yamashita S, Ushijima T, Okada S, Kimura S, Targeting DNMT1 by demethylating agent OR-2100 increases tyrosine kinase inhibitors-sensitivity and depletes leukemic stem cells in chronic myeloid leukemia, Cancer Letters, 526, 273-283, 2022
17	統合的領域がん治療 専門医育成コース	Ureshino H, <u>Kamachi K</u> , Nishioka A, Okamoto S, Katsuya H, Yoshimura M, Kubota Y, Ando T, Kimura S, Subsequent attempt tyrosine kinase inhibitor discontinuation in patients with chronic myeloid leukemia; a single institute experience. Hematological Oncology, 39, 549-557, 2021
18	統合的領域がん治療 専門医育成コース	Ureshino H, Kurahashi Y, Watanabe T, Yamashita T, <u>Kamachi K</u> , Yamamoto Y, Fukuda-Kurahashi Y, <u>Yoshida-Sakai N</u> , Hattori N, Hayashi Y, Kawaguchi A, Toyama K, Okada S, Harada H, Ushijima T, Kimura S, Silylation of Deoxynucleotide Analog Yields an Orally Available Drug with Antileukemia Effects. Molecular Cancer Therapeutics, 20, 1412-1421, 2021

○和文誌

1	統合的領域がん治療 専門医育成コース	原田陽平、木村晋也。がん治療にともなう循環器合併症 化学療法による血管障害の機序と管理：BCR-ABL チロシンキナーゼ阻害薬。日本臨床。2020。第78巻 第9号：1503-1808
2	統合的領域がん治療 専門医育成コース	蒲池和晴、木村晋也。造血器腫瘍に対する新規治療法 3) 慢性骨髄性白血病に対する新規治療。腫瘍内科。26 (6)：1-7、2020

○国際学会

1	統合的地域がん治療 専門医育成コース	<u>Yohei Harada</u> , Tomomi Kashiwada, Akemi Sato, Tomonori Abe, Chiho nakashima, Eisaburo Sueoka, Shinya Kimura, Naoko Sueoka-Aragane Analysis of a novel variant of HER2 detected by clinical sequencing in cancer of unknown primary March 29 - Apr 3, 2019 (Atlanta)
2	統合的地域がん治療 専門医育成コース	<u>Kazuharu Kamachi</u> , Hiroshi Ureshino, Nao Yoshida, Yuta Yamamoto, Yuki Kurahashi, Tatsuro Watanabe, and Shinya Kimura. A Novel Oral Demethylating Agent, OR-2100, in Combination with Tyrosine Kinase Inhibitors Overcomes Resistance in Chronic Myeloid Leukemia. 22nd Annual John Goldman E-Conference on Chronic Myeloid Leukemia: Biology and Therapy. October 3, 2020 (Web)
3	統合的地域がん治療 専門医育成コース	<u>Kamachi K</u> , Ureshino H, <u>Yoshida N</u> , Yamamoto Y, Kurahashi Y, Watanabe T, Okada S, Kimura S, DNMT1 Inhibitor and TKI Combination for Deeper Response and Depleting Stem Cell Self-renewal in CML, International Symposium by Japanese Society of Hematology (Kamakura) in 2021.05.14-15
4	統合的地域がん治療 専門医育成コース	<u>Kamachi K</u> , Ureshino H, <u>Yoshida N</u> , Yamamoto Y, Kurahashi Y, Watanabe T, Okada S, Kimura S, DNMT1 inhibitor and TKI combination for deeper response and depleting stem cell self-renewal in CML, 23rd Annual John Goldman International E-Conference: Chronic Myeloid Leukemia - Biology and Therapy (Mandelieu-la-Napoule) in 2021.10.07-10
5	統合的地域がん治療 専門医育成コース	<u>Kamachi K</u> , The development of oral demethylating agent, OR-2100, and its impact on chronic myeloid leukemia, International symposium by Japanese Foundation for Cancer Reserch (Tokyo) in 2021.12.08-9

○国内学会

1	統合的地域がん治療 専門医育成コース	中島千穂、安部友範、原田陽平、佐藤明美、中村朝美、小宮一利、末岡榮三郎、木村晋也、荒金尚子。血漿遊離 DNA と細胞外小胞関連 DNA の関係についての探索。日本癌学会学術集会（大阪）2018年9月27日
2	統合的地域がん治療 専門医育成コース	安部友範、原田陽平、中島千穂、佐藤明美、末岡榮三郎、木村晋也、荒金尚子。血中循環腫瘍 DNA は腫瘍進展と関連する。日本癌学会学術集会（大阪）2018年9月27日
3	統合的地域がん治療 専門医育成コース	原田陽平、柏田知美、佐藤明美、安部友範、中島千穂、末岡榮三郎、木村晋也、荒金尚子。原発不明癌で認めた新規の ERBB2遺伝子変異の解析。日本癌学会学術集会（大阪）2018年9月27日
4	統合的地域がん治療 専門医育成コース	<u>Yohei Harada</u> , Tomomi Kashiwada, Akemi Sato, Tomonori Abe, Chiho nakashima, Eisaburo Sueoka, Shinya Kimura, Naoko Sueoka-Aragane Analysis of a novel mutation of ERBB2 in cancer of unknown primary 臨床腫瘍学会 2019年7月18日（木）～20日（京都）
5	統合的地域がん治療 専門医育成コース	蒲池和晴、慢性骨髄性白血病に対する新規経口 DNA 脱メチル化剤 OR-2100の効果の検討、第23回分子標的治療学会（大阪）2019年6月13日
6	統合的地域がん治療 専門医育成コース	蒲池和晴、Mogamulizumb 投与後も T 細胞再構築が得られず EBV 関連中枢神経原発 B 細胞リンパ腫を発症した ATL、第6回日本 HTLV1学会（宮崎）2019年8月24日
7	統合的地域がん治療 専門医育成コース	蒲池和晴、佐賀大学における double-hit lymphoma, double expressor lymphoma 症例の診断・治療、第66回日本臨床検査医学会（岡山）2019年11月23日
8	統合的地域がん治療 専門医育成コース	吉田奈央、当院における double-hit lymphoma の後方視的解析 第81回 日本血液学会（東京）2019年10月11日-13日
9	統合的地域がん治療 専門医育成コース	原田陽平、佐藤明美、末岡榮三郎、木村晋也、荒金尚子。クリニカルシーケンスで認めた高アレル頻度の新規 HER2変異の遺伝 日本人類遺伝学会第65回大会、Web 開催、2020年11月18日
10	統合的地域がん治療 専門医育成コース	蒲池和晴、嬉野博志、吉田奈央、山本雄大、倉橋 祐樹、渡邊達郎、木村晋也。慢性骨髄性白血病に対する新規経口 DNA 脱メチル化剤 OR-2100の効果は、p53発現により異なる。第24回 日本がん分子標的治療学会 徳島（Web 開催）、2020年10月7日
11	統合的地域がん治療 専門医育成コース	<u>Kazuharu Kamachi</u> , Hiroshi Ureshino, Nao Yoshida, Yuta Yamamoto, Yuki Kurahashi, Tatsuro Watanabe, and Shinya Kimura. The new demethylating agent OR-2100 increases the anti-tumor effect of TKIs and depletes leukemic stem cells in CML. The 82nd Annual Meeting of the Japanese Society of Hematology. October 10, 2020 (Web)
12	統合的地域がん治療 専門医育成コース	吉田奈央、渡邊達郎、倉橋祐樹、蒲池和晴、嬉野博志、山本雄大、木村晋也「ATLL 細胞における DNA 脱メチル化剤耐性獲得機序の解明」第24回日本がん分子標的治療学会学術集会、徳島グランヴィリオホテル（ハイブリッド開催）2020年10月6日～8日

○国内学会（つづき）

13	統合的地域がん治療専門医育成コース	吉田奈央、渡邊達郎、倉橋祐樹、蒲池和晴、嬉野博志、山本雄大、木村晋也「Molecular mechanisms of resistance to DNA demethylating agents in adult T-cell leukemia lymphoma」第82回 日本血液学会学術集会 2020年10月9日～11日、京都国際会議場（Web開催）
14	統合的地域がん治療専門医育成コース	原田陽平. 心血管傷害を合併した患者のがん化学療法（シンポジウム）. 第4回腫瘍循環器学会学術集会（WEB開催）2021年10月12日
15	統合的地域がん治療専門医育成コース	蒲池和晴、嬉野博志、吉田奈央、山本雄大、倉橋祐樹、渡邊達郎、木村晋也、経口 DNA 脱メチル化剤 OR-2100は慢性骨髄性白血病幹細胞の自己複製を抑制し TKI の抗腫瘍効果を高める、第25回 日本がん分子標的治療学会（東京）2021年5月26-28日
16	統合的地域がん治療専門医育成コース	蒲池和晴、嬉野博志、吉田奈央、山本雄大、倉橋祐樹、渡邊達郎、岡田誠治、木村晋也、Novel orally available hypomethylating agent OR-2100 impairs CML stem cell、83回日本血液学会学術集会（仙台）2021年9月23-25日
17	統合的地域がん治療専門医育成コース	吉田奈央、渡邊達郎、嬉野博志、倉橋祐樹、蒲池和晴、山本雄大、木村晋也、ALK 陽性大細胞型リンパ腫に対する DNA 脱メチル化剤の抗腫瘍効果、第25回癌分子標的治療学会（Web開催）2021年5月26-28日

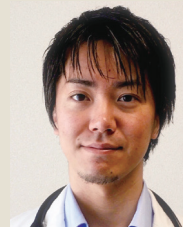
○その他（受賞等）

1	統合的地域がん治療専門医育成コース	蒲池和晴：第6回日本 HTLV1学会学術集会 宇都宮賞、2019年8月24日
2	統合的地域がん治療専門医育成コース	吉田奈央：第24回日本がん分子標的治療学会学術集会 優秀ポスター受賞 2020年10月6日～8日

学生・修了生の感想

統合的地域がん治療専門医育成コース 原田 陽平

研究テーマ「日本人の化学療法を行う根治切除不能悪性腫瘍患者における静脈血栓塞栓症の予知バイオマーカーとリスクスコアの検討」「クリニカルシーケンスで得られた新規 HER2変異の機能解析」



私は、2018（平成30）年度に、佐賀大学の「統合的地域がん治療専門医育成コース」に入学しました。

私は、平成29年度血液専門医、平成30年度にがん薬物療法専門医を取得しておりますが、上司からの勧めもあり、がんプロでのセミナーや講義に参加させて頂くためにコースに入らせて頂きました。現在は上記のがん関連 VTE に関連する臨床研究と、がん遺伝子に関する基礎研究を主に行っております。

最近では、院内のがんゲノム医療に関わらせて頂く機会も多くなっており、臨床遺伝専門医の取得のための研修を開始しております。研修では院内の遺伝カンファレンスや関連学会への参加、また患者さんへの遺伝外来での結果説明にも同席させていただいています。順調に研修が進めば令和3年度に「臨床遺伝専門医」の受験資格を得る予定であり、専門医を取得して専門性の幅を広げたいと思っております。

統合的地域がん治療専門医育成コース 蒲池 和晴

研究テーマ「慢性骨髄性白血病におけるエピゲノム異常」

私は、2018（平成30）年度に、佐賀大学の「統合的地域がん治療専門医育成コース」に入学しました。



私は、血液内科医として6年間地域医療に従事し、平成29年に血液専門医を取得しました。がんの生物学に興味があり、がんプロで血液がんのみならず他のがんのセミナーや講義に参加させて頂くためにコースに入らせて頂きました。私は慢性骨髄性白血病におけるエピゲノム異常、特にDNAメチル化異常をテーマに研究を始め、DNAメチル化異常が慢性骨髄性白血病の治療標的となることを論文として報告することができました。今後は、研究マインドを持って臨床現場に貢献していきたいと考えています。また、がん薬物療法専門医取得にむけて研修を続けて参ります。

総括

実現できたこと

- ・がんプロ事業をがん治療に関わる各科医師、看護師、薬剤師、検査技師など多職種の横断的組織である臨床腫瘍班に組み込み全学的な取り組みに変更した。
- ・履修生が、がん薬物療法専門医（1名）、臨床遺伝専門医専門医（1名）、血液内科専門医（1名）を取得し、また、3名が英文論文報告を行った。
- ・履修者からがんゲノム診療部門に参加しがんゲノム外来を担当するなど実践にも至った。

課題（今後に向けての予定）

- ・臨床腫瘍班を介した、がん薬物療法専門医養成のための診療協力体制強化を継続する。
- ・地域がん診療拠点病院との連携を強化する。
- ・大学院生の獲得および、eラーニングを用いた九州がんプロ「新ニーズに対応するがん専門医療人養成インテンシブコース」など多様な手段を利用し多職種での人材育成を継続する。

長崎大学

コーディネーター教員

大学院医歯薬学総合研究科 臨床腫瘍学分野 教授 芦澤 和人



各コースの内容

1. ゲノム医療人材養成コース

受入開始時期	平成30年4月	修業年限(期間)	4年
対象者	大学院医歯薬学総合研究科(医療科学専攻、新興感染症病態制御学系専攻、放射線医療科学専攻)大学院生		
養成すべき人材像	・ゲノム情報を解析し、その結果を利用して患者のオーダーメイド治療を行えるがん専門医療人 ・乳がんを初めとした遺伝性疾患のカウンセリングを行えるがん専門医療人		
教育内容の特色等(新規性・独創性等)	がん診療における標準的な治療法に加えて、基礎系の教室の協力を得て基礎腫瘍学、ゲノム医療を学ぶことにより、ゲノム情報を解析しその結果を患者に還元できる臨床腫瘍医を育成する。また、医歯薬学総合研究科の革新的ながん治療・予防研究ユニットと共同で整備が進む病院内の「ゲノム診療センターがんゲノム診療部門」のもと、カンサーボード等を通して大学院生の教育を行う。		
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	将来的には、病院内の「ゲノム診療センターがんゲノム診療部門」の運用において中心的役割を担う。また、免疫チェックポイント阻害剤や分子標的薬の適正使用の指導的役割を果たす。		

2. 包括的がん専門医療人養成コース

受入開始時期	平成30年4月	修業年限(期間)	4年
対象者	大学院医歯薬学総合研究科(医療科学専攻、新興感染症病態制御学系専攻、放射線医療科学専攻)大学院生		
養成すべき人材像	・小児・AYA世代・壮年・高齢者といったライフステージに応じたがん対策を行えるがん専門医療人 ・在宅医療を認識し緩和医療を推進できるがん専門医療人		

教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	小児科や産婦人科、緩和ケアセンター等を含めた診療科横断的な連携、さらには薬剤師・看護師・理学療法士等の多職種連携に基づいて教育を行う。また、在宅医療で先進的取り組みを行っている長崎市医師会 Dr ネットの協力のもと実習を行うことで、在宅医療を理解、推進できる医療者の育成が可能である。
教育プログラム・ コース修了者のキャリアパス構想	ライフステージに応じたがん対策を推進でき、また在宅医療や緩和医療の知識を習得することで、大学病院や地域拠点病院等のがん診療を担う医療機関において中心的役割を果たす。

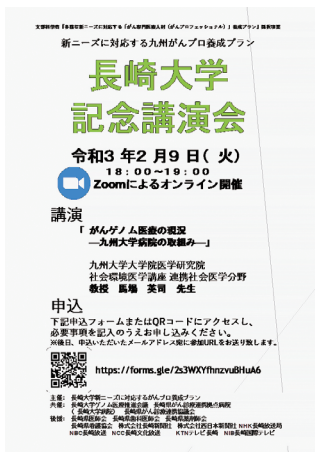
3. がん看護専門看護師養成コース

受入開始時期	平成30年4月	修業年限(期間)	2年
対象者	大学院医歯薬学総合研究科(保健学専攻)大学院生		
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・がんに関する高度な知識と緩和ケアにおける専門医療人 ・チーム医療(多職種連携・地域連携)を意識した専門医療人 		
教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	修了単位数を12単位増加し42単位にして次の特色を強化した。①理学・作業療法士、歯科医師の視点を加え多職種連携に基づいた効果的な緩和ケア・がんマネジメントの充実、②在宅ホスピスの実習等、地域連携における社会資源の活用方法や様々なライフステージにあるがん患者の緩和ケアの充実、③ Cancer Board、e-learning の活用、地域も含めた緩和ケアカンファレンス等の多角的な視点での教育展開。		
教育プログラム・ コース修了者のキャリアパス構想	日本看護協会「がん看護専門看護師」の認定審査を受けることができる。合格後は専門看護師として緩和ケアを中心として病院だけでなく訪問看護ステーションや在宅ホスピスなどで幅広く活動できる。特に病院内では横断的な活動ができ、質の高いがん医療の中心的存在となりうる。		

主な取り組みと成果

1. がんゲノム医療人材養成コース

毎年、受け入れ目標人数前後の大学院生が本コースを選択した。がんゲノム医療のコンテンツを必須として、本学では e-learning の聴講を単位化しており、大学院生は、がんゲノム医療を含めて幅広くがん医療に関して学んだ。がんプロ大学院生は、本学主催のがんプロ記念講演会への出席を原則必須としているが、4年連続でがんゲノムに関する講演会を開催した(年度内に1回開催予定)。また、がんプロの教員や医療スタッフ中心に、がんゲノム医療に関して先進的な取り組みを行っているがんゲノム医療中核拠点病院等



がんプロ記念講演会

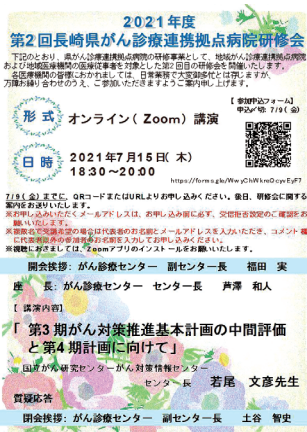


Cancer board

のエキスパートパネルに積極的に参加した。2019年9月に、長崎大学病院が「がんゲノム医療拠点病院」に指定され、県内の佐世保市総合医療センターおよび長崎医療センターが、当院の「がんゲノム医療連携病院」に指定された。長崎大学病院に設置された「ゲノム診療センターがんゲノム診療部門」が運用するがん遺伝子パネル検査症例においては、大学院生はエキスパートパネル（genomic cancer board：GCB）や、その結果を受けて治療方針等を決定する院内がんボードに参加し、がんゲノム医療の基本を学んだ。

2. 包括的がん専門医療人養成コース

毎年、受け入れ目標人数前後の大学院生が本コースを選択した。ライフステージに応じたがん医療のコンテンツを必須として、本学では e-learning の聴講を単位化しており、大学院生は幅広くがん医療に関して学んだ。毎年年間4回開催される、大学病院がん診療センター主催の多職種を対象としたがん診療連携拠点病院研修会を共催しているが、大学院生はテーマに応じて研修会に積極的に参加した。テーマとしては、AYA 世代の妊よう性の問題や患者の支援、ACP（アドバンスケアプランニング）、希少がん、がんと血栓症、免疫チェックポイント阻害薬、在宅緩和ケアなどである。大学院生は薬物療法および緩和ケアに関する実習（取得すべき必須の単位）、および種々のカンファレンスに参加し、チーム医療、多職種連携の重要性を学んだ。また、本コースでは、在宅医療実習ないし離島・僻地実習を必須としているが、この実習を通して地域医療や離島・僻地医療を理解し、高齢者を中心にライフステージに応じたがん対策を推進する人材育成を行っている。



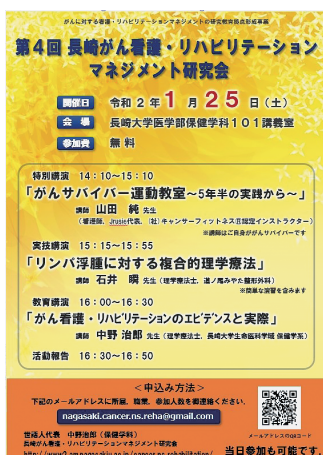
2021年度がん診療連携拠点病院研修会



2019年度がん診療連携拠点病院研修会

3. がん専門看護師養成コース

平成31年度、令和元年度に1名ずつの大学院生が本コースを選択した。がん医療のコンテンツに関しては、本学では e-learning の聴講を単位化しており、大学院生は幅広くがん医療に関して学んだ。がん看護



令和元年度長崎がん看護・リハビリテーションマネジメント研究会

に関しては、がんプロの教員や現役のがん看護専門看護師を中心に、薬物療法や緩和ケア、看護援助論等の講義を行うと同時に、実際の活動状況、介入方法等も学んだ。また、理学療法士、作業療法士、薬剤師、管理栄養士等、様々な職種の視点からの講義を受けることでチーム医療や多職種連携の重要性を学んだ。院内がんボードや多職種を対象とした、がん看護・リハビリテーションマネジメント研究会への参加や、在宅ホスピス病院での実習を行った。この実習を通して地域医療を理解し、ライフステージや家庭状況に応じたがん看護を実践する人材育成を行っている。

英文誌・和文誌・国際学会・国内学会等での発表一覧

○英文誌

1	ゲノム医療人材養成コース	<u>Dotsu Y</u> , Fukuda M, Honda N, Gyotoku H, Kohno Y, Suyama T, Umeyama Y, Taniguchi H, Takemoto S, Yamaguchi H, Miyazaki T, Sakamoto N, Obase Y, Ikeda H, Ashizawa K, Mukae H. Dabrafenib and Trametinib therapy in an elderly patient with non-small cell lung cancer harboring the BRAF V600E mutation. <i>Thorac Cancer</i> . 2020;12:272-6.
2	ゲノム医療人材養成コース	Ikeda T, Takemoto S, Senju H, Gyotoku H, Taniguchi H, Shimada M, <u>Dotsu Y</u> , Umeyama Y, Tomono H, Kitazaki T, Fukuda M, Soda H, Yamaguchi H, Fukuda M, Mukae H. Amrubicin in previously treated patients with malignant pleural mesothelioma: A phase II study. <i>Thorac Cancer</i> . 2020;11:1972-8
3	ゲノム医療人材養成コース	Sonoda Y, Sasaki Y, Gunji A, Shirai H, <u>Araki T</u> , Imamichi S, Onodera T, Rydén AM, Watanabe M, Itami J, Honda T, Ashizawa K, Nakao K, Masutani M, Reduced Tumorigenicity of Mouse ES Cells and the Augmented Anti-Tumor Therapeutic Effects under Parg Deficiency, <i>Cancers (Basel)</i>
4	ゲノム医療人材養成コース	<u>Akagi K</u> , Kubo T, Miyashita R, Kondo A, Ehara N, Takazono T, Sakamoto N, Mukae H, Morita K, Fukushima K. Clinical evaluation of conventional human coronavirus infection in adults. <i>Jpn J Infect Dis</i> . 2021 Aug 31.
5	ゲノム医療人材養成コース	Fukushima K, Kubo T, <u>Akagi K</u> , Miyashita R, Kondo A, Ehara N, Takazono T, Sakamoto N, Mukae H. Clinical evaluation of QuantiFERON®-TB Gold Plus directly compared with QuantiFERON®-TB Gold In-Tube and T-Spot®.TB for active pulmonary tuberculosis in the elderly. <i>J Infect Chemother</i> . 2021 Dec;27 (12) :1716-1722.
6	ゲノム医療人材養成コース	Takemoto S, <u>Akagi K</u> , Ono S, Tomono H, Honda N, Suyama T, Umeyama Y, Dotsu Y, Taniguchi H, Ogawara D, Senju H, Gyotoku H, Sugasaki N, Yamaguchi H, Nakatomi K, Fukuda M, Mukae H. Efficacy of S-1 after pemetrexed in patients with non-small cell lung cancer: A retrospective multi-institutional analysis. <i>Thorac Cancer</i> . 2021 Sep;12 (17) :2300-2306.
7	ゲノム医療人材養成コース	<u>Dotsu Y</u> , Muraoka D, Ogo N, Sonoda Y, Yasui K, Yamaguchi H, Yagita H, Mukae H, Asai A, Ikeda H. Chemical augmentation of mitochondrial electron transport chains tunes T-cell activation threshold in tumors. <i>J Immunother Cancer</i> . In press.
8	ゲノム医療人材養成コース	<u>Dotsu Y</u> , Yamaguchi H, Fukuda M, Suyama T, Honda N, Umeyama Y, Taniguchi H, Gyotoku H, Takemoto S, Tagawa R, Ogata R, Tomono H, Shimada M, Senju H, Nakatomi K, Nagashima S, Soda H, Ikeda H, Ashizawa K, Mukae H. Real-world incidence of febrile neutropenia among patients treated with single-agent amrubicin: Necessity of the primary prophylactic administration of granulocyte colony-stimulating factor. <i>J Clin Med</i> . 10 (18) :4221, 2021.
9	ゲノム医療人材養成コース	Takemoto S, Akagi K, Ono S, Tomono H, Honda N, Suyama T, Umeyama Y, <u>Dotsu Y</u> , Taniguchi H, Ogawara D, Senju H, Gyotoku H, Sugasaki N, Yamaguchi H, Nakatomi K, Fukuda M, Mukae H. Efficacy of S-1 after pemetrexed in patients with non-small cell lung cancer: A retrospective multi-institutional analysis. <i>Thorac Cancer</i> . 12 (17) :2300-2306, 2021.
10	包括的がん専門医療人養成コース	Tetsuro Tominaga, Takashi Nonaka, Makoto Hisanaga, Akiko Fukuda, Yukinori Tanoue, Takafumi Yoshimoto, Shigekazu Hidaka, Terumitsu Sawai, Takeshi Nagayasu Prognostic value of the preoperative prognostic nutritional index in oldest-old patients with colorectal cancer Surgery today 2019 Nov 12. doi: 10.1007/s00595-019-01910-w.
11	包括的がん専門医療人養成コース	Takeo S, <u>Tanoue Y</u> , Hamada R, Kawano F, Tashiro K, Wada T, Ikenoue M, Nanashima A, Nakamura K Utility of thoracic cage width in assessing surgical difficulty of minimally invasive esophagectomy in left lateral decubitus position. <i>Surg Endosc</i> .2019 Oct 1. doi: 10.1007/s00464-019-07125-x.

12	包括的がん専門医療人養成コース	Takeo S, Tanoue Y , Hamada R, Kawano F, Tashiro K, Wada T, Nanashima A Drainage Tubeless (DRESS) Bypass Surgery as the Best Palliative Care for Unresectable Thoracic Esophageal Cancer with and without Esophago-Respiratory Fistula. Ann Thorac Cardiovasc Surg. 2019 Apr 20;25 (2) :82-86. doi: 10.5761/atcs.0a.18-00170.
13	包括的がん専門医療人養成コース	Nishimura T , Sueyoshi E, Tasaki Y, Uetani M. Asymptomatic floating thrombus in the ascending aorta depicted on four-dimensional computed tomography. SAGE Open Med Case Rep. 8: 1-4, 2020
14	包括的がん専門医療人養成コース	Sueyoshi E, Iwano Y, Oka T, Nishimura T , Honda T, Kawaguchi Y, Koike H, Nagayama H, Sakamoto I, Uetani M. The Successful Treatment of an Ilio-Iliac Fistula and Aneurysms Affecting the Abdominal Aortic and Iliac Arteries via Endovascular Stent Graft Repair. Vasc Endovascular Surg. 55 (1) : 91-94, 2021
15	包括的がん専門医療人養成コース	Atsushi Nanashima, Yukinori Tanoue , Tatefumi Sakae, Isao Tsuneyoshi, Masahide Hiyoshi, Naoya Imamura, Takeomi Hamada, Koichi Yano, Takahiro Nishida, Mitsutoshi Ishii, Takeshi Nagayasu, Kunihide Nakamura, Relationship between hepatic venous anatomy and hepatic venous blood loss during hepatectomy, Surg Today. 2021 Dec;51 (12) :1953-1968. doi: 10.1007/s00595-021-02314-5. Epub 2021 Jun 15.
16	包括的がん専門医療人養成コース	Atsushi Nanashima, Yukinori Tanoue , Naoya Imamura, Masahide Hiyoshi, Koichi Yano, Takeomi Hamada, Takahiro Nishida, Kengo Kai, Yasuto Suzuki, Yuichiro Sato, Koji Nakashima, Ayumu Hosokawa, Takeshi Nagayasu, Rare resected eight cases of duodenal adenocarcinomas, Int J Surg Case Rep. 2021 Sep;86:106384. doi: 10.1016/j.ijscr.2021.106384. Epub 2021 Sep 7.

○和文誌

1	ゲノム医療人材養成コース	荒木智徳、佐々木由香、小野寺貴恵、 園田悠紀 、鳥谷直紀、石飛俊介、今道祥二、高木正稔、益谷美都子 PARP と PARG を標的とする抗がん剤のバイオマーカー、34, 9, 951-958, BIO Clinica
2	ゲノム医療人材養成コース	福田実、山口博之、竹本真之輔、千住博明、行徳宏、道津洋介、梅山泰裕、土屋暁美、池田奈津子、能勢誠一、本田琢也、小林和真、石井浩二、迎寛、芦澤和人。呼吸器系胸部悪性疾患に対する外来薬物療法の動向。癌と化学療法、2020；47（4）：1461-4.
3	ゲノム医療人材養成コース	Akagi K , Fukushima K, Miyashita R, Kaneko Y, Ehara N, Kondo A, Kubo T, Mukae H. TUBERCULOUS PLEURAL EFFUSION DIAGNOSED BY NEGATIVE CONTROL VALUE OF QUANTIFERON®:A PROSPECTIVE COHORT STUDY. Kekkaku96,7,191-194,2021.12
4	包括的がん専門医療人養成コース	中司交明、近藤正道、白石斗士雄、福嶋絢子、 田上幸憲 、黨和夫、岡忠之 肺アスペルギルス症に対する手術 胸部外科 73 (2) 83-86 2020年 2月
5	包括的がん専門医療人養成コース	内田史武、島義勝、中司交明、 田上幸憲 、原亮介、谷口善孝、福田俊郎 CT で術前診断し虫垂の温存とメッシュを用いたヘルニア修復が可能であった de Garengeot hernia の 1 例 外科 82 (1) 79-82 2020年 1月

○国際学会

1	包括的がん専門医療人養成コース	Hironori Sawase , Eisuke Ozawa, Naohiro Komatsu, Takayuki Ohishi, Takuya Honda, Emiko Udo, Bungo Furusato, Satoru Iwasa, Mitsuko Masutani, Kazuto Ashizawa, Kazuhiko Nakao Novel ERCC-1 antibody as a possible marker for predicting the effect of FOLFIRINOX for unresectable pancreatic cancer. APDW2019 (KOLKOTA, India) 2019.12.14
2	包括的がん専門医療人養成コース	Nishimura T , Sueyoshi E, Koike H, Uetani M, 4D-Flow MRI of the Thoracic Aorta in Patients with Various Heart Diseases. Radiological Society of North America 2020 (Chicago) 2020.11.29-12.05
3	包括的がん専門医療人養成コース	Tasaki Y , Sueyoshi E, Sakamoto I, Uetani M, Pictorial Review of Cardiac Tamponade: What Radiologists Needs to Know. The Radiological Society of North America

○国内学会

1	ゲノム医療人材養成コース	道津洋介 Pembrolizumab の治療効果の乖離により発見し得た PD-L1高発現肺線癌と PD-L1陰性小細胞肺癌の 2 重癌の 1 例。第42回日本呼吸器内視鏡学会学術集会（東京）2019年 7月 4日
2	ゲノム医療人材養成コース	道津洋介 低分子化合物による抗原認識能の向上作用の機構解明と大腸癌マウスモデルにおける腫瘍浸潤 T 細胞への影響の解析。第23回日本がん免疫学会総会（高知）2019年 8月 22日

○国内学会（つづき）

3	ゲノム医療人材養成コース	道津洋介 Low molecular compound promotes tumor antigen recognition and enhances the effector function of tumor infiltrating lymphocytes in cancer-bearing mouse model. 第78回日本癌学会学術総会（京都）2019年9月28日
4	ゲノム医療人材養成コース	道津洋介. NF- κ B シグナリングを介して腫瘍抗原直接認識能を向上する低分子化合物は腫瘍抗原特異的 T 細胞輸注療法の効果を増強する. 第24回日本がん分子標的治療学会学術集会（Web、徳島）2020年10月6日
5	ゲノム医療人材養成コース	道津洋介. NF- κ B シグナリングを介して腫瘍抗原直接認識能を向上する低分子化合物は腫瘍抗原特異的 T 細胞輸注療法の効果を増強する. 第24回日本がん免疫学会総会（Web、札幌）2020年10月7日
6	ゲノム医療人材養成コース	園田悠紀、佐々木由香、荒木智徳、今道祥二、小野寺貴恵、渡邊昌俊、中尾一彦、益谷美都子、Parg deficiency shows reduced tumorigenicity of mouse ES cells and the augmented anti-tumor therapeutic effects、第79回日本癌学会学術総会、2020年10月1日 -31日
7	ゲノム医療人材養成コース	荒木智徳、佐々木由香、小野寺貴恵、中尾一彦、益谷美都子、Effects of PARP inhibitors on epigenetic regulation、第79回日本癌学会学術総会、2020年10月1日 -31日
8	ゲノム医療人材養成コース	道津洋介. 高齢者 BRAF V600E 遺伝子変異陽性肺癌に対する Dabrafenib+Trametinib 併用療法症例の検討. 第332回日本内科学会九州地方会（Web、福岡）2021年1月9日
9	ゲノム医療人材養成コース	Akagi K, et al. Quantitation of ramucirumab concentration by LC-MS/MS with nSMOL method and pharmacokinetics in NSCLC patients. 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会（京都）2022年2月17日予定
10	ゲノム医療人材養成コース	道津洋介、低分子化合物によるミトコンドリア機能の制御は、不十分な抗原刺激下における T 細胞をも活性化し、抗 PD-1 抗体療法の有効性を導く. 第25回日本がん免疫学会総会（和歌山）2021年7月3日
11	ゲノム医療人材養成コース	道津洋介、The compound activating mitochondrial respiration leads PD-1 blockade efficacy even in a low immunogenic tumor. 第80回日本癌学会学術総会（Web、横浜）2021年9月30日
12	ゲノム医療人材養成コース	道津洋介、アムルピシン療法に関する後方視的多施設共同研究からみる G-CSF 一次予防的投与の検討. 第59回日本癌治療学会学術集会（Web、横浜）2021年10月21日
13	ゲノム医療人材養成コース	道津洋介、ミトコンドリア活性化を介する新基軸代謝化合物による新規がん免疫治療の開発. 第46回長崎障害者支援再生医療研究会（Web、長崎）2021年12月9日
14	包括的がん専門医療人養成コース	Tasaki Y, Sueyoshi E, Sakamoto I, Uetani M, Mochiduki Y. The patency after balloon percutaneous transluminal angioplasty of access circuits and venous routes using CO2-DSA versus conventional DSA (C-DSA) in hemodialysis patients. 第78回日本医学放射線学会総会 2019.4.12-14
15	包括的がん専門医療人養成コース	田崎裕太郎、山崎拓也、高比良飛香、中村太祐、江川亜希子、上谷雅孝、岩永聡. ペバシズマブ投与後に胸椎転移に対する放射線治療にて Grade3の放射線食道炎が出現した1例. 九州放射線治療セミナー
16	包括的がん専門医療人養成コース	Tasaki Y, Sueyoshi E, Sakamoto I, Uetani M, Mochiduki Y. The patency after balloon percutaneous transluminal angioplasty of central venous routes in hemodialysis patients. 第60回日本脈管学会総会会期 2019.10.10-12
17	包括的がん専門医療人養成コース	福嶋絢子、乳癌胸骨単独転移に対する胸骨部分切除の一例、第55回九州内分泌外科学会（鹿児島）2019年5月17日
18	包括的がん専門医療人養成コース	田上幸憲、富永哲郎、野中隆、久永真、福田明子、原亮介、吉元崇文、石丸和英、澤井照光、永安武 超高齢者大腸癌患者における術前 Prognostic nutritional index と長期予後に関する検討 第81回日本臨床外科学会総会 2019.11.14-16
19	包括的がん専門医療人養成コース	澤瀬寛典、小澤栄介、岩津伸一、小松直広、有働恵美子、古里文吾、岩佐悟、益谷美都子、中尾一彦 ERCC1抗体による FOLFIRINOX 療法の治療効果予測 第50回日本脾臓学会大会（東京）2019.7.12
20	包括的がん専門医療人養成コース	澤瀬寛典、小澤栄介、足立智彦、二口充、中尾一彦 遠位胆管癌の術前 ERCP 第108回日本消化器内視鏡学会九州支部例会（宮崎）2019.11.9
21	包括的がん専門医療人養成コース	澤瀬寛典 ERCP 中の高 CO2 血症防止における Nasal high flow の有用性の検討（単施設無作為化比較研究）第56回日本胆道学会学術集会 2020年10月1-2日
22	包括的がん専門医療人養成コース	小松直広、小澤栄介、中尾一彦、澤瀬寛典、長田和義、福島真典 生体肝移植後胆管吻合部狭窄に対する自己拡張型カバード金属ステントの単施設前向きパイロット研究 第56回日本胆道学会学術集会 2020年10月1-2日

23	包括的がん専門医療人養成コース	馬渡将語、澤瀬寛典、中村裕、佐々木龍、小澤栄介、桐野祐子、宮崎泰司、中尾一彦 高Ca血症により発症した急性膵炎の1例 日本内科学会第332回九州地方会 [web開催] 2021年1月9日
24	包括的がん専門医療人養成コース	Yukinori Tanoue; Makoto Ikenoue; Takashi Wada; Takeomi Hamada; Koichi Yano; Naoya Imamura; Masahide Hiyoshi; Atsushi Nanashima, Study of hepatic reserve parameters including remnant GSA-Rmax and post-hepatectomy complications, 第75会日本消化器外科学会総会 2020.12.15-17
25	包括的がん専門医療人養成コース	澤瀬寛典、小澤栄介、長田和義、小松直広、中尾一彦、藤・消化管領域における診断的EUSとEUS-FNAの現状と展望 当院におけるEUS-FNAを用いた膵腫瘍診断の現状、第117回日本消化器病学会九州支部例会・第111回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 2021.6.12
26	包括的がん専門医療人養成コース	田邊優介、島村拓弥、遠山志穂、平井哲、澤瀬寛典、井手康史、大腸内視鏡像でアメーバ病変を伴い栄養型アメーバ虫体を認めた症候性のアメーバ性大腸炎の1例、日本内科学会第334回九州地方会 2021.8.28
27	包括的がん専門医療人養成コース	内田大介、島村拓弥、遠山志穂、平井哲、澤瀬寛典、井手康史、便潜血検査を契機に発見した早期大腸印環細胞癌の1例、日本内科学会第334回九州地方会 2021.8.28
28	包括的がん専門医療人養成コース	西村考真、森雅一、松山直弘、大坪まゆみ、重野賢也、胆嚢経由ランデブー法による胆管ステント留置に成功した胆管損傷の1例、第43回九州IVR研究会(Web開催) 2021年12月18日
29	包括的がん専門医療人養成コース	田上幸憲、土谷智史、岩竹真弓、吉元崇文、中司交明、高村祐磨、松本桂太郎、宮崎拓郎、朝重耕一、土肥良一郎、永安武、ラット肺移植モデルを用いた脂肪由来間葉系幹細胞の投与タイミングの違いによる免疫抑制効果の検討、第47回日本臓器保存生物医学学会学術集会 2020/11/12-13 (東京)
30	包括的がん専門医療人養成コース	岩野佑介、経過を追えたCiliated muconodular papillary tumorの2切除例、第35回胸部放射線研究会(WEB) 2021年9月17日
31	包括的がん専門医療人養成コース	岩野佑介、前縦隔に発生したmucinous adenocarcinomaの一例(WEB)、第61回日本肺癌学会九州支部学術集会(WEB) 2021年2月27-28日

○国内学会

1	ゲノム医療人材養成コース	道津洋介：令和2年度長崎医学同窓会医学研究助成金、2020年5月28日
---	--------------	-------------------------------------

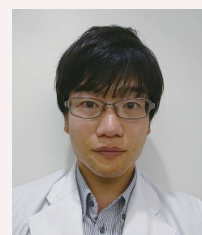
学生・修了生の感想

・包括的がん専門医療人養成コース 田崎 裕太郎

研究テーマ「Outcomes of stereotactic radiotherapy for vestibular schwannoma」

私は、手術、放射線治療、化学療法その他のがん医療に関わる専門的な知識、技能を身につけたく当コースに入学しました。その道の第一人者である講師の方々の授業を拝聴し、自身の臨床研究を進める中で、がんに関する知識や理解が日に日に深まっていくことを感じます。また在学期間中に私は、「放射線科専門医」の資格を取得しました。特にがんの画像評価や放射線治療について深く学び、研究することは、日々の臨床でも非常に役立っています。

現在、私はがん患者を主体としての外来と臨床研究を行っています。今後も、コース内で学び、日々の外来を行うことによって生まれてくる、様々なクリニカルエクシジョンに挑む臨床研究を続けていきたいと考えています。



・がん看護専門看護師養成コース 小坂 容子

私は、2020（令和2）年度に、長崎大学の「がん看護専門看護師養成コース」を修了しました。

私は外来化学療法室に勤務する中で、治療を受けることで足裏に水疱ができ歩行するにも痛みが生じた患者さんや足の爪が無くなった患者さん、療養環境や金銭的な問題から治療を受けること自体に困難を抱える患者さんやそのご家族に関わっていました。このような様々な困難や苦痛を抱えるがん患者さんとそのご家族に対してどのような看護を提供していけば良いのかを深く学びたいと考え、このコースへ入学しました。

病態生理や治療、薬剤に関する勉強だけでなく、在宅への訪問診療へ同行させて頂いたり、大学病院に勤務されているがん看護専門看護師の方から直接指導いただいたり、実践されている看護を教えて頂きました。多くのことを学ばせて頂いただけでなく、自分の甘さや病態や薬剤などの知識の不足など、自分自身の課題を見つけることが出来ました。

今後は、外来化学療法室に通院される患者さんやそのご家族に対して、このコースで学んだことを生かした看護を実践しながら、「がん看護専門看護師」資格の取得を目指したいと考えています。

総括

実現できたこと

がん看護専門看護師養成コースにおいて、受入目標数に達することができなかったが、がんゲノム医療人材養成コースおよび包括的がん専門医療人養成コースにおいては、ほぼ受入目標数の大学院生を受け入れることができた。がんゲノム医療およびライフステージに応じたがん医療の各目的に応じた e-learning の聴講による基本知識の習得、種々の研修会、講演会への参加を促すことで、多職種人材養成を推進できたと考える。がんゲノム医療では、遺伝子パネル検査症例のエキスパートパネル（genomic cancer board : GCB）や、その結果を受けて治療方針等を決定する院内がんボードへの参加により、がんゲノム医療の臨床応用への理解に繋がったと思われる。ライフステージに応じたがん診療では、薬物療法および緩和ケアに関する実習でチーム医療の重要性を学ぶだけでなく、第2期がんプロで導入した在宅医療ないし離島・僻地実習を継続して行ったことで、がん患者の高齢化の問題を抱える地域医療の位置づけや重要性を認識できたと考える。

課題（今後に向けての予定）

第3期がんプロでの薬剤師の受け入れはなかったが、薬学部の6年生移行に伴い薬剤師コースのニーズに関して見直しを行っており、今後は薬剤師を対象から外す予定である。また、当大学保健学科の方針により、がん看護専門看護師養成コースの廃止が決定しているが、遺伝カウンセリング育成の修士課程のコースがあり、第4期がんプロ事業においては、がんプロのコースとして設定を検討する。他の2コースは、これまで同様、大学院生の受け入れを行っていく方針である。当大学は、第2期がんプロから本がんプロへの学生の移行が認められていないため、第3期がんプロ期間中の研究業績や専門医等の取得が少ないが、第2期がんプロ学生の中から、種々の研究業績や、がん薬物療法専門医を含めて、専門医が誕生してきている。がんゲノム医療人材養成コースの学生には、今後、遺伝子パネル検査における院内がんボードの参加だけでなく、エキスパートパネルの準備および参加を促していきたい。また、九州がんプロ全体の新しいニーズに対応するがん専門医療人養成インテンシブコースにおける e-learning の聴講の希望者が少なくなく、当大学病院および関連病院の医師、看護師、薬剤師等には、今後も広くアナウンスを行っていきたい。

熊本大学

コーディネーター教員

熊本大学病院 次世代外科治療開発学寄附講座 特任准教授 馬場 祥史



各コースの内容

1. 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース

受入開始時期	平成29年10月	修業年限（期間）	4年
対象者	大学院医学教育部大学院生、一般医師、後期研修医等		
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none">・リサーチ・マインドを持ち、かつグローバルな視点で研究を推進することができるがん専門医療人。・研修医からシームレスで大学院に進学することにより、研修早期のより若い年代で臨床・研究のバランスのとれたがん専門医療人・がんにおける分子学的変化（特にゲノム情報）について習熟し、その結果を個々人のがん治療に応用することができるがん専門医療人・消化器における希少がん（例えば Gastrointestinal Stromal Tumor [GIST] など）の症例を多く経験し、その診断・治療・分子生物学的特徴に習熟したがん専門医療人		
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<ul style="list-style-type: none">・研修医・大学院一体型消化器がん専門博士養成コースは、初期臨床研修医として研修に従事しながら、社会人大学院学生として研究に従事することができるため、研修早期からの臨床・研究のバランスのとれたがん専門医育成が可能となる。・がんにおける分子学的変化（特にゲノム情報）についての勉強会、セミナーを定期的開催し、リサーチマインドを涵養する。また、それを臨床応用につなげることを目標とし、最終的にはゲノム医療従事者の育成を目指す。・多くの消化器における希少がん（GISTなど）の症例数を確保することができるため、それらの臨床データ、サンプルを用いて、希少がんに関して網羅的な検証を行うことが可能である。・海外のトップクラスの研究機関との国際研究ネットワークに参加することにより、グローバルな視野をもつ研究者の育成を目指す。		
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本教育プログラムで研修することで、より高度ながん診療が実践でき、がんに関する多くの専門資格を取得することができる。また、消化器癌（食道癌、胃癌、大腸癌、肝臓癌、膵癌など）に関する様々な分子学的変化に関する検証を行い、多くの学会、論文で報告することができ、キャリアパスに繋がる。さらに、国際研究ネットワークに参加することにより、将来的に海外研究機関への留学なども可能となる。		

2. ライフステージに応じたがん対策を推進するがん専門薬剤師コース（インテンシブ）

受入開始時期	平成30年4月	修業年限（期間）	3ヶ月
対象者	臨床薬剤師		
養成すべき人材像	小児、壮年、高齢者といった異なるライフステージにおけるがん治療に対して、抗がん剤治療の効能・効果及び副作用モニタリングができ、質の高いがん薬物療法を推進することができる薬剤師		
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	がん薬物療法の系統講義および実務・チーム医療の実践を行い、職種間の相互理解を推進し、様々なライフステージの患者に対応した、より効率的ながん薬物療法の実践を可能とする教育を行う。外来化学療法センターとも連携・協力体制をとり、個別対応の困難な患者に対して高度ながん治療を実践することが可能になり、がん治療の均てん化に貢献できることが特色である。		
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コースを修了した薬剤師は、日本医療薬学会（がん指導薬剤師、がん専門薬剤師）、日本病院薬剤師会（がん薬物療法認定薬剤師）などの認定取得を経て、がん領域における薬物療法等についての高度な知識と技術を用いて、医療機関において質の高いがん薬物療法の促進に貢献する。		

主な取組みと成果

1. 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース

平成29年度から令和3年度までに19名の新規入学を受け入れ、第2期からの移行者も合わせて合計38名の履修者のがん専門医の人材養成を行った。コース生として早期から臨床と研究のバランスのとれた教育を行うことで、多くの臨床データやサンプルを用いて研究を行うことができ、多様ながん治療に対応したがん専門医を養成することができた。

学会参加旅費支援では、5年間で国内学会約200件、国際学会約15件の発表をコース生が行い、最先端のがん治療に関する研究発表及び知識習得の機会を創出することができた。

また、平成29年度から令和3年度までに専門医資格を外科専門医18名、がん治療認定医19名、消化器外科専門医8名、消化器病専門医5名、消化器がん治療認定医2名取得し、より高度ながん診療が実践できるがん専門医を養成することができた。

また、「消化器がんに関するセミナー」を平成29年度7回、平成30年度4回、令和元年度6回、令和2年度5回、令和3年度7回開催し、コース生、医師、薬剤師、看護師等、県内外の総計約2000人が参加し、最新のがん治療に関する情報発信を広く行うとともに、多職種の医療従事者との情報交換を通して、多様な人材育成に寄与することができた。



2. ライフステージに応じたがん対策を推進するがん専門薬剤師コース（インテンシブ）

平成30年4月より薬剤師養成のがんプロインテンシブコースを開設した。先端的な医療を理解した研究者、薬剤師を養成するために、国内外で先駆的に活躍する講師のセミナーを毎年複数回開催した。学生・教員・薬剤師など、学内外問わず多くの参加者を集めた。

英文誌・和文誌・国際学会・国内学会等での発表一覧

○英文誌

1	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>Uchihara T</u> , Yoshida N, Baba Y, Nakashima Y, Kimura Y, Saeki H, Takeno S, Sadanaga N, Ikebe M, Morita M, Toh Y, Nanashima A, Maehara Y, Baba H. Esophageal Position Affects Short-Term Outcomes After Minimally Invasive Esophagectomy: A Retrospective Multicenter Study. <i>World J Surg.</i> 2019 Nov 7. doi: 10.1007/s00268-019-05273-8. [Epub ahead of print]
2	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>Sakamoto Y</u> , Miyamoto Y, Tokunaga R, Akiyama T, Daikoku N, Hiyoshi Y, Iwatsuki M, Baba Y, Iwagami S, Yoshida N, Baba H. Long- term outcomes of colorectal cancer surgery for elderly patients: a propensity score-matched analysis, <i>Surgery Today</i> , <i>Accept.</i>
3	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	Mima K, <u>Sakamoto Y</u> (co-first author), Kosumi K, Ogata Y, Miyake K, Hiyoshi Y, Ishimoto T, Iwatsuki M, Baba Y, Iwagami S, Miyamoto Y, Yoshida N, Ogino S, Baba H. Mucosal cancer-associated microbes and anastomotic leakage after resection of colorectal carcinoma, <i>Surgical Oncology</i> , 2019;32:63-68.
4	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>Yamashita K</u> , Iwatsuki M, Harada K, Koga Y, Kiyozumi Y, Eto K, Hiyoshi Y, Ishimoto T, Iwagami S, Baba Y, Miyamoto Y, Yoshida N, Komohara Y, Ajani JA, Baba H. Can PD-L1 expression evaluated by biopsy sample accurately reflect its expression in the whole tumour in gastric cancer? <i>Br J Cancer.</i> 121 (3) :278-280, 2019
5	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>Yamashita K</u> , Iwatsuki M, Harada K, Eto K, Hiyoshi Y, Ishimoto T, Nagai Y, Iwagami S, Miyamoto Y, Yoshida N, Komohara Y, Ajani JA, Baba H. Prognostic impacts of the combined positive score and the tumor proportion score for programmed death ligand-1 expression by double immunohistochemical staining in patients with advanced gastric cancer. <i>Gastric cancer</i> , Aug 26, 2019
6	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>Yamashita K</u> , Iwatsuki M, Koga Y, Toihata T, Kiyozumi Y, Kuroda D, Eto K, Hiyoshi Y, Iwagami S, Baba Y, Miyamoto Y, Yoshida N, Baba H. Preservation of physiological passage through the remnant stomach prevents postoperative malnutrition after proximal gastrectomy with double tract reconstruction. <i>Surg Today.</i> Sep;49 (9) :748-754, 2019
7	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>Daitoku N</u> , Miyamoto Y, Sakamoto Y, Tokunaga R, Hiyoshi Y, Nagai Y, Iwatsuki M, Iwagami S, Yoshida N, Baba H. Prognostic significance of serum p53 antibody according to KRAS status in metastatic colorectal cancer patients, <i>Int J Clin Oncol</i> (in press), <i>accept.</i>
8	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	Sakamoto Y, Miyamoto Y, Tokunaga R, Akiyama T, Daitoku N, Hiyoshi Y, Iwatsuki M, Baba Y, Iwagami S, Yoshida N, Baba H. Long-term outcomes of colorectal cancer surgery for elderly patients: a propensity score-matched analysis. <i>Surg Today.</i> 2019 Dec 16. doi: 10.1007/s00595-019-01934-2.
9	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	Yoshida N, Morito A, Nagai Y, Baba Y, Miyamoto Y, Iwagami S, Iwatsuki M, Hiyoshi Y, Eto K, Ishimoto T, Kiyozumi Y, Yagi T, Nomoto D, <u>Akiyama T</u> , Toihata T, Imamura Y, Watanabe M, Baba H. Clinical Importance of Sputum in the Respiratory Tract as a Predictive Marker of Postoperative Morbidity After Esophagectomy for Esophageal Cancer. <i>Ann Surg Oncol.</i> 2019 Aug;26 (8) :2580-2586.
10	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	Yoshida N, Nagai Y, Baba Y, Miyamoto Y, Iwagami S, Iwatsuki M, Hiyoshi Y, Eto K, Ishimoto T, Kiyozumi Y, Nomoto D, <u>Akiyama T</u> , Imamura Y, Watanabe M, Baba H. Effect of Resection of the Thoracic Duct and Surrounding Lymph Nodes on Short- and Long-Term and Nutritional Outcomes After Esophagectomy for Esophageal Cancer. <i>Ann Surg Oncol.</i> 2019 Jun;26 (6) :1893-1900.
11	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>Morinaga T</u> , Imai K, Morita K, Yamamoto K, Ikeshima S, Horino K, Shimada S, Baba H A rare anastomosis between the root of common hepatic artery and proper hepatic artery: implications for pancreaticoduodenectomy., <i>Surg Case Rep.</i> 2019 Nov 19;5 (1) :180. doi: 10.1186/s40792-019-0746-y.
12	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	Tatsunori Miyata, MD, PhD, Hiromitsu Hayashi, MD, PhD, Yo-ichi Yamashita, MD, PhD, <u>Kazuki Matsumura</u> , MD, Yosuke Nakao, MD, Rumi Itoyama, MD, Takano Yamao, MD, PhD, Masayo Tsukamoto, MD, PhD, Hirohisa Okabe, MD, PhD, Katsunori Imai, MD, PhD, Akira Chikamoto, MD, PhD, Takatoshi Ishiko, MD, PhD, and Hideo Baba, MD, PhD, FACS Prognostic Value of the Preoperative Tumor Marker Index in Resected Pancreatic Ductal Adenocarcinoma: A Retrospective Single-Institution Study, <i>Ann Surg Oncol</i> , https://doi.org/10.1245/s10434-020-09022-3 2020
13	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>Akiyama T</u> , Miyamoto Y, Imai K, ..., Baba H. Fibrosis-4 Index, a Noninvasive Fibrosis Marker, Predicts Survival Outcomes After Hepatectomy for Colorectal Cancer Liver Metastases. <i>Ann Surg Oncol.</i> 2020 Sep;27 (9) :3534-3541

○英文誌 (つづき)

14	研修医・大学院一 体がん専門博士養成 コース	Sakamoto Y, Miyamoto Y, Tokunaga R, <u>Akiyama T</u> ,..., Baba H. Long-term outcomes of colorectal cancer surgery for elderly patients: a propensity score-matched analysis. Surg Today. 2020 Jun;50 (6) :597-603
15	研修医・大学院一 体がん専門博士養成 コース	Nomoto D, Baba Y, <u>Akiyama T</u> ,..., Baba H. Outcomes of esophageal bypass surgery and self-expanding metallic stent insertion in esophageal cancer: reevaluation of bypass surgery as an alternative treatment. Langenbecks Arch Surg. 2020 Dec;405 (8) :1111-1118.
16	研修医・大学院一 体がん専門博士養成 コース	Sakamoto Y, Mima K, Imai K, Miyamoto Y, Tokunaga R, <u>Akiyama T</u> ,..., Baba H. Preoperative C-reactive protein-to-albumin ratio and clinical outcomes after resection of colorectal liver metastases. Surg Oncol. 2020 Dec;35:243-248.
17	研修医・大学院一 体がん専門博士養成 コース	Hiyoshi Y, Miyamoto Y, <u>Akiyama T</u> ,..., Baba H. Time trial of dry box laparoscopic surgical training improves laparoscopic surgical skills and surgical outcomes. Asian J Endosc Surg. 2020 Oct 20. doi: 10.1111/ases.12871.
18	研修医・大学院一 体がん専門博士養成 コース	<u>Kitamura F</u> , Okabe H, Yamashita YI, Miyata T, Hayashi H, Imai K, Chikamoto A, Baba H. A case of successful transarterial stenting for pseudoaneurysm after pancreaticoduodenectomy JGH Open. 2020 Apr 30;4 (4) :764-765.
19	研修医・大学院一 体がん専門博士養成 コース	Matsumura K, Hayashi H, Uemura N, Zhao L, Higashi T, Yamao T, <u>Kitamura F</u> , Nakao Y, Yusa T, Itoyama R, Imai K, Yamashita YI, Baba H. Prognostic Impact of Coagulation Activity in Patients Undergoing Curative Resection for Pancreatic Ductal Adenocarcinoma In Vivo. Sep-Oct 2020;34 (5) :2845-2850.
20	研修医・大学院一 体がん専門博士養成 コース	Ogawa D, Hayashi H, <u>Kitamura F</u> , Uemura N, Miyata T, Okabe H, Imai K, Yamasita Y, Kubo S, Baba H. Multiple cholangiocarcinomas in the intrahepatic and extrahepatic biliary tree due to dichloromethane exposure: a case report Surg Case Rep. 2020 Apr 21;6 (1) :79
21	研修医・大学院一 体がん専門博士養成 コース	Nomoto, D., Y. Baba, T. Akiyama, K. Okadome, T. Uchihara, K. Harada, K. Eto, Y. Hiyoshi, Y. Nagai, T. Ishimoto, M. Iwatsuki, S. Iwagami, Y. Miyamoto, N. Yoshida, M. Watanabe, and H. Baba. Outcomes of esophageal bypass surgery and self-expanding metallic stent insertion in esophageal cancer: reevaluation of bypass surgery as an alternative treatment. Langenbecks Arch Surg. 2020 405 (8) : 1111-1118
22	研修医・大学院一 体がん専門博士養成 コース	Kitano, Y., Hayashi, H., <u>Matsumoto, T.</u> , Kinoshita, S., Sato, H., Shiraiishi, Y., ... & Baba, H. (2021). Borderline resectable for colorectal liver metastases: Present status and future perspective. World Journal of Gastrointestinal Surgery, 13 (8), 756.
23	研修医・大学院一 体がん専門博士養成 コース	Morito, A., Kosumi, K., Kubota, T., Yumoto, S., <u>Matsumoto, T.</u> , Mima, K., ... & Baba, H. (2021) . Investigation of risk factors for postoperative seroma/hematoma after TAPP. Surgical Endoscopy, 1-7.
24	研修医・大学院一 体がん専門博士養成 コース	Imai, K., Yamashita, Y. I., Nakao, Y., <u>Matsumoto, T.</u> , Kinoshita, S., Yusa, T., ... & Baba, H. (2021) . Is portal vein embolization followed by hepatectomy for hepatocellular carcinoma justified in patients with impaired liver function?. Annals of Surgical Oncology, 28 (2), 854-862.
25	研修医・大学院一 体がん専門博士養成 コース	Ono, A., Kitano, Y., Imai, K., <u>Matsumoto, T.</u> , Endo, S., Tokunaga, K., ... & Baba, H. (2021). A case of primary nonleukemic myeloid sarcoma of the spleen, successfully treated by surgery and hematopoietic stem cell transplantation. Surgical Case Reports, 7 (1), 1-5.
26	研修医・大学院一 体がん専門博士養成 コース	Mima, K., Hayashi, H., Nakagawa, S., <u>Matsumoto, T.</u> , Kinoshita, S., Matsumura, K., ... & Baba, H. (2021). Frailty is associated with poor prognosis after resection for pancreatic cancer. International Journal of Clinical Oncology, 26 (10), 1938-1946.
27	研修医・大学院一 体がん専門博士養成 コース	Kosumi, K., Mima, K., Morito, A., Yumoto, S., <u>Matsumoto, T.</u> , Inoue, M., ... & Baba, H. (2021). Patient Age and Long-term Survival in Colorectal Cancer Patients Who Undergo Emergency Surgery. Anticancer Research, 41 (2), 1069-1076.
28	研修医・大学院一 体がん専門博士養成 コース	<u>Matsumoto, T.</u> Kitano, Y...Baba, H. (2021). Clinical significance of preoperative inflammation-based score for the prognosis of patients with hepatocellular carcinoma who underwent hepatectomy. Surgery Today. Accepted.
29	研修医・大学院一 体がん専門博士養成 コース	<u>Matsumoto C</u> , Iwatsuki M, Iwagami S, et al. Prophylactic laparoscopic total gastrectomy for gastric adenocarcinoma and proximal polyposis of the stomach (GAPPS): the first report in Asia. Gastric Cancer (2021). https://doi.org/10.1007/s10120-021-01253-x

30	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	Matsumoto C , Iwatsuki M, Morinaga T, et al. Long term survival after multidisciplinary treatments for advanced esophagogastric junction cancer. International Cancer Conference Journal (2021). https://doi.org/10.1007/s13691-021-00480-4
31	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	Hara Y , Yamamura K, Matsumura K, Oda E, Akahoshi S, Yuki H, Tomiguchi J, Motohara T, Miyamoto H, Komohara Y, Beppu T. Laparoscopic Surgery for a Patient With Multiple Liver Metastases of Unknown Origin Concomitant With Gallbladder Tumor. In Vivo. 2021 Sep-Oct;35 (5) :2963-2968. doi: 10.21873/invivo.12590. PMID: 34410995; PMCID: PMC8408742.
32	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	Yoshida N, Horinouchi T , Toihata T, Harada K, Eto K, Sawayama H, Iwatsuki M, Nagai Y, Ishimoto T, Baba Y, Miyamoto Y, Baba H. ASO Visual Abstract: Clinical Significance of Pretreatment Red Blood Cell Distribution Width as a Predictive Marker for Postoperative Morbidity After Esophagectomy for Esophageal Cancer: A Retrospective Study Ann Surg Oncol. 2021 Dec;28 (Suppl 3) :754-755
33	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	Yoshida N, Horinouchi T , Toihata T, Harada K, Eto K, Sawayama H, Iwatsuki M, Nagai Y, Ishimoto T, Baba Y, Miyamoto Y, Baba H. Clinical Significance of Pretreatment Red Blood Cell Distribution Width as a Predictive Marker for Postoperative Morbidity After Esophagectomy for Esophageal Cancer: A Retrospective Study Ann Surg Oncol. 2021 Sep 1:1-8.
34	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	Yamane T, Yoshida N, Horinouchi T , Morinaga T, Eto K, Harada K, Ogawa K, Sawayama H, Iwatsuki M, Baba Y, Miyamoto Y, Baba H. Minimally invasive esophagectomy may contribute to low incidence of postoperative surgical site infection in patients with poor glycemic control Langenbecks Arch Surg. 2021 Aug 30
35	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	Yoshida N, Taniyama Y, Murakami K, Horinouchi T , Takahashi K, Shiraishi S, Eto K, Kamei T, Matsubara H, Baba H. ASO Visual Abstract: A Novel Criterion Using Esophageal Major and Minor Axes is Useful to Evaluate the Therapeutic Effect and Prognosis after Neoadjuvant Chemotherapy Followed by Surgery in Locally Advanced Esophageal Cancer Ann Surg Oncol. 2021 Dec;28 (Suppl 3) :613-614.
36	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	Yoshida N, Taniyama Y, Murakami K, Horinouchi T , Takahashi K, Shiraishi S, Eto K, Kamei T, Matsubara H, Baba H. Novel Criterion Using Esophageal Major and Minor Axes is Useful to Evaluate the Therapeutic Effect and Prognosis After Neoadjuvant Chemotherapy Followed by Surgery in Locally Advanced Esophageal Cancer Ann Surg Oncol. 2021 Dec;28 (13) :8474-8482.
37	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	Horinouchi T , Yoshida N, Matsumoto C , Hara Y, Toihata T, Iwatsuki M, Baba Y, Miyamoto Y, Baba H. Human Epidermal Growth Factor Receptor 2-positive Primary Adenocarcinoma in the Cervical Oesophagus: A Case Report In Vivo. 2021 Jul-Aug;35 (4) :2297-2303.

○和文誌

1	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	野元大地、馬場祥史、山村謙介、原田和人、長井洋平、岩槻政晃、岩上志朗、宮本裕士、吉田直矢、馬場秀夫. 食道癌と腸内細菌叢. 腸内細菌学雑誌 34 : 209-215、2020
---	-----------------------	---

○国際学会

1	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	Uchihara T et al. Annexin A6 in Extracellular Vesicles Derived from Cancer Associated Fibroblasts Induces Drug Resistance of Gastric Cancer Cells. AACR Annual Meeting 2019 (Atlanta) 2019.4.2
2	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	Yamashita K , Iwatsuki M, Iwagami S, Eto K, Koga Y, Kiyozumi Y, Baba Y, Miyamoto Y, Yoshida N, Baba H. The factors associated with postoperative malnutrition after proximal gastrectomy with double tract reconstruction, International gastric cancer congress 2019 (Plague) 2019.5.8-11
3	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	Yamashita K , Iwatsuki M, Eto K, Hiyoshi Y, Nagai Y, Iwagami S, Miyamoto Y, Yoshida N, Baba H. The factors associated with postoperative malnutrition after proximal gastrectomy with double tract reconstruction, International Association of Surgeons, Gastroenterologists, and Oncologists Continuing Medical Education 2019 (Tokyo) 2019.7.10
4	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	Daitoku N , Tumor expression of Activin A is associated with clinical outcomes in patients with colorectal cancer, AACR 2019 Annual Meeting (Atlanta) 2019.4.2
5	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	Itoyama R , Nakagawa S, Yusa T, Nakao Y, Yamao T, Umezaki N, Miyata T, Okabe H, Hayashi H, Imai K, Yamashita Y, Chikamoto A, Baba H Clinical significance of Cofilin-1 expression in pancreatic cancer, AACR Annual Meeting 2019 (Atlanta) 2019.4.2

○国際学会（つづき）

6	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>Matsumoto T.</u> Comparison of short-term results of laparoscopic surgery in pancreatic cancer using the Barthel Index at admission and discharge. IASGO-CME in Nagasaki 2021.10.9
7	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>Matsumoto C, Iwatsuki M.</u> Pathological analysis for recurrence of the patients with esophagogastric junction adenocarcinoma. International Gastric Cancer Conference 2022 (Huston) 2022.3.6

○国内学会

1	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	内原智幸. 胃癌関連線維芽細胞由来エクソソームを介した薬剤抵抗性メカニズムの解明. 第119回日本外科学会定期学術集会（大阪）2019年4月18日
2	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	内原智幸. 胸腔鏡下食道切除術における食道の解剖学的位置と手術難易度の関連における多施設共同研究. 第73回日本食道学会学術集会（福岡）2019年6月7日
3	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	内原智幸. ストローマ由来細胞外小胞による胃癌治療抵抗性メカニズムの解明. 第28回癌病態治療研究会（埼玉）2019年6月27日
4	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	内原智幸. To identify the molecular mechanisms of drug resistance induced by gastric cancer associated fibroblasts. 第78回日本癌学会学術総会（京都）2019年9月28日
5	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	坂本悠樹. 大腸癌肝転移と細菌 <i>Fusobacterium nucleatum</i> の関連. 第119回日本外科学会定期学術集会（大阪）2019年4月18日
6	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	坂本悠樹. 高齢食道癌患者（75歳以上）に対する食道亜全摘術の意義とその問題点. 第73回日本食道学会学術集会（福岡）2019年6月7日
7	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	坂本悠樹. Risk factors and prognostic significance of lateral pelvic lymph node metastasis in advanced rectal cancer. IASGO-CME 2019（東京）2019年7月10日
8	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	坂本悠樹. C-reactive protein to albumin ratio is a prognostic marker in colorectal liver metastasis patients. 第74回日本消化器外科学会総会（東京）2019年7月19日
9	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	坂本悠樹. <i>Fusobacterium nucleatum</i> in colorectal cancer liver metastasis and patients' prognosis. 第78回日本癌学会学術総会（京都）2019年9月27日
10	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	坂本悠樹. 大腸癌肝転移巣における CD8陽性 T 細胞数と予後の関連. 第74回日本大腸肛門病学会学術集会（東京）2019年10月11日
11	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	山下晃平. 胃癌における PD-L1発現の Combined positive score による評価の有用性. 第119回日本外科学会定期学術集会（大阪）2019年4月19日
12	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	山下晃平. 胃切除の既往が食道亜全摘の短期成績に与える影響の検討. 第73回日本食道学会学術集会（鹿児島）2019年6月6日
13	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	山下晃平. 胃癌における PD-L1発現の Combined positive score による評価の有用性. 第74回日本消化器外科学会総会（東京）2019年7月19日
14	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>Yamashita K.</u> 5-FU induces upregulation of PD-L1 expression in gastric cancer. 第78回日本癌学会学術総会（京都）2019年9月27日

15	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	山下晃平、切除不能進行胃癌患者における CRP-Albumin 比 (CAR) の意義、2019JDDW 第17回日本消化器外科学会大会 (神戸) 2019年11月23日
16	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	大徳暢哉、大腸癌患者におけるカヘキシア関連分子 Activin A 発現の臨床的意義、第119回日本外科学会学術総会 (大阪) 2019年4月20日
17	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	大徳暢哉、大腸癌における PNI および腫瘍内 CD8陽性 T 細胞と予後の関連、第74回日本消化器外科学会総会 (東京) 2019年7月17日
18	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	大徳暢哉、大腸癌における腫瘍内 CD3、CD8陽性 T 細胞の臨床的意義、第74回大腸肛門病学会学術集会 (東京) 2019年10月11日
19	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	大徳暢哉、肥満、sarcopenia、全身性炎症反応 (PNI) と大腸癌患者の予後の関連、Japan Digestive Disease Week 2018 (神戸) 2019年11月23日
20	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	野元大地、食道癌における術前末梢血リンパ球数・単球数比と予後についての検討、第119回日本外科学会定期学術集会 (大阪) 2019年4月19日
21	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	野元大地、進行食道癌に対する食道バイパス術と食道ステント挿入術の比較検討、第73回日本食道学会学術集会 (福岡) 2019年6月7日 パネルディスカッション
22	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	野元大地、食道癌における術前補助化学療法と胸腔鏡下食道亜全摘術の短期成績についての検討、第74回日本消化器外科学会学術総会 (東京) 2019年7月19日
23	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	野元大地、腫瘍先進部における PD-1発現は食道癌の予後予測バイオマーカーとなる、第78回日本癌学会学術総会 (京都) 2019年9月28日
24	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	野元大地、Fusobacterium nucleatum の食道癌進展への関与とそのメカニズム；腫瘍免疫、NF- κ B 経路との関連、第30回日本消化器癌発生学会総会 (横浜) 2019年11月7日 シンポジウム
25	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	野元大地、食道癌切除症例における栄養・炎症指標と予後についての検討、JDDW 2019 KOBE (神戸) 2019年11月23日
26	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	秋山貴彦、肝線維化マーカーは大腸癌肝転移に対する肝切除後の予後を予測しうる、第119回日本外科学会総会 (大阪) 2019年4月19日
27	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	秋山貴彦、食道癌術後合併症予防を目的としたマイクロ CO 検査の有用性、第73回日本食道学会学術集会 (福岡) 2019年6月6日
28	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	秋山貴彦、当院における肝以外への転移を来した大腸癌患者に対する化学療法及び外科治療の有用性の検討、第74回日本消化器外科学会総会 (東京) 2019年7月19日
29	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	秋山貴彦、Investigation of loss-of-function mutations at the RNF43 locus on digestive tumor progression、第78回日本癌学会 (京都) 2019年9月27日
30	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	秋山貴彦、S 状結腸癌を合併した直腸 NET 多臓器転移の1例、第74回大腸肛門病学会 (東京) 2019年10月11日
31	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	秋山貴彦、消化器腫瘍の進行における RNF43遺伝子座の機能喪失変異に関する研究、第30回日本消化器癌発生学会 (横浜) 2019年11月8日

○国内学会（つづき）

32	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	秋山貴彦、直腸 NET の画像評価と治療成績、第27回日本消化器関連学会週間（神戸）2019年11月23日
33	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	森永剛司、直腸癌の術前栄養学的ならびに免疫学的因子と術後合併症の発症率の解析、第74回日本消化器外科学会学術総会（東京）2019年7月19日
34	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	森永剛司、臍頭十二指腸切除術における術前栄養状態（CONUT score）の手術成績への影響、第119回日本外科学会定期学術集会（大阪）2019年4月19日
35	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	森永剛司、食道亜全摘術後早期におけるプロカルシトニン測定の意義、第81回日本臨床外科学会総会（高知）2019年11月14日
36	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	松村和季、感染性合併症軽減を企図した人工肛門閉鎖クニカルパスの有用性評価、第119回日本外科学会学術集会（大阪）2019年4月19日
37	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	伊東山瑠美、膵癌における PHGDH 発現の臨床的意義、第119回日本外科学会学術集会（大阪）2019年4月19日
38	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	伊東山瑠美、膵癌進展における PHGDH 発現とセリン生合成の意義、第28回日本癌病態治療研究会（埼玉）2019年6月27日
39	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	伊東山瑠美、膵癌進展における PHGDH 発現とセリン生合成の意義、第74回日本消化器外科学会総会（東京）2019年7月18日
40	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	伊東山瑠美、癌特異的なセリン飢餓への応答メカニズムの解明、第7回がんと代謝研究会（宮城）2019年8月1日
41	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	伊東山瑠美、Clinical impacts of preoperative biliary drainage on severe postoperative complications in pancreaticoduodenectomy、第31回日本肝胆膵外科学会学術集会（香川）2019年6月13日
42	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	上村紀雄、血小板低値である肝細胞癌における肝切除術の安全性の検討、第119回日本外科学会定期学術集会（大阪）2019年4月18日
43	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	上村紀雄、当院で切除した IPMN 症例に対する術前診断と病理組織学検討、第74回日本消化器外科学会総会（東京）2019年7月17日
44	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	上村紀雄、Statin-induced anti-tumor effects targeting a Hippo-pathway in pancreatic cancers、第78回日本癌学会学術総会（京都）2019年9月27日
45	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	岡留一雄、食道癌における腫瘍由来 IL-4高発現症例の予後および PD-L1/PD-L2発現との関連、第74回日本消化器外科学会総会（東京）2019年7月17日
46	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	岡留一雄、The influence of 5-FU and CDDP treatment on PD-L1 and PD-L2 expression level of esophageal cancer cell、第78回日本癌学会学術総会（京都）2019年9月27日
47	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	中尾陽佑、膵癌における Rho ファミリー関連蛋白 ARHGEF2の予後予測因子としての有効性、第119回日本外科学会定期学術集会（大阪）2019年4月20日
48	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	中尾陽佑、膵癌の予後改善のためには必要なことは何か - 術後5年生存症例からの考察 -、第74回日本消化器外科学会総会（東京）2019年7月17日

49	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	中尾陽佑、High expression of ARHGGEF2 is associated with poor prognosis in Patients with Pancreatic Cancer. 第78回日本癌学会学術総会（京都）2019年9月26日
50	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	北村文優、局所進行尾側膵癌に対する腹腔動脈合併尾側膵切除術（DP-CAR）の有効性の検討、第119回日本外科学会定期学術集会（大阪）2019年4月19日
51	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	北村文優、広範囲胆管癌における肝臓同時手術（HPD）の治療成績の検討、第74回日本消化器外科学会総会（東京）2019年7月18日
52	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	北村文優、dentification of aberrant proteins involved in peritoneal dissemination of pancreatic cancer. 第78回日本癌学会学術総会（京都）2019年9月26日
53	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	織田枝里、当科における女性消化器外科医のキャリア形成に関する現状と今後の課題、第119回日本外科学会定期学術集会（大阪）2019年4月19日
54	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	山根大侍、地方中核病院における膵頭十二指腸切除術の術後成績と合併症を減らすための取り組み、第74回日本消化器外科学会総会（東京）2019年7月18日
55	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	遊佐俊彦、肝細胞癌・門脈血栓症例における機能的肝切除率算出への EOB-MRI の応用、第119回日本外科学会定期学術集会（大阪）2019年4月19日
56	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	遊佐俊彦、肝細胞癌における腫瘍関連好中球および CD8陽性リンパ球浸潤の局在と予後との関連、第74回日本消化器外科学会総会（東京）2019年7月19日
57	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	松村和季、中尾陽佑、山下洋市、武末亨、山尾宣暢、東孝暁、山村謙介、林洋光、今井克憲、近本亮、馬場秀夫、肝内胆管癌切除症例における albumin - bilirubin (ALBI) - grade の予後予測因子としての有用性第120回日本外科学会定期学術集会 2020年4月16日-18日
58	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	松村和季、林洋光、上村紀雄、北村文優、山尾宣暢、東孝暁、山村謙介、今井克憲、山下洋市、馬場秀夫、膵癌における凝固系マーカーの臨床的意義の検討、第75回日本消化器外科学会総会（和歌山）2020年12月15日
59	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	Kazuki Matsumura, Kensuke Yamamura, Takanobu Yamao, Takaaki Higashi, Hiromitsu Hayashi, Katsunori Imai, Yo-ichi Yamashita, Hideo Baba. Clinical effects of antithrombotic drugs on postoperative course in pancreatectomy for pancreatic cancers ; The 32th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, (東京) 2021年2月23日
60	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	秋山貴彦、肝線維化マーカーは大腸癌肝転移に対する肝切除後の予後を予測しうる、第120回日本外科学会定期学術集会（横浜）2020年8月15日
61	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	秋山貴彦、大腸癌術後合併症における予測因子の検討、第75回日本消化器外科学会総会（和歌山）2020年12月15日-17日
62	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	秋山貴彦、大腸癌患者における Colon inflammatory index (CII) の予後予測指標としての有用性、第28回日本消化器関連学会週間（神戸）2020年11月5日-8日
63	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	秋山貴彦、高齢の大腸癌肝転移患者における Geriatric Nutritional Risk index (GNRI) の予後予測指標としての有用性、第75回日本大腸肛門病学会総会（横浜）2020年11月13日-14日
64	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	秋山貴彦、巨大結腸症を合併した高齢精神疾患患者の腹腔鏡下回盲部切除術の一例、第45回大腸肛門病学会九州地方会（久留米）2020年8月29日
65	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	秋山貴彦、癌微小環境における胃癌浸潤に関わる分子メカニズムの解明、第31回日本消化器癌発生学会総会（大阪）2020年11月27日

○国内学会（つづき）

66	研修医・大学院一 体がん専門博士養成 コース	<u>上村紀雄</u> ：膵癌に対する Statin 投与による YAP/TAZ を介した抗腫瘍効果に関する検討、第120回日本 外科学会定期学術集会（横浜）2020年8月15日
67	研修医・大学院一 体がん専門博士養成 コース	<u>上村紀雄</u> ：Statin-induced anti-tumor effects targeting YAP/TAZ in pancreatic cancers、第79回日本癌学 会学術総会（広島）2020年10月10日1日-3日
68	研修医・大学院一 体がん専門博士養成 コース	<u>上村紀雄</u> ：膵癌に対する Statin 投与による YAP/TAZ を介した PD-L1発現変化、第75回日本消化器外科 学会総会（和歌山）2020年12月15日-17日
69	研修医・大学院一 体がん専門博士養成 コース	<u>北村文優</u> 、消化器がん腹膜播種を促進する分子メカニズムの解明、第120回外科学会総会（横浜）2020 年8月13日-15日
70	研修医・大学院一 体がん専門博士養成 コース	<u>Fumimasa Kitamura</u> , LDH expression in pancreatic cancer enhances cancer associated-fibroblasts pro- liferation 第79回日本癌学会学術集会（広島）2021年10月1日-3日
71	研修医・大学院一 体がん専門博士養成 コース	<u>北村文優</u> 、膵癌の LDHA/LDHB 比の不均等により生じる乳酸が腫瘍微小環境に及ぼす影響の検討 第75 回消化器外科学会総会（和歌山）2020年12月15日-17日
72	研修医・大学院一 体がん専門博士養成 コース	<u>野元大地</u> 、腫瘍先進部および末梢血における PD-1発現は食道癌の予後予測バイオマーカーとなる、第 120回日本外科学会定期学術集会（横浜）2020年8月15日
73	研修医・大学院一 体がん専門博士養成 コース	<u>野元大地</u> 、 <i>Fusobacterium nucleatum</i> の食道癌進展への関与とそのメカニズムについての検討、第79回 日本癌学会学術総会（広島）2020年10月1日-3日
74	研修医・大学院一 体がん専門博士養成 コース	<u>野元大地</u> 、Modified Systemic Inflammation Score は食道癌術後の予後予測因子となる、JDDW2020（神 戸）2020年11月5日-8日
75	研修医・大学院一 体がん専門博士養成 コース	<u>野元大地</u> 、消化器癌における術前末梢血 PD-1陽性リンパ球についての検討、第31回日本消化器癌発生 学会総会（大阪）2020年11月27日
76	研修医・大学院一 体がん専門博士養成 コース	<u>野元大地</u> 、術前末梢血リンパ球数・単球数比は食道癌術後の予後予測因子となる、第74回日本食道学会 学術集会（徳島）2020年12月10日-11日
77	研修医・大学院一 体がん専門博士養成 コース	<u>野元大地</u> 、Involvement of <i>Fusobacterium nucleatum</i> in esophageal cancer progression、第75回日本消 化器外科学会総会（和歌山）2020年12月15日-17日
78	研修医・大学院一 体がん専門博士養成 コース	<u>野元大地</u> 、 <i>Fusobacterium nucleatum</i> が食道癌進展に寄与するメカニズムの解析、第17回日本消化管学 会総会学術集会（大阪）2021年2月19日
79	研修医・大学院一 体がん専門博士養成 コース	<u>松本嵩史</u> アスピリン内服と外科的切除を施行した肝細胞癌の長期予後に関する検討 第121回日本外 科学会学術集会（千葉）2021年4月8日
80	研修医・大学院一 体がん専門博士養成 コース	<u>松本嵩史</u> C型肝炎関連肝細胞癌切除例における術前血中亜鉛値の意義 第29回JDDW（神戸）2021 年11月4日
81	研修医・大学院一 体がん専門博士養成 コース	<u>松本嵩史</u> 入院時の Barthel Index を用いた腹腔鏡下膵尾部切除術の短期成績の比較検討 第31回九 州内視鏡・ロボット外科研究会（宮崎）2021年9月11日
82	研修医・大学院一 体がん専門博士養成 コース	<u>松本嵩史</u> 術前血中亜鉛値の肝細胞癌切除後予後における意義 第57回日本肝癌研究会（鹿児島）2021 年7月22日

83	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	松本嵩史 初回肝切除を施行した SVR 後の C 型肝炎関連肝細胞癌における臨床病理学的特徴に関する検討 第57回日本肝臓学会（北海道）2021年6月17日
84	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	松本嵩史 フレイルを有する大腸癌肝転移患者の臨床病理学的特徴 第59回日本癌治療学会総会（横浜）2021年10月21日
85	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	松本嵩史 肝切除を施行した肝細胞癌患者の予後における術前栄養スコアの意義 第76回日本消化器外科学会総会（京都）2021年7月7日
86	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	松本嵩史 膵内分泌腫瘍における再発予測としての PET-CT 検査の臨床的意義 第32回日本消化器癌発生学会（岐阜）2021年11月26日
87	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	松本嵩史 術前血中亜鉛値の肝内胆管癌切除予後における意義に関する検討 第107回日本消化器病学会総会（東京）2021年4月15日
88	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	松本嵩史 Stagell 以上の肝細胞癌切除例におけるスタチン内服が予後に与える影響の検討 第118回日本消化器病学会 九州支部例会（長崎）2021年12月3日
89	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	松本千尋 Siewert Type I、II 進行食道胃接合部腺癌における治療成績の検討 第121回日本外科学会総会（千葉）2021年4月8日
90	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	松本千尋 食道胃接合部腺癌の術後再発に関する病理学的検討 第76回日本消化器外科学会総会（京都）2021年7月9日
91	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	松本千尋 食道扁平上皮癌根治切除後サーベイランスにおける画像 modality の検討 第75回日本食道学会学術総会（東京）2021年9月6日
92	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	松本千尋 食道扁平上皮癌における術前化学療法前後での dNLR の推移と術後合併症の相関 JDDW2021（神戸）2021年11月6日
93	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	松本千尋 食道癌に対する二期分割手術における短期および長期成績の検討 第83回日本臨床外科学会総会（東京）2021年11月20日
94	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	松本千尋 Gastric adenocarcinoma and proximal polyposis (GAPPS) に関する病理学的検討第32回日本消化器癌発生学会総会（岐阜）2021年12月5日
95	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	松本千尋 Adapted systemic inflammation score (aSIS) による食道胃接合部癌の予後に関する検討 第18回日本消化管学会総会（東京）2022年2月11日
96	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	松本千尋 CONUT score による食道胃接合部癌の術後合併症に関する検討 第94回日本胃癌学会総会（神奈川）2022年3月2日
97	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	武末亨 腹部外傷緊急手術症例における短期成績および予後予測因子の検討 第121回日本外科学会総会（千葉）2021年4月8日
98	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	武末亨 Examination of the usefulness of laparoscopic surgery for rectal prolapse 第76回日本消化器外科学会総会（京都）2021年7月7日
99	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	武末亨 腹部外傷症例における開腹手術と IVR の治療成績の検討 第29回 JDDW（神戸）2021年11月4日

○国内学会（つづき）

100	研修医・大学院一 体がん専門博士養成 コース	原淑大 食道癌術後の胃管癌に対する治療戦略 第121回日本外科学会総会（千葉）2021年4月8日
101	研修医・大学院一 体がん専門博士養成 コース	原淑大 Prediction of liver metastasis of gastric cancer by Fibrosis-4 Index and relation to prognosis 第76回日本消化器外科学会（京都）2021年7月7日
102	研修医・大学院一 体がん専門博士養成 コース	原淑大 Additional gastrectomy after non-curative ESD for early gastric cancer IASGO2021
103	研修医・大学院一 体がん専門博士養成 コース	Tomo Horinouchi, N Yoshida, C Matsumoto, K Nakamura, K Ogawa, K Harada, H Sawayama, M Iwatsuki, S Iwagami, Y Baba, Y Miyamoto, H Baba, Association between preoperative CONUT score and postoperative morbidity in esophagectomy, 第76回日本消化器外科学会総会（京都）2021年7月7日～9日
104	研修医・大学院一 体がん専門博士養成 コース	堀之内誠、吉田直矢、間端輔、原田和人、岩槻政晃、馬場祥史、馬場秀夫、胸腔鏡食道切除後の呼吸器合併症リスク因子の解析、第54回日本胸部外科学会九州地方会総会 2021年7月29日
105	研修医・大学院一 体がん専門博士養成 コース	堀之内誠、吉田直矢、松本千尋、間端輔、原田和人、小川克大、澤山浩、岩槻政晃、岩上志朗、馬場祥史、宮本裕士、馬場秀夫、FIB-4 index を用いた食道癌術後予後に関する検討、第75回 日本食道学会学術集会 2021年9月23日
106	研修医・大学院一 体がん専門博士養成 コース	堀之内誠、吉田直矢、松本千尋、中村健一、小川克大、原田和人、澤山浩、岩槻政晃、岩上志朗、馬場祥史、宮本裕士、馬場秀夫、胸腔鏡下食道亜全摘術における術後合併症と長期予後との関連、JDDW 2021 KOBE 2021年11月5日
107	研修医・大学院一 体がん専門博士養成 コース	堀之内誠、吉田直矢、間端輔、原田和人、澤山浩、岩槻政晃、岩上志朗、馬場祥史、宮本裕士、馬場秀夫、胸腔鏡下食道亜全摘術における呼吸器合併症と長期予後との関連、第34回日本内視鏡外科学会総会 2021年12月4日
108	研修医・大学院一 体がん専門博士養成 コース	白石裕大 家族歴が膵癌切除後長期予後に与える影響に関する検討 第21回日本消化器外科学会総会（神戸）2021年11月4日
109	研修医・大学院一 体がん専門博士養成 コース	白石裕大 当院における急性上腸間膜動脈閉塞症に対する治療戦略 第83回日本臨床外科学会総会 2021年11月18日
110	研修医・大学院一 体がん専門博士養成 コース	白石裕大 外科治療を必要とする門脈ガス血症の特徴 第121回日本外科学会総会（幕張）2021年4月8日
111	研修医・大学院一 体がん専門博士養成 コース	松村和季 Thrombospondin-1 derived from cancer-associated fibroblast promotes cell proliferation and invasion in pancreatic ductal adenocarcinoma 第33回肝胆膵外科学会2021年6月2日～3日
112	研修医・大学院一 体がん専門博士養成 コース	松村和季 膵癌微小環境での Thrombospondin-1（TSP-1）が膵癌の進展に与える影響の検討第76回日本消化器外科学会総会2021年7月7日～9日
113	研修医・大学院一 体がん専門博士養成 コース	松村和季 術中輸血が肝内胆管癌の予後に与える影響に関する検討 第29回日本消化器病関連学会週間（JDDW）2021年11月4日～7日
114	研修医・大学院一 体がん専門博士養成 コース	松村和季 Analysis of clinicopathological features by SMAD4 immunohistochemistry in pancreatic cancer 第80回日本癌学会学術集会（横浜）2021年9月30日～10月2日
115	研修医・大学院一 体がん専門博士養成 コース	松村和季 膵癌細胞における Thrombospondin-1発現の影響 第32回日本消化器癌発生学会2021年11月27日

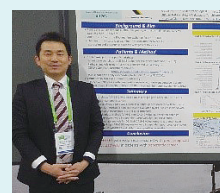
○その他（受賞等）

1	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	内原智幸：令和元年度消化器癌発生学会研究奨励賞
2	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	秋山貴彦：食道癌術後合併症予防を目的としたマイクロCO検査の有用性、第73回日本食道学会学術集会 ベストポスター賞
3	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	伊東山瑠美：第17回日本消化器外科学会若手奨励賞
4	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	秋山貴彦：日本消化器癌発生学会 優秀演題賞、2020年11月27日
5	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	Takashi Matsumoto: IASGO-CME Advanced Post-Graduate Course in Nagasaki Best Poster Award 2021.10.9
6	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	松村和季 膵癌細胞における Thrombospondin-1発現の影響 第32回日本消化器癌発生学会 優秀演題賞

学生・修了生の感想

・研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース 中尾 陽佑

研究テーマ「膵癌における Rho ファミリー関連タンパク質 ARHGEF2の作用機序及び臨床的意義に関する研究」



私は、2019（令和元）年度に、熊本大学の「研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース」を修了しました。私は、初期臨床研修中から外科医を志すようになり、2014年に熊本大学消化器外科教室に入局しました。日々多くの癌患者さんの診療に携わるなかで手術療法の限界を痛感することも多く、がんについてより深く分子レベルで学ぶ必要があると感じ、大学院に進学してがん専門博士養成コースに入学しました。私は難治癌である肝胆膵領域癌について基礎研究を行い、膵癌における Rho ファミリー関連タンパク質 ARHGEF 2の研究で学位を取得させて頂きました。

私は、コース在学中に「がん治療認定医」、「消化器外科専門医」、「消化器がん外科治療認定医」「消化器病専門医」「肝臓専門医」の資格を取得することができました。研究中に専門とする領域の資格取得を目指すことは、自分の中での理解をより深めることにつながったと感じています。

現在、私は済生会熊本病院の外科に勤務し、癌診療、救急診療に従事しています。

今後は、肝胆膵外科領域における世界有数の high volume center であるフランスの Paul Brousse Hospital, the HepatoBiliary center へ留学させて頂く予定です。世界の一流施設で肝胆膵領域癌に対する集学的治療について学び、日本の医療に少しでも還元できるように今後も努力していきたいと思っております。

総括

実現できたこと

[研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース]

5年間で38名の履修生を養成し、19名（2期からの移行者も含む）がコースを修了した。履修生は診療科での治療やカンファレンスに参加しながら、大学院生として「腫瘍先端学理論」、「がん治療学理論」、「集学的がん治療学・緩和ケア学実習」等の希少がん等に重点を置いた講義の受講や実践研究を通して最先端のがん治療に関する知識を深めることができた。また、専門医資格取得のための支援を強化し、5年間で52名が専門医資格を取得することができ、即戦力としてがん専門治療を行う人材を養成することができた。

また、5年間で30回開催した「消化器がんに関するセミナー」を通して、多職種の医療関係者への情報発信及び情報交換を行い、地域のがん治療発展への寄与できた。

[ライフステージに応じたがん対策を推進するがん専門薬剤師コース（インテンシブ）]

最新の知見を持つ講師によるセミナーを継続して実施することで、参加してきた学生・教員・薬剤師等が、がん治療の現状やがん薬物療法の課題、それらを克服するための薬剤師の役割等、がん薬物療法に関する全般的知識を深めることが出来た。

課題（今後に向けての予定）

[研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース]

大学病院との連携を更に図り、がん治療に特に関係のある診療科の大学院生を広く受け入れて、各診療科との連携した教育を行っていくことで、より高度ながん専門医を養成していくことに努める。

また、市民公開セミナー等、一般市民にも広く最新のがん治療の情報を発信し、地域との連携をより一層深めるよう努める。

[ライフステージに応じたがん対策を推進するがん専門薬剤師コース（インテンシブ）]

平成30年度から令和3年度までの5年間、インテンシブコースの受講生の受け入れを行ったが、結果としてコースの受講者はいなかった。事業期間全体を通して、ホームページやSNSでの情報発信が課題であったと考える。

大分大学

コーディネーター教員

大学院医学系研究科 呼吸器・乳腺外科学講座 教授 杉尾 賢二



各コースの内容

1. ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）

受入開始時期	平成29年4月	修業年限（期間）	4年
対象者	大学院医学系研究科大学院生（博士課程）		
養成すべき人材像	ゲノム医療の基礎と臨床の橋渡しを行う研究者の養成		
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	ゲノム医療の基礎と臨床の両者を理解し、新規オーダーメイド医療の開発を企画することができる教育内容であること。		
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	ゲノム医療のリーダー的基礎または臨床研究者を目指す。		

2. 多様なニーズ貢献するがん看護専門看護師コース（修士課程）

受入開始時期	平成29年4月	修業年限（期間）	2年
対象者	大学院医学系研究科大学院生（修士課程）		
養成すべき人材像	がん患者の様々な治療課程やライフステージに応じて、専門性を基盤とした高度な実践や看護職を含むケア提供者に対する教育や相談、研究、保健医療福祉チーム内の調整、倫理的課題の調整ができる看護職の養成		
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	がん患者のライフステージによる多様なニーズに応じた援助方法や地域包括ケアとしてのチーム医療や、在宅医療における連携・調整能力を強化した内容であること		
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	日本看護協会のがん看護専門看護師資格認定を受け、がん診療連携拠点病院及び地域の中核病院で、看護管理部門の看護実践における変革推進者の中心となり、看護及びチーム医療の向上に貢献する。		

3. ライフステージに応じたチーム医療人養成コース（インテンシブ）

受入開始時期	平成29年4月	修業年限（期間）	2年
対象者	大分大学および地域医療機関の医師、看護師、薬剤師、メディカルソーシャルワーカー、理学療法士、放射線技師など		
養成すべき人材像	がん患者のさまざまな治療課程やライフステージに応じたがん医療を理解し、医療チームのメンバーとして多職種と協働できる人材の育成		
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	がん医療におけるチーム医療に従事する他職種が、さまざまな治療期やライフステージに応じた全人的苦痛緩和について理解すること。		
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	がん診療連携病院、地域の中核病院のがん医療においてリーダー的存在となり、チーム医療の完成を目指す。		

主な取組みと成果

大学間交流

（1）九州大学大分大学合同カンファレンス

本学の腫瘍・血液内科学講座と九州大学の九州連携臨床腫瘍学講座・病態修復内科学講座とで、毎年場所を決めて集まり、症例検討・研究発表やそれに伴う討論、講演等を行っている。

また、本合同カンファレンスを通じ、両大学の交流を深めるとともに、ゲノム医療や海外の最新医療等の情報交換を行っている。



開催日	題目
平成30年3月3日	「日常診療に関する問題点の共有」他
平成31年2月2日	「骨肉腫再発に対して化学療法が奏功し、完全切除に至った一例」他
令和元年11月2日～3日	「関節リウマチ合併非小細胞肺癌にペムブロリズマブを投与した一例」他
令和2年12月8日	「食道原発悪性黒色腫に対して免疫チェックポイント阻害薬を使用した一例」他

セミナー・講演会等の開催

（1）インテンシブ教育セミナー

平成29年度「がん医療のいまを知る in 中津」、平成30年度「がん医療のいまを知る in 中津」医療者向けの教育セミナーとして、大分県北、県南の医療者に対して最新のがん医療の理解を深めるために、がんの発生メカニズムから終末期の医療やケアについて3回シリーズで行った。

令和元年度は、地域の保健師を対象にがん予防や早期発見でのエビデンスを中心に教育セミナーを実施した。



開催日	題 目
平成30年 1月13日	「がん医療のいまを知る in 中津」 ・がん医療のいまと課題
平成30年 2月10日	「がん医療のいまを知る in 中津」 ・医療生活の暮らしを支える医療とサポートのいまと課題
平成30年 3月10日	「がん医療のいまを知る in 中津」 ・患者の人生を支えるサポートのいまと課題
平成30年11月10日	「がん医療のいまを知る in 佐伯」 ・がん医療のいまと課題
平成30年12月 8日	「がん医療のいまを知る in 佐伯」 ・医療生活の暮らしを支える医療とサポートのいまと課題
平成31年 1月12日	「がん医療のいまを知る in 佐伯」 ・患者の人生を支えるサポートのいまと課題
令和 2年 1月29日	「がん医療のいまを知る」 ・保健師対象のがん予防や早期発見に関する最新の知識

(2) インテンシブ看護教育セミナー

平成29年度、平成30年度は、がん患者の高齢化を踏まえ、医療同意能力のアセスメント能力を高めるための知識の獲得を目指し、令和元年度は実践的な支援方法を身に付けることを目的に教育セミナーを実施した。



開催日	題 目
平成30年 3月25日	「高齢者の意思決定能力をどのようにアセスメントするか？」 ・高齢者の認知能力の特徴とそのアセスメント ・認知症高齢者の医療同意能力の評価と意思決定サポートのプロセス
平成30年11月 3日	第2弾「高齢者の意思決定能力をどのようにアセスメントするか？」 ・平成29年度の教育セミナーで参加希望者が多かったため、同様の内容を実施
令和 2年 2月 9日	「高齢がん患者の医療同意能力のアセスメントと意思決定支援の実際」 ・高齢のがん患者の増加に伴う意思決定支援能力の向上

(3) 大学院セミナー

消化器がんの発生・進展メカニズムの研究に加え、人工知能（AI）を用いたがんゲノム解析研究について講演いただき、本院のゲノム医療の推進にお力添えをいただいた。

また、肺がん領域におけるクリニカルシーケンス、特に Translational research の実務について講演いただき、がん研究や次世代シーケンサー関連の研究に有益な情報を得ることができた。

開催日	題 目
平成30年 1月31日	「次世代シーケンサーによる遺伝子解析—クリニカルシーケンスの実装と応用—」
平成30年 2月16日	「ゲノム情報を治療・予防に」
平成30年 9月15日	「ゲノム医療の今と今後の展望および課題」
令和 2年 1月29日	「最新のがん治療の有効性と課題（非侵襲外科治療）（ゲノム医療）」

開催日	題 目
令和2年1月29日	「がんの発症や転移のメカニズムとがん検診のエビデンス（臓器による違い、がん組織による検診の有効性の違い）」
令和3年2月1日～3月15日	「がんゲノム医療とはどのような医療か？どのような提供体制が進んでいるのか」
令和4年3月7日	「呼吸器外科領域の最新治療について」

（4）県民公開講座

毎年、がん患者、患者さんの家族を対象に、がん全般についての講演会を行っている。講演後は、質問・要望等を受ける時間を設け、がん患者、患者さんの家族がゆっくりと演者等と対話できるようにしている。

開催日	題 目
平成30年2月25日	「がん患者さんと家族の集い」 ・リンパ系腫瘍について 他
平成31年1月27日	「がん患者さんと家族の集い」 ・血液のがん「血液がんの治療法の進歩」 他
令和2年2月2日	「がん患者さんと家族の集い」 ・最近の食道癌・胃癌の化学療法 他
令和4年3月予定	「令和3年度 がん専門相談員研修」

（5）がんプロ事例検討会

大分県下のがん診療連携拠点病院に勤務するがん看護専門看護師とがん関連の認定看護師及び大学教員をメンバーに、平成29年度は事例検討を中心に、平成30年度は、事例検討と現在のがん医療におけるトピックスを、令和元年度は、事例検討と看護研究をテーマに行った。

開催日	検討内容		
平成29年度	5月13日	①事例の検討（テーマは自由）、1回2事例（1事例1.5h） 事例をとして、対象のアセスメントに必要な理論（看護理論や中範囲理論、病態整理等）の理解、アセスメントやアプローチ法での理論の活用などを検討していった。また、上記の事例検討を行う中で、スタッフ教育やコンサルテーション、組織分析や役割開発、各分野での専門性を生かした取り組みなどについて検討していった。	
	7月15日		
	9月9日		
	11月18日		
	1月20日		
3月17日			
平成30年度	5月19日	前半（1.5h）	後半（1.5h）トピックス
		事例検討	「がん薬物療法のいまと今後の展望」
	7月21日	事例検討	「画像の見方と画像診断の実際」
	9月15日	事例検討	「ゲノム医療のいまと今後の展望、課題」
	11月17日	事例検討	「臨床での薬剤の使用方法を臨床薬理のエビデンスで検証する」
	1月19日	事例検討	「小児・AYA世代のがん治療のいまと今後の課題」
3月16日	事例検討	「リンパ浮腫治療のいまと今後の課題」	

開催日		検討内容
令和元年度	5月18日 7月20日 9月21日 11月16日 1月18日 3月14日	①事例の検討（前半1.5h） ・対象のアセスメントや対象へのアプローチ法に関する検討、スタッフ教育やコンサルテーション、各分野での専門性を活かした取り組みなど ②看護研究（後半1.5h） ・臨床現場の問題意識から研究疑問への検討、研究計画の検討、共同研究の提案など
令和3年度	3月12日	事例検討会 大分県のがん患者・家族のケアをつなぐための検討会 ～地域で暮らすがん患者・家族を切れ目なく支援するために～

（6）市民公開講座

現在、日本人の生涯で二人に一人はがんに罹患すると言われている。がんの治療には早期発見はもちろんのこと、予後が長いため、QOLの維持や改善も重要となっている。本院が行っている市民公開講座では、いざという時のために知っておきたいがんの予防・治療等に関する正しい知識を広く提供し、もって市民の健康増進に役立つことができている。

開催日	題 目
平成30年7月1日	「胃の病気を学ぼう！」 ・ピロリ菌感染の診断と治療 他
平成30年11月23日	「がんをよく知ろう！ー肺がんと乳がんの最新治療ー」 ・がんってどんな病気 他
平成31年3月2日	「～前立腺がんについて学ぼう～」 ・前立腺がんって増えているの？ 他
令和4年2月19日～2月27日	「肺がん治療の最新情報 ～肺がんのことをもっとよく知ろう～」

（7）大分県腫瘍・血液内科懇話会

現在、全国の大学、がん専門施設でがんの遺伝子パネル検査の導入が始まっているが、本院での導入に向けての提言を聞くため、近畿大学の西尾先生をお招きした。下記講演を頂き、様々な領域で意見の交換があった。

開催日	題 目
平成30年11月21日	「がんの遺伝子パネル検査の実装」
令和2年11月19日	「支持療法のいろは」
令和3年11月24日	「AYA世代のがん ー当事者に届く支援の実践を目指して」

英文誌・和文誌・国際学会・国内学会等での発表一覧

○英文誌

1	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Sonoda A, Kamiyama N, <u>Ozaka S</u> , Gendo Y, Ozaki T, Hirose H, Noguchi K, Saechue B, Sachi N, Sakai K, Mizukami K, Hidano S, Murakami K, Kobayashi T. Oral administration of antibiotics results in fecal occult bleeding due to metabolic disorders and defective proliferation of the gut epithelial cell in mice. <i>Genes Cells</i> , 23 (12), 1043-1055, 2018
2	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Gendo Y, Matsumoto T, Kamiyama N, Saechue B, Fukuda C, Dewayani A, Hidano S, Noguchi K, Sonoda A, Ozaki T, Sachi N, Hirose H, <u>Ozaka S</u> , Eshita Y, Mizukami K, Okimoto T, Kodama M, Yoshimatsu T, Nishida H, Daa T, Yamaoka Y, Murakami K, Kobayashi T. Dysbiosis of the Gut Microbiota on the Inflammatory Background due to Lack of Suppressor of Cytokine Signalling-1 in Mice. <i>Inflamm Intest Dis</i> . 3 (3), 145-154, 2019
3	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Mizukami K, Matsunari O, Ogawa R, Hirashita Y, Okamoto K, Fukuda K, Sonoda A, Akiyama H, <u>Ozaka S</u> , Kawahara Y, Okimoto T, Kodama M, Murakami K. Examine the Availability and Safety of Mucosal Cutting Biopsy Technique for Diagnosis of Gastric Submucosal Tumor. <i>Gastroenterol Res Pract</i> , 2019 (Article ID 3121695), 2019.May
4	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Noguchi K, Kamiyama N, Hidano S, Gendo Y, Sonoda A, Ozaki T, Hirose H, Sachi N, Saechue B, <u>Ozaka S</u> , Eshita Y, Mizukami K, Kawano K, Kobayashi T. Autoimmune sialadenitis is associated with the upregulation of chemokine/chemokine receptor pairs in T cell-specific TRAF6-deficient mice. <i>Biochemical and biophysical communication</i> 504 (1) 245-250, 2018
5	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Endo Y, Ohta M, <u>Nakanuma H</u> , Tada K, Saga K, Masuda T, Hirashita T, Iwashita Y, Ozeki Y, Masaki T, Inomata M, Improvement in non-alcoholic fatty liver disease after laparoscopic sleeve gastrectomy in Japanese obese patients, <i>Ann Gastroenterol Surg</i> , 3 (3) 285-290, 2019
6	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Tada K, Iwashita Y, Shiraiwa K, Uchida H, Oshima Y, Sato Y, <u>Nakanuma H</u> , Hirashita T, Masuda T, Endo Y, Takeuchi Y, Ohta M, Itoh H, Inomata M, Pharmacokinetic and toxicodynamic evaluation of 5-fluorouracil administration after major hepatectomy in a rat model, <i>Cancer Chemother Pharmacol</i> , in press
7	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Hirashita T, Iwashita Y, <u>Nakanuma H</u> , Tada K, Saga K, Masuda T, Endo Y, Ohta M, Matsumoto T, Inomata M, Pylorus-preserving pancreatoduodenectomy preserving right gastroepiploic vessels following proximal gastrectomy: report of two cases, <i>Surg Case Rep</i> , 5 (1) online, 2019
8	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	<u>Ogawa K</u> , Toujigamori M, Inomata M, Venous malformation of the lung in an infant, <i>J Pediatr Surg Case Rep</i> , 47, in press, 2019
9	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	<u>Abe M</u> , Osoegawa A, Karashima T, Takumi Y, Kobayashi R, Hashimoto T, Miyawaki M, Takeuchi H, Okamoto T, Sugio K. Erlotinib and bevacizumab combination therapy for afatinibrefractory leptomeningeal carcinomatosis from EGFR-mutated lung cancer, <i>International Cancer Conference Journal</i> , 8(2), 81-85, 2019
10	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Takeuchi H, <u>Abe M</u> , Takumi Y, Hashimoto T, Miyawaki M, Okamoto T, Sugio K. Elevated red cell distribution width to platelet count ratio predicts poor prognosis in patients with breast cancer, <i>Sci Rep</i> , 9 (1), 3033, 2019
11	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	<u>Abe M</u> , Osoegawa A, Miyawaki M, Noda D, Karashima T, Takumi Y, Hashimoto T, Okamoto T, Daa T, Sugio K. Ciliated muconodular papillary tumor of the lung: a case report and literature review, <i>General Thoracic and Cardiovascular Surgery</i> 68, 1344-1349, 2020
12	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	<u>Sumimoto T</u> , Nakahara R, Sato Y, Itoh H. A quantitative method for the determination of bosutinib in human plasma using high-performance liquid chromatography and ultraviolet detection, <i>J Clin Lab Anal</i> , 32, 1-3, 2018
13	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Sato Y, <u>Sumimoto T</u> , Tsushita H, Nakahara R, Matsumoto H, Itoh H. Filgrastim biosimilar for neutropenia in gynecological cancer patients receiving chemotherapy: a prospective, single-center, non-randomized, open trial, <i>Pharmazie</i> . 8, 486-488, 2018
14	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Saechue B, Kamiyama N, Wang Y, Fukuda C, Watanabe K, Soga Y, Goto M, Dewayani A, Arika S, Hirose H, <u>Ozaka S</u> , Sachi N, Hidano S, Faisal K, Chowdhury R, Anik Ashfaq Khan M, Hossain F, Ghosh P, Shirin T, Mondal D, Murakami K, Kobayashi T. Development of a portable reverse transcription loop-mediated isothermal amplification system to detect the E1 region of Chikungunya virus in a cost-effective manner, <i>Genes Cells</i> , 25, 615-625, 2020

15	ゲノム医療研究者養成 コース（博士課程）	Ozaka S , Gotoh Y, Honda S, Iwao T, Kawahara Y, Kinoshita K, Nakaya T, Noguchi C, Kagawa K, Murakami K. Rectal varix treated with endoscopic cyanoacrylate injection therapy. Clin J Gastroenterol, 2021, (Online ahead of print).
16	ゲノム医療研究者養成 コース（博士課程）	Hideya Takeuchi, Daiki Noda, Miyuki Abe , Kentaro Anami, Michiyo Miyawaki, Atsushi Osoegawa, Kenji Sugio. Evaluating the Platelet Distribution Width-to-Plateletcrit Ratio as a Prognostic Marker for Patients With Breast Cancer. Anticancer Res. 2020 Jul;40 (7): 3947-3952. doi: 10.21873/anticancerres.14386.
17	ゲノム医療研究者養成 コース（博士課程）	Ozaka S , Kobayashi T, Murakami K. Comment on "A case of acute necrotising pancreatitis following the second dose of Pfizer-BioNTech COVID-19 mRNA vaccine", Br J Clin Pharmacol, Online ahead of print, 2021
18	ゲノム医療研究者養成 コース（博士課程）	Ozaka S , Inoue K, Okajima T, Tasaki T, Arika S, Ono H, Ando T, Daa T, Murakami K. Monomorphic epitheliotropic intestinal T-cell lymphoma presenting as melena with long-term survival: A case report and review of literature, World J Gastroenterol, 27 (38), 6501-6510, 2021
19	ゲノム医療研究者養成 コース（博士課程）	Ozaka S , Sonoda A, Arika S, Kamiyama N, Hidano S, Sachi N, Ito K, Kudo Y, Minata M, Saechue B, Dewayani A, Chalalai T, Soga Y, Takahashi Y, Fukuda C, Mizukami K, Okumura R, Kayama H, Murakami K, Takeda K, Kobayashi T. Protease inhibitory activity of secretory leukocyte protease inhibitor ameliorates murine experimental colitis by protecting the intestinal epithelial barrier, Genes Cells, 26 (10), 807-822, 2021
20	ゲノム医療研究者養成 コース（博士課程）	Hidano S, Mizukami K, Yahiro T, Shirakami K, Ito H, Ozaka S , Arika S, Saechue B, Dewayani A, Chalalai T, Soga Y, Goto M, Sonoda A, Ozaki T, Sachi N, Kamiyama N, Nishizono A, Murakami K, Kobayashi T. Analysis of the Prevalence and Species of Anisakis nematode in Sekisaba, Scomber japonicus Caught in Coastal Waters off Saganoseki, Oita in Japan, Jpn J Infect Dis, 74 (5), 387-391, 2021
21	ゲノム医療研究者養成 コース（博士課程）	Ozaka S , Gotoh Y, Honda S, Iwao T, Kawahara Y, Kinoshita K, Nakaya T, Noguchi C, Kagawa K, Murakami K. Rectal varix treated with endoscopic cyanoacrylate injection therapy, 14 (3), 791-795, 2021
22	ゲノム医療研究者養成 コース（博士課程）	Kinoshita K , Fukuchi S, Murakami K. A case of dengue fever that should be considered as imported infectious disease with digestive symptoms, Clin J Gastroenterol, 14, 1115-1120, 2021.
23	ゲノム医療研究者養成 コース（博士課程）	Kinoshita K , Fukuchi S, Murakami K. Complications due to Biliary Stent Deviation, Austin J Gastroenterol, 8, 1112, 2021
24	ゲノム医療研究者養成 コース（博士課程）	Sotaro Ozaka , Kunimitsu Inoue, Tomoya Okajima, Takako Tasaki, Shimpei Arika, Hideki Ono, Takeaki Ando, Tsutomu Daa, Kazunari Murakami. Monomorphic epitheliotropic intestinal T-cell lymphoma presenting as melena with long-term survival: A case report and review of literature World J Gastroenterol, 2021 October 14; 27 (38): 6501-6510 DOI: 10.3748/wjg.v27.i38.6501 ISSN 1007-9327 (print) ISSN 2219-2840 (online)
25	ゲノム医療研究者養成 コース（博士課程）	Fujinaga A , Ohta M, Masuda T. Recurrence of gastric gastrointestinal stromal tumor 12 years after repeat hepatectomies for liver metastases: report of a case, Clin J Gastroenterol, 14, 1637-1641, 2021
26	ゲノム医療研究者養成 コース（博士課程）	Sotaro Ozaka , Akira Sonoda, Shimpei Arika, Naganori Kamiyama, Shinya Hidano, Nozomi Sachi, Kanako Ito, Yoko Kudo, Mizuki Minata, Benjawan Saechue, Astri Dewayani, Thanyakorn Chalalai, Yasuhiro Soga, Yuya Takahashi, Chiaki Fukuda, Kazuhiro Mizukami, Ryu Okumura, Hisako Kayama, Kazunari Murakami, Kiyoshi Takeda and Takashi Kobayashi Protease inhibitory activity of secretory leukocyte protease inhibitor ameliorates murine experimental colitis by protecting the intestinal epithelial barrier Genes Cells. 2021 Oct;26 (10): 807-822. doi: 10.1111/gtc.12888. Epub 2021 Aug 17.
27	ゲノム医療研究者養成 コース（博士課程）	Sotaro Ozaka , Takashi Kobayashi, Kazunari Murakami Comment on "A case of acute necrotising pancreatitis following the second dose of Pfizer-BioNTech COVID-19 mRNA vaccine" Br J Clin Pharmacol. 2021 Dec 10. doi: 10.1111/bcp.15159. Online ahead of print.
28	ゲノム医療研究者養成 コース（博士課程）	Sumimoto T , Nakahara R, Suzuki Y, Tanaka R, Yoshida N, Ogata M, Itoh H. Development of a Sensitive and High-throughput Assay for Simultaneous Quantification of Five Tyrosine Kinase Inhibitors and Two Active Metabolites in Human Plasma Using Ultra-performance Liquid Chromatography Coupled to Tandem Mass Spectrometry, Ther Drug Monit, 2021. in press
29	ゲノム医療研究者養成 コース（博士課程）	Sumimoto T , Tanaka R, Shiraiwa K, Tatsuta R , Itoh H. Exacerbation of cancer pain after administering immune checkpoint inhibitor in a patient taking opioids: A case report, J Clin Pharm Ther, 2021. in press

○英文誌（つづき）

30	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Nakahara R, <u>Sumimoto T</u> , Tanaka R, Ogata M, Itoh H. Successful determination of imatinib re-administration dosage by therapeutic drug monitoring in a case of chronic myeloid leukemia initiating dialysis for acute renal dysfunction, Clin Case Rep, 9 (8): 4357-4361, 2021
31	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Shiraiwa K, Ono H, Tanaka R, Fujinaga A, Hiratsuka T, <u>Tatsuta R</u> , Inomata M, Itoh H. Effect of S-1 on blood levels of phenobarbital and phenytoin: A case report. Clin Case Rep, 9 (3): 1514-1517, 2021
32	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Shiraiwa K, Suzuki Y, Tanaka K, Kawano M, Iwasaki T, Matsumoto A, Tanaka R, <u>Tatsuta R</u> , Tsumura H, Itoh H. Development of a High-Throughput Quantification Method for Pazopanib Using Ultra-Performance Liquid Chromatography-Tandem Mass Spectrometry and Its Clinical Application in Patients with Soft Tissue Tumors. Ther Drug Monit. 43: 416-421, 2021
33	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Sueshige Y, Shiraiwa K, Honda K, Tanaka R, Saito T, Tokoro M, Iwao M, Endo M, Arakawa M, <u>Tatsuta R</u> , Murakami K, Itoh H. A broad range high-throughput assay for lenvatinib using ultra-high performance liquid chromatography coupled to tandem mass spectrometry with clinical application in patients with hepatocellular carcinoma. Ther Drug Monit. 43 (5): 664-671, 2021
34	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Matsumoto A, Shiraiwa K, Suzuki Y, Tanaka K, Kawano M, Iwasaki T, Tanaka R, <u>Tatsuta R</u> , Tsumura H, Itoh H. Sensitive quantification of free pazopanib using ultra-high performance liquid chromatography coupled to tandem mass spectrometry and assessment of clinical application. J Pharm Biomed Anal. 206, 114348, 2021
35	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Endo M, Honda K, Saito T, Shiraiwa K, Sueshige Y, Tokumaru T, Iwao M, Tokoro M, Arakawa M, Tanaka R, <u>Tatsuta R</u> , Seike M, Itoh H, Murakami K. Maximum plasma concentration of lenvatinib is useful for predicting thrombocytopenia in patients treated for hepatocellular carcinoma. World J Oncol. 12 (5), 165-172, 2021
36	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Hirashita T, Iwashita Y, <u>Fujinaga A</u> , <u>Nakanuma H</u> , Masuda T, Endo Y, Ohta M, Inomata M. Relationship between the tumor location and clinicopathological features in left sided pancreatic ductal adenocarcinoma. Surg Today, 51 (5),814-820,2021
37	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Hirashita T, Iwashita Y, <u>Fujinaga A</u> , <u>Nakanuma H</u> , Tada K, Masuda T, Endo Y, Ohta M, Inomata M, Short internal pancreatic stent reduces pancreatic fistula in pancreatoduodenectomy, Langenbecks Arch Surg,406 (3),721-728,2021
38	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	<u>Fujinaga A</u> , Ohta M, Endo Y, Tada K, <u>Kawamura M</u> , <u>Nakanuma H</u> , <u>Ogawa K</u> , Watanabe K, Kawasaki T, Masuda T, Hirashita T, Toujigamori M, Inomata M, Clinical Significance of Splenic Vessels and Anatomical Features in Laparoscopic Splenectomy, J Laparoendosc Adv Surg Tech A,31 (6),632-637,2021
39	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Teijiro Hirashita, Yukio Iwashita, Yuichi Endo, <u>Atsuro Fujinaga</u> , Toshitaka Shin, Hiromitsu Mimata and Masafumi Inomata, How Should We Treat Pancreatic Metastases from Renal Cell Carcinoma? A Meta-Analysis, World J Surg, 45 (7), 2191-2199,2021
40	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	<u>Katsuhiko Ogawa</u> , Yusuke Oshima, Tsuyoshi Etoh, Yushi Kaisyakuji, Manabu Tojigamori, Yasuharu Ohno, Norio Shiraiishi, Masafumi Inomata, Label-free detection of human enteric nerve system using Raman spectroscopy: A pilot study for diagnosis of Hirschsprung disease, J Pediatr Surg,56 (7),1150-1156,2021
41	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Kaisyakuji Y, <u>Ogawa K</u> , Etoh T, Matumoto H, Kono Y, Akagi T, Ninomiya S, Ueda Y, Tojigamori M, Shiroshita H, Ohno Yasuharu, Inomata M, A case of laparoscopic rectopexy for chronic organic constipation due to insufficient fixation of the rectum to the sacrum in a 14-year-old boy, Journal of Pediatric Surgery Case Reports
42	ライフステージに応じたチーム医療人養成コース（インテンシブ）	<u>Sumimoto T</u> , <u>Nakahara R</u> , Sato Y, Itoh H. A quantitative method for the determination of bosutinib in human plasma using high-performance liquid chromatography and ultraviolet detection, J Clin Lab Anal, 32, 1-3, 2018
43	ライフステージに応じたチーム医療人養成コース（インテンシブ）	Sato Y, <u>Sumimoto T</u> , Tsushita H, <u>Nakahara R</u> , Matsumoto H, Itoh H. Filgrastim biosimilar for neutropenia in gynecological cancer patients receiving chemotherapy: a prospective, single-center, non-randomized, open trial, Pharmazie. 8, 486-488, 2018
44	ライフステージに応じたチーム医療人養成コース（インテンシブ）	Suzuki Y, <u>Ono H</u> , Tanaka R, Sato F, Sato Y, Ohno K, Mimata H, Itoh H. Recovery of OATP1B Activity after Living Kidney Transplantation in Patients with End-Stage Renal Disease. Pharm Res, 36 (4), 59, 2019

○和文誌

1	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	安東大智、山村亮太、五十川達哉、田崎亮子、 <u>小坂聡太郎</u> 症例報告 血清 Na ⁺ -Cl ⁻ の経時的観察が有用であった偽アルドステロン症の1例 日本病院薬剤師会雑誌 = Journal of Japanese Society of Hospital Pharmacists 55 (6) 663-667 2019年6月
2	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	岩下幸雄、平下禎二郎、増田崇、遠藤裕一、多田和裕、 <u>中沼寛明</u> 、猪股雅史、安全な腹腔鏡下胆摘のための手術難度評価法、臨床外科、74 (2)172-176、2019
3	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	岩下幸雄、遠藤裕一、増田崇、平下禎二郎、 <u>中沼寛明</u> 、多田和裕、猪股雅史、ラパコレにおける術中合併症と回避法、消化器外科、42 (4)395-401、2019
4	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	太田正之、遠藤裕一、多田和裕、 <u>中沼寛明</u> 、平下禎二郎、増田崇司、岩下幸雄、猪股雅史、外科治療、臨牀と研究、96 (6)62-66、2019
5	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	<u>藤永淳郎</u> 、内田博喜、岩下幸雄、 <u>板井勇介</u> 、太田正之、猪股雅史、腹腔鏡下左肝切除を施行した肝粘液性嚢胞腫瘍の1例、日本臨床外科学会学会雑誌、80 (6)、1212-1217、2019
6	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	<u>藤永淳郎</u> 、平下禎二郎、 <u>板井勇介</u> 、 <u>中沼寛明</u> 、多田和裕、増田崇、遠藤裕一、岩下幸雄、太田正之、猪股雅史、FDG-PET で集積亢進を示す傍大動脈リンパ節腫大を伴う膵管内乳頭粘膜液性腺癌の1例、日本消化器病学会雑誌、116 (9)、747-753、2019
7	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	<u>内匠陽平</u> 、辛島高志、安部美幸、宮脇美千代、駄阿勉、杉尾賢二、肺原発ホジキンリンパ腫の1切除例、肺癌、in press.
8	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	亀井進太郎、佐藤雄己、 <u>炭本隆宏</u> 、津下遥香、田中遼大、伊東弘樹、糖尿病患者における配合剤に関する意識調査、診療と新薬、55、862-867、2018
9	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	岡本修、田崎貴子、 <u>小坂聡太郎</u> 、岡嶋智也、宗元碩哲、進来壘、福地聡士、甲斐宜貴、今里真、橋本裕之 胃瘻チューブ抜去4年後に胃皮膚瘻が顕在化した1例、皮膚臨床、62 (2) ; 244-248、2020、2月
10	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	龍田涼佑、 <u>炭本隆宏</u> 、中原良介、田中遼大、伊東弘樹、トラスツマブの先行バイオ医薬品とバイオ後続品の治療学的安全性の比較、癌と化学療法 48巻7号、945-949 2021年7月
11	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	<u>小川雄大</u> 、渡辺稔彦、金森豊、 <u>Vater</u> 乳頭部に発生した十二指腸重複症、小児外科、53 (9)、954-960、2021
12	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	遠藤裕一、 <u>河村昌寛</u> 、 <u>藤永淳郎</u> 、 <u>中沼寛明</u> 、川崎貴秀、増田崇、平下禎二郎、猪股雅史、胆嚢摘出術におけるAIを用いた胆管損傷回避法、胆と膵、42 (7)、585-589、2021
13	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	猪股雅史、 <u>藤永淳郎</u> 、 <u>中沼寛明</u> 、 <u>白坂美哲</u> 、河野洋平、鈴木浩輔、遠藤裕一、衛藤剛、AIと内視鏡外科手術、消化器外科、44 (7)、1219-1224、2021
14	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	太田正之、遠藤裕一、 <u>藤永淳郎</u> 、渡邊紀、川崎貴秀、 <u>中沼寛明</u> 、 <u>河村昌寛</u> 、増田崇、猪股雅史、高度肥満症に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術、外科、83 (5)、432-437、2021
15	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	太田正之、遠藤裕一、 <u>藤永淳郎</u> 、渡邊紀、川崎貴秀、 <u>中沼寛明</u> 、 <u>河村昌寛</u> 、増田崇、平下禎二郎、正木孝幸、猪股雅史、肥満外科手術後のフォローアップ、臨床外科、76 (4)、474-478、2021
16	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	<u>藤永淳郎</u> 、平下禎二郎、遠藤裕一、増田崇、太田正之、猪股雅史、膵腫瘍核出術後6カ月で残膵再発を認めた腎細胞癌膵転移の1例、日本臨床外科学会雑誌、第82巻12号、2021
17	ライフステージに応じたチーム医療人養成コース（インテンシブ）	柳井優花、高野久仁子、 <u>長松顕太郎</u> 、坂田真規、片山映樹、 <u>吉田奈津美</u> 、本田周平、河野利恵、緒方正男、森田泰介、西田欣広、橋原久司、白尾國昭、妊娠19週に診断し、妊娠継続のもと化学療法を行い分娩に至った急性骨髄性白血病、臨床血液 in press
18	ライフステージに応じたチーム医療人養成コース（インテンシブ）	亀井進太郎、佐藤雄己、 <u>炭本隆宏</u> 、津下遥香、田中遼大、伊東弘樹、糖尿病患者における配合剤に関する意識調査、診療と新薬、55、862-867、2018

○国際学会

1	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	○木本喬博、園田光、勝田泰志郎、秋山英俊、 <u>小坂聡太郎</u> 、川原義成、平下有香、福田健介、松成修、岡本和久、小川竜、水上一弘、沖本忠義、兒玉雅明、村上和成、石井一志、平塚考宏 腸閉塞を契機に診断された上部空腸サイトメガロウイルス腸炎の1例（専修医発表）【第113回日本消化器病学会九州支部例会・第107回日本消化器内視鏡学会九州支部例会】令和元年5月24日（金）～25日（土）、福岡県、アクロス福岡
---	---------------------	---

○国際学会（つづき）

2	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	○小坂聡太郎、園田光、有木晋平、神山長慶、Benjawan Saechue ¹ 、Astri Dewayani、飛彈野真也、尾崎貴士、広瀬晴奈、佐知望美、曾我泰裕、後藤美月、水上一弘、村上和成、小林隆志。抗生物質起因性大腸炎マウスモデルに対する柴苓湯の保護効果の解明。【第42回日本分子生物学会年会】2019年12月3日～6日、福岡県
3	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	○Astri Dewayani, Naganori Kamiyama, Shinya Hidano, <u>Sotaro Ozaka</u> , Shimpei ariki, Nozomi Sachi, Mizuki Goto, Yasuhiro Soga, Benjawan Saechue, Takashi Kobayashi. TRAF6 regulation in Th9 cell responses to tumor growth. 【第42回日本分子生物学会年会】2019年12月3日～6日、福岡県
4	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	○Benjawan Saechue, Astri Dewayani, Naganori Kamiyama, Shinya Hidano, <u>Sotaro Ozaka</u> , Shimpei ariki, Nozomi Sachi, Mizuki Goto, Yasuhiro Soga, Khaledul Faisal, Rajashree Chowdhury, Md. Anik Ashfaq Khan, Faria Hossain, Prakash Ghosh, Tahmina Shirin, Dinesh Mondal, Takashi Kobayashi. Development of a rapid, simple and portable reverse transcription loop-mediated isothermal amplification method for Chikungunya virus. 【第42回日本分子生物学会年会】2019年12月3日～6日、福岡県
5	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	○後藤美月、広瀬晴奈、神山長慶、Benjawan Saechue、Astri Dewayani、飛彈野真也、 <u>小坂聡太郎</u> 、有木晋平、曾我泰裕、小林隆志。白癬菌増殖抑制効果を有するわさびの機能分子の探索。【第42回日本分子生物学会年会】2019年12月3日～6日、福岡県
6	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	○曾我泰裕、神山長慶、Benjawan Saechue、Astri Dewayani、飛彈野真也、佐知望美、 <u>小坂聡太郎</u> 、有木晋平、後藤美月、小林隆志。TRAF6を介した炎症シグナルを定量化するレポーターアッセイ系の樹立と炎症を抑制する新規分子の探索。【第42回日本分子生物学会年会】2019年12月3日～6日、福岡県
7	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	○神山長慶、Benjawan Saechue、Astri Dewayani、飛彈野真也、佐知望美、 <u>小坂聡太郎</u> 、有木晋平、曾我泰裕、後藤美月、鈴木亮介、小林隆志。ジカウイルスアフリカ株はアジア株に比べて宿主細胞への侵入能が高く、EAEを増悪させる。【第42回日本分子生物学会年会】2019年12月3日～6日、福岡県
8	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	○佐知望美、福田千瑛、飛彈野真也、神山長慶、Benjawan Saechue、 <u>小坂聡太郎</u> 、Astri Dewayani、有木晋平、曾我泰裕、後藤美月、小林隆志。ゲノム編集マウスを用いたケモカイン CCL20の腸管組織における生理的機能の解析。【第42回日本分子生物学会年会】2019年12月3日～6日、福岡県
9	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	○Takashi Kobayashi, <u>Sotaro Ozaka</u> , Shinpei Arika, Naganori Kamiyama, Benjawan Saechue, Astri Dewayani, Shinya Hidano, Nozomi Sachi, Yasuhiro Soga, Mizuki Goto. Role of SLPI in the pathogenesis of inflammatory bowel disease. 【第48回日本免疫学会学術集会】2019年12月11日～13日、静岡県
10	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	○Shinya Hidano, <u>Sotaro Ozaka</u> , Shinpei Arika, Naganori Kamiyama, Benjawan Saechue, Astri Dewayani, Nozomi Sachi, Yasuhiro Soga, Mizuki Goto. TRAF6 deficiency in dendritic cells exacerbates the disease severity of Toxoplasma gondii infection in mice. 【第48回日本免疫学会学術集会】2019年12月11日～13日、静岡県
11	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	<u>Ogawa K</u> , Toujigamori M, Ohno Y, Inomata M, Plumonary hemangioma in an infant -report of a case-, 52nd Annual Meeting of the Pacific Association of Pediatric Surgeons (New Zealand) 2019.3.10-14.
12	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Endo Y, Ohta M, <u>Nakanuma H</u> , Tada K, Masuda T, Hirashita T, Iwashita Y, Inomata M, Mechanism of NAFLD improvement after sleeve gastrectomy, 24th IFSO (MADRID) 2019.9.3-7
13	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Iwashita Y, Tada T, <u>Nakanuma H</u> , <u>Fujinaga A</u> , Masuda T, Hirashita T, Endo Y, Takeuchi Y, Inomata M, Tips and Techniques for Difficult Laparoscopic Cholecystectomy, Tips and Techniques in Laparoscopic Surgery (Bangkok) 2019.10.3-5
14	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Endo Y, Ohta M, <u>Nakanuma H</u> , Tada K, Masuda T, Hirashita T, Iwashita Y, Inomata M, Choices of potimal linear staplers in laparoscopic sleeve gastrectomy, IFSO-APC 2019, (Guangzhou, China) 2019.3.21-23
15	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	<u>Sumimoto T</u> , Nakahara R, Suzuki Y, Sato Y, Ogata M, Itoh H, Sensitive and high-throughput UPLC-MS/MS method for simultaneous quantification of imatinib, N-desmethyl-imatinib, nilotinib, dasatinib, bosutinib, ponatinib and N-desmethyl-ponatinib in human plasma, 16th International Congress of Therapeutic Drug Monitoring & Clinical Toxicology (Brisbane, Australia) 2018.9
16	ライフステージに応じたチーム医療人養成コース（インテンシブ）	<u>Shiraiwa K</u> , Suzuki Y, Tanaka K, Kawano M, Iwasaki T, Tanaka R, Sato Y, Tsumura H, Itoh H. Quantification of pazopanib in plasma of patients with soft tissue tumors using ultra-performance liquid chromatography coupled to tandem mass spectrometry, 16th International Congress of Therapeutic Drug Monitoring & Clinical Toxicology (Brisbane, Australia) 2018.9

17	ライフステージに応じたチーム医療人養成コース（インテンシブ）	Sumimoto T, Nakahara R, Suzuki Y, Sato Y, Ogata M, Itoh H, Sensitive and high-throughput UPLC-MS/MS method for simultaneous quantification of imatinib, N-desmethyl-imatinib, nilotinib, dasatinib, bosutinib, ponatinib and N-desmethyl-ponatinib in human plasma, 16th International Congress of Therapeutic Drug Monitoring & Clinical Toxicology (Brisbane, Australia) 2018.9
----	--------------------------------	---

○国内学会

1	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	中沼寛明、平下禎二郎、岩下幸雄、多田和裕、増田崇、遠藤裕一、太田正之、猪股雅史、胆道出血を伴った icteric type HCC の 1 例、第56回九州外科学会第56回九州小児外科学会第55回九州内分泌外科学会（鹿児島）2019.5.17-18
2	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	白坂美哲、赤木智徳、板井勇介、小川雄大、原貴生、平塚孝宏、鈴木浩輔、柴田智隆、上田貴威、當寺ヶ盛学、白下英史、衛藤剛、白石憲男、猪股雅史、閉塞性大腸癌に対する術前大腸ステント留置の治療成績、JDDW 2019 KOBE（神戸）2019.11.21-24
3	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	板井勇介、上田貴威、原貴生、平塚孝宏、鈴木浩輔、赤木智徳、柴田智隆、當寺ヶ盛学、白下英史、衛藤剛、白石憲男、猪股雅史、術前診断が困難であった胃粘膜下腫瘍の 1 例 A case of gastric submucosal tumor with difficulty in preoperative diagnosis、第91回日本胃癌学会総会（静岡）2019.2.27-3.1
4	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	藤永淳郎、錦耕平、鈴木浩輔、柴田智隆、上田貴威、當寺ヶ盛学、白下英史、衛藤剛、白石憲男、猪股雅史、Jackhammer esophagus を伴った横隔膜上食道憩室の 1 例、第73回日本食道学会学術集会（福岡）2019.6.6-7
5	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	小川雄大、當寺ヶ盛学、平塚孝宏、赤木智徳、鈴木浩輔、柴田智隆、上田貴威、白下英史、衛藤剛、白石憲男、猪股雅史、重症心身障害児に対する腹腔鏡補助下経皮内視鏡的胃瘻造設術（LAPEG）の工夫、8th Reduced Port Surgery Forum（東京）2019.8.2-3
6	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	安部美幸、辛島高志、内匠陽平、橋本崇史、宮脇美千代、岡本龍郎、杉尾賢二、乳癌患者におけるヘモグロビン／血小板数の予後因子としての有用性、第119回日本外科学会定期学術集会（大阪府大阪市）、2019年4月20日
7	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	岡本龍郎、辛島高志、安部美幸、内匠陽平、橋本崇史、宮脇美千代、武内秀也、杉尾賢二、肺腺癌切除例における EGFR 遺伝子変異癌の画像的特徴と予後、第119回日本外科学会定期学術集会（大阪府大阪市）、2019年4月18日
8	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	辛島高志、安部美幸、内匠陽平、橋本崇史、宮脇美千代、武内秀也、岡本龍郎、杉尾賢二、中縦隔原発のカルチノイド腫瘍の 1 切除例、第36回日本呼吸器外科学会学術集会（大阪府大阪市）、2019年5月16日
9	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	安部美幸、野田大樹、辛島高志、内匠陽平、橋本崇史、宮脇美千代、武内秀也、岡本龍郎、杉尾賢二、超高齢者肺癌のⅡ期以上の臨床的検討、第36回日本呼吸器外科学会学術集会（大阪府大阪市）、2019年5月16日
10	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	内匠陽平、辛島高志、安部美幸、橋本崇史、宮脇美千代、武内秀也、岡本龍郎、杉尾賢二、重症筋無力症合併胸腺腫に対する拡大胸腺摘出術の検討、第36回日本呼吸器外科学会学術集会（大阪府大阪市）、2019年5月16日
11	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	宮脇美千代、辛島高志、安部美幸、内匠陽平、橋本崇史、岡本龍郎、杉尾賢二、CT での肺結節良悪性の鑑別～悪性が疑われたが手術直前で覆った症例の検討～、第36回日本呼吸器外科学会学術集会（大阪府大阪市）、2019年5月16日
12	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	岡本龍郎、辛島高志、安部美幸、内匠陽平、橋本崇史、宮脇美千代、武内秀也、杉尾賢二、転移性肺腫瘍に対する肺動脈壁合併肺葉切除および心膜パッチ再建、第36回日本呼吸器外科学会学術集会（大阪府大阪市）、2019年5月16日
13	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	宮脇美千代、辛島高志、安部美幸、内匠陽平、橋本崇史、阿南健太郎、岡本龍郎、杉尾賢二、EWS 症例の検討～苦手からの脱却を目指して～、第42回日本呼吸器内視鏡学会学術集会（東京都文京区）、2019年7月4日
14	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	武内秀也、安部美幸、内匠陽平、橋本崇史、宮脇美千代、岡本龍郎、杉尾賢二、乳癌患者における術前 Albumin/CRP 値の臨床的意義、第27回日本乳癌学会総会（東京都新宿区）、2019年7月12日
15	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	野田大樹、辛島高志、内匠陽平、安部美幸、阿南健太郎、宮脇美千代、武内秀也、岡本龍郎、杉尾賢二、気管分岐部直上腫瘍の気管切除再建、第52回日本胸部外科学会九州地方会総会（宮崎県宮崎市）、2019年8月29日

○国内学会（つづき）

16	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	辛島高志、野田大樹、安部美幸、 <u>内匠陽平</u> 、阿南健太郎、宮脇美千代、岡本龍郎、杉尾賢二、当科で経験した肺切除後肺軸捻転の4例、第72回日本胸部外科学会定期学術集会（京都府京都市）、2019年11月1日
17	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	野田大樹、辛島高志、安部美幸、 <u>内匠陽平</u> 、阿南健太郎、宮脇美千代、武内秀也、岡本龍郎、杉尾賢二、肺尖部壁側胸膜由来の胸壁腫瘍の切除例、第72回日本胸部外科学会定期学術集会（京都府京都市）、2019年10月31日
18	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	岡本龍郎、野田大樹、辛島高志、安部美幸、 <u>内匠陽平</u> 、阿南健太郎、宮脇美千代、武内秀也、杉尾賢二、EGFR陽性肺腺癌の進化的発育における遺伝子変化、第60回日本肺癌学会学術集会（大阪府大阪市）、2019年12月6日
19	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	阿南健太郎、野田大樹、辛島高志、安部美幸、 <u>内匠陽平</u> 、宮脇美千代、岡本龍郎、杉尾賢二、当院における肺多形癌手術例の検討、第60回日本肺癌学会学術集会（大阪府大阪市）、2019年12月7日
20	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	野田大樹、辛島高志、安部美幸、 <u>内匠陽平</u> 、阿南健太郎、宮脇美千代、武内秀也、岡本龍郎、杉尾賢二、気管腫瘍に対する外科治療の検討、第60回日本肺癌学会学術集会（大阪府大阪市）、2019年12月7日
21	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	安部美幸、三浦真弘、濱田文彦、杉尾賢二、乳腺センチネルリンパ節血管分布様式からの癌血行性転移機構の再考—解剖学的解析—、第33回大分乳がんのつどい（大分県大分市）、2019年2月16日
22	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	安部美幸、三浦真弘、腋窩リンパ系に関する臨床解剖学的検討—血管支配から考える臨床諸問題—、第124回日本解剖学会全国学術集会（新潟県新潟市）、2019年3月28日
23	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	武内秀也、安部美幸、辛島高志、 <u>内匠陽平</u> 、橋本崇史、宮脇美千代、岡本龍郎、杉尾賢二、乳癌患者におけるヘモグロビン／血小板数の予後因子としての有用性、第119回日本外科学会定期学術集会（大阪府大阪市）、2019年4月20日
24	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	岡本龍郎、辛島高志、安部美幸、 <u>内匠陽平</u> 、橋本崇史、宮脇美千代、武内秀也、杉尾賢二、肺腺癌切除例におけるEGFR遺伝子変異癌の画像的特徴と予後、第119回日本外科学会定期学術集会（大阪府大阪市）、2019年4月18日
25	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	辛島高志、安部美幸、 <u>内匠陽平</u> 、橋本崇史、宮脇美千代、武内秀也、岡本龍郎、杉尾賢二、中縦隔原発のカルチノイド腫瘍の1切除例、第36回日本呼吸器外科学会学術集会（大阪府大阪市）、2019年5月16日
26	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	安部美幸、野田大樹、辛島高志、 <u>内匠陽平</u> 、橋本崇史、宮脇美千代、武内秀也、岡本龍郎、杉尾賢二、超高齢者肺癌のII期以上の臨床的検討、第36回日本呼吸器外科学会学術集会（大阪府大阪市）、2019年5月16日
27	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	<u>内匠陽平</u> 、辛島高志、安部美幸、橋本崇史、宮脇美千代、武内秀也、岡本龍郎、杉尾賢二、重症筋無力症合併胸腺腫に対する拡大胸腺摘出術の検討、第36回日本呼吸器外科学会学術集会（大阪府大阪市）、2019年5月16日
28	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	宮脇美千代、辛島高志、安部美幸、 <u>内匠陽平</u> 、橋本崇史、岡本龍郎、杉尾賢二、CTでの肺結節良悪性の鑑別～悪性が疑われたが手術直前で覆った症例の検討～、第36回日本呼吸器外科学会学術集会（大阪府大阪市）、2019年5月16日
29	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	岡本龍郎、辛島高志、安部美幸、 <u>内匠陽平</u> 、橋本崇史、宮脇美千代、武内秀也、杉尾賢二、転移性肺腫瘍に対する肺動脈壁合併肺葉切除および心膜パッチ再建、第36回日本呼吸器外科学会学術集会（大阪府大阪市）、2019年5月16日
30	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	宮脇美千代、辛島高志、安部美幸、 <u>内匠陽平</u> 、橋本崇史、阿南健太郎、岡本龍郎、杉尾賢二、EWS症例の検討～苦手からの脱却を目指して～、第42回日本呼吸器内視鏡学会学術集会（東京都文京区）、2019年7月4日
31	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	武内秀也、安部美幸、 <u>内匠陽平</u> 、橋本崇史、宮脇美千代、岡本龍郎、杉尾賢二、乳癌患者における術前Albumin/CRP値の臨床的意義、第27回日本乳癌学会総会（東京都新宿区）、2019年7月12日
32	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	野田大樹、辛島高志、 <u>内匠陽平</u> 、安部美幸、阿南健太郎、宮脇美千代、武内秀也、岡本龍郎、杉尾賢二、気管分岐部直上腫瘍の気管切除再建、第52回日本胸部外科学会九州地方会総会（宮崎県宮崎市）、2019年8月29日
33	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	安部美幸、三浦真弘、濱田文彦、杉尾賢二、肺癌転移にかかわる肺門・縦隔リンパ系の再考—臨床解剖学的検討—、第23回臨床解剖研究会（東京都文京区）、2019年10月5日

34	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	三浦真弘、安部美幸、広背筋皮弁作成で犠牲となる前鋸筋筋枝の解剖学的特徴、第23回臨床解剖研究会（東京都文京区）、2019年10月5日
35	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	野田大樹、辛島高志、安部美幸、内匠陽平、阿南健太郎、宮脇美千代、武内秀也、岡本龍郎、杉尾賢二、気管腫瘍に対する外科治療の検討、第60回日本肺癌学会学術集会（大阪府大阪市）、2019年12月7日
36	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	野田大樹、辛島高志、安部美幸、内匠陽平、阿南健太郎、宮脇美千代、武内秀也、岡本龍郎、杉尾賢二、肺尖部壁側胸膜由来の胸壁腫瘍の切除例、第72回日本胸部外科学会定期学術集会（京都府京都市）、2019年10月31日
37	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	辛島高志、野田大樹、安部美幸、内匠陽平、阿南健太郎、宮脇美千代、岡本龍郎、杉尾賢二、当科で経験した肺切除後肺軸捻転の4例、第72回日本胸部外科学会定期学術集会（京都府京都市）、2019年11月1日
38	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	宮脇美千代、野田大樹、辛島高志、安部美幸、阿南健太郎、岡本龍郎、杉尾賢二、気道出血の治療戦略、第71回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会（東京都港区）、2018年11月28日
39	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	岡本龍郎、野田大樹、辛島高志、安部美幸、内匠陽平、阿南健太郎、宮脇美千代、武内秀也、杉尾賢二、EGFR陽性肺腺癌の進化的発育における遺伝子変化、第60回日本肺癌学会学術集会（大阪府大阪市）、2019年12月6日
40	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	宮脇美千代、野田大樹、辛島高志、安部美幸、阿南健太郎、武内秀也、岡本龍郎、杉尾賢二、EGFR-TKIの実臨床における使用状況と成績、第60回日本肺癌学会学術集会（大阪府大阪市）、2019年12月7日
41	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	阿南健太郎、野田大樹、辛島高志、安部美幸、内匠陽平、宮脇美千代、岡本龍郎、杉尾賢二、当院における肺多形癌手術例の検討、第60回日本肺癌学会学術集会（大阪府大阪市）、2019年12月7日
42	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	辛島高志、野田大樹、安部美幸、阿南健太郎、宮脇美千代、武内秀也、岡本龍郎、杉尾賢二、ゲフィチニブ内服中に脈絡膜単発転移を認めた Stage IV 肺腺癌の1例、第60回日本肺癌学会学術集会（大阪府大阪市）、2019年12月7日
43	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	炭本隆宏、中原良介、鈴木陽介、佐藤雄己、緒方正男、伊東弘樹、UPLC-MS/MS法による5種のBCR-ABLチロシンキナーゼ阻害薬の高感度同時測定法の確立と臨床応用、第35回日本TDM学会・学術大会（福岡）2018年5月26日-27日
44	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	炭本隆宏、中原良介、鈴木陽介、田中遼大、佐藤雄己、緒方正男、伊東弘樹、UPLC-MS/MS法によるBCR-ABLチロシンキナーゼ阻害薬および活性代謝物の高感度同時測定法の確立と臨床応用、第35回日本薬学会九州支部大会（福岡）2018年11月17日-18日
45	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	池内真代、久我修二、清田今日子、小河和也、佐藤亮介、秋吉健介、塩月一英、井原健二 感染を契機に急性腎障害を発症し、薬剤の関与が疑われた2症例 第108回日本小児科学会大分地方会2019年度総会（大分）2019年7月7日
46	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	小坂聡太郎、園田光、有木晋平、水上一弘、村上和成、抗生物質起因性大腸炎マウスモデルに対する柴苓湯の有効性の解明、第106回日本消化器病学会総会（広島）、2020年8月11日
47	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	小坂聡太郎、白坂美哲、藤永淳郎、有木晋平、園田光、神山長慶、飛弾野真也、水上一弘、小林隆志、村上和成、DSS腸炎モデルを用いたSLPIの結腸における生理的機能の解析、第28回JDDW 2020年11月5日
48	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	小坂聡太郎、本田俊一郎、川原義成、仲谷朋久、野口地塩、後藤康彦、香川浩一、村上和成、内視鏡的シアノアクリレート注入療法が奏功した直腸静脈瘤の1例、第110回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 2020年12月4日
49	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	安部美幸、宮脇美千代、難治性有癭性膿胸に対する遊離広背筋弁移植の1例、第53回日本胸部外科学会九州地方会（福岡）2020年7月23日
50	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	安部美幸、阿南健太郎、宮脇美千代、呼吸器外科手術術後の静脈血栓症についての検討、第37回日本呼吸器外科学会学術集会（Web開催）2020年9月29日
51	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	安部美幸、肺癌治療に関連する肺門・縦隔リンパ系の肉眼解剖学的検討、第73回日本胸部外科学会定期学術集会（Web開催）2020年10月29日
52	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	安部美幸、阿南健太郎、宮脇美千代、当院手術症例のリンパ節転移陽性例の検討、第61回日本肺癌学会学術集会（岡山+Web開催）2020年11月12日

○国内学会（つづき）

53	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	安部美幸、当院での有癭性膿胸手術症例の検討、第57回九州外科学会学術集会（Web）2021年2月19日
54	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	安部美幸、宮脇美千代、乳癌手術創を用いて胸腔鏡下手術を施行した乳癌・肺癌の同時手術例、第61回日本肺癌学会九州地方会（長崎）2021年2月26日
55	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	小坂聡太郎、有木晋平、皆田美月、神山長慶、佐知望美、Benjawan Saechue, Astri Dewayani, Thanyakorn Chalalai、曾我泰裕、福田千瑛、水上一弘、村上和成、小林隆志、柴芥湯はマウスにおいて抗菌薬による dysbiosis に起因する Leaky gut を軽減する、第44回日本分子生物学会年会（横浜）2021年12月1日
56	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	小坂聡太郎、皆田美月、有木晋平、水上一弘、神山長慶、小林隆志、村上和成、マウス腸炎モデルを用いた大建中湯の SLPI 発現を介した腸管保護作用の解析、第29回日本消化器関連学会週間（JDDW 2021）2021年11月4日
57	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	小坂聡太郎、井上邦光、岡嶋智也、田崎貴子、有木晋平、小野英樹、村上和成、上部消化管出血を契機に診断され長期生存している単形性上皮向性腸管 T 細胞リンパ腫の1例、第111回日本消化器内視鏡学会九州支部例会（福岡）2021年6月12日
58	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	木下慶亮、逆流防止弁付き胆管ステントの使用現状、第118回日本消化器病学会九州支部例会（長崎）2021年12月4日
59	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	小坂聡太郎、井上邦光、岡嶋智也、田崎貴子、有木晋平、小野英樹、村上和成 上部消化管出血を契機に診断され長期生存している単形性上皮向性腸管 T 細胞リンパ腫の1例（一般演題）、第117回日本消化器病学会九州支部例会・第111回日本消化器内視鏡学会九州支部例会（福岡）2021年6月11日（金）～12日（土）
60	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	木下慶亮、岡本和久、佐上亮太、首藤充孝、大塚雄一郎、水上一弘、村上和成 逆流防止弁付き胆管ステントの使用現状（ワークショップ）、第118回日本消化器病学会九州支部例会・第112回日本消化器内視鏡学会九州支部例会（長崎）2021年12月3日（金）、4日（土）
61	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	佐藤祐斗、児玉康弘、鹿子嶋洋明、石橋恵美子、刈野貴文、堤康志郎、福田昌英、都甲和美、岩尾正雄、福田健介、岡本和久、松成修、小川竜、本田浩一、水上一弘、沖本忠義、兒玉雅明、村上和成 自己免疫性胃炎を背景とした泥沼除菌症例の検討（一般演題口演）、第107回日本消化器病学会総会（東京）2021年4月15日（木）～17日（土）
62	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	白岩健、田中遼大、末繁喜朗、本田浩一、齋藤衆子、岩尾正雄、荒川光江、遠藤美月、龍田涼佑、村上和成、伊東弘樹、肝予備能がレンパチニブの薬物動態に与える影響について、第37回日本 TDM 学会・学術大会（WEB）2021年5月
63	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	鈴木芳、炭本隆宏、後藤伴美、小倉玲子、中原良介、田中遼大、龍田涼佑、伊東弘樹、オピオイドとワルファリンカリウムの併用による PT-INR 変動に関する実態調査、第14回日本緩和医療薬学会（WEB）2021年5月
64	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	龍田涼佑、炭本隆宏、中原良介、田中遼大、伊東弘樹、当院における抗がん剤適応外使用の実態調査、第13回日本がん薬剤学会学術大会（WEB、現地開催（愛媛））2021年5月
65	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	衛藤大輝、山村亮太、中原良介、龍田涼佑、田中遼大、平野隆、伊東弘樹、Mg 補充後の推移をモニタリングしたセツキシマブによる低 Mg 血症の1例、医療薬学フォーラム2021（WEB）2021年7月
66	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	太田正之、遠藤裕一、川崎貴秀、渡邊公紀、中沼寛明、藤永淳郎、河村昌寛、増田崇、平下禎二郎、猪股雅史 腹腔鏡下スリープ状胃切除術後の糖尿病再燃に関わる因子の検討、第121回日本外科学会定期学術集会、2021.4.8-10 Web
67	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	平下禎二郎、岩下幸雄、藤永淳郎、河村昌寛、中沼寛明、渡邊公紀、川崎貴秀、増田崇、遠藤裕一、太田正之、猪股雅史、重症度や手術難度に応じた急性胆嚢炎に対する治療戦略、第121回日本外科学会定期学術集会、2021.4.8-10 Web
68	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	遠藤裕一、太田正之、河村昌寛、藤永淳郎、中沼寛明、渡邊公紀、川崎貴秀、平下禎二郎、増田崇、猪股雅史、metabolic syndrome に対する外科治療の現状と展開、第121回日本外科学会定期学術集会、2021.4.8-10 Web
69	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	平下禎二郎、藤永淳郎、河村昌寛、中沼寛明、渡邊公紀、川崎貴秀、増田崇、遠藤裕一、太田正之、猪股雅史、膵癌に対する腹腔鏡下尾側膵切除術の短期および長期成績、第121回日本外科学会定期学術集会、2021.4.8-10 Web

70	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	渡邊公紀、河村昌寛、藤永淳郎、中沼寛明、川崎貴秀、増田崇、遠藤祐一、太田正之、猪股雅史、肥満外科手術における術前減量と肝容量の関係、第121回日本外科学会定期学術集会、2021.4.8-10 Web
71	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	中沼寛明、河村昌寛、藤永淳郎、渡邊公紀、川崎貴秀、増田崇、平下禎二郎、遠藤裕一、猪股雅史、AIを用いた急性胆嚢炎における手術難易度判定システムの構築、第121回日本外科学会定期学術集会、2021.4.8-10 Web
72	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	藤永淳郎、遠藤裕一、河村昌寛、中沼寛明、渡邊公紀、川崎貴秀、増田崇、平下禎二郎、猪股雅史、高難度急性胆嚢炎に対する腹腔鏡下胆嚢摘出術における Additional port の有用性、第121回日本外科学会定期学術集会、2021.4.8-10 Web
73	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	小川雄大、大嶋佑介、皆尺寺悠史、上田貴威、當寺ヶ盛学、白下英史、衛藤剛、白石憲男、猪股雅史、ラマン分光法を用いたヒルシュスプルング病における腸管壁内神経叢の術中同定法の開発、第121回日本外科学会定期学術集会、2021.4.8-10 Web
74	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	河野洋平、相場崇行、佐川倫子、平塚孝宏、鈴木浩輔、赤木智徳、二宮繁生、柴田智隆、上田貴威、當寺ヶ盛学、白下英史、衛藤剛、猪股雅史、産学連携研究開発による抗癌剤脱毛予防の取り組み、第121回日本外科学会定期学術集会、2021.4.8-10 Web
75	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	衛藤剛、徳安達士、藤永淳郎、相場崇行、中沼寛明、白坂美哲、河野洋平、鈴木浩輔、遠藤裕一、松延佑将、篠塚賢一、石掛真人、上山都士也、坂口誠一郎、江部康平、猪股雅史、腹腔鏡手術における合併症回避のための人工知能支援術中ランドマーク教示システムの開発、第121回日本外科学会定期学術集会、2021.4.8-10 Web
76	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Katsuhiko Ogawa, Japan-Russia Medical Cooperation Project in the field of Pediatric Endosurgery Department of Gastroenterological and Pediatric Surgery, Oita University Faculty of Medicine, 第58回日本小児外科学会学術集会、2021.4.28-30 横浜 ハイブリッド
77	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	松本紘明、皆尺寺悠史、小川雄大、當寺ヶ盛学、柴田智隆、白下英史、衛藤剛、上田貴威、猪股雅史、症状を呈した腹腔内嚢胞に対して腹腔鏡下に切除した2例、第58回日本小児外科学会学術集会、2021.4.28-30 横浜 ハイブリッド
78	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Hiroaki Nakanuma, Yuichi Endo, Masahiro Kawamura, Atsuro Fujinaga, Kiminori Watanabe, Takahide Kawasaki, Takashi Masuda, Tejiro Hirashita, Yukio Iwashita, Masayuki Ohta, Masafumi Inomata, The intraoperative diagnosis of tumor invasiveness in Gallbladder carcinoma using narrow band imaging, 第33回日本肝胆膵外科学会学術集会、2021.6.2-3 大阪 ハイブリッド
79	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Atsuro Fujinaga, Masayuki Ohta, Takashi Masuda, Masahiro Kawamura, Hiroaki Nakanuma, Kiminori Watanabe, Takahide Kawasaki, Tejiro Hirashita, Yuichi Endo, Masafumi Inomata, Recurrence of gastric gastrointestinal stromal tumor 12 years after repeated liver resection for liver metastasis, 第33回日本肝胆膵外科学会学術集会、2021.6.2-3 大阪 ハイブリッド
80	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Takashi Masuda, Masahiro Kawamura, Atsuro Fujinaga, Hiroaki Nakanuma, Kiminori Watanabe, Kawasaki Takahide, Tejiro Hirashita, Yuichi Endo, Masayuki Ohta, Masafumi Inomata, Surgical outcomes of hepatocellular carcinoma with bile duct tumor thrombus in our department, 第33回日本肝胆膵外科学会学術集会、2021.6.2-3 大阪 ハイブリッド
81	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Masayuki Ohta, Yuichi Endo, Tejiro Hirashita, Masahiro Kawamura, Atsuro Fujinaga, Hiroaki Nakanuma, Kiminori Watanabe, Takahide Kawasaki, Takashi Masuda, Masafumi Inomata, A long-term survivor of gastric variceal bleeding and left-side portal hypertension due to pancreatic neuroendocrine tumor, 第33回日本肝胆膵外科学会学術集会、2021.6.2-3 大阪 ハイブリッド
82	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Masahiro Kawamura, Masayuki Ohta, Yuichi Endo, Atsuro Fujinaga, Hiroaki Nakanuma, Kiminori Watanabe, Takahide Kawasaki, Tejiro Hirashita, Takashi Masuda, Masafumi Inomata, Results of laparoscopic cholecystectomy and sleeve gastrectomy for morbid obese patients with symptomatic gallbladder diseases, 第33回日本肝胆膵外科学会学術集会、2021.6.2-3 大阪 ハイブリッド
83	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Kiminori Watanabe, Yuichi Endo, Masahiro Kawamura, Atsuro Fujinaga, Hiroaki Nakanuma, Takahide Kawasaki, Takashi Masuda, Tejiro Hirashita, Masayuki Ohta, Masafumi Inomata, Optimal timing for laparoscopic cholecystectomy after percutaneous transhepatic gallbladder drainage, 第33回日本肝胆膵外科学会学術集会、2021.6.2-3 大阪 ハイブリッド
84	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	平下禎二郎、河村昌寛、藤永淳郎、中沼寛明、渡邊公紀、川崎貴秀、増田崇、遠藤裕一、太田正之、猪股雅史、瘻空腸吻合法と術後瘻液漏の関係：柿田変法 vs Blumgart 変法、第76回日本消化器外科学会総会、2021.7.7-9 京都 ハイブリッド

○国内学会（つづき）

85	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	遠藤裕一、太田正之、河村昌寛、藤永淳郎、中沼寛明、渡邊公紀、川崎貴秀、増田崇、平下禎二郎、猪股雅史、肥満外科手術は第一トロッカー挿入からはじまる～挿入のコツとポイント～、第76回日本消化器外科学会総会、2021.7.7-9 京都 ハイブリッド
86	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	太田正之、遠藤裕一、藤永淳郎、川崎貴秀、渡邊公紀、増田崇、中沼寛明、河村昌寛、平下禎二郎、猪股雅史、腹腔鏡下スリーブ状胃切除術後早期外来通院中止因子の検討、第76回日本消化器外科学会総会、2021.7.7-9 京都 ハイブリッド
87	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	藤永淳郎、太田正之、河原大和、河村昌寛、中沼寛明、多田和裕、川崎貴秀、平下禎二郎、猪股雅史、脾機能亢進症に対する腹腔鏡下脾臓摘出術における術後門脈血栓症に係わる因子の検討、第28回日本門脈圧亢進症学会総会、2021.09.16-17 Web
88	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	藤永淳郎、太田正之、河村昌寛、中沼寛明、川崎貴秀、平下禎二郎、猪股雅史、日動脈蛇行に係わる因子の検討、第28回日本門脈圧亢進症学会総会、2021.09.16-17 Web
89	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	河村昌寛、太田正之、藤永淳郎、中沼寛明、平下禎二郎、猪股雅史、脾神経内分泌腫瘍による左側門脈圧亢進症の長期生存の1例、第28回日本門脈圧亢進症学会総会、2021.09.16-17 Web
90	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	河村昌寛、太田正之、藤永淳郎、中沼寛明、川崎貴秀、平下禎二郎、猪股雅史、脾頭十二指腸切除術後に胆管炎による肝硬変症および食道静脈瘤を来した1例、第28回日本門脈圧亢進症学会総会、2021.09.16-17 Web
91	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	平下禎二郎、藤永淳郎、河村昌寛、太田正之、猪股雅史、脾嚢胞性腫瘍における手術術式決定のための術前画像検索、第52回日本脾臓学会大会、2021.9.22 Web
92	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	藤永淳郎、平下禎二郎、板井勇介、河村昌寛、遠藤裕一、太田正之、猪股雅史、腎細胞癌脾転移に対する腹腔鏡下脾局所切除後に早期残脾再発を認めた1例、第52回日本脾臓学会大会、2021.9.22 Web
93	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	平下禎二郎、増田崇、藤永淳郎、中沼寛明、遠藤裕一、太田正之、猪股雅史、胆管癌との鑑別を要した胆管内発育型腫瘍の2例、日本胆道学会各術集会、2021.10.07-08 Web
94	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	平下禎二郎、多田和裕、天野翔太、河村昌寛、藤永淳郎、中沼寛明、川崎貴秀、河野陽子、増田崇、遠藤裕一、太田正之、猪股雅史、脾の術前画像による進行度診断の正確性、第59回日本癌治療学会学術集会、2021.10.21-23 Web
95	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	猪股雅史、河村昌寛、藤永淳郎、中沼寛明、遠藤裕一、衛藤剛、AIが切り拓く内視鏡下手術システムの現状と展望、第59回日本癌治療学会学術集会、2021.10.21-23 Web
96	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	猪股雅史、相場崇行、河野洋平、平塚孝弘、衛藤剛、北野正剛、抗がん剤患者のルックスケアー産学連携脱毛予防プロジェクトー、第59回日本癌治療学会学術集会、2021.10.21-23 Web
97	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	渡邊公紀、藤永淳郎、河村昌寛、中沼寛明、川崎貴秀、平下禎二郎、増田崇、遠藤裕一、太田正之、猪股雅史、脾癌の早期発見にFDG-PETは有用か？、第29回日本消化器関連学会週間（JDDW 2021 KOBE）、2021.11.4-7ハイブリット
98	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	河村昌寛、増田崇、藤永淳郎、中沼寛明、渡邊公紀、川崎貴秀、平下禎二郎、遠藤裕一、太田正之、猪股雅史、術前減量後に腹腔鏡下肝切除を施行した高度肥満を伴った肝腫瘍患者の1例、第29回日本消化器関連学会週間（JDDW 2021 KOBE）、2021.11.4-7 ハイブリット
99	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	増田崇、河村昌寛、藤永淳郎、中沼寛明、渡邊公紀、川崎貴秀、平下禎二郎、遠藤裕一、太田正之、猪股雅史、腹腔鏡下肝切除術におけるHALS選択を考慮する因子についての検討、第29回日本消化器関連学会週間（JDDW 2021 KOBE）、2021.11.4-7 ハイブリット
100	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	藤永淳郎、平下禎二郎、岩下幸雄、河村昌寛、中沼寛明、渡邊公紀、川崎貴秀、増田崇、遠藤裕一、太田正之、猪股雅史、腹腔鏡下胆嚢摘出術における術前DIC-CTによる手術何度予測、第29回日本消化器関連学会週間（JDDW 2021 KOBE）、2021.11.4-7 ハイブリット
101	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	中沼寛明、遠藤裕一、猪股雅史、術中ランドマーク教示AIの性能試験により見えてきた新たな手術支援AI開発の展望、第29回日本消化器関連学会週間（JDDW 2021 KOBE）、2021.11.4-7 ハイブリット
102	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	小川雄大、山田健太郎、衛藤剛、野口賀津子、白坂美哲、小林剛、西園晃、猪股雅史、癌腹膜播種に対する近赤外線口蛋白発現組換えレオウイルスを用いた新規診断・治療法の開発、第29回日本消化器関連学会週間（JDDW 2021 KOBE）、2021.11.4-7 ハイブリット

103	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	増田崇、天野翔太、河村昌寛、藤永淳郎、中沼寛明、川崎貴秀、河野陽子、平下禎二郎、遠藤裕一、太田正之、猪股雅史、腹腔鏡下肝部分切除におけるサージカルマージン確保の工夫、第15回 肝臓内視鏡外科研究会、2021.11.17 Web
104	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	平下禎二郎、天野翔太、河村昌寛、藤永淳郎、中沼寛明、川崎貴秀、河野陽子、増田崇、遠藤裕一、太田正之、猪股雅史、膵体尾部癌のリンパ節転移部位や周囲臓器との位置関係による至適手術の検討、第13回 膵臓内視鏡外科研究会、2021.11.17 Web
105	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	藤永淳郎、平下禎二郎、天野翔太、河村昌寛、中沼寛明、川崎貴秀、河野陽子、増田崇、遠藤裕一、太田正之、猪股雅史、全周性の十二指腸下行脚腺腫に対し十二指腸部分切除術を施行した1例、第83回 日本臨床外科学会、2021.11.18-20 東京
106	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Teijiro Hirashita, Shota Amano, Masahiro Kawamura, Atsuro Fujinaga, Hiroaki Nakanuma, Yoko Kawano, Takahide Kawasaki, Takashi Masuda, Yuichi Endo, Masayuki Ohta, Masafumi Inomata, mTOR1 activation is associated with glucose uptake and malignancy of IPMN of the pancreas, 第32回 日本消化器癌発生学会総会、2021.11.26-27 Web
107	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	川崎貴秀、太田正之、遠藤裕一、増田崇、平下禎二郎、天野翔太、河村昌寛、藤永淳郎、中沼寛明、猪股雅史、腹腔鏡下スリーブ状胃切除術後の外来通院に関わる因子の検討、第34回日本内視鏡外科学会総会、2021.12.2-4 神戸
108	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	太田正之、遠藤裕一、川崎貴秀、増田崇、平下禎二郎、藤永淳郎、河村昌寛、中沼寛明、河野陽子、天野翔太、猪股雅史、大分大学における肥満外科手術の基礎・臨床研究、第34回日本内視鏡外科学会総会、2021.12.2-4 神戸
109	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	平下禎二郎、多田和裕、天野翔太、河村昌寛、藤永淳郎、中沼寛明、川崎貴秀、河野陽子、増田崇、遠藤裕一、太田正之、猪股雅史、慎ら腹腔鏡で切除不能と診断した切除企図膵癌の特徴、第34回日本内視鏡外科学会総会、2021.12.2-4 神戸
110	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	増田崇、天野翔太、河村昌寛、藤永淳郎、中沼寛明、川崎貴秀、河野陽子、平下禎二郎、遠藤裕一、太田正之、猪股雅史、腹腔鏡下肝切除術における術中 HALS 以降および開腹移行を考える因子、第34回日本内視鏡外科学会総会、2021.12.2-4 神戸
111	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	藤永淳郎、平下禎二郎、遠藤裕一、天野翔太、河村昌寛、中沼寛明、川崎貴秀、河野陽子、増田崇、太田正之、猪股雅史、腹腔鏡下胆嚢摘出術における術前検査法としての DIC-CT と MRCP の比較、第34回日本内視鏡外科学会総会、2021.12.2-4 神戸
112	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	遠藤裕一、中沼寛明、天野翔太、河村昌寛、藤永淳郎、川崎貴秀、河野陽子、増田崇、平下禎二郎、猪股雅史、松延祐将、徳安達士、江部康平、医工連携による AI 開発：腹腔鏡下胆嚢摘出術におけるランドマーク教示システム、第34回日本内視鏡外科学会総会、2021.12.2-4 神戸
113	ライフステージに応じたチーム医療人養成コース（インテンシブ）	Nagamatsu K, Takano K, Yanai Y, Katayama O, Honda S, Yoshida N, Kawano R, Ogata M, Shirao K. Successful treatment of disseminated adenovirus infection with cidofovir following stem cell transplantation. 第80回日本血液学会学術集会（東京）2019年10月11日
114	ライフステージに応じたチーム医療人養成コース（インテンシブ）	豊福美香、CV ポートからの造影 CT 時の造影剤の飛散を防止する手順変更に関する活動報告～造影剤から輸液につながるタイミングの検証から～ 第14回 医療と質の安全学会（京都）2019年11月28～30日
115	ライフステージに応じたチーム医療人養成コース（インテンシブ）	後藤伴美、炭本隆宏、鈴木芳、井彩香、田中望洋、佐藤雄己、奥田健太郎、犀川哲典、伊東弘樹、大病院と地域病院との情報共有による病病連携～緩和ケアチームが介入したがん患者をとおして～、第12回日本緩和医療学会年会（東京）2018年5月25日-27日
116	ライフステージに応じたチーム医療人養成コース（インテンシブ）	炭本隆宏、中原良介、鈴木陽介、佐藤雄己、緒方正男、伊東弘樹、UPLC-MS/MS 法による5種の BCR-ABL チロシンキナーゼ阻害薬の高感度同時測定法の確立と臨床応用、第35回日本 TDM 学会・学術大会（福岡）2018年5月26日-27日
117	ライフステージに応じたチーム医療人養成コース（インテンシブ）	衛藤大輝、金子哲也、田中遼大、甲斐真也、鈴木陽介、佐藤雄己、大地嘉史、安田則久、後藤孝治、伊東弘樹、集中治療部患者を対象としたポリコナゾール経管投与による薬物動態解析、医療薬学フォーラム2018（東京）2018年6月23日-24日
118	ライフステージに応じたチーム医療人養成コース（インテンシブ）	田中遼大、鈴木陽介、岩男元志、橋永一彦、佐藤雄己、平松和史、門田淳一、伊東弘樹、リネゾリドによる血小板減少症と低 Na 血症の関連性の検討、MRSA フォーラム2018（東京）2018年7月7日

○国内学会（つづき）

119	ライフステージに応じたチーム医療人養成コース（インテンシブ）	Motoshi Iwao, Yosuke Suzuki, Ryota Tanaka, Teruhide Koyama, Takeshi Nakata, Kohei Aoki, Akihiro Fukuda, Yuhki Sato, Naoya Fukunaga, Fuminori Sato, Hirotaka Shibata, Hiromitsu Mimata, Hiroki Itoh, Sensitive and selective quantification of mid-regional pro-adrenomedullin in the human plasma by performing ultra-performance liquid chromatography coupled with tandem mass spectrometry, 第12回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム（北海道）2018年9月15日-16日
120	ライフステージに応じたチーム医療人養成コース（インテンシブ）	小野優子、衛藤大輝、佐藤雄己、伊東弘樹、点眼容器への満足度および患者の点眼手技の現状に関するアンケート調査、第79回九州山口薬学大会（大分）2018年11月3日-4日
121	ライフステージに応じたチーム医療人養成コース（インテンシブ）	白岩健、小野寛之、田中遼大、佐藤雄己、伊東弘樹、S-1および放射線併用療法施行中に血漿中フェニトインおよびフェノバルビタール濃度の上昇を認めた1症例、第79回九州山口薬学大会（大分）2018年11月3日-4日
122	ライフステージに応じたチーム医療人養成コース（インテンシブ）	炭本隆宏、中原良介、鈴木陽介、田中遼大、佐藤雄己、緒方正男、伊東弘樹、UPLC-MS/MS法によるBCR-ABLチロシキナーゼ阻害薬および活性代謝物の高感度同時測定法の確立と臨床応用、第35回日本薬学会九州支部大会（福岡）2018年11月17日-18日
123	ライフステージに応じたチーム医療人養成コース（インテンシブ）	白岩健、鈴木陽介、岩男元志、田中遼大、佐藤雄己、岩下幸雄、内田博喜、多田和裕、猪股雅史、伊東弘樹、大腸癌肝転移に対する肝切除後UFT/LV併用療法における5-FU・ウラシル・テガフルの3成分同時定量法確立とその臨床応用、第28回日本医療薬学会年会（兵庫）2018年11月23日-25日
124	ライフステージに応じたチーム医療人養成コース（インテンシブ）	小野寛之、鈴木陽介、田中遼大、佐藤文憲、佐藤雄己、三股浩光、大野恵子、伊東弘樹、Coproporphyrin-Iを指標とした生体腎移植後のOATP1B活性の評価、第28回日本医療薬学会年会（兵庫）2018年11月23日-25日
125	ライフステージに応じたチーム医療人養成コース（インテンシブ）	佐藤雄己、鈴木芳、中原良介、伊東弘樹、術後補助化学療法を施行した卵巣がん患者における静脈血栓塞栓症の発症要因の検討、第28回日本医療薬学会年会（兵庫）2018年11月23日-25日
126	ライフステージに応じたチーム医療人養成コース（インテンシブ）	篠原沙織、炭本隆宏、徳永英治、秦吉孝、佐藤雄己、伊東弘樹、注射剤調製アシスト機の開発と使用評価、日本薬学会第139年会（千葉）2019年3月20日-23日
127	ライフステージに応じたチーム医療人養成コース（インテンシブ）	龍田涼佑、佐藤雄己、伊東弘樹、アプレピタント投与下における抗がん剤投与による消化器機能異常と消化管ペプチドとの関連性の検討、日本臨床腫瘍薬学会学術大会2019（北海道）2019年3月23日-24日
128	ライフステージに応じたチーム医療人養成コース（インテンシブ）	鈴木芳、中原良介、佐藤雄己、伊東弘樹、術後補助化学療法を施行した卵巣がん患者における静脈血栓塞栓症の発症要因の検討、日本臨床腫瘍薬学会学術大会2019（北海道）2019年3月23日-24日
129	ライフステージに応じたチーム医療人養成コース（インテンシブ）	大腸癌肝転移に対する肝切除がUFT/LV併用療法時の薬物動態に与える影響 白岩健、鈴木陽介、岩男元志、田中遼大、佐藤雄己、龍田涼佑、伊東弘樹 第36回日本薬学会九州支部大会（長崎）（2019.11）
130	ライフステージに応じたチーム医療人養成コース（インテンシブ）	UPLC-MS/MSを用いた遊離型パゾパニブ濃度の高感度定量法の確立 松本麻美、白岩健、鈴木陽介、田中遼大、佐藤雄己、伊東弘樹 第29回日本医療薬学会年会（福岡）（2019.11）
131	ライフステージに応じたチーム医療人養成コース（インテンシブ）	UPLC-MS/MSを用いたハイスループットかつ高感度なレンバチニブ定量法の開発 末繁嘉朗、白岩健、田中遼大、遠藤美月、本田浩一、佐藤雄己、清家正隆、村上和成、伊東弘樹 第36回日本TDM学会・学術大会（東京）2019.5
132	ライフステージに応じたチーム医療人養成コース（インテンシブ）	大分大学医学部附属病院における経口抗がん剤の血漿中濃度測定およびその臨床応用（シンポジウム）白岩健 第36回日本TDM学会・学術大会（東京）2019.5

○その他（受賞者等）

1	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	藤永淳郎、第229回例会優秀演題 『経過観察中に増大傾向を認め腹腔鏡下左肝切除を施行した肝粘性液性嚢胞腫瘍の1例』
2	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	安部美幸：第124回日本解剖学会全国学術集会、肉眼解剖学トラベルアワード献体協会賞

3	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	小坂聡太郎：第28回 JDDW（日本消化器病学会）DSS 腸炎モデルを用いた SLPI の結腸における生理的機能の解析、若手奨励賞、2020年11月
4	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	藤永淳郎：日本消化器外科学会推薦 Surgical Society of Oncology Fellows Institute 2021 参加、2021年10月

学生・修了生の感想

・ゲノム医療研究者養成コース 多田 和裕

私は、大分大学 消化器・小児外科に所属している消化器外科医です。今回、2020（令和2）年度に、大分大学の「ゲノム医療研究者養成コース」を修了しました。

私は、「膵癌の糖鎖変化とその機能」、そして「大量肝切除に伴う抗がん剤の薬物動態変化」の2つを研究の柱として取り組んできました。糖鎖研究の中でも私はレクチンと呼ばれる、糖鎖構造を認識する糖たんぱくに注目しました。レクチンは近年、がんの治療薬としての可能性も示唆され、レクチンを対象とした研究会も開催されるようになりました。がんプロコースでは研究会出張のサポートをしていただき、そのおかげで有意義な研究会に参加し、糖鎖に関する理解を深めることができました。大学院在籍中に両テーマとも論文化することができ、目標であった医学博士を取得することもできました。

また、コース在籍中に「外科専門医」「消化器外科専門医」の資格を取得しました。特に消化器外科専門医試験は扱う範囲が広く最新の知識も必要とされるため、試験勉強には多くの時間を費やしました。専門医取得を目指す方へ、過去問だけでなく、最新のガイドラインに目を通しておくことをお勧めします。日々、治療はアップデートしており、これを凝縮しているのがガイドラインです。つまり、これらを頭に入れることは臨床においても役立つことになります。

現在、私は大分赤十字病院の外科で手術を中心に、消化器がん診療に従事しています。当外科の特徴は肝胆膵領域の癌患者が多く、高難度手術も多いことです。今後の目標は、多くの手術を経験し、幅広い術式を習得し、消化器疾患全般を扱うことができる消化器外科医になることです。さらに専門性も深め、肝胆膵領域の高難度手術もできるように修練していきたいと思います。

・多様なニーズに貢献するがん看護専門看護師コース 吉田 まつみ

私は、2020（令和2年）年度に、大分大学専門看護師コース（がん看護）を修了しました。

私が、がん専門看護師を目指したきっかけは、がん相談支援センターに所属し、相談対応や病名告知や再発告知の診察同席する中で、初対面の患者さんやご家族の真のニーズを捉えた支援や衝撃や不安といった精神的苦痛に対し、今までの経験や知識だけでは対応ができない力不足を感じたからです。入学後は、今まで経験知やパターンで行っていた看護実践を見直す機会になりました。「無知の知を知る」ことで、自分が知らない中で実践をしていた事に気づきました。現象だけを捉えるのではなく、その背景を多角的に把握し問題解決していく専門看護師の問題解決思考を学びました。

現在、入院退院支援部門・病床管理部門と私が担当する患者療養支援部門を統合した患者サポート課に所属し、外来だけでなく院内全体を組織横断的に活動しています。活動の実際として、病名告知や治療方針を決定する場面の診察に同席し、がんと病名を告げられた衝撃の中、治療方針の決定を迫られる患者さんやご家族が現状を正しく認識し、合意形成できるように認識のずれが無いが、希望は何か等を確認し、医師と情報共有しています。また、患者さんやご家族から、がん薬物療法の副作用や鎮痛剤の使用法など日常生活を送る上での困り事の相談を受ける機会が多く、内容によっては薬剤師外来や緩和ケアチームといった多職種と連携し、症状緩和が図れるよう調整を行っています。病棟看護師からは、コロナ禍での面会制限により、ご家族に会えない苦痛や家族関係が見えにくいといった相談を受けます。看護現場で潜在化する課題は、看護理論や看護倫理を学んだからこそ見える課題でもあり、進学して良かったと臨床現場に戻り実感しています。

今後は、院内だけではなく、疾病を有しながら地域で生活している患者さんやご家族、地域の看護職に対する相談・指導の窓口として看護外来「地域看護支援センター」を運用し、地域の看護の質の向上を目指しています。臨床ではすぐに解決できない課題も沢山あります。患者さんやご家族が抱える問題、病院から求められる役割、地域のニーズに真摯に向き合い、立ち止まりながら、学びを活かしたいと思います。



総括

実現できたこと

大分県のがん診療連携拠点病院にがん看護専門看護師が所属するようになった。また、大分県下の医療職のがん医療の現状と今後の医療者としての取り組みに対する理解を深めることができた。

この5年間の期間中に博士課程37名、修士課程6名を輩出した。インテンシブコースにおいては114名が修了した。これらにより、大分大学および大分県内の医療機関においてがんゲノム医療の導入・推進を図ることができた。

課題（今後に向けての予定）

がん医療における新しい治療法が開発されていくが、看護職のスペシャリストとジェネラル双方への教育が継続して行われることが必要である。

今後も、がん難民を予防し、がん患者とその家族のQOLが高まるために、一般市民と医療者に対するがんの発生から終末期までのがん医療について系統的に学ぶ機会を行政とタイアップして増やすことが必要である。

がん医療およびゲノム医療において従事できる人材が絶対的に不足している。今後も人材育成に努め、がんゲノム医療拠点病院の指定を受けることができるよう専門医（エキスパート）の育成を加速する。

宮崎大学

コーディネーター教員

医学部附属病院 臨床腫瘍科 教授
// がんセンター長 細川 歩



各コースの内容

1. ライフステージに応じた全人的統合的がん治療専門医育成コース

受入開始時期	平成30年4月	修業年限（期間）	4年
対象者	医学獣医学専攻 大学院生		
養成すべき人材像	がんを総合的に全人格のなかで捉え、生活の質をも考慮したがんの総合的治療が行える専門性と、将来のがん臨床研究を遂行できる高度な専門知識を備え、地域に密着し、地域全体のがん医療に貢献できる医療人を育成する。		
教育内容の特色等 （新規性・独創性等）	●各専門領域のがん診療専門医による科目を自主的に選考できる。 ●医療資源の少ない地域での実地研修を行い、地域でのがん治療の問題点と対策を考えることができる。 ●地域に特徴的ながん臨床研究を実施することができる。		
教育プログラム・ コース修了者のキャ リアパス構想	●各臨床科のがん治療専門医 ●総合診療科の専門医 ●基礎医学者コース、がん診療のコーディネーター等のキャリアパスが想定される。		

2. がんと共に生きることを支えるがん看護専門看護師養成コース

受入開始時期	平成30年4月	修業年限（期間）	2年
対象者	3年以上の実務経験を有する看護師（がん看護の実務経験2年以上）で、コース終了後、地域のがん医療に貢献する意思のある者		
養成すべき人材像	がんに関する専門的知識、卓越した実践能力、看護職への教育およびコンサルテーション能力、保健医療福祉関係者間のコーディネート能力、倫理的調整能力、がん医療の向上・開発のための研究能力を有し、診療の場を問わずに切れ目のない質の高い緩和ケアを提供し、がん患者が地域の中で安心して働き暮らせることを支援できる看護師を育成する。		

教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	医療資源の乏しい地域のがん医療への取り組みやがん患者の仕事と治療の両立への支援方法を学ぶために、多職種連携教育の導入やがん診療に関する地域データを利用した教育を実践する。臨地実習施設のがん看護専門看護師や各診療科のがん治療専門医からフィジカルアセスメントを学び、高度実践のスキルを学ぶ機会を提供する。さらに、学術論文の抄読会や研究発表会を通してがん看護研究の推進を図る。
教育プログラム・ コース修了者のキャリアパス構想	がん診療連携拠点病院や地域でがん診療に取り組む医療施設、在宅医療の場において、がん看護専門看護師としてがん患者のがんと共生を支え、がん医療の充実に貢献できる看護師を目指す。さらに、臨床経験を研鑽した後は、がん看護を教授できる教員・指導者として、また地域のがん医療向上に向けた施策を提言できる看護師として地域がん医療の充実に貢献する。

3. ライフステージに応じた地域がん総合治療医育成コース (インテンシブ)

受入開始時期	平成29年9月	修業年限 (期間)	1年
対象者	医学獣医学総合研究科大学院生と実際に地域の医療機関において実際のがん診療に従事している医師		
養成すべき人材像	地域医療機関では、未だに各臓器の専門がん治療医が充足していない。そこで、内科的・外科的のがんの標準治療から終末期の緩和ケアまでを総合的に診療できる、地域がん医療を中心的に担う医療人を養成する。		
教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	がんに関して、標準治療から終末期の緩和ケアまで、総合的ながん患者を診療できるようにがんの各分野の専門医が集中講義を行う。		
教育プログラム・ コース修了者のキャリアパス構想	各診療科のがん治療専門医 終末期の緩和ケアの専門医 がん診療部の教員等へのキャリアパスが想定される。		

4. 成人T細胞白血病専門医療人養成コース (インテンシブ)

受入開始時期	平成29年9月	修業年限 (期間)	1年
対象者	医学獣医学専攻大学院生と、実際に地域の医療機関において成人T細胞白血病に関する診療に従事している医師		
養成すべき人材像	希少がんである成人T細胞性白血病 (ATL) を疫学、感染症学、産科学、皮膚科学、血液学、腫瘍学などの多方面から理解できる。その上で、ATL 感染の予防、関連疾患の啓蒙活動、患者・家族教育、治療ができる医師を養成する。		
教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	ATL 研究に関して、臨床研究者、基礎研究者から専門的な知識を得ることができる。母子感染、キャリアの相談、コンサルテーションにも対応できるプログラムである。		
教育プログラム・ コース修了者のキャリアパス構想	感染症の専門医 ウイルス感染の基礎的研究者 総合診療医 等へのキャリアパスが想定される。		

主な取組みと成果

1. ライフステージに応じた全人的統合的がん治療専門医育成コース

平成29～令和3年度においては、希望者がおらず受け入れがなかったため、本コースでのがん治療専門医の育成は満足できるものではなかった。しかし、ライフステージに応じた地域がん総合治療医育成コース（インテンシブコース）の受講者の中にもがん薬物療法の専門医を目指す医師がみられ、当院の臨床腫瘍科で研鑽を積みながら、がん薬物療法専門医の取得を目指している。

2. がんと共に生きることを支えるがん看護専門看護師養成コース

がん看護専門看護師養成コースは、専門看護師教育課程の26単位から38単位への新基準移行に伴い、令和1～2年度において学生の新規受け入れをしていない。令和3年1月25日付で38単位の専門看護師教育課程として認定されており、令和3年度から新たなカリキュラムを実施する予定であったが、新型コロナウイルスの影響により実習施設の確保が難しく、学生からも延期の希望があり、令和3年度の学生の新規受け入れを行わなかった。今後も実習を含めた授業内容を整備すると共に積極的な広報活動を行い、受入目標人数達成に向けた取組を行う予定である。なお、修了生におけるがん看護専門看護師認定審査の合格者は、平成29年度1名、令和3年度2名であり、修了生は全員合格している。

講演会などは毎年度コンスタントに開催し、多職種の方に参加いただいている。宮崎県は国内でも高齢化率の高い地域であり、特に高齢者に焦点を当てた講演会を開催しており、地域で直に患者と接する方々の知識・意欲の向上を図ることができ、がんプロの存在を周知することで大学院生の確保にもつながる。さらに、地域がん医療の充実・向上、地域連携を目指し、ジェネラリストの教育のみならず、地域のがん看護専門看護師間の情報共有、自己研鑽に努め、地域に根ざした活動ができるがん看護専門看護師を養成する機会となっている。

3. ライフステージに応じた地域がん総合治療医育成コース（インテンシブ）

【主な取組み】

- 1) がん薬物療法、放射線療法、病理学、精神腫瘍学、緩和医療などの総論から各癌腫など各論まで講義内容の充実を図った。（開催回数：平成29年度13回（26コマ）、平成30年度15回（30コマ）、令和元年度13回（26コマ）開催、令和2年度9回（18コマ）開催、令和3年度13回（26コマ開催）ただし、令和2年度及び3年度は、新型コロナウイルスの影響により、大学内の医療関係者・学生のみを対象とした。
- 2) 宮崎大学の各領域の専門の医療人の協力を得て講義を行った。
- 3) 1コマ30分と短時間で理解できるように講義内容に工夫を行うと同時に最新の内容を含めるように配慮を行った。
- 4) 多数の医療人集積のため院内外の施設に案内を行った（令和2年度及び3年度は院内のみ）。講義終了後に内容についてアンケート調査を行った。

【成果】

- 1) 平成29年度：491名、平成30年度：463名、令和元年度：333名、令和2年度：228名、令和3年度243名の多職種の医療人の参加が得られた。コロナ禍のため令和2-3年度の参加者の減少がみられた。
- 2) 令和3年度の参加者の内訳は、医師98名（40%）、薬剤師66名（27%）、看護師33名（14%）、学生13名（5.4%）、その他33名であった。
- 3) 講義の内容について、アンケートの結果が得られた211名の回答では、非常に良かった125名

(59%)、良かった 80名 (38%) が全体の97%を占め、総じて好評であったと考える。

4. 成人T細胞白血病専門医療人養成コース（インテンシブ）

平成29年度～令和3年度において、以下の取り組みを行った。

【HTLV-I カンファレンス】

- 1) ATL の症例提示及び HTLV-I 関連疾患に関する基礎研究についてのカンファレンスを血液内科、皮膚科、病理、腫瘍生化学の持ち回りにより開催した。
 - ・平成29年度 4月19日～3月28日（11回）
 - ・平成30年度 4月25日～3月20日（11回）
 - ・令和元年度 4月17日～12月18日（7回）
 - ・令和2年度及び3年度 中止（新型コロナウイルスの影響による）
- 2) 令和元年度の参加者の内訳は、ATL の臨床に携わる血液内科、皮膚科医師、病理医及び HTLV-I 関連疾患の基礎研究を行う研究者であった。
- 3) 講義の内容は臨床系、病理は症例提示と検討、考察を行った。腫瘍生化学講座からは HTLV-I 発症に関わる背景の検討がなされ、ATL を臨床及び基礎研究の両方から理解を深めることができ有用であった。

【血液疾患研究会】

- 1) 2019年11月に鹿児島大学と合同の血液疾患研究会を開催し、宮崎大学からはATLの予後に関わる因子について報告した。
- 2) 30名前後の参加があり、活発な討議が行われ好評であった。

今後は、開催通知など関連する診療科への周知を行うとともに、最新知識や技術を取り入れ、カンファレンス内容の充実を図る予定である。

英文誌・和文誌・国際学会・国内学会等での発表一覧

○英文誌

1	ライフステージに応じた地域がん総合治療医育成コース（インテンシブ）	Tamura H, Nakashima K, Uchiyama N, Ogawa S, Hatada H, Yoshida N, Uchida K, Ozono Y, Tanaka H, Yamamoto K, Kawakami H. A Case of Hematochezia Due to Panitumumab-induced Colitis with Vitamin K Deficiency. Intern Med. 2021 Nov 6. doi: 10.2169/internalmedicine.8254-21.
---	-----------------------------------	---

○和文誌

1	がんと共に生きることを支えるがん看護専門看護師養成コース	川崎麻美、金岡麻希、野末明希、新坂ともみ、松田仁美、児玉みゆき、内田倫子、竹山ゆみ子、柳田俊彦、木下由美子、がん薬物療法中患者の心配の程度と病期による違い がん患者心配評価尺度を用いた実態調査、日本看護研究学会雑誌 44(3)406-406 2021年8月
2	がんと共に生きることを支えるがん看護専門看護師養成コース	新坂ともみ、金岡麻希、内田倫子、川崎麻美、松田仁美、野末明希、児玉みゆき、竹山ゆみ子、柳田俊彦、木下由美子、がん薬物療法を受ける患者の Quality of Life とレジリエンスに関する横断研究 生命予後別の比較、日本看護研究学会雑誌 44(3)406-406 2021年8月
3	がんと共に生きることを支えるがん看護専門看護師養成コース	松田仁美、竹山ゆみ子、新坂ともみ、児玉みゆき、川崎麻美、内田倫子、野末明希、金岡麻希、柳田俊彦、木下由美子、外来がん薬物療法を受ける高齢者の栄養状態の実態 質問紙および体組成を用いた横断研究、日本看護研究学会雑誌 44(3)406-406 2021年8月
4	ライフステージに応じた地域がん総合治療医育成コース（インテンシブ）	米澤玲美、細川歩、逸脱症例から学ぶがん薬物療法 標準治療の実践 再発大腸がん 勝俣範之編、月刊薬事 61(10)、株式会社じほう、48-50、2019.

○国内学会

1	がんと共に生きることを支えるがん看護専門看護師養成コース	川崎麻美、金岡麻希、野末明希、新坂ともみ、松田仁美、児玉みゆき、内田倫子、竹山ゆみ子、柳田俊彦、木下由美子：口演発表「がん患者の心配評価尺度を用いたがん薬物療法中患者の心配の実態および看護師による把握状況に関する横断研究」、第47回日本看護研究学会学術集会（オンライン）2021年8月21日-9月3日
2	がんと共に生きることを支えるがん看護専門看護師養成コース	新坂ともみ、金岡麻希、内田倫子、川崎麻美、松田仁美、野末明希、児玉みゆき、竹山ゆみ子、柳田俊彦、木下由美子：口演発表「がん薬物療法を受ける患者の Quality of Life とレジリエンスに関する横断研究 生命予後別の比較」、第47回日本看護研究学会学術集会（オンライン）2021年8月21日-9月3日
3	がんと共に生きることを支えるがん看護専門看護師養成コース	松田仁美、竹山ゆみ子、新坂ともみ、児玉みゆき、川崎麻美、内田倫子、野末明希、金岡麻希、柳田俊彦、木下由美子：口演発表「がん患者薬物療法を受ける患者の治療前後の心配の内容と程度の変化について—がん患者心配評価尺度を用いた縦断研究—」、第36回日本がん看護学会学術集会（横浜・web）2022年2月19日-20日
4	がんと共に生きることを支えるがん看護専門看護師養成コース	川崎麻美、高橋裕子、小林明日香、市成秀樹、平塚雄聡、野末明希、児玉みゆき、内田倫子、竹山ゆみ子、金岡麻希、柳田俊彦、木下由美子：口演発表「がん患者薬物療法を受ける患者の治療前後の心配の内容と程度の変化について—がん患者心配評価尺度を用いた縦断研究—」、第36回日本がん看護学会学術集会（横浜・web）2022年2月19日-20日
5	ライフステージに応じた地域がん総合治療医育成コース（インテンシブ）	米澤玲美、細川歩、中島孝治、田原良博、山嶋友実、宮後冨、松本英丈、芦塚伸也、稲津東彦、河上洋、当院における切除不能進行・再発胃癌に対するニボルマブ療法の現状、第114回日本消化器病学会九州支部例会（宮崎）2019年11月9日
6	ライフステージに応じた地域がん総合治療医育成コース（インテンシブ）	田原良博、細川歩、中島孝治、米澤瑛美、坂元一樹、山嶋友実、宮後冨、米澤玲美、黒木大介、野田貴穂、鈴木翔、久保田良政、松本英丈、芦塚伸也、安倍弘生、三池忠、坂哲臣、山本章二朗、稲津東彦、河上洋、当科における膀胱癌化学療法の現状（FOLFIRINOX 療法と GEM/nab-PTX 療法について）、第114回日本消化器病学会九州支部例会（宮崎）2019年11月9日
7	ライフステージに応じた地域がん総合治療医育成コース（インテンシブ）	黒木大介、山嶋友実、宮後冨、米澤玲美、松本英丈、芦塚伸也、中島孝治、稲津東彦、河上洋、免疫チェックポイント阻害薬による免疫関連有害事象（irAE）大腸炎の1例、第108回日本消化器内視鏡学会九州支部例会（宮崎）2019年11月9日
8	ライフステージに応じた地域がん総合治療医育成コース（インテンシブ）	山嶋友実、宮後冨、米澤玲美、黒木大介、松本英丈、中島孝治、芦塚伸也、稲津東彦、鈴木翔、田原良博、三池忠、山本章二朗、安倍弘生、久保田良政、坂哲臣、河上洋、全周性の局所遺残再発食道癌に対して光線力学的療法（PDT）を行った2例、第108回日本消化器内視鏡学会九州支部例会（宮崎）2019年11月9日
9	ライフステージに応じた地域がん総合治療医育成コース（インテンシブ）	宮後冨、中島孝治、田村穂高、落合昂一郎、黒木大介、鈴木翔、芦塚伸也、安倍弘生、三池忠、山本章二朗、稲津東彦、河上洋、細川歩、口演発表「当院での進行食道癌に対する Nivolumab 療法の検討」、第118回日本消化器病学会九州支部例会（長崎）2021年12月4日
10	ライフステージに応じた地域がん総合治療医育成コース（インテンシブ）	田村穂高、宮後冨、落合昂一郎、中島孝治、細川歩、デジタルポスター発表「Nivolumab+Ipilimumab 併用療法が奏効した MSI-High 切除不能大腸癌の1例」、第46回日本大腸肛門病学会九州地方会（宮崎）2021年10月16日
11	成人T細胞白血病専門医療人養成コース（ATL）	上運天綾子、ATL-PDX モデルを用いたバイオマーカーの検討、第6回日本 HTLV-1学会学術集会（宮崎）2019年8月23～25日
12	成人T細胞白血病専門医療人養成コース（ATL）	関根雅明、宮崎県内における ATL の現状について、第6回日本 HTLV-1学会学術集会（宮崎）2019年8月23～25日

学生・修了生の感想

・ライフステージに応じた地域がん総合治療医育成コース 宮後 冨

私は、2021（令和3）年度に、宮崎大学の「ライフステージに応じた地域がん総合治療医育成コース」を修了しました。

私は当院の臨床腫瘍科に所属し、消化器内科医として消化器がんの診療を担当しています。治療に携わる中で外科的加療、放射線治療、有害事象出現時の対応、緩和ケアなど、他科の先生と連携して診療を行う機会も多く、がん全般の治療に対する理解を深めたいと考え、本コースに参加いたしました。

本講義を受講することで、専門領域に関しては改めて知識の整理を行うことができました。また、普段関わることのない専門外領域のがん治療に対して、各診療科の最前線で治療を行っている先生方から直接講義を受ける機会は非常に貴重で、視野を広げることが出来ました。講義が分野毎で複数回に分かれていることから、興味のある分野のみを受講することも可能であり、自由度の高い点も魅力的でした。

私は今後がん治療認定医の取得を目標としており、今回のコースで学んだ内容を知識として生かし、引き続き消化器がんの治療・臨床的研究に携わっていきたいと考えております。

総括

実現できたこと

- ・ライフステージに応じた地域がん総合治療医育成コース（インテンシブ）では、毎年宮崎大学がんセミナーを開催し、院内外から多職種の医療従事者の参加が得られた。がんの総論から各論まで幅広い実践的な講習会を開催することができた。受講者のアンケート結果で好評であったことや受講者の中からがん薬物療法専門医を目指す医師がみられており、意義のあるセミナーであったと考える。
- ・がん看護専門看護師養成コースでは、講演会を開催し、多職種の方に参加頂いたことで、地域で直に患者と接する方々の知識・意欲の向上を図ることができ、がんプロの存在の周知の機会にも繋がった。

課題（今後に向けての予定）

- ・がん医療に関わる医療人は十分と言えないため、今後も地域でのがん治療専門医の養成をはかる。特にがん薬物療法専門医の育成を推進する必要がある。
- ・がん看護専門看護師養成コースは、令和3年1月15日付けで38単位の専門看護師教育課程として認定されており、今後、新規学生の受け入れに向けて授業内容の整備及び広報活動を進める。

鹿児島大学

コーディネーター教員

鹿児島大学病院 腫瘍センター 特例教授 上野 真一



各コースの内容

1. 先端がん医療コース

受入開始時期	平成29年10月	修業年限（期間）	4年
対象者	医歯学総合研究科博士課程大学院生		
養成すべき人材像	がん医療における分子生物学的成果に基づいた個別医療の基礎ならびに臨床応用を習得し、かつ薬物療法を中心とした集学的がん医療の中でそれを実践し得る専門医療人を養成する。		
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	がんの特化した大学院教育の中で高度な研究遂行能力や診療能力を育成する。合わせて個別医療の実践に必要な実習を他施設医療機関と連携を組んで教育する。		
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	鹿児島大学病院でのがん個別医療の実践に関わった後、地域基幹病院でも個別医療実現の中心的役割を果たすことが期待される。		

2. 包括的地域がん医療コース

受入開始時期	平成29年10月	修業年限（期間）	4年
対象者	医歯学総合研究科博士課程大学院生		
養成すべき人材像	がん患者のさまざまなライフステージにおける全人的苦痛を理解し、より患者と地域に即した多職種によるチーム医療を実践し得る専門医療人を養成する。		
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	がんの特化した大学院教育の中で高度な研究遂行能力や診療能力を育成する。合わせて他医療機関や患者会、またハローワークなどと連携を組んで、各ライフステージに応じた苦痛軽減や社会復帰への理解を図る。		
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	地域がん診療拠点病院やがん患者に関わる在宅医療等におけるチーム医療リーダーとなることが期待される。		

3. 放射線看護専門コース

受入開始時期	平成30年4月	修業年限（期間）	2年
対象者	保健学研究科博士前期課程大学院生		
養成すべき人材像	<p>壮年期女性の甲状腺がんは好発し、甲状腺分化癌に対して行われるI-131内用療法は閉鎖されたRI室で行われ、非常に特殊であり、高度実践ができる看護師が求められる。そのような医用放射線利用に伴う高度な看護援助ができるのが、放射線看護専門コース修了の看護師である。そして、緩和ケアのステージにある有痛性の骨転移の疼痛緩和治療としてのストロンチウム-89内用療法、本学で行われている難治性褐色細胞腫のI-131-MIBG内照射療法におけるケアの高度実践も同様に提供できる。他にも各ライフステージにおいて、がん再発における早期発見のためのRI・PET・CT診断検査時の患者のケアを行う看護師への放射線防護の知識を基盤とした支援ができること、または、がん治療における血管造影・IVR時のがん患者の介助を行う看護師への放射線防護の知識を基盤とした支援ができることが養成する人材像である。</p>		
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<p>がん看護専門看護師は、その専攻分野の教育内容から専門は広いものがある。しかしながら、放射線看護の専門看護師は、医用放射線利用に伴う高度な看護援助ができることをサブスペシャリティとしており、特に、患者は希少ではあるが、放射性同位元素内用療法における高度実践看護ができることは重要な役割であり、特徴である。また、放射線看護の専門看護師の教育課程を実施しているのは、弘前大学、長崎大学、鹿児島大学の三大学のみである。そのため三大学は互いの強みを活かし、連携・補完し、教育にあたっている。今回、がんプロ養成プランによって放射性同位元素内用療法、緩和ケアの重点的取り組みを実施することは新規性があり、独創性がある。また、このプランに参画することにより、がん看護専門看護師と協働することで、相互の専門性の理解を深めることにつながり、連携・補完することになれば、期待される成果は大きいものと考えられる。</p>		
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	<p>本コース修了後、専門領域の研修実績により、平成32年には放射線看護の専門看護師として看護協会の認定試験受験予定である。</p>		

4. それぞれのライフステージに即したがん患者ケアプログラム（インテンシブ）

受入開始時期	平成29年12月	修業年限（期間）	2ヶ月
対象者	医師、歯科医師、薬剤師、看護師、医療ソーシャルワーカー等		
養成すべき人材像	<p>各ライフステージに応じたがん患者の全人的苦痛を理解し、終末期までの緩和ケアやがんサバイバーの実態に即した患者ケア・サポートを実践できる医療者を養成する。</p>		
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<p>緩和ケア医師・専門看護師、就労支援関係者、患者会、在宅医等の連携による患者背景（年代や修業など）に即した実践的な教育を行う。</p>		
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	<p>個々のがん患者が持つ背景や環境に即した支援態勢を学習し、地域がん診療拠点病院や地域医療機関においてより求められる専門医療者となり得る。</p>		

5. 希少がんおよび肉腫の集学的治療プログラム（インテンシブ）

受入開始時期	平成29年12月	修業年限（期間）	2ヶ月
対象者	医師、歯科医師、薬剤師、看護師等		
養成すべき人材像	希少がん及び肉腫についての集学的治療や緩和ケアの理解を深め、患者に適切な医療や支援を提供できる医療者を養成する。		
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	肉腫の集学的治療を中心に、薬物療法の総論から本学で行われている最新遺伝子治療までの教育を行う。また必要な緩和ケアについても学習する。		
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	鹿児島大学病院や地域がん拠点病院において肉腫等の希少がんチーム医療のリーダーとなることを期待される。		

6. がん専門薬剤師養成コース（インテンシブ）

受入開始時期	平成29年10月	修業年限（期間）	6ヶ月
対象者	病院に勤務する薬剤師・調剤薬局に勤務する薬剤師		
養成すべき人材像	効能・効果及び副作用のモニタリングができ、質の高いがん薬物療法を立案・処方支援できる薬剤師を養成する。		
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	抗がん剤の吸収、分布、代謝、排泄は、基本的には宿主の遺伝要素で決定されることから、個人差の把握は治療上重要な問題となる。また、がん化・悪性化の分子機序が解明され、がん予防、診断、治療に関する個別化が進んでいる。個々の体質に合った至適なレジメンを立案・処方支援できる薬剤師の養成を目指す。		
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	日本病院薬剤師会の「がん薬物療法認定薬剤師」、日本医療薬学会の「がん専門薬剤師」・「がん指導薬剤師」、日本臨床腫瘍薬学会の「外来がん治療認定薬剤師」及び日本緩和医療薬学会の「緩和薬物療法認定薬剤師」の資格を取得し、医療に貢献できる薬剤師。		

主な取組みと成果

1. がんゲノム医療

◆特色ある取組

- ・鹿児島大学病院は、当教室主導の下、令和1年度にがんゲノム医療拠点病院に指定
- ・当院・当教室主催で週2回のがんゲノム医療エキスパートパネル（EP）を開催し大学院生も参加
- ・EPには、がん薬物療法専門医、がん治療認定医、臨床遺伝専門医、遺伝カウンセラー、病理専門医、がんゲノム研究者、バイオインフォマティクス専門家が参加
- ・毎年全4日間のゲノム医療実習（インテンシブコース）を開催
- ・毎年最新 鹿児島県のゲノム医療に関する市民公開講座を開催（エキスパートパネル風景）

◆成果・実績

- ・大学院生のゲノム医療の基礎と応用、必要な体制や人材、シーケンスデータへのアノテーション・キュレーションの理解を進め、がんゲノム医療を担う人材育成をすすめた。

- ・大学院生に対する座学や講演会企画のみではなく、ゲノム医療実習（臨床、解析、遺伝カウンセリング）を提供した。

2. 小児・AYA 世代・希少がん

◆特色ある取組

- ・全4日間のゲノム医療実習（インテンシブコース）を開催し、ゲノム医療と小児・AYA 世代・希少がんの講義を設けた。
- ・毎週開催する、化学療法カンファレンスの中で、小児・AYA 世代・希少がんへの治療決定について講義、実習を行った。
- ・エキスパートパネルでは、小児・AYA 世代・希少がんの検討がなされ、臨床試験への登録について学習させた。
- ・鹿児島希少がん・肉腫カンファレンス
2018年5月16日 「軟部肉腫の治療 2018」
国立がん研究センター中央病院 希少がんセンター長 川井 章先生
(悪性末梢神経鞘腫の分子標的治療薬 臨床試験登録)

◆成果・実績

- ・実習・カンファレンス・講演会には、大学院生、若手医師、外部病院医師、薬剤師、看護師が参加し、さまざまな職種の観点からの検討が行われ、多職種人材養成に寄与した。

3. ライフステージに応じたがん医療

◆特色ある取組

- ・AYA 世代に関しては、妊孕性温存の観点から「鹿児島県 がん生殖医療ネットワーク」と他県の取組みを紹介した。
- ・病院規模の Cancer Board を主催し、その中で「妊娠継続と抗がん剤治療」について症例検討した。
- ・小児がん、AYA 世代のがん等については、遺伝性腫瘍も存在することから、エキスパートパネルでは二次的所見として遺伝性腫瘍の症例検討（遺伝性乳癌卵巣癌症候群、家族性大腸腺腫症、Lynch 症候群）がなされた。
- ・第9回日本臨床腫瘍学会九州地区セミナー を主催し、講演を企画した。
2021年11月13日
「がん医療と遺伝カウンセリング：Precision Medicine 時代の遺伝医療」
国際医療福祉大学 保健医療学専攻 遺伝カウンセリング分野
教授 西垣 昌和先生

◆成果・実績

- ・実習・カンファレンス・講演会には、大学院生、若手医師、外部病院医師、薬剤師、看護師が参加し、さまざまな職種の観点からの検討が行われ、多職種人材養成に寄与した。

英文誌・和文誌・国際学会・国内学会等での発表一覧

○英文誌

1	先端的がん医療コース	Tanaka T, Arigami T, Uenosono Y, Yanagita S, Matsushita D, Okubo K, Kijima T, Uchikado Y, Kita Y, Mori S, Sasaki K, Omoto I, Kurahara H, Maemura K, Ishigami S, Natsugoe S. ; S long-term survivor of recurrent esophagogastric junction adenocarcinoma treated with multidisciplinary therapy: a case report. <i>Surgical Case Reports</i> . (2020) 6:13
2	先端的がん医療コース	Tanaka T, Okada R, Hozaka Y, Wada M, Moriya S, Satake S, Idichi T, Kurahara H, Ohtsuka T, Seki N.; Molecular Pathogenesis of Pancreatic Ductal Adenocarcinoma: Impact of miR-30c-5p and miR-30c-2-3p Regulation on Oncogenic Genes. <i>Cancers (Basel)</i> . 2020, 12, 2731; doi:10.3390/cancers12102731
3	包括的地域がん医療コース	Hozaka Y, Seki N, Tanaka T, Asai S, Moriya S, Idichi T, Wada M, Tanoue K, Kawasaki Y, Mataka Y, Kurahara H, Ohtsuka T.; Molecular Pathogenesis and Regulation of the miR-29-3p-Family: Involvement of ITGA6 and ITGB1 in Intra-Hepatic Cholangiocarcinoma. <i>Cancers (Basel)</i> . 13, 2804, 2021,
4	包括的地域がん医療コース	Kawasaki Y, Iino S, Yamasaki Y, Hozaka Y, Idichi T, Kurahara H, Mataka Y, Ueno S, Ohtsuka T.; Useful Technique for Creating a Good Liver Parenchymal Visual Transection Plane During Laparoscopic Partial Hepatectomy. <i>Surg Laparosc Endosc Percutan Tech</i> . Aug 9. Online ahead of print, 2021
5	包括的地域がん医療コース	Hozaka Y, Kurahara H, Oi H, Idichi T, Yamasaki Y, Kawasaki Y, Tanoue K, Jinguji M, Nakajo M, Tani A, Nakaj A, Mataka Y, Fukukura Y, Noguchi H, Higashi M, Yoshiura T, Tanimoto A, Ohtsuka T; Clinical Utility and Limitation of Diagnostic Ability for Different Degrees of Dysplasia of Intraductal Papillary Mucinous Neoplasms of the Pancreas Using 18 F-Fluorodeoxyglucose-Positron Emission Tomography/Computed Tomography. <i>Cancers (Basel)</i> . 13, 4633, 2021
6	包括的地域がん医療コース	Hozaka Y, Kita Y, Yasudome R, Tanaka T, Wada M, Idichi T, Tanabe K, Asai S, Moriya S, Toda H, Mori S, Kurahara H, Ohtsuka T, Seki N.; RNA-Sequencing Based microRNA Expression Signature of Colorectal Cancer: The Impact of Oncogenic Targets Regulated by miR-490-3p. <i>Int J Mol Sci</i> . 22, 9876, 2021
7	包括的地域がん医療コース	Nepal P, Hozaka Y, Tanaka T, Wada M, Asai S, Minemura C, Idichi T, Arigami T, Kurahara H, Seki N, Ohtsuka T.; Impact of Oncogenic Targets Controlled by Tumor-Suppressive miR-30a-5p in Pancreatic Ductal Adenocarcinoma. <i>Anticancer Res</i> . 41, 4821-4836, 2021

○和文誌

1	包括的地域がん医療コース	保坂優斗、石神純也、恵浩一、瀬戸山徹郎、夏越祥次、上腸間膜静脈血栓症にヘパリン起因性血小板減少症を併発した1例。鹿兒島大学医学雑誌、71(1)、2019。
2	包括的地域がん医療コース	保坂優斗、盛真一郎、喜多芳昭一、馬場研二、田辺寛、夏越祥次、側方発育型腫瘍の形態で偽浸潤を呈した直腸腺腫の1例。鹿兒島大学医学雑誌、72(1)、2020。
3	包括的地域がん医療コース	保坂優斗、大塚隆生、大井秀之、平瀬雄規、伊地知徹也、田上聖徳、又木雄弘、蔵原弘、膵管上皮肉腫瘍 (IPMN, IOPN, ITPN, MCN) に対する外科治療の現状と課題、胆と膵 42、567-571、2021。
4	包括的地域がん医療コース	保坂優斗、蔵原弘、大井秀之、伊地知徹也、米盛圭一、山崎洋一、川崎洋太、田上聖徳、又木雄弘、大塚隆生、膵癌の膵液 miRNA 解析とバイオマーカーとしての意義、肝胆膵 83、659-663、2021。

○国内学会

1	先端的がん医療コース	田中貴子、有上貴明、松下大輔、大久保啓史、喜多芳昭、盛真一郎、佐々木健、野田昌宏、柳田茂寛、夏越祥次、切除不能進行・再発胃癌に対するニボルマブ免疫療法の治療効果とその予測因子に関する検討、第120回日本外科学会定期学術集会 (横浜 Web 開催) 2020年8月13日～8月15日
2	先端的がん医療コース	田中貴子、有上貴明、松下大輔、大久保啓史、佐々木健、野田昌宏、喜多芳昭、盛真一郎、大塚隆生、免疫関連有害事象に伴うニボルマブ不耐後部分奏効を維持している再発胃癌の1例、第50回胃外科・術後障害研究会 (東京都 Web 開催) 2020年11月13日～11月14日
3	先端的がん医療コース	田中貴子、有上貴明、松下大輔、大久保啓史、喜多芳昭、盛真一郎、佐々木健、野田昌宏、柳田茂寛、夏越祥次、大塚隆生、Clinical Analysis for Predicting Tumor Response to Nivolumab in Gastric Cancer、第75回日本消化器外科学会総会 (和歌山 Web 開催) 2020年12月15日～12月17日

○国内学会（つづき）

4	先端的がん医療コース	濱田由紀、蔵原弘、大井秀之、伊地知徹也、又木雄弘、平瀬雄規、川崎洋太、飯野聡、上野真一、大塚隆生：教室で経験した膵 SCN 6 例の検討、第76回日本消化器外科学会、京都市（京都）、2021年7月7日。
5	先端的がん医療コース	濱田由紀、川崎洋太、田上聖徳、山崎洋一、飯野聡、大塚隆生：嚢胞内胆汁瘻による難治性感染性肝嚢胞に対し肝嚢胞空腸吻合術を施行し治癒した1例、第29回鹿児島肝癌研究会（鹿児島）、2021年9月24日。
6	先端的がん医療コース	安留龍太郎、伊地知徹也、蔵原弘、又木雄弘、大塚隆生：門脈輪状瘻を伴う浸潤性膵管内乳頭粘液性腺癌に対して腹腔鏡下広範膵体尾部切除術を行った1例、第34回日本内視鏡外科学会総会（神戸）、2021年12月3日。
7	包括的地域がん医療コース	保坂優斗、安藤慶、樋渡清司、三枝伸二、夏越祥次、Meckel 憩室の大腿ヘルニア嵌頓を腹腔鏡補助下大腿ヘルニア修復術で修復した1例、第56回九州外科学会（鹿児島市）、2019年5月17-18日
8	包括的地域がん医療コース	保坂優斗、安藤慶、樋渡清司、三枝伸二、夏越祥次、Littre ヘルニアに腹腔鏡補助下大腿ヘルニア修復術を行った1例、第32回日本内視鏡外科学会総会（横浜市）、2019年12月5-7日
9	包括的地域がん医療コース	Hozaka Y, Shirao S, Idichi T, Tanoue K, Mataka Y, Kurahara H, Kawasaki Y, Iino S, Shinchi H, Ohtsuka T. A case report of aggressive intra-abdominal desmoid-type fibromatosis with pancreatic and splenic invasion in a young woman. 第33回日本肝胆膵外科学会学術集会（Web）2021年6月2日。
10	包括的地域がん医療コース	保坂優斗、蔵原弘、伊地知徹也、又木雄弘、田上聖徳、川崎洋太、飯野聡、有上貴明、新地洋之、大塚隆生：IPMNにおける18FDG-PET / CTの悪性度診断能の検討。第44回日本外科系連合会総会（東京）2021年6月28日。
11	包括的地域がん医療コース	保坂優斗、伊地知徹也、田上聖徳、川崎洋太、飯野聡、有上貴明、又木雄弘、蔵原弘、新地洋之、大塚隆生：18FDG-PETを活用した新たなIPMN悪性予測式の作成。第76回日本消化器外科学会総会（京都）2021年7月7日。
12	包括的地域がん医療コース	保坂優斗、下村寛貴、伊地知徹也、田中貴子、田上聖徳、川崎洋太、飯野聡、又木雄弘、蔵原弘、関直彦、大塚隆生：miR-30a-3pのITGA2を介した膵癌の制御機構についての解明。第19回日本消化器外科学会大会（第29回JDDW）（神戸）2021年11月4日。
13	包括的地域がん医療コース	保坂優斗、川崎洋太、山崎洋一、大井秀之、安留龍太郎、伊地知徹也、田上聖徳、有上貴明、又木雄弘、蔵原弘、関直彦、夏越祥次、大塚隆生：miR-29-3p-familyの分子病態：肝内胆管癌におけるITGA6とITGB1の関与。第32回日本消化器癌発生学会総会（Web）、2021年11月26日。

○その他（受賞等）

1	先端的がん医療コース	Hozaka Y: IASGO-CME（Advanced Post-Graduate Course in Nagasaki2021）、優秀ポスター賞、2021年10月9日
---	------------	---

学生・修了生の感想

・がんゲノム医療コース 田中 貴子

研究テーマ「胃癌化学療法における EMT との関係、治療効果および予後予測因子の検討」

私は、2018（平成30）年度に鹿児島大学の「がんゲノム医療コース」第3期の学生です。

私は、消化器外科医として勤務する中で腫瘍学に興味を持ち、特に近年では precision medicine という概念も浸透しつつあり、大学院生として学ぶ場として、このがんゲノム医療コースを選択しました。

初めの半年間は病理学を学び、消化器疾患以外の疾患についても分子生物学的分野を含め学びました。エキスパートパネルにも参加させていただき、特に再発・進行癌や希少癌での有用性を実感しました。今後はがんプロで学んだことを医療人として提供し、臨床応用に繋げることが目標です。

総括

実現できたこと

- ・当院でのがんゲノム医療立ち上げと共に、大学院生への必要な教育（ゲノム医療の基礎と応用、必要な体制や人材、アノテーション・キュレーションの理解など）を行った。
- ・大学院生に対する座学や講演会企画のみではなく、ゲノム医療実習を進めた。

課題（今後に向けての予定）

- ・がんゲノム医療教育の更なる推進。
- ・ライフステージに応じたがん医療教育の強化。
- ・遺伝カウンセリング実習の強化。

琉球大学

コーディネーター教員

医学部保健学科 血液免疫検査学分野 教授 福島 卓也



各コースの内容

1. 希少がん及び小児がんに対応できる医療人材の養成 がん薬物療法専門医コース

受入開始時期	平成30年4月	修業年限（期間）	4年
対象者	医師		
養成すべき人材像	臨床腫瘍学の進歩に即するがん薬物療法に精通するとともに、全国的には希少ながら沖縄県に多く見られるがん、および小児がんに対応出来る人材を養成する。		
教育内容の特色等 （新規性・独創性等）	医学部附属病院がん診療センター、外来化学療法部門と連携して、がん薬物療法に精通する専門医師を養成するとともに、全国的には希少ながら沖縄県で発症数が多いカポジ肉腫など、地域特有の癌腫について、専門診療科、病理医などと連携して、正確な診断、治療決定にいたる医療の実践能力の養成に努める。		
教育プログラム・ コース修了者のキャリアパス構想	・コース修了生のがん薬物療法専門医取得および日本緩和医療学会専門医・認定医取得 ・沖縄県内に希少がんを含めたがん診療のネットワークを構築して、正確な診断、治療を提供する医療体制を形成する。		

2. ライフステージに応じたがん対策を推進する人材の養成 がん看護専門看護師養成コース

受入開始時期	平成30年4月	修業年限（期間）	2年
対象者	大学院保健学研究科 博士前期課程 大学院生		
養成すべき人材像	がん医療に精通した医療人材が不足している島嶼沖縄県において、ライフステージに応じたがん対策を推進することができる専門看護師の養成を目指す。とくにAYA世代、小児、壮年、高齢者など幅広い世代に対して、多職種のコーディネートを担える専門看護師の育成を目指す。		

教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内のがん診療連携拠点病院や地域がん診療病院の多職種（医師、薬剤師、ケースワーカー等）との連携教育により、離島含む沖縄県内のがん患者・家族の問題解決のための高度な実践教育を行う。 ・ 沖縄県立看護大学大学院との単位互換協定の締結、授業の相互受講を導入し、各大学院で高度実践看護師を目指す学生間での情報共有、交流しながら授業を行う。 ・ 地域で療養するがん患者の患者会やがんサロン等の運営に参画し、相談支援（療養支援、就労支援、遺伝カウンセリング等）の役割機能を習得する。
教育プログラム・ コース修了者のキャリアパス構想	コース修了生に対しては、がん看護専門看護師の資格取得試験に向けてのスーパーバイズを行い、専門資格取得後は、県内のがん診療連携拠点病院や在宅ケアにおける役割拡大が発揮できるような継続教育支援を行う。

3. ライフステージに応じたがん対策を推進する人材の養成・ 緩和ケアエキスパートナース養成コース（インテンシブ）

受入開始時期	平成29年10月	修業年限（期間）	半年
対象者	3年以上の看護実務経験（がん看護経験2年以上）を有する看護師		
養成すべき人材像	沖縄県内の緩和ケア推進を目指して多職種と協働できる人材、また将来的に緩和ケア認定看護師やがん看護専門看護師となる人材の育成。		
教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 緩和ケアに携わる看護師に必須とされる知識や技術の習得、強化を目指して、米国エンド・オブ・ライフ看護教育協議会によるプログラム日本語版（ELNEC-J）の提供や事例検討、グループ討議、ロールプレイ、視聴覚教材の活用等、多様な教育方法で受講生が主体的に学べるプログラムを展開している。 ・ 県内のがん診療連携拠点病院やがん診療病院の緩和ケア認定看護師、専門看護師の招聘による非常勤講師の講義では、各施設における実践や緩和ケアの取り組みについても相互に情報共有を行い、有意義な意見交換、交流の場を提供している。 ・ コースによる講義・演習は半年間で行い、その半年後、本コースでの学びを具体的にどのように現場へ還元できたのか、成果報告会を行い、修了証を授与している。 		
教育プログラム・ コース修了者のキャリアパス構想	コース修了生に対しては、がん看護専門看護師やがん看護領域の認定看護師等の教育課程進学に向けた支援、ならびに所属施設において、リーダー的役割が担えるよう継続教育支援を行う。		

主な取り組みと成果

1. がん薬物療法専門医養成コース

令和元（2019）年10月に1名の大学院生が専攻した。e-learning 受講、および本コースの特徴の一つである「ESMO-DC 承認緩和ケアチーム」での1ヵ月間の実習を修了した。現在大学院の研究と並行して、がん薬物療法専門医取得に向けて臨床での実績を積んでいる。

2. がん看護専門看護師養成コース

令和3（2021）年度から、38単位による高度実践看護師（がん看護専門看護師）教育課程を開講し、大学院生1名が入学した。令和2（2020）年12月、沖縄県立看護大学大学院と本研究科の単位互換協定も締

結し、令和3（2021）年度から CNS コース科目の相互受講を通じて、高度実践看護師を目指す学生間の交流を図ることができた。また、CNS コース生2名（令和3年入学，新課程履修生1名、令和元年入学，旧課程履修生1名）は、琉球大学病院との連携体制の中で、緩和ケアセンター医師、専門看護師の協力による講義、CNS 実習の履修を通じて、有意義な学修ができています。さらに、新教育課程入学生1名は、大学病院で開講している特定行為研修プログラム受講生とともにフィジカルアセスメントを学ぶ機会を得る等、高度実践看護師教育における大学病院との連携体制の構築が進んでいる。

また、ライフステージに応じたがん対策を推進する人材の養成に焦点を当て、平成29（2017）年度は AYA 世代への支援、平成30（2018）年度は壮年期サバイバーへの意思決定支援、令和元（2019）年度は働き盛り世代サバイバーへの就労支援、令和3（2021）年度は治療期にある高齢がん患者への意思決定支援をテーマとしがん看護セミナーを4回開催した。計175名の参加があり、各ライフステージにおけるサバイバーの課題を共有し、看護支援を提供する上で有意義な情報提供、意見交換が行われた。

3. 緩和ケアエキスパートナース養成コース（インテンシブ）

本プログラムは、がん診療病院や地域がん診療病院等で、将来、がん看護領域の認定看護師及び専門看護師となる人材育成を目指している。平成29（2017）年9月修了生から緩和ケア認定看護師2名、がん化学療法看護認定看護師1名、令和元（2019）年9月修了生から緩和ケア認定看護師1名が誕生している。また、令和2（2020）年9月修了生1名が、がん放射線療法看護認定看護師教育課程へ進学し、令和3（2021）年9月修了生1名（当研究科大学院生）がアカデミックコースからがん看護専門看護師養成コース（旧課程）を選択し、履修している。これらの実績から、インテンシブコースの履修が着実にキャリア形成につながっていると評価できる。

英文誌・和文誌・国際学会・国内学会等での発表一覧

○英文誌

1	がん薬物療法専門医養成コース	Hamada S, Uehara T, Miyamoto J, Kiyuna S, Oshiro T, Yagi T, Kurokawa S, Hyakuna N, Nakanishi K. Domino donor lymphocyte infusion for secondary poor graft function after HLA-mismatched allogeneic stem cell transplantation between HLA-identical sibling pairs with congenital immunodeficiency. <i>Pediatr Blood Cancer</i> . 2021 Jan 15:e28851. doi: 10.1002/pbc.28851. Epub ahead of print. PMID: 33449417.
---	----------------	---

学生・修了生の感想

がん看護専門看護師コース 稲野 知弥

研究テーマ「がん診療における医師、外来看護師の“緩和ケア”に関する情報提供の実態とその関連要因の検討」



私は、2021（令和3）年、琉球大学の「がん看護専門看護師コース」に入学しました。今まで看護師として終末期のがん患者さんに関わっていく中で、患者さんは本当に望むような死を迎えられているのだろうかという疑問を持ち続けていました。その疑問は、身近な人の死を通して一層強まりました。その答えを導き出したい、また、がん看護を専門的に学び、その知識を深めることで、患者さんによりよい終末期の時期を過ごしてもらうための手助けをしたいという思いから、入学を決意いたしました。現在、私は、専門看護師の実践、相談、調整、倫理調整、教育、研究という6つの役割を果たすために必要な知識、技術を系統的に学んでおります。どの講義も看護実践に有用な内容であり、常に新しい発見に溢れており、興味深く講義に参加することができています。とくに倫理調整に関する講義では、今まで自分自身の感覚や価値観で考えていたことに気がつくことができ、事象を客観的に捉え、明確に言語化するための手法を学ぶことができています。また、他学生と議論を交わす、プレゼンテーションをするなど能動的に参加する講義も多く、専門看護師に必要な伝達能力、批判的思考、論理的思考などを培うよい機会になっていると思います。

今後は、がん看護専門看護師コースで学んだことを実践で活かして、全てのがん患者さんがQOLの高い療養生活を過ごすことができるように、専門家として常に探求する姿勢を忘れずにがん看護全体の質の向上に貢献したいと思います。

緩和ケアエキスパートナース養成コース（インテンシブ） 中村 翼



私は、2018（平成30）年度に、琉球大学の「緩和ケアエキスパートナース養成コース」を修了しました。私は、これまで、消化器外科・内分泌外科病棟での臨床経験を通じて、がん患者と接する機会が多く、がん看護を行う上でACPや意思決定支援の重要性について理解しているつもりでした。しかし、疾患や治療過程が異なる血液内科・内分泌内科病棟へ異動した際、私自身が行ってきた看護に違和感を抱くようになりました。当時の看護師長の勧めもあり、このコースを受講しました。

このコースでは、身体症状や心理社会的症状など様々な症状マネジメントやその対応、エンド・オブ・ライフにおける患者や家族との関わり方、コミュニケーション技術を学ぶことができ、改めて、自身の看護を振り返るきっかけとなりました。さらに深く学びたいと思い、その翌年、緩和ケア認定看護師教育課程へ進学し、2020年に緩和ケア認定看護師の資格を取得しました。現在、私は病棟で緩和ケア認定看護師として、症状マネジメントをはじめ、トータルペインの視点で看護を展開できるよう心掛けています。今後も患者の価値観を大切に意思決定支援に取り組んでいきたいと思っています。

総括

実現できたこと

がん薬物療法専門医養成コースでは、小児・AYA 世代がん・希少がんの領域で、e-learning を提供した。がん診療連携拠点病院である琉球大学医学部附属病院 外来化学療法室、緩和ケアチームとの連携により、がん薬物療法専門医養成コース学生に対する教育体制、さらにはがん薬物療法専門医試験申請の際のバックアップ体制も整えた。そして2019年10月に学生1名を迎え入れた。

また、大学院生の研究推進のため、沖縄特有の希少難治性疾患の生体試料・情報を収集するバイオインフォメーションバンクを構築し、研究・成果発信のための体制を整えた。

がん看護専門看護師養成コースは、令和3（2021）年度から、38単位による高度実践看護師（がん看護専門看護師）教育課程を開講し、大学院生1名が入学した。令和2（2020）年12月、沖縄県立看護大学大学院と本研究科の単位互換協定も締結し、令和3（2021）年度から CNS コース科目の相互受講を通じて、高度実践看護師を目指す学生間の交流を図ることができた。また、CNS コース生2名（令和3年入学、新課程履修生1名、令和元年入学、旧課程履修生1名）は、琉球大学病院との連携体制の中で、緩和ケアセンター医師、専門看護師の協力による講義、CNS 実習の履修を通じて、有意義な学修ができています。

緩和ケアエキスパートナース養成コース（インテンシブ）においては、平成29（2017）年9月修了生から緩和ケア認定看護師2名、がん化学療法看護認定看護師1名、令和元（2019）年9月修了生から緩和ケア認定看護師1名が誕生している。また、令和2（2020）年9月修了生1名が、がん放射線療法看護認定看護師教育課程へ進学し、令和3（2021）年9月修了生1名（当研究科大学院生）がアカデミックコースからがん看護専門看護師養成コース（旧課程）を選択し、履修している。

課題（今後に向けての予定）

がん看護専門看護師養成コースは、38単位による高度実践看護師（がん看護専門看護師）教育課程開講、沖縄県内の看護系大学との単位互換協定締結など、専門看護師養成に向けての教育体制を完備できた。新教育体制の下1名の大学院生を迎えており、今後も専門看護師育成し県内のがん看護体制、がん看護に関する教育体制の充実を図っていく。

がん薬物療法専門医養成コースは2年半で入学した大学院生は1名で、目標に到達したと言い難い状況であった。e-learning による学習体制整備、および緩和ケア研修を取り入れるなど、教育のシステムは確立出来た。今後は医学研究科、大学病院との連携を深め、さらに県立病院にも広報していくなどして、がん薬物療法専門医取得を目指す医師のリクルートに努める。

巻末：参考データ

目次

- ・「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」コース受入実績（R4.1.1現在）

- ・「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」インテンシブコース受入実績
（R4.1.1現在）

- ・「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」がんに関する専門資格の取得者数
（R4.1.1現在）

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」コース受入実績（R4.1.1現在）

コースを開設している大学・研究科・専攻名		コース名	養成する専門分野	対象職種
九州大学	大学院医学系学府医学専攻	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	ゲノム	医師
		希少がん・放射線治療学コース	希少がん・小児がん	医師
		小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース	希少がん・小児がん	医師
	大学院医学研究院保健学部門医用量子線科学分野	先端医用量子線技術科学コース	ライフステージ	医学物理士
	大学院医学系学府保健学専攻	がん専門細胞検査士コース修士課程	希少がん・小児がん	その他（細胞検査士）
	大学院薬学府臨床薬学専攻博士課程	がん研究薬剤師コース博士課程	希少がん・小児がん	薬剤師
福岡大学	大学院医学研究科	ライフステージに応じたがん専門医療人育成コース	ライフステージ	医師
久留米大学	大学院医学研究科博士課程個別最適医療系専攻	希少がん診療養成コース	希少がん・小児がん	医師
	大学院医学研究科修士課程看護学専攻	専門職養成コース がん看護分野 CNS 養成	ライフステージ	看護師
佐賀大学	大学院医学系研究科	統合的地域がん治療専門医育成コース	ライフステージ	医師
		統合的地域がん医療人育成プログラム	ライフステージ	医師以外
長崎大学	大学院医歯薬学総合研究科医療科学専攻，新興感染症病態制御学系専攻，放射線医療科学専攻（博士課程）	ゲノム医療人材養成コース	ゲノム	医師 歯科医師 薬剤師
		包括的がん専門医療人養成コース	ライフステージ	医師 歯科医師 薬剤師
	大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻（修士課程）	がん看護専門看護師養成コース	ライフステージ	看護師
	熊本大学	大学院医学教育部医学専攻	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	ゲノム
大分大学	大学院医学系研究科	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	ゲノム	医師
		多様なニーズに貢献するがん看護専門看護師コース（修士課程）	ライフステージ	看護師
宮崎大学	大学院医学獣医学総合研究科 博士課程 医学獣医学専攻	ライフステージに応じた全人的統合的がん治療専門医育成コース	ライフステージ	医師
	大学院看護学研究科 修士課程 看護学専攻	がんと共に生きることを支えるがん看護専門看護師養成コース	ライフステージ	看護師
鹿児島大学	大学院医歯薬学総合研究科	先端的がん医療コース	ゲノム	医師
		包括的地域がん医療コース	ライフステージ	医師
	大学院保健学研究科	放射線看護専門コース	ライフステージ	看護師
琉球大学	大学院 博士前期課程 保健学専攻	ライフステージに応じたがん対策を推進する人材の養成・がん看護専門看護師養成コース	ライフステージ	看護師
	大学院医学研究科	希少がん及び小児がんに対応できる医療人材の養成・がん薬物療法専門医コース	希少がん・小児がん	医師

修業年数 (期間)	受入目標人数						受入実績数 (※旧がんプロからの移行者を除く)						修了者数 (※旧がんプロからの移行を含む)									
	H29	H30	R1	R2	R3	計	H29	H30	R1	R2	R3	計	H29	H30	R1	R2	R3	計				
	16	68	65	68	65	282	14	55	42	56	60	227	0	19	35	48	30	132				
4年	0	7	7	7	7	28	92	0	9	6	11	18	44	118	0	1	12	16	0	29	75	
4年	0	1	1	1	1	4		0	1	0	0	0	1		0	0	0	0	0	0		
4年	0	2	2	2	2	8		0	1	0	2	1	4		0	0	0	2	0	2		
2年	0	8	8	8	8	32		0	13	12	12	15	52		0	0	12	10	13	35		
2年	2	2	2	2	2	10		4	1	2	2	0	9		0	4	1	2	2	9		
4年	2	2	2	2	2	10		1	0	2	1	4	8		0	0	0	0	0	0		
4年	0	2	2	2	2	8	8	0	2	0	1	1	4	4	0	0	0	0	1	1	1	
4年	0	1	1	1	1	4	12	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	1	
2年	0	2	2	2	2	8		0	0	1	0	3	4		0	0	0	1	0	1		
4年	0	2	2	2	2	8	12	0	2	1	0	1	4	4	0	0	0	0	3	3	3	
2年	0	1	1	1	1	4		0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0		
4年	0	2	2	2	2	8	34	0	2	2	1	3	8	28	0	0	0	0	2	2	2	
	0	1	0	1	0	2		0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0		
	0	1	0	1	0	2		0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0		
4年	0	3	3	3	3	12		0	5	2	4	1	12		0	0	0	0	0	0		0
	0	1	1	1	1	4		0	0	1	4	1	6		0	0	0	0	0	0		
	0	1	0	1	0	2		0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0		
2年	0	1	1	1	1	4	0	0	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0				
4年	3	10	10	10	10	43	43	5	3	0	9	2	19	19	0	3	8	2	5	18	18	
2年~ 4年	5	5	5	5	5	25	35	2	10	5	6	6	29	33	0	9	0	8	3	20	25	
	2	2	2	2	2	10		2	0	2	0	0	4		0	0	2	3	0	5		
4年	0	1	1	1	1	4	12	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	
2年	0	2	2	2	2	8		0	0	0	2	0	2		0	0	0	2	0	2		
4年	1	2	2	2	2	9	22	0	1	3	0	1	5	11	0	0	0	1	0	1	5	
4年	1	2	2	2	2	9		0	2	0	0	0	2		0	0	0	0	1	1		
2年	0	1	1	1	1	4		0	2	1	0	1	4		0	2	0	1	0	3		
2年	0	1	1	1	1	4	12	0	1	0	0	2	3	4	0	0	0	0	0	0	0	
4年	0	2	2	2	2	8		0	0	1	0	0	1		0	0	0	0	0	0		

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」 インテンシブコース受入実績（R4.1.1現在）

コースを開設している大学名	教育プログラム・コース名称	期間 (時間数等)	養成する専門分野	対象職種
九州がんプロ	新ニーズに対応するがん専門医療人養成インテンシブコース	2年	ゲノム/希少がん・小児がん/ライフステージ	その他（各大学大学院生・各大学附属病院および九州内関連病院の医師、看護師、薬剤師、臨床心理士、遺伝カウンセラーなど多職種の医療従事者）
福岡大学	多職種連携がん専門医療人育成コース	1年	ライフステージ	医師（※ H30: うち7名は歯科医師）
				看護師
				薬剤師
				その他（理学療法士等）
久留米大学	大学院医学研究科修士課程「科目等履修生制度」	2年	ライフステージ	その他 (地域医療に携わる医療従事者全般)
熊本大学	ライフステージに応じたがん対策を推進するがん専門薬剤師コース	3ヵ月	ライフステージ	薬剤師
大分大学	ライフステージに応じたチーム医療人養成コース	2~4年	ライフステージ	その他（医療従事者全般）
宮崎大学	ライフステージに応じた地域がん総合治療医育成コース	1年	ライフステージ	医師
	成人T細胞白血病専門医療人養成コース	1年	希少がん・小児がん	医師
鹿児島大学	それぞれのライフステージに即したがん患者ケアプログラム	2ヵ月	ライフステージ	その他（医師、歯科医師、薬剤師、看護師、医療ソーシャルワーカー等）
	希少がんおよび肉腫の集学的治療プログラム	2ヵ月	希少がん・小児がん	その他 (医師、歯科医師、薬剤師、看護師等)
	がん専門薬剤師養成コース	6ヵ月	その他	薬剤師
琉球大学	ライフステージに応じたがん対策を推進する人材の養成・緩和ケアエキスパートナース養成コース	6ヵ月	ライフステージ	看護師

受入目標人数							受入実績数							修了者数						
H29	H30	R1	R2	R3	計		H29	H30	R1	R2	R3	計		H29	H30	R1	R2	R3	計	
			20	20	40	40				91	59	150	150				2	5	7	7
5	5	5	5	5	25	200	26	67	89	32	26	240	490	26	67	89	32	26	240	490
20	20	20	20	20	100		21	31	42	11	9	114		21	31	42	11	9	114	
10	10	10	10	10	50		12	16	45	13	9	95		12	16	45	13	9	95	
5	5	5	5	5	25		0	1	32	0	8	41		0	1	32	0	8	41	
0	2	2	2	2	8	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	2	2	2	2	8	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20	20	20	20	20	100	100	52	0	30	1	10	93	93	1	38	61	26	6	132	132
2	2	2	2	2	10	20	6	3	3	2	2	16	19	2	2	2	2	2	10	11
2	2	2	2	2	10		0	0	3	0	0	3		0	0	1	0	0	1	
5	5	5	5	5	25	80	0	0	5	2	0	7	59	5	0	5	2	0	12	66
3	3	3	3	3	15		0	7	3	2	0	12		3	6	3	2	0	14	
8	8	8	8	8	40		10	3	4	13	10	40		10	3	4	13	10	40	
5	5	5	5	5	25	25	0	9	9	7	8	33	33	0	9	9	7	8	33	33

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」 がんに関する専門資格の取得者数 (R4.1.1現在)

コースを開設している大学・研究科・専攻名		コース名	資格名 (認定学会等名)	
九州大学	大学院医学系学府医学専攻	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	外科専門医 (日本外科学会)	
			総合内科専門医 (日本内科学会)	
	肝臓専門医 (日本肝臓学会)			
	がん薬物療法専門医 (日本臨床腫瘍学会)			
	消化器外科専門医 (日本消化器外科学会)			
	耳鼻咽喉科専門医 (日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会)			
	小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース	小児科専門医 (日本小児科学会)		
		血液専門医 (日本血液学会)		
		小児血液・がん専門医 (日本小児血液・がん学会)		
		がん治療認定医 (日本がん治療認定医機構)		
	大学院医学研究院保健学部門医用量子線科学分野	先端医用量子線技術科学コース	医学物理士 (医学物理士認定機構)	
福岡大学	大学院医学研究科	ライフステージに応じたがん専門医療人育成コース	産婦人科専門医 (日本産婦人科学会)	
			周産期 (母体・胎児) 専門医 (日本周産期新生児学会)	
久留米大学	大学院医学研究科修士課程看護学専攻	がん看護分野 CNS 養成	がん看護専門看護師 (日本看護協会)	
佐賀大学	大学院医学系研究科	統合的地域がん治療専門医育成コース	がん薬物療法専門医 (日本臨床腫瘍学会)	
			血液専門医 (日本血液学会)	
			臨床遺伝専門医 (臨床遺伝専門医制度委員会)	
長崎大学	大学院医歯薬学総合研究科医療科学専攻、新興感染症病態制御学系専攻、放射線医療科学専攻 (博士課程)	がんゲノム医療人材養成コース	総合内科専門医 (日本内科学会)	
			肝臓専門医 (日本肝臓学会)	
	呼吸器専門医 (日本呼吸器学会)			
		包括的がん専門医療人養成コース	消化器内視鏡専門医 (日本消化器内視鏡学会)	
			放射線科専門医 (日本医学放射線学会)	
			肝臓専門医 (日本肝臓学会)	
			消化器外科専門医 (日本消化器外科学会)	
		がん治療認定医 (日本がん治療認定医機構)		
熊本大学	大学院医学教育部医学専攻	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	外科専門医 (日本外科学会)	
			がん治療認定医 (日本がん治療認定医機構)	
			消化器外科専門医 (日本消化器外科学会)	
			消化器病専門医 (日本消化器病学会)	
			消化器がん外科治療認定医 (日本消化器外科学会)	
大分大学	大学院医学系研究科	ゲノム医療研究者養成コース	消化器病専門医 (日本消化器病学会)	
			消化器外科専門医 (日本消化器外科学会)	
			食道科認定医 (日本食道学会)	
			弾性ストッキング・圧迫療法コンダクター (日本静脈学会)	
			多様なニーズに貢献するがん看護専門看護師コース	がん看護専門看護師 (日本看護協会)
				がん専門薬剤師 (日本医療薬学会)
				外科専門医 (日本外科学会)
		消化器外科専門医 (日本消化器外科学会)		
宮崎大学	大学院看護学研究科修士課程看護学専攻	がんと共に生きることを支えるがん看護専門看護師養成コース	がん看護専門看護師 (日本看護協会)	

受験・合格・資格取得者数																														
H29						H30						R1						R2						R3						
受験者数	うち旧が プロ移 行者数	合格者数	うち旧が プロ移 行者数	資格 取得者数	うち旧が プロ移 行者数	受験者数	うち旧が プロ移 行者数	合格者数	うち旧が プロ移 行者数	資格 取得者数	うち旧が プロ移 行者数	受験者数	うち旧が プロ移 行者数	合格者数	うち旧が プロ移 行者数	資格 取得者数	うち旧が プロ移 行者数	受験者数	うち旧が プロ移 行者数	合格者数	うち旧が プロ移 行者数	資格 取得者数	うち旧が プロ移 行者数	受験者数	うち旧が プロ移 行者数	合格者数	うち旧が プロ移 行者数	資格 取得者数	うち旧が プロ移 行者数	
22	14	17	13	12	11	34	22	28	14	18	13	27	3	23	2	17	0	16	1	16	1	13	0	37	3	28	0	21	0	
1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0							1	0	1	0	1	0	
						1	1	1	0	0	0							1	0	1	0	1	0							
																			2	1	2	1	0	0						
																								1	0	1	0	1	0	
																								1	0	1	0	1	0	
						1	1	1	0	0	0																			
						1	1	1	0	0	0													1	0	1	0	0	0	
						1	1	1	0	0	0																			
						1	1	1	0	0	0																			
7	0	3	0	0	0	7	0	3	0	0	0	4	0	3	0	0	0	1	0	1	0	0	0	7	0	3	0	0	0	
						1	0	1	0	1	0																			
																								1	0	1	0	1	0	
																								2	1	2	0	2	0	
						1	0	1	0	1	0																			
												1	0	1	0	1	0													
																								1	0	1	0	1	0	
																								1	0	1	0	1	0	
																								1	0	1	0	1	0	
																								1	0	1	0	0	0	
6	6	6	6	6	6	7	4	7	4	7	4	3	1	3	1	2	0	2	0	2	0	2	0	1	0	1	0	1	0	
4	4	3	3	1	1	6	6	5	5	4	4	9	1	8	1	7	0	4	0	4	0	4	0	4	0	3	0	3	0	
						3	3	2	2	2	2							5	0	5	0	5	0	2	0	1	0	1	0	
						3	3	3	3	3	3	3	1	2	0	2	0							2	0	0	0	0	0	
																		2	0	2	0	2	0							
1	1	1	1	1	1																									
																								1	0	1	0	1	0	
																								1	0	1	0	1	0	
																								1	0	1	0	1	0	
																								4	0	3	0	3	0	
1	0	1	0	1	0							1	0	0	0	0	0													
1	1	1	1	1	1																									
1	1	1	1	1	1																									
																								2	2	2	0	0	0	

文部科学省
『多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン』採択事業
新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン

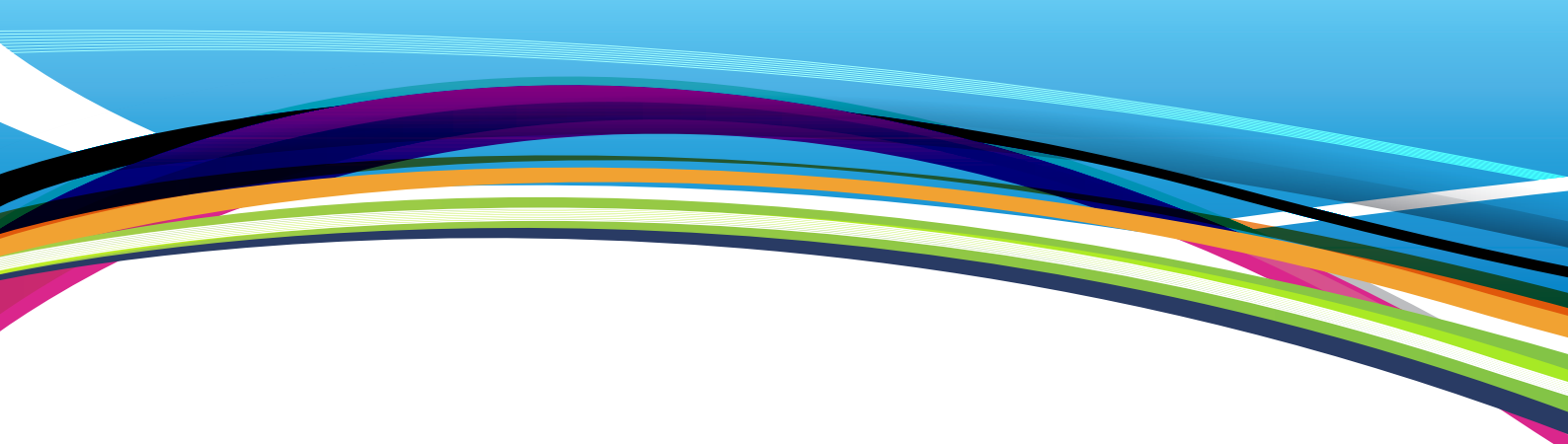
新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン 実績報告書

（平成29年度～令和3年度）

令和4年（2022）年3月 発行

編集・発行：新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン
事業運営推進協議会
印刷・製本：城島印刷株式会社

新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン 事業運営推進協議会事務局
（九州大学医系学部等事務部総務課企画・広報係）
〒812-8582 福岡県福岡市東区馬出3丁目1番1号
TEL：092-642-6240 FAX：092-642-6246
E-mail：ijsganpro@jimu.kyushu-u.ac.jp
<http://www.k-ganpro.com/>



新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン
事業運営推進協議会事務局
(九州大学医系学部等事務部総務課企画・広報係)

〒812-8582 福岡県福岡市東区馬出3丁目1番1号
TEL:092-642-6240 FAX:092-642-6246
E-mail: ijsganpro@jimu.kyushu-u.ac.jp
<http://www.k-ganpro.com/>